○著作權法（明治三十二年三月四日 法律第三十九號）

改正　明治四三年第六三號、大正九年第六〇號、昭和六年第六四號、昭和九年第四八號、昭和一六年第三五號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル著作權法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

著作權法

第一章　著作者ノ權利

第一條　文書演述圖畫建築彫刻模型寫眞演奏歌唱其ノ他文藝學術若ハ美術（音樂ヲ含ム以下之ニ同ジ）ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作者ハ其ノ著作物ヲ複製スルノ權利ヲ專有ス

文藝學術ノ著作物ノ著作權ハ翻譯權ヲ包含シ各種ノ脚本及樂譜ノ著作權ハ興行權ヲ包含ス

第二條　著作權ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得

第三條　發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ著作者ノ生存間及其ノ死後三十年間繼續ス

數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權ハ最終ニ死亡シタル者ノ死後三十年間繼續ス

第四條　著作者ノ死後發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス

第五條　無名又ハ變名著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス但シ其ノ期間内ニ著作者其ノ實名ノ登錄ヲ受ケタルトキハ第三條ノ規定ニ從フ

第六條　官公衙學校社寺協會會社其ノ他團體ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス

第七條　著作權者著作物發行ノトキヨリ十年内ニ其ノ翻譯物ヲ發行セサルトキハ其ノ翻譯權ハ消滅ス

前項ノ期間内ニ著作權者其ノ保護ヲ受ケントスル國語ノ翻譯物ヲ發行シタルトキハ其ノ國語ノ翻譯權ハ消滅セス

第八條　册號ヲ逐ヒ順次ニ發行スル著作物ニ關シテハ前四條ノ期間ハ毎册若ハ毎號發行ノトキヨリ起算ス

一部分ツツヲ漸次ニ發行シ全部完成スル著作物ニ關シテハ前四條ノ期間ハ最終部分ノ發行ノトキヨリ起算ス但シ三年ヲ經過シ仍繼續ノ部分ヲ發行セサルトキハ既ニ發行シタル部分ヲ以テ最終ノモノト看做ス

第九條　前六條ノ場合ニ於テ著作權ノ期間ヲ計算スルニハ著作者死亡ノ年又ハ著作物ヲ發行又ハ興行シタル年ノ翌年ヨリ起算ス

第十條　相續人ナキ場合ニ於テ著作權ハ消滅ス

第十一條　左ニ記載シタルモノハ著作權ノ目的物ト爲ルコトヲ得ス

一　法律命令及官公文書

二　新聞紙又ハ雜誌ニ掲載シタル雜報及時事ヲ報道スル記事

三　公開セル裁判所、議會並政談集會ニ於テ爲シタル演述

第十二條　無名又ハ變名著作物ノ發行者又ハ興行者ハ著作權者ニ屬スル權利ヲ保全スルコトヲ得但シ著作者其ノ實名ノ登錄ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權ハ各著作者ノ共有ニ屬ス

各著作者ノ分擔シタル部分明瞭ナラサル場合ニ於テ著作者中ニ其ノ發行又ハ興行ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作者ハ其ノ者ニ賠償シテ其ノ持分ヲ取得スルコトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

各著作者ノ分擔シタル部分明瞭ナル場合ニ於テ著作者中ニ其ノ發行又ハ興行ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作者ハ自己ノ部分ヲ分離シ單獨ノ著作物トシテ發行又ハ興行スルコトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

本條第二項ノ場合ニ於テハ發行又ハ興行ヲ拒ミタル著作者ノ意ニ反シテ其ノ氏名ヲ其ノ著作物ニ掲クルコトヲ得ス

第十四條　數多ノ著作物ヲ適法ニ編輯シタル者ハ著作者ト看做シ其ノ編輯物全部ニ付テノミ著作權ヲ有ス但シ各部ノ著作權ハ其ノ著作者ニ屬ス

第十五條　著作權ノ相續讓渡及質入ハ其ノ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

無名又ハ變名著作物ノ著作者ハ現ニ其ノ著作權ヲ有スルト否トニ拘ラズ其ノ實名ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

著作者ハ現ニ著作權ヲ有スルト否トニ拘ラズ其ノ著作物ノ著作年月日ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

第十六條　登錄ニ關スル規定ハ行政廳之ヲ行フ

登錄ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　未タ發行又ハ興行セサル著作物ノ原本及其ノ著作權ハ債權者ノ爲ニ差押ヲ受クルコトナシ但シ著作權者ニ於テ承諾ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　他人ノ著作物ヲ發行又ハ興行スル場合ニ於テハ著作者ノ生存中ハ著作者ガ現ニ其ノ著作權ヲ有スルト否トニ拘ラズ其ノ同意ナクシテ著作者ノ氏名稱號ヲ變更若ハ匿シ又ハ其ノ著作物ニ改竄其ノ他ノ變更ヲ加ヘ若ハ其ノ題號ヲ改ムルコトヲ得ズ

他人ノ著作物ヲ發行又ハ興行スル場合ニ於テハ著作者ノ死後ハ著作權ノ消滅シタル後ト雖モ其ノ著作物ニ改竄其ノ他ノ變更ヲ加ヘテ著作者ノ意ヲ害シ又ハ其ノ題號ヲ改メ若ハ著作者ノ氏名稱號ヲ變更若ハ匿スルコトヲ得ズ

前二項ノ規定ハ第二十條、第二十條ノ二、第二十二條ノ五第二項、第二十七條第一項第二項、第三十條第一項第二號乃至第九號ノ場合ニ於テモ之ヲ適用ス

第十九條　原著作物ニ訓點、傍訓、句讀、批評、註解、附錄、圖畫ヲ加ヘ又ハ其ノ他ノ修正增減ヲ爲シ若ハ翻案シタルカ爲新ニ著作權ヲ生スルコトナシ但シ新著作物ト看做サルヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十條　新聞紙又ハ雜誌ニ掲載シタル政治上ノ時事問題ヲ論議シタル記事（學術上ノ著作物ヲ除ク）ハ特ニ轉載ヲ禁ズル旨ノ明記ナキトキハ其ノ出所ヲ明示シテ之ヲ他ノ新聞紙又ハ雜誌ニ轉載スルコトヲ得

第二十條ノ二　時事問題ニ付テノ公開演述ハ著作者ノ氏名、演述ノ時及場所ヲ明示シテ之ヲ新聞紙又ハ雜誌ニ掲載スルコトヲ得但シ同一著作者ノ演述ヲ蒐輯スル場合ハ其ノ著作者ノ許諾ヲ受クルコトヲ要ス

第二十一條　翻譯者ハ著作者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス但シ原著作者ノ權利ハ之カ爲ニ妨ケラルルコトナシ

第二十二條　原著作物ト異リタル技術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者ハ著作者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有

ス

第二十二條ノ二　文藝、學術又ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作權ハ其ノ著作物ヲ活動寫眞又ハ之ト類似ノ方法ニ依リ複製(脚色シテ映畫ト爲ス場合ヲ含ム)シ及興行スルノ權利ヲ包含ス

第二十二條ノ三　活動寫眞術又ハ之ト類似ノ方法ニ依リ製作シタル著作物ノ著作者ハ文藝、學術又ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作者トシテ本法ノ保護ヲ享有ス其ノ保護ノ期間ニ付テハ獨創性ヲ有スルモノニ在リテハ第三條乃至第六條及第九條ノ規定ヲ適用シ之ヲ缺クモノニ在リテハ第二十三條ノ規定ヲ適用ス

第二十二條ノ四　他人ノ著作物ヲ活動寫眞術又ハ之ト類似ノ方法ニ依リ複製(脚色シテ映畫ト爲ス場合ヲ含ム)シタル者ハ著作者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス但シ原著作者ノ權利ハ之ガ爲ニ妨ゲラルルコトナシ

第二十二條ノ五　文藝、學術又ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作權ハ其ノ著作物ノ無線電話ニ依ル放送ヲ許諾スルノ權利ヲ包含ス

無線電信法及之ニ基キ發スル命令ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル放送無線電話施設者ハ既ニ發行又ハ興行シタル他人ノ著作物ヲ放送セントスルトキハ著作權者ト協議ヲ爲スコトヲ要ス協議調ハザルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ定ムル相當ノ償金ヲ支拂ヒ其ノ著作物ヲ放送スルコトヲ得

前項ノ償金ノ額ニ付異議アル者ハ民事裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十二條ノ六　文藝、學術又ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作權ハ其ノ著作物ヲ音ヲ機械的ニ複製スルノ用ニ供スル機器ニ寫調シ及其ノ機器ニ依リ興行スルノ權利ヲ包含ス

第二十二條ノ七　音ヲ機械的ニ複製スルノ用ニ供スル機器ニ他人ノ著作物ヲ適法ニ寫調シタル者ハ著作者ト看做シ其ノ機器ニ付テノミ著作權ヲ有ス

第二十三條　寫眞著作權ハ十年間繼續ス

前項ノ期間ハ其ノ著作物ヲ始メテ發行シタル年ノ翌年ヨリ起算ス若シ發行セサルトキハ種板ヲ製作シタル年ノ翌年ヨリ起算ス

寫眞術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者ハ原著作物ノ著作權ト同一ノ期間內本法ノ保護ヲ享有ス但シ當事者間ニ契約アルトキハ其ノ契約ノ制限ニ從フ

第二十四條　文藝學術ノ著作物中ニ挿入シタル寫眞ニシテ特ニ其ノ著作物ノ爲ニ著作シ又ハ著作セシメタルモノナルトキハ其ノ著作權ハ文藝學術ノ著作物ノ著作者ニ屬シ其ノ著作權ト同一ノ期間內繼續ス

第二十五條　他人ノ囑託ニ依リ著作シタル寫眞肖像ノ著作權ハ其ノ囑託者ニ屬ス

第二十六條　寫眞ニ關スル規定ハ寫眞術ト類似ノ方法ニ依リ製作シタル著作物ニ準用ス

第二十七條　著作權者ノ不明ナル著作物ニシテ未タ發行又ハ興行セサルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得

著作權者ノ居所不明ナル場合其ノ他命令ノ定ムル事由ニ由リ著作權者ト協議スルコト能ハザルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ定ムル相當ノ償金ヲ供託シテ其ノ著作物ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得

前項ノ償金ノ額ニ付異議アル者ハ民事裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十八條　外國人ノ著作權ニ付テハ條約ニ別段ノ規定アルモノヲ除ク外本法ノ規定ヲ適用ス但シ著作權保護ニ關シ條約ニ規定ナキ場合ニハ帝國ニ於テ始メテ其ノ著作物ヲ發行シタル者ニ限リ本法ノ保護ヲ享有ス

第二章　出版權

第二十八條ノ二　著作權者ハ其ノ著作物ヲ文書又ハ圖畫トシテ出版スルコトヲ引受クル者ニ對シ出版權ヲ設定スルコトヲ得

第二十八條ノ三　出版權者ハ設定行爲ノ定ムル所ニ依リ出版權ノ目的タル著作物ヲ原作ノ儘印刷術其ノ他ノ機械的又ハ化學的方法ニ依リ文書又ハ圖畫トシテ複製シ之ヲ發賣頒布スルノ權利ヲ專有ス但シ著作權者タル著作者ノ死亡シタルトキ又ハ設定行爲ニ別段ノ定ナキ場合ニ於テ出版權ノ設定アリタル後三年ヲ經過シタルトキハ著作權者ハ著作物ヲ全集其ノ他ノ編輯物ニ輯錄シ又ハ全集其ノ他ノ編輯物ノ一部ヲ分離シテ別途ニ之ヲ出版スルコトヲ妨ゲズ

第二十八條ノ四　出版權ハ設定行爲ニ別段ノ定ナキトキハ其ノ設定アリタルトキヨリ三年間存續ス

第二十八條ノ五　出版權者ハ出版權ノ設定アリタルトキヨリ三月以內ニ著作物ヲ出版スルノ義務ヲ負フ但シ設定行爲ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

出版權者ガ前項ノ義務ニ違反シタルトキハ著作權者ハ出版權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條ノ六　出版權者ハ著作物ヲ繼續シテ出版スルノ義務ヲ負フ但シ設定行爲ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

出版權者ガ前項ノ義務ニ違反シタルトキハ著作權者ハ三月以上ノ期間ヲ定メテ其ノ履行ヲ催告シ其ノ期間內ニ履行ナキトキハ出版權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條ノ七　著作者ハ出版權者ガ著作物ノ各版ノ複製ヲ完了スルニ至ル迄其ノ著作物ニ正當ノ範圍內ニ於テ修正增減ヲ加フルコトヲ得

出版權者ガ著作物ヲ再版スル場合ニ於テハ其ノ都度豫メ著作者ニ其ノ旨ヲ通知スルコトヲ要ス

第二十八條ノ八　著作權者ハ其ノ著作物ノ出版ヲ廢絕スル爲何時ニテモ損害ヲ賠償シテ出版權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條ノ九　出版權ハ著作權者ノ同意ヲ得テ其ノ讓渡又ハ質入ヲ爲スコトヲ得

第二十八條ノ十　出版權ノ得喪、變更及質入ハ其ノ登錄ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第十六條ノ規定ハ出版權ノ登錄ニ付之ヲ準用ス

第二十八條ノ十一　出版權ノ侵害ニ付テハ本法中第三十四條及第三十六條ノ二ノ規定ヲ除クノ外僞作ニ關スル規定ヲ準用ス

第三章　僞作

第二十九條　著作權ヲ侵害シタル者ハ僞作者トシ本法ニ規定シタルモノノ外民法第三編第五章ノ規程ニ從ヒ之ニ因リテ

生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス

第三十條　既ニ發行シタル著作物ヲ左ノ方法ニ依リ複製スルハ僞作ト看做サス

第一　發行スルノ意思ナク且器械的又ハ化學的方法ニ依ラスシテ複製スルコト

第二　自己ノ著作物中ニ正當ノ範圍内ニ於テ節錄引用スルコト

第三　普通教育上ノ修身書及讀本ノ目的ニ供スル爲ニ正當ノ範圍内ニ於テ拔萃蒐輯スルコト

第四　文藝學術ノ著作物ノ文句ヲ自己ノ著作シタル脚本ニ挿入シ又ハ樂譜ニ充用スルコト

第五　文藝學術ノ著作物ヲ說明スルノ材料トシテ美術上ノ著作物ヲ挿入シ又ハ美術上ノ著作物ヲ說明スルノ材料トシテ文藝學術ノ著作物ヲ挿入スルコト

第六　圖畫ヲ彫刻物模型ニ作リ又ハ彫刻物模型ヲ圖畫ニ作ルコト

第七　脚本又ハ樂譜ヲ收益ヲ目的トセズ且出演者ガ報酬ヲ受ケザル興行ノ用ニ供シ又ハ其ノ興行ヲ放送スルコト

第八　音ヲ機械的ニ複製スルノ用ニ供スル機器ニ著作物ノ適法ニ寫調セラレタルモノヲ興行又ハ放送ノ用ニ供スルコト

第九　專ラ官廳ノ用ニ供スル爲複製スルコト

本條ノ場合ニ於テハ其ノ出所ヲ明示スルコトヲ要ス

第三十一條　帝國ニ於テ發賣頒布スルノ目的ヲ以テ僞作物ヲ輸入スル者ハ僞作者ト看做ス

第三十二條　練習用ノ爲ニ著作シタル問題ノ解答書ヲ發行スル者ハ僞作者ト看做ス

第三十三條　善意ニシテ且過失ナク僞作ヲ爲シテ利益ヲ受ケ之カ爲ニ他人ニ損失ヲ及ホシタル者ハ其ノ利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スル義務ヲ負フ

第三十四條　數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權者ハ僞作ニ對シ他ノ著作權者ノ同意ナクシテ告訴ヲ爲シ及自己ノ持分ニ對スル損害ノ賠償ヲ請求シ又ハ自己ノ持分ニ應シテ前條ノ利益ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第三十五條　僞作ニ對シ民事ノ訴訟ヲ提起スル場合ニ於テハ既ニ發行シタル著作物ニ於テ其ノ著作者トシテ氏名ヲ揭ケタル者ヲ以テ著作者ト推定ス

無名又ハ變名著作物ニ於テハ其ノ著作物ニ發行者トシテ氏名ヲ揭ケタル者ヲ以テ其ノ發行者ト推定ス

未タ發行セサル脚本、樂譜及活動寫眞術又ハ之ト類似ノ方法ニ依リ製作シタル著作物ノ興行ニ關シテハ其ノ興行ニ著作者トシテ氏名ヲ顯ハシタル者ヲ以テ其ノ著作者ト推定ス

著作者ノ氏名ヲ顯ハササルトキハ其ノ興行者ヲ以テ其ノ著作者ト推定ス

第十五條第三項ノ規定ニ依リ著作年月日ノ登錄ヲ受ケタル著作物ニ在リテハ其ノ年月日ヲ以テ著作ノ年月日ト推定ス

第三十六條　僞作ニ關シ民事ノ出訴又ハ刑事ノ起訴アリタルトキハ裁判所ハ原告又ハ告訴人ノ申請ニ依リ保證ヲ立テシメ又ハ立テシメスシテ假ニ僞作ノ疑アル著作物ノ發賣頒布ヲ差止メ若ハ之ヲ差押ヘ又ハ其ノ興行ヲ差止ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ僞作ニ非サル旨ノ判決確定シタルトキハ申請者ハ差止又ハ差押ヨリ生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス

第三十六條ノ二　第十八條ノ規定ニ違反シタル行爲ヲ爲シタル者ニ對シテハ著作者ハ著作者タルコトヲ確保シ又ハ訂正其ノ他其ノ聲望名譽ヲ回復スルニ適當ナル處分ヲ請求シ及民法第三編第五章ノ規程ニ從ヒ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第十八條ノ規定ニ違反シタル行爲ヲ爲シタル者ニ對シテハ著作者ノ死後ニ於テハ著作者ノ親族ニ於テ其ノ著作者タルコトヲ確保シ又ハ訂正其ノ他其ノ聲望名譽ヲ回復スルニ適當ナル處分ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル民事ノ訴訟ニ付テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第三十六條ノ三　第二十二條ノ五第二項又ハ第二十七條第二項ノ規定ニ依ル償金ノ額ニ付主務大臣ノ諮問ニ應ゼシムル爲著作權審査會ヲ置ク

著作權審査會ノ組織ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四章　罰則

第三十七條　僞作ヲ爲シタル者及情ヲ知テ僞作物ヲ發賣シ又ハ頒布シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條　第十八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條　第二十條、第二十條ノ二及第三十條第二項ノ規定ニ違反シ出所ヲ明示セスシテ複製シタル者並第十三條第四項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條　著作者ニ非サル者ノ氏名稱號ヲ附シテ著作物ヲ發行シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條　（削除）

第四十二條　虛僞ノ登錄ヲ受ケタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條　僞作物及專ラ僞作ノ用ニ供シタル器械器具ハ僞作者、印刷者、發賣者及頒布者ノ所有ニ在ル場合ニ限リ之ヲ沒收ス

第四十四條　本章ニ規定シタル罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス但シ第三十八條ノ場合ニ於テ著作者ノ死亡シタルトキ並第四十條乃至第四十二條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條　本章ノ罪ニ對スル公訴ノ時效ハ二年ヲ經過スルニ因リテ完成ス

第五章　附則

第四十六條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治三十二年勅令第三百十三號ヲ以テ同年七月十五日ヨリ施行）

明治二十六年法律第十六號版權法明治二十年勅令第七十八號脚本樂譜條例明治二十年勅令第七十九號寫眞版權條例ハ本法施行ノ日リ廢止ス

第四十七條　本法施行前ニ著作權ノ消滅セサル著作物ハ本法施行ノ日ヨリ本法ノ保護ヲ享有ス

第四十八條　本法施行前僞作ト認メラレサリシ複製物ニシテ既ニ複製シタルモノ又ハ複製ニ著手シタルモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

前項ノ複製ノ用ニ供シタル器械器具ノ現存スルトキハ本法施行後五年間仍其ノ複製ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得

第四十九條　本法施行前翻譯シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ僞作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得但シ其ノ翻譯物ハ本法施行後七年內ニ發行スルコトヲ要ス

前項ノ翻譯物ハ發行後五年間仍之ヲ複製スルコトヲ得

第五十條　本法施行前既ニ興行シ若ハ興行ニ著手シ其ノ當時ニ於テ僞作ト認メラレサリシモノハ本法施行後五年間仍之ヲ興行スルコトヲ得

第五十一條　第四十八條乃至第五十條ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル手續ヲ履行スルニ非サレハ其ノ複製物ヲ發賣頒布シ又ハ興行スルコトヲ得ス

附　則（昭和六年法律第六十四號附則）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和六年勅令第二百二號ヲ以テ同年八月一日ヨリ施行）

附　則（昭和九年法律第四十八號附則）

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十年勅令第百八十九號ヲ以テ同年七月十五日ヨリ施行）

附　則（昭和十六年法律第三十五號附則）

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十六年勅令第三百六號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行）

○出　版　法（明治二十六年四月十四日法律第十五號）

改正　昭和九年第四七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル出版法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

出版法

第一條　凡ソ機械舍密其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖畫ヲ印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト云ヒ其ノ文書ヲ著述シ又ハ編纂シ若ハ圖畫ヲ作爲スル者ヲ著作者ト云ヒ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ

第二條　新聞紙又ハ定期ニ發行スル雜誌ヲ除クノ外文書圖畫ノ出版ハ總テ此ノ法律ニ依ルヘシ但シ專ラ學術、技藝、統計、廣告ノ類ヲ記載スル雜誌ハ此ノ法律ニ依リ出版スルコトヲ得

第三條　文書圖畫ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達スヘキ日數ヲ除キ三日前ニ製本二部ヲ添ヘ內務省ニ屆出ヘシ

第四條　官廳ニ於テ文書圖畫ヲ出版スルトキハ其ノ官廳ヨリ發行前ニ製本二部ヲ內務省ニ送付スヘシ

第五條　出版屆ハ著作者又ハ其ノ相續者及發行者連印ニテ之ヲ差出スヘシ但シ非賣品ハ著作者又ハ發行者ノミニテ屆出ルコトヲ得

（版權）ノ保護ナキ文書圖畫ヲ出版スルトキ若ハ著作者又ハ其ノ相續者ヲ知ルヘカラサルトキハ其ノ由ヲ記シ發行者ヨリ差出スヘシ

學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ハ其ノ學校、會社、協會等ヲ代表スル者發行者ト連印シテ之ヲ屆出ヘシ

第六條　文書圖畫ノ發行者ハ文書圖畫ノ販賣ヲ以テ營業トスル者ニ限ル但シ著作者又ハ其ノ相續者ハ發行者ヲ兼ヌルコトヲ得

第七條　文書圖畫ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發行ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載スヘシ

第八條　文書圖畫ノ印刷者ハ其ノ氏名、住所及印刷ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載シ住所ト印刷所ト同シカラサルトキハ印刷所ヲモ記載スヘシ

印刷所若數人ノ共有ニ係ルトキハ營業上其ノ印刷所ヲ代表スル者ヲ以テ印刷者トス

前二項ノ印刷所ニシテ若營業上慣行ノ名稱アルモノハ其ノ名稱ヲモ記載スヘシ

第九條　書簡、通信、報告、社則、塾則、引札、諸藝ノ番附諸種ノ用紙證書ノ類及寫眞ハ第三條第六條第七條第八條ニ據ルヲ要セス但シ第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ルヽ者ハ此ノ法律ニ依テ處分ス

第十條　文書圖畫ノ册號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル者ハ其ノ都度第三條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ雜誌類ニ在テハ內務大臣ノ許可ヲ經テ其ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ十二箇月間一回ヲモ發行セサルトキハ廢刊シタルモノト看做スヘシ

第十一條　一タヒ出版屆ヲ爲シタル文書圖畫ノ再版ハ出版屆ヲ要セスト雖若改正增減シ又ハ註解、附錄、繪畫等ヲ加ヘ

タルトキハ仍第三條ニ依ルヘシ

第十二條 演說若ハ講義ノ筆記ハ演說者若ハ講義者ヲ以テ著作者トス但シ筆記者ニ於テ演說者若ハ講義者ノ承諾ヲ得テ自ラ之ヲ出版スルトキハ筆記者ヲ著作者ト看做スヘシ此ノ場合ニ於テ記載ノ事項第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ルヽトキハ演說者若ハ講義者筆記者ト同ク其ノ罪ヲ論ス

公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ヲ新聞紙若ハ雜誌ノ通信者ニ於テ筆記シ其ノ新聞紙若ハ雜誌ニ記載シタルモノ及總テ演說者講義者ノ承諾ヲ經スシテ其ノ筆記ヲ出版シタルモノニ關シテハ演說者若ハ講義者ハ著作ノ責ニ任セス

公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ノ外ハ講義者又ハ演說者ノ許諾ヲ經ルニ非サレハ他人ニ於テ其ノ筆記ヲ出版スルコトヲ得ス但シ本項ニ違フ者ハ〔版權法〕ニ據リ其ノ責ニ任セシム

第十三條 二種以上ノ著作若ハ演說講義ノ筆記ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲ストキハ編纂者ヲ著作者ト看做スヘシ

前條第一項ノ末段及第二項第三項ハ本條ニ適用スヘシ

第十四條 翻譯ハ翻譯者ヲ以テ著作者ト看做スヘシ

第十五條 學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ハ其ノ出版稿ニ署名シタル代表者ヲ以テ著作者ト看做スヘシ

第十六條 罪犯ヲ煽動シ若ハ曲庇シ又ハ刑事ニ觸レタル者若ハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ若ハ賞恤シ又ハ刑事裁判中ノ者ヲ陷害スルノ文書ヲ出版スルコトヲ得ス

第十七條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル以前ニ於テ之ヲ出版スルコトヲ得ス

傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ事項ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十八條 外交軍事其ノ他官廳ノ機密ニ關シ公ニセサル官ノ文書及官廳ノ議事ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十九條 安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ內務大臣ニ於テ其ノ發賣頒布ヲ禁シ其ノ刻版及印本ヲ差押フルコトヲ得

第二十條 外國ニ於テ印刷シタル文書圖畫ニシテ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ內務大臣ハ其ノ文書圖畫ノ內國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其ノ印本ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 軍事ノ機密ニ關スル文書圖畫ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十二條 第三條ノ屆出ヲ爲サスシテ文書圖畫ヲ出版シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第六條ヲ犯ス者ハ十一日以上三月以下ノ〔輕禁錮〕又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 發行者自己ノ氏名、住所又ハ發行ノ年月日又ハ印刷者ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ發行スル文書圖畫ニ記載セス其ノ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 印刷者自己ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ印刷スル所ノ文書圖畫ニ記載セス若ハ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ罰前條ニ同シ

住所ト印刷所ト同シカラサルトキ及印刷所ニシテ營業上慣行ノ名稱アルトキ印刷所及名稱ヲ記載セサル者亦前項ニ同シ

第二十六條 皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シ、政體ヲ變壞シ又ハ國憲ヲ紊亂セムトスル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者、印刷者ヲ二月以上二年以下ノ〔輕禁錮〕ニ處シ〔二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加〕ス

第二十七條 安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者ヲ十一日以上六月以下ノ〔輕禁錮〕又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第十六條第十七條第十八條第二十一條ニ觸ル、文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者ヲ十一日以上一年以下ノ〔輕禁錮〕又ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條第二十條ニ依リ發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖畫ヲ發賣頒布シタル者罰前項ニ同シ其ノ未タ發賣頒布セサル文書圖畫ハ之ヲ沒收ス

第二十九條 第二十六條第二十七條第二十八條ノ場合ニ於テ刻版及印本ハ檢事ニ於テ假ニ之ヲ差押フルコトヲ得

第三十條 前條ノ差押ヲ爲ストキハ製本ノ體裁ニヨリ其ノ差押フヘキ部分ト他ノ部分ト分割シ得ルニ於テハ之ヲ分割スルコトアルヘシ

第三十一條 文書圖畫ヲ出版シ因テ誹毀ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ私行ニ渉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ノ證明ヲ許スコトヲ得若之ヲ證明シタルトキハ其ノ罪ヲ免ス損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第三十二條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕、〔再犯加重、數罪俱發〕ノ例ヲ用ヰス

第三十三條 此ノ法律ニ關スル公訴ノ時效ハ一年ヲ經過スルニ因テ成就ス

第三十四條 此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ其ノ記載ノ事項第二條ノ範圍外ニ渉ルトキハ內務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ出版スルコトヲ差止ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ一箇年ヲ經ルニ非サレハ更ニ此ノ法律ニ依リ出版スルコトヲ得ス

第三十五條 文書圖畫ヲ印刷スルトキハ直ニ發賣頒布セスト雖其ノ目的發賣頒布ニ在ルモノハ總テ此ノ法律ニ依ル

第三十六條 本法ハ發賣頒布ノ目的ヲ以テ音ヲ機械的ニ複製スルノ用ニ供スル機器ニ音ノ寫調セラレタルモノニ之ヲ準用ス但シ著作者トアルハ吹込者トス

○豫約出版法（明治四十三年四月十六日 法律第五十五號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル豫約出版法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

豫約出版法

第一條 代金ノ全部又ハ一部ヲ前收シ文書圖畫ノ頒布ヲ豫約スル出版ニ對シテハ出版法ニ依ルノ外尙本法ヲ適用ス

第二條 發行者ハ左ノ事項ヲ記載シ內務大臣ニ屆出ツヘシ

一 題號

二 發行ノ年月日及順次發行ノ場合ハ其ノ豫定年月日

三 著作者ノ氏名

四 內容、製本及紙數ノ概要

五　豫約定價及代金前收ノ方法
六　發行所
七　發行者ノ氏名、生年月日、法人ナルトキハ其ノ名稱及代表者ノ氏名

前項ノ屆出ハ書面ヲ以テシ發行者又ハ其ノ法定代理人ヨリ豫約手續ニ著手ノ日ヨリ十日以前ニ管轄地方官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第三條　豫約出版物ニ付出版法ニ依リテ爲ス出版屆書ニハ第二條ニ依リテ屆出ヲ爲シタルコト及其ノ年月日ヲ記載スヘシ

第四條　發行者又ハ其ノ法定代理人ハ第二條ノ屆出ト同時ニ保證金トシテ管轄地方官廳ニ左ノ金額ヲ納ムヘシ

一　豫約定價十圓未滿ハ金五百圓
二　豫約定價十圓以上ハ金千圓

保證金ハ命令ヲ以テ定ムル種類ノ有價證券ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第五條　發行所、發行者ノ法定代理人、發行者法人ナルトキハ其ノ名稱及代表者ニ變更アリ又ハ發行者能力ヲ失ヒ、死亡若ハ解散シ又ハ死亡若ハ解散ニ因リ法律上豫約出版ヲ廢絕スルノ已ムヲ得サルニ至リタルトキハ十日以內ニ內務大臣ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出ハ書面ヲ以テシ發行者又ハ其ノ法定代理人、其ノ死亡ニ係ルトキハ相續人、相續人定マラス又ハ相續人ナキトキハ戶主若ハ同居ノ親族、法人ノ合併ニ因ル解散ニ係ルトキハ其ノ法人ノ權利及義務ヲ承繼シタル法人、破產ニ因ル解散ニ係ルトキハ破產管財人ヨリ管轄地方官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第六條　法律上已ムヲ得サルニ非サル豫約出版ノ廢絕又ハ第二條第一項第一號乃至第五號ノ事項ノ變更及死亡若ハ解散ニ因ラサル發行者ノ變更ハ新舊發行者又ハ其ノ法定代理人ヨリ其ノ事由ヲ具シタル書面ヲ以テ豫メ管轄地方官廳ヲ經由シ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ハ豫約當事者ノ解除權行使ヲ妨ケラルルコトナシ

第七條　相續人又ハ法人ノ合併ニ因リ其ノ權利及義務ヲ承繼シタル法人ハ豫約出版ニ關スル權利及義務ヲ承繼ス

第八條　保證金ニ對スル權利及義務ハ發行者變更ノ場合ニ於テ承繼發行者之ヲ承繼ス

第九條　保證金ハ適法ニ豫約出版ヲ廢絕シ又ハ完全ニ豫約ヲ履行シタル後ニ非サレハ其ノ還付ヲ請求シ又ハ其ノ債權ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ國稅徵收法及之ヲ準用スル法令ヲ適用シ又ハ豫約解除若ハ豫約不履行ニ因リ代金返還若ハ損害賠償ヲ命スル判決ヲ執行スルハ此ノ限ニ在ラス

第十一條ノ罰金又ハ刑事訴訟費用ヲ完納セサルトキハ檢事ハ保證金ノ全部又ハ一部ヲ之ニ充ツルコトヲ得

第十條　發行者又ハ其ノ法定代理人ハ保證金ノ闕額ヲ生シタル場合ニ於テ之ヲ塡補スヘシ

第十一條　第二條、第四條ノ規定ニ依ラスシテ豫約手續ニ著手シ又ハ第六條若ハ第九條ニ違反シ又ハ管轄地方官廳ノ督促ヲ受ケタル後七日以內ニ保證金ヲ塡補セサル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條又ハ第五條ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條　明治三十三年法律第五十二號ハ前條ノ犯罪ニ之ヲ準用ス

第十三條　本法ハ新聞紙、出版法第二條但書ニ依ル雜誌及官廳ニ於テ出版スル文書圖畫ニ之ヲ適用セス

○新聞紙法（明治四十二年五月六日 法律第四十一號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル新聞紙法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

新聞紙法

第一條　本法ニ於テ新聞紙ト稱スルハ一定ノ題號ヲ用ヰ時期ヲ定メ又ハ六箇月以內ノ期間ニ於テ時期ヲ定メシテ發行スル著作物及定時期以外ニ本著作物ト同一題號ヲ用ヰテ臨時發行スル著作物ヲ謂フ

同一題號ノ新聞紙ヲ他ノ地方ニ於テ發行スルトキハ各別種ノ新聞紙ト看做ス

第二條　左ニ揭クル者ハ新聞紙ノ發行人又ハ編輯人タルコトヲ得ス

一　本法ヲ施行スル帝國領土內ニ居住セサル者
二　陸海軍軍人ニシテ現役若ハ召集中ノ者
三　未成年者、禁治產者及準禁治產者
四　懲役又ハ禁錮ノ刑ノ執行中又ハ執行猶豫中ノ者

第三條　印刷所ハ本法ヲ施行スル帝國領土外ニ之ヲ設クルコトヲ得ス

第四條　新聞紙ノ發行人ハ左ノ事項ヲ內務大臣ニ屆出ツヘシ

一　題號
二　揭載事項ノ種類
三　時事ニ關スル事項ノ揭載ノ有無
四　發行ノ時期、若時期ヲ定メサルトキハ其ノ旨
五　第一回發行ノ年月日
六　發行所及印刷所
七　持主ノ氏名、若法人ナルトキハ其ノ名稱及代表者ノ氏名
八　發行人、編輯人及印刷人ノ氏名年齡但シ編輯人二人以上アルトキハ其ノ主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者ノ氏名年齡

前項ノ屆出ハ持主又ハ其ノ法定代理人ノ連署シタル書面ヲ以テシ第一回發行ノ日ヨリ十日以前ニ管轄地方官廳ニ差出スヘシ

第五條　前條第一項第一號乃至第三號ノ事項ノ變更ハ變更ノ日ヨリ十日以前ニ第四號若ハ第六號ノ事項又ハ持主、編輯人、印刷人ノ變更ハ變更前又ハ變更後七日以內ニ前條ノ手續ニ依リ發行人ヨリ之ヲ內務大臣ニ屆出ツヘシ但シ持主變更ノ屆出ニハ死亡ニ因ル場合ノ外新舊持主又ハ其ノ法定代理人ノ連署ヲ要ス

第六條　死亡シ又ハ第二條ニ該當スルニ至リタル發行人ノ權利及義務ヲ承繼シタル發行人ハ其ノ發行人ト爲リタル日ヨリ七日以內ニ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ノ外發行人ノ變更ハ變更ノ日ヨリ十日以前ニ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 新聞紙ハ屆出ヲ爲シタル發行時期又ハ發行休止ノ日ヨリ起算シテ百日間、三回發行ノ期間ヲ通シテ百日ヲ超ユル新聞紙ニ在リテハ三回發行ノ期間之ヲ發行セサルトキハ其ノ發行ヲ廢止シタルモノト看做ス

第八條 發行人若ハ編輯人死亡シ又ハ第二條ニ該當スルニ至リ後任ノ發行人若ハ編輯人ヲ定メサル間又ハ發行人若ハ編輯人一箇月以上本法ヲ施行スル帝國領土外ニ旅行スル場合ニ於テハ假發行人若ハ假編輯人ヲ設クルニ非サレハ新聞紙ノ發行ヲ爲スコトヲ得ス

發行人及編輯人ニ關スル本法ノ規定ハ假發行人及假編輯人ニ之ヲ準用ス

第九條 編輯人ノ責任ニ關スル本法ノ規定ハ左ニ掲クル者ニ之ヲ準用ス

一 編輯人以外ニ於テ實際編輯ヲ擔當シタル者

二 掲載ノ事項ニ署名シタル者

三 正誤書、辯駁書ノ事項ニ付テハ其ノ掲載ヲ請求シタル者

第十條 新聞紙ニハ發行人、編輯人、印刷人ノ氏名及發行所ヲ掲載スヘシ

第十一條 新聞紙ハ發行ト同時ニ內務省ニ二部、管轄地方官廳、地方裁判所檢事局及區裁判所檢事局ニ各一部ヲ納ムヘシ

第十二條 時事ニ關スル事項ヲ掲載スル新聞紙ハ管轄地方官廳ニ保證トシテ左ノ金額ヲ納ムルニ非サレハ之ヲ發行スルコトヲ得ス

一 東京市、大阪市及其ノ市外三里以內ノ地ニ於テハ二千圓

二 人口七萬以上ノ市又ハ區及其ノ市又ハ區外一里以內ノ地ニ於テハ千圓

三 其ノ他ノ地方ニ於テハ五百圓

前項ノ金額ハ一箇月三回以下發行スルモノニ在リテハ其ノ半額トス

保證金ハ命令ヲ以テ定ムル種類ノ有價證券ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十三條 保證金ニ對スル權利及義務ハ發行人變更ノ場合ニ於テ後任發行人之ヲ承繼スルモノトス

第十四條 保證金ハ發行ヲ廢止シタルトキニ非サレハ其ノ還附ヲ請求シ又ハ其ノ債權ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ國稅徵收法及之ヲ準用スル法令ヲ適用シ又ハ名譽ニ對スル罪ニ因ル損害賠償ノ判決ヲ執行スルハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 保證金ヲ納ムル新聞紙ニ關シ發行人又ハ編輯人罰金又ハ刑事訴訟費用ノ言渡確定ノ日ヨリ十日以內ニ之ヲ完納セサルトキハ檢事ハ保證金ノ全部又ハ一部ヲ之ニ充ツルコトヲ得

第十六條 保證金ハ其ノ闕額ヲ生シタル場合ニ於テ之ヲ塡補スルニ非サレハ其ノ新聞紙ヲ發行スルコトヲ得ス但シ闕額ヲ生シタル日ヨリ七日以內ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 新聞紙ニ掲載シタル事項ノ錯誤ニ付其ノ事項ニ關スル本人又ハ直接關係者ヨリ正誤又ハ正誤書、辯駁書ノ掲載ヲ請求シタルトキハ其ノ請求ヲ受ケタル後次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤ヲ爲シ又ハ正誤書、辯駁書ノ全文ヲ掲載スヘシ

正誤、辯駁ハ原文ト同號ノ活字ヲ用ウヘシ

正誤、辯駁ノ趣旨法令ニ違反スルトキ又ハ請求者ノ氏名住所ヲ明記セサルトキハ之ヲ掲載スルコトヲ要セス

正誤書、辯駁書ノ字數原文ノ字數ヲ超過シタルトキハ其ノ超過ノ字數ニ付發行人ノ定メタル普通廣告料ト同一ノ料金ヲ要求スルコトヲ得

第十八條 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄錄セシ事項ニシテ官報又ハ新聞紙ニ於テ正誤シ又ハ正誤書、辯駁書ヲ掲載シタルトキハ本人又ハ直接關係者ノ請求ナシト雖其ノ官報又ハ新聞紙ヲ得タル後前條ノ例ニ依リ正誤シ又ハ正誤書、辯駁書ヲ掲載スヘシ但シ料金ヲ要求スルコトヲ得ス

第十九條 新聞紙ハ公判ニ付スル以前ニ於テ豫審ノ內容其ノ他檢事ノ差止メタル搜查又ハ豫審中ノ被告事件ニ關スル事項又ハ公開ヲ停メタル訴訟ノ辯論ヲ掲載スルコトヲ得ス

第二十條 新聞紙ハ官署、公署又ハ法令ヲ以テ組織シタル議會ニ於テ公ニセサル文書又ハ公開セサル會議ノ議事ヲ許可ヲ受ケスシテ掲載スルコトヲ得ス請願書又ハ訴願書ニシテ公ニセラレサルモノ亦同シ

第二十一條 新聞紙ハ犯罪ヲ煽動若ハ曲庇シ又ハ犯罪人若ハ刑事被告人ヲ賞恤若ハ救護シ又ハ刑事被告人ヲ陷害スルノ事項ヲ掲載スルコトヲ得ス

第二十二條 第四條乃至第六條ノ屆出ヲ爲サス若ハ屆出ヲ爲スモ實ヲ以テセス又ハ保證金ヲ納メ若ハ之ヲ塡補スヘキ場合ニ於テ之ヲ納メ若ハ之ヲ塡補セスシテ發行シタルトキハ正當ノ屆出ヲ爲シ又ハ保證金ヲ納メ若ハ之ヲ塡補スル迄管轄地方官廳ニ於テ新聞紙ノ發行ヲ差止ムヘシ

第二十三條 內務大臣ハ新聞紙掲載ノ事項ニシテ安寧秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害スルモノト認ムルトキハ其ノ發賣及頒布ヲ禁止シ必要ノ場合ニ於テハ之ヲ差押フルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ內務大臣ハ同一主旨ノ事項ノ掲載ヲ差止ムルコトヲ得

第二十四條 內務大臣ハ外國若ハ本法ヲ施行セサル帝國領土ニ於テ發行シタル新聞紙掲載ノ事項ニシテ安寧秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害スルモノト認ムルトキハ其ノ本法施行ノ地域內ニ於ケル發賣及頒布ヲ禁止シ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ差押フルコトヲ得

新聞紙ニ對シ一年以內ニ二回以上前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ內務大臣ハ其ノ新聞紙ヲ本法施行ノ地域內ニ輸入又ハ移入スルヲ禁止スルコトヲ得

第二十五條 前條第二項ニ依ル禁止ノ命令ニ違反シテ輸入又ハ移入シタル新聞紙及第四十三條ニ依ル禁止ノ裁判ニ違反シテ發賣又ハ頒布スルノ目的ヲ以テ印刷シタル新聞紙ハ管轄地方官廳ニ於テ之ヲ差押フルコトヲ得

第二十六條 本法ニ依リ差押ヘタル新聞紙ニシテ二年以上其ノ差押ヲ解除セラレサルトキハ差押ヲ執行シタル行政官廳ニ於テ之ヲ處分スルコトヲ得

第二十七條 陸軍大臣、海軍大臣及外務大臣ハ新聞紙ニ對シ命令ヲ以テ軍事若ハ外交ニ關スル事項ノ掲載ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第二十八條 第二條ニ該當スル者ニシテ事實ヲ詐リ發行人又ハ編輯人ト爲リタルトキハ三月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第三條ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第四條乃至第六條ノ屆出ヲ爲サス若ハ屆出ヲ爲スモ實ヲ以テセス又ハ第四條第一項第一號、第四號乃至第六號ニ關シ屆出ノ事項ニ違反シタル行爲ヲ爲シ又ハ第十一條ニ違反シタルトキハ發行人ヲ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十一條 第四條第一項第二號又ハ第三號ニ關シ屆出ノ事項ニ違反シタル行爲ヲ爲シタルトキハ發行人及編輯人ヲ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十二條 第八條第一項ニ違反シタルトキハ發行人死亡シ又ハ第二條ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テハ實際發行ヲ爲シタル者、其ノ他ノ場合ニ於テハ發行人ヲ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十三條 第十條ニ違反シ又ハ掲載ニ實ヲ以テセサルトキハ發行人及編輯人ヲ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十四條 第十二條第一項、第二項、第十六條ニ違反シ又ハ第二十二條ニ依ル差止ノ命令ニ違反シタルトキハ發行人ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條 第十七條第一項、第二項又ハ第十八條ニ違反シタルトキハ編輯人ヲ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ私事ニ係ル場合ニ於テ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三十六條 第十九條、第二十條ニ違反シタルトキハ編輯人ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 第二十一條ニ違反シタルトキハ編輯人ヲ三月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 第二十三條ニ依ル禁止若ハ差止ノ命令、第二十四條ニ依ル禁止ノ命令、第四十三條ニ依ル禁止ノ裁判ニ違反シタルトキハ發行人、編輯人ヲ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス情ヲ知リテ其ノ新聞紙ヲ發賣又ハ頒布シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第二十三條第一項、第二十四條第一項、第二十五條ニ依ル差押處分ノ執行ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 第二十七條ニ依ル禁止又ハ制限ノ命令ニ違反シタルトキハ發行人、編輯人ヲ二年以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 安寧秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害スル事項ヲ新聞紙ニ掲載シタルトキハ發行人、編輯人ヲ六月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十二條 皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シ政體ヲ變改シ又ハ朝憲ヲ紊亂セムトスルノ事項ヲ新聞紙ニ掲載シタルトキハ發行人、編輯人、印刷人ヲ二年以下ノ禁錮及三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 第四十條乃至第四十二條ニ依リ處罰スル場合ニ於テ裁判所ハ其ノ新聞紙ノ發行ヲ禁止スルコトヲ得

第四十四條 本法ニ定メタル犯罪ニハ刑法併合罪ノ規定ヲ適用セス

第四十五條 新聞紙ニ掲載シタル事項ニ付名譽ニ對スル罪ノ公訴ヲ提起シタル場合ニ於テ其ノ私行ニ渉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若其ノ證明ノ確立ヲ得タルトキハ其ノ行爲ハ之ヲ罰セス公訴ニ關聯スル損害賠償ノ訴ニ對シテハ其ノ義務ヲ免ル

附則

新聞紙條例ハ之ヲ廢止ス

本法施行前ヨリ發行スル新聞紙ニシテ本法ノ規定ニ依リ保證金ニ闕額ヲ生スルニ至リタルトキハ本法施行ノ日ヨリ三年間其ノ塡補ヲ猶豫ス

第二十六條ノ規定ハ本法施行前ノ差押ニ係ル新聞紙ニ之ヲ準用ス

○土地收用法（明治三十三年三月七日 法律第二十九號）

改正 大正三年第一五號、昭和二年第三九號、昭和六年第五三號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル土地收用法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

土地收用法

第一章 總則

第一條 公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲之ニ要スル土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要アルトキハ其ノ土地ハ本法ノ規定ニ依リ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

本法ニ於テ使用ト稱スルハ權利ノ制限ヲ包含ス

第二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノナルコトヲ要ス

一 國防其ノ他軍事ニ關スル事業

二 皇室陵墓ノ營建又ハ神社若ハ官公署ノ建設ニ關スル事業

三 社會事業又ハ教育若ハ學藝ニ關スル事業

四 鐵道、軌道、專用自動車道、索道、道路、橋梁、河川、堤防、砂防、運河、用惡水路、溜池、船渠、港灣、埠頭、水道、下水、國立公園、市場、電氣裝置、瓦斯裝置又ハ火葬場ニ關スル事業

五 衛生、測候、航路標識、防風、防火、水害豐防其ノ他公共團體ニ於

テ施設スル事業

第二條ノ二　現ニ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ノ用ニ供スル土地ハ特別ノ必要アル場合ニ非ザレバ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ズ

第三條　本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル起業者ノ權利義務ハ事業ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス

第四條　本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ起業者、土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第五條　本法ニ於テ土地所有者ト稱スルハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者ヲ謂フ

本法ニ於テ關係人ト稱スルハ收用又ハ使用スヘキ土地又ハ其ノ土地ニ在ル建物ニ關シテ權利ヲ有スル者ヲ謂フ

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後其ノ土地又ハ其ノ土地ニ在ル建物ニ關シテ權利ヲ取得シタル者ハ關係人ト看做サス但シ既存ノ權利ヲ承繼シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第六條　本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル期間ノ計算法、通知ノ方法及書類ノ送達ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　本法ノ規定ハ水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ收用又ハ使用ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第七條ノ二　本法ハ第二條ニ規定スル事業ノ用ニ供スヘキ土地ニ定著スル物件又ハ之ニ關スル權利ヲ其ノ事業ノ用ニ供スル爲ニ收用又ハ使用スル場合ニ之ヲ準用ス

第八條　本法ノ規定ハ土地ニ屬スル土石砂礫ノ收用ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二章　事業ノ準備

第九條　事業ノ準備ノ爲必要アルトキハ起業者ハ事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ得テ土地ニ立入リ測量又ハ檢査ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ宮內省又ハ國ノ起業ニ係ルトキハ宮內大臣又ハ主務大臣ハ之ヲ地方長官ニ通知スヘシ

地方長官前項ノ許可ヲ與ヘ又ハ通知ヲ受ケタルトキハ起業者、事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ公告シ又ハ之ヲ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ノ準備ノ爲其ノ土地ニ立入リ測量又ハ檢査ヲ爲ス場合ニ於テハ本條ノ許可又ハ通知ヲ要セス

第十條　前條ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ五日前ニ其ノ日時及場所ヲ市町村長ニ通知スヘシ市町村長ハ之ヲ公告シ又ハ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

邸內ニ立入ル場合ニ於テハ起業者ハ豫メ其ノ占有者ニ通知スヘシ

日出前日沒後ハ起業者ハ占有者ノ承諾アルニ非ザレバ邸內ニ立入ルコトヲ得ズ

第十一條　第九條ノ規定ニ依ル測量又ハ檢査ノ爲必要アルトキハ起業者ハ行政廳ノ許可ヲ得テ障害物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ障害物ノ除却ヲ爲ス場合ニ於テハ起業者ハ三日前ニ其ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ

第三章　事業ノ認定

第十二條　土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ內務大臣之ヲ認定ス但シ軍機ニ關スル事業ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　起業者カ前條ノ認定ヲ受ケントスルトキハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ內務大臣ニ申請スヘシ但シ起業者ガ宮內省又ハ國ナルトキハ宮內大臣又ハ主務大臣ハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ內務大臣ニ請求スヘシ

第十四條　內務大臣カ認定ヲ爲シタルトキハ起業者及事業ノ種類並起業地ヲ公告スヘシ

第十五條　天災事變ニ際シ急施ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使用スルトキハ市町村長ハ其ノ事業ノ認定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ事業ガ宮內省、國又ハ道府縣ノ起業ニ係ルトキハ宮內大臣、主務大臣又ハ道廳長官府縣知事ハ事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ市町村長ニ通知スヘシ

前二項ノ使用ノ期間ハ六箇月ヲ超エルコトヲ得ス

軍事上臨時急施ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使用スルトキハ主務大臣ハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ市町村長ニ通知スヘシ

第十六條　起業者カ市町村長ノ認定ヲ受ケムトスルトキハ事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ定メ市町村長ニ申請スヘシ

第十七條　市町村長カ認定ヲ爲シタルトキ又ハ第十五條第二項ノ通知ヲ受ケタルトキハ起業者、事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ土地所有者及占有者ニ通知スヘシ

市町村長カ第十五條第四項ノ通知ヲ受ケタルトキハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ土地所有者及占有者ニ通知スヘシ

第十八條　起業者カ內務大臣ノ認定ノ公告ノ後三箇年內ニ第十九條ノ申請ヲ爲ササルトキハ其ノ認定ハ效力ヲ失フ

第四章　收用ノ手續

第十九條　內務大臣ノ認定ノ公告ノ後起業者ノ申請ニ依リ地方長官ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ公告シ又ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

軍機ニ關スル事業ニ付テハ主務大臣ハ地方長官ニ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ通知シ地方長官ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第十九條ノ二　前條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後ハ土地所有者及關係人ハ事業ニ支障ヲ及ボス處ナキ場合ヲ除クノ外行政廳ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ收用又ハ使用スベキ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ第七條ノ二ノ物件ヲ損壞若ハ收去スルコトヲ得ズ

第二十條　第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後ハ起業者ハ其ノ土地ニ立入リ土地物件ヲ調査スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ三日前ニ其ノ日時及場所ヲ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

日出前日沒後ハ占有者ノ承諾アルニ非サレハ邸內ニ立入ルコトヲ得ス

第二十一條　第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者ハ土地所有者及關係人ト共ニ土地物件ニ關スル調書ヲ作ルベシ

前項ノ場合ニ於テ土地所有者又ハ關係人ガ調書ヲ作ルコトヲ拒ミタルトキ其ノ他之ト共ニ調書ヲ作ルコト能ハザルトキハ起業者ハ市町村長ノ立會ヲ以テ之ヲ作ルベシ市町村長

ガ起業者ナルトキ又ハ起業者ニ對シ第四十條第二項ニ掲ゲタル關係ヲ有スルトキハ起業者ノ申請ニ依リ地方長官立會人ヲ指定スベシ

起業者、土地所有者及關係人ハ本條ノ規定ニ依リ作リタル調書ノ記載事項ニ對シテ異議ヲ述ブルコトヲ得ズ

第二十二條　第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關係人ニ協議ヲ爲スヘシ

前項ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ起業者ハ收用審査會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

第二十三條　收用審査會ノ裁決ヲ求メムトスルトキハ起業者ハ其ノ申請書ニ左ニ掲ケタル書類ヲ添ヘ地方長官ニ差出スヘシ但シ軍機ニ關スル事業ニ付テハ事業計畫書及圖面ヲ添フルコトヲ要セス

一　事業計畫書及圖面

二　市區町村別ニ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シタル書面

收用又ハ使用スヘキ土地ノ番號、地目

收用又ハ使用スヘキ土地ノ面積及其ノ土地ニ在ル物件ノ種類、數量但シ土地物件カ分割ヲ來スヘキ場合ニ於テハ其ノ全部ノ面積建坪等ヲ併記スヘシ

損失補償ノ見積金額及內譯

收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

土地所有者及關係人ノ氏名、住所

三　第二十一條ノ規定ニ依ル土地物件ニ關スル調書又ハ其ノ寫

收用審査會ノ裁決ヲ求メタルトキハ起業者ハ同時ニ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二十四條　地方長官前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ市町村長ニ送付スベシ但シ同條第一項第三號ノ書類ハ此ノ限ニ在ラズ

市町村長前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク公告ヲ爲シ公告ノ日ヨリ一週間之ヲ公衆ノ縱覽ニ供スベシ

第二十五條　土地所有者及關係人ハ前條縱覽期間ノ初日ヨリ二週間內ニ地方長官ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

第二十六條　地方長官ハ前條ノ期間ヲ經過シタル後收用審査會ヲ開クヘシ

第二十七條　收用審査會ハ開會ノ日ヨリ一週間內ニ裁決ヲ爲スヘシ但シ地方長官ハ必要ト認ムルトキハ二週間內ノ延期ヲ爲スコトヲ得

第二十八條　收用審査會カ前條ノ期間內ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ事情ヲ具シ內務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ內務大臣ハ收用審査會ニ一定ノ期間內ニ裁決ヲ爲スヘキコトヲ命シ又ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘキコトヲ地方長官ニ命スルコトヲ得

收用審査會カ前項ノ期間內ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘシ

第二十九條　收用審査會カ招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ地方長官ハ內務大臣ノ認可ヲ得テ之ニ代テ裁決ヲ爲スコトヲ得事業ノ急施ヲ要スルトキ亦同シ

第三十條　收用審査會カ裁決ヲ爲シタルトキハ其ノ裁決書ノ謄本ヲ添ヘ地方長官ニ報告スヘシ

第三十一條　前條ノ報告ヲ受ケ又ハ收用審査會ニ代テ裁決ヲ

爲シタルトキハ地方長官ハ裁決書ノ謄本ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ送達スヘシ

第三十二條　軍機ニ關スル事業又ハ內務大臣ノ認定シタル事業ノ施行ニ因リテ必要ヲ生シタル道路、堤防其ノ他公用ニ供スル工作物ノ新築、改築又ハ增築ノ爲土地ヲ收用又ハ使用スルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ直ニ本章ノ規定ニ依ルコトヲ得

第三十三條　市町村長カ認定ヲ爲シ又ハ第十五條第二項若ハ第四項ノ通知ヲ受ケタルトキハ第十七條ノ通知ノ後起業者ヲシテ直ニ其ノ土地ヲ使用セシムルコトヲ得但シ損失ノ補償ニ關シテハ本法ノ規定ニ依ルヘシ

第三十四條　起業者カ第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後一箇年內ニ收用審査會ノ裁決ヲ求メサルトキハ其ノ公告又ハ通知ハ效力ヲ失フ

第五章　收用審査會

第三十五條　收用審査會ハ內務大臣ノ監督ニ屬シ左ニ掲ケタル事項ヲ定メテ收用又ハ使用ノ裁決ヲ爲スモノトス

一　收用又ハ使用スヘキ土地ノ區域

二　損失ノ補償

三　收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

起業者ノ申請カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ違反スルトキハ收用審査會ハ却下ノ裁決ヲ爲スヘシ

第三十六條　收用審査會ハ會長一人委員六人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十七條　會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ議事其ノ他ノ會務ヲ統理シ會ヲ代表ス

第三十八條　委員ハ高等文官及道府縣名譽職參事會員各三人ヲ以テ之ニ充ツ

高等文官ニシテ委員タルヘキ者ハ內務大臣之ヲ命シ道府縣名譽職參事會員ニシテ委員タルヘキ者ハ其ノ互選トス

第三十九條　收用審査會ハ委員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

收用審査會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第四十條　委員カ起業者、土地所有者又ハ關係人ナルトキハ收用審査會ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

委員カ起業者、土地所有者若ハ關係人ノ配偶者、四親等內ノ親族、戶主、家族、代理人及保佐人ナルトキ又ハ起業者、土地所有者若ハ關係人タル市町村ノ市町村長、合名會社ノ社員、合資會社及株式合資會社ノ無限責任社員、株式會社ノ取締役及監査役其ノ他法人ノ理事及監事ナルトキ亦前項ニ同シ

本條ノ規定ニ依リ委員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ地方長官ハ左ニ掲ケタル順序ニ從ヒ其ノ本條ノ規定ニ抵觸セサル者ノ內ヨリ臨時ニ指名シテ之ヲ補充スヘシ

一　道府縣名譽職參事會員

二　道府縣名譽職參事會員ノ補充員

三　道府縣會議員

第四十一條　收用審査會ノ裁決ハ起業者、土地所有者及關係人ノ申立タル範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十二條　收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ鑑定人ヲ選ヒ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

前項ノ鑑定人ニ付テハ第四十條ノ規定ヲ準用ス

第四十三條　收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ起業者、土地所有者又ハ關係人ヲ呼出シ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

收用審査會ハ事實參考ノ爲必要ト認ムルトキハ前項ニ掲グル者以外ノ者ヲ呼出シ其ノ供述ヲ聽クコトヲ得

第四十四條　裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ會長之ニ署名捺印スヘシ

裁決書ノ謄本ニハ會ノ印章ヲ押捺スヘシ

第四十五條　鑑定人及事實參考人ハ旅費及手當ヲ請求スルコトヲ得

第四十六條　二府縣以上ニ渉ル事業ニ係ルトキハ關係地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ合同シテ收用審査會ヲ開クコトヲ得

第六章　損失ノ補償

第四十七條　土地所有者及關係人ノ受クル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

損失ノ補償ハ各人別ニ之ヲ爲スヘシ但シ其ノ各人別ニ見積リ難キトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十八條　收用スヘキ土地物件ニ付テハ相當ノ價格ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ

使用スヘキ土地ニ付テハ其ノ土地及近傍類地ノ料金ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ

第四十九條　土地ノ一部ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ損失ヲ補償スヘシ

第五十條　土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十一條　收用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル物件ハ移轉料ヲ補償シテ移轉セシムヘシ但シ物件ノ分割ヲ來シ其ノ全部ヲ移轉スルニ非サレハ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ全部ノ移轉料ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ物件ヲ移轉スルニ因リテ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十二條　前條ノ移轉料ニシテ其ノ物件ノ相當價格ヲ超ユル場合ニ於テハ起業者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十三條　土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ通路、溝渠、墻柵其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、增築又ハ修繕ヲ爲ス必要ヲ生スルトキハ其ノ費用ヲ負擔スヘシ

第五十四條　前數條ニ規定シタルモノノ外土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ハ之ヲ補償スヘシ

第五十五條　土地ノ使用カ三箇年以上ニ亙ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキ若ハ使用スヘキ土地ニ建物アルトキハ所有者ハ其ノ土地ノ收用ヲ請求スルコトヲ得但シ空間ヲ使用スル場合ニ於テ土地ノ使用ヲ妨ケサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條　第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後行政廳ノ許可ヲ得スシテ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ノ新築、改築、增築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加增置シタル土地所有者又ハ關係人ハ之ニ關スル損失ノ補償ヲ請求スルコトヲ得ス

第五十七條　第九條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ土地ニ立入リ測量、檢査又ハ調査ヲ爲スニ因リテ他人ニ及ホシタル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

第五十八條　第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ハ之ヲ補償スヘシ

第五十九條　前二條ノ補償ニ付キ協議調ハサルトキハ地方長官ノ決定ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十一條及第四十一條乃至第四十五條ノ規定ヲ準用ス

第七章　收用ノ效果

第六十條　起業者ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ヲ拂渡スヘシ

左ニ掲ケタル場合ニ於テハ補償金ヲ供託スルコトヲ得

一　補償金ヲ受クヘキ者カ其ノ受領ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキ

二　起業者カ過失ナクシテ補償金ヲ受クヘキ者ヲ確知スルコト能ハサルトキ

三　起業者カ收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アルトキ但シ補償金ヲ受クヘキ者ノ請求アルトキハ起業者ハ自己ノ見積金額ヲ拂渡スヘシ

四　起業者カ補償金拂渡ノ差押又ハ假差押ヲ受ケタルトキ

第六十一條　土地所有者及關係人ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スヘシ但シ左ニ掲ケタル場合ニ於テハ起業者ノ請求ニ依リ市町村長ハ土地所有者及關係人ニ代ルモノトス

一　土地所有者及關係人カ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スルコト能ハサルトキ

二　起業者ノ過失ナクシテ土地所有者及關係人ヲ確知スルコト能ハサルトキ

第六十二條　起業者カ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲ササルトキハ收用審査會ノ裁決ハ其ノ效力ヲ失フ但シ土地所有者及關係人カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第六十三條　土地物件ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

土地ヲ使用スルトキハ其ノ權利ハ使用ノ時期ニ於テ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セラル但シ使用ヲ妨ケサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條　收用審査會ノ裁決ノ後收用又ハ使用スヘキ土地物件カ土地所有者又ハ關係人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ滅失又ハ毀損ハ起業者ノ負擔ニ歸ス

第六十五條　先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ收用又ハ使用ニ因リテ債務者カ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第六十六條　收用ノ時期ヨリ二十箇年內ニ事業ノ廢止其ノ他ノ事故ニ因リテ收用シタル土地ノ全部又ハ一部カ不用ニ歸シタルトキハ舊所有者又ハ其ノ相續人ハ補償價格ヲ以テ之ヲ買受ルコトヲ得但シ第五十條ノ規定ニ依リテ收用シタル殘地ハ其ノ接續部分ノ不用ニ歸シタル時ニ非サレハ之ヲ買受ルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ買受ハ第三者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第一項ノ期間内ニ於テ收用シタル土地ヲ他ノ軍機ニ關スル事業又ハ内務大臣ノ認定シタル事業ニ供スルトキハ不用ニ歸シタルモノト看做サス

第六十七條　前條ノ不用ノ土地アルトキハ起業者ハ舊所有者又ハ其ノ相續人ニ通知スヘシ但シ起業者ノ過失ナクシテ之ヲ確知スルコト能ハサルトキハ少クトモ三回ノ公告ヲ爲スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月内又ハ第三回ノ公告終了ノ日ヨリ六箇月内ニ舊所有者又ハ其ノ相續人カ買受ノ通知ヲ爲ササルトキハ其ノ權利ヲ失フ

第八章　費用ノ負擔

第六十八條　起業者、土地所有者及關係人カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル手續其ノ他ノ行爲ヲ爲シ又ハ義務ヲ履行スル爲ニ要シタル費用ハ各其ノ負擔トス

第六十九條　收用審査會ニ要シタル費用ハ命令ヲ以テ別ニ負擔者ヲ定メタルモノヲ除クノ外府縣ノ負擔トス第五十九條ノ場合ニ要シタル費用ニ付テ亦同シ

第七十二條ノ規定ニ依リ收用審査會ノ裁決ヲ取消シタル場合ニ於テ更ニ開クヘキ收用審査會ニ要シタル費用ハ之ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ負擔セシムルコトヲ得ス

第七十條　第七十三條第一項ノ規定ニ依リ地方長官カ義務者ノ爲スヘキ事項ヲ自ラ執行シ又ハ他人ヲシテ執行セシメタル爲ニ要シタル費用ハ府縣ノ負擔トス

府縣ハ前項ノ費用ヲ各其ノ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得但シ其ノ義務者ノ受領スヘキ補償金ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第七十一條　土地所有者又ハ關係人ノ負擔スヘキ費用ハ第六十一條但書ノ場合ニ於テハ市町村ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第九章　監督、强制及罰則

第七十二條　收用審査會カ其ノ權限ヲ越エ又ハ法令ノ規定ニ違反シテ爲シタル裁決ハ内務大臣之ヲ取消スコトヲ得

第七十三條　義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ一定ノ期間内ニ終了スル見込ナキトキハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セサル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依ルコト能ハサルトキハ地方長官ハ直接ニ之ヲ强制スルコトヲ得

第七十四條　前章ノ規定ニ依リ私人ノ負擔スヘキ費用ヲ支出セサル者アルトキハ行政廳ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用ニ付テハ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第七十五條　第九條又ハ第十一條ノ場合ニ於テ行政廳ノ許可ヲ得ズシテ土地ニ立入リ又ハ障害物ヲ除却シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十六條　第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知アリタルコトヲ知リタル者第十九條ノ二ノ規定ニ違反シタルトキハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十七條　鑑定人トシテ收用審査會ニ呼出サレタル者虚僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第七十八條　故ナク鑑定人タルコトヲ拒ミタル者又ハ鑑定人カ故ナク鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタルトキハ百圓以下ノ過料ニ處ス

第七十九條　鑑定人又ハ第四十三條第二項若ハ第五十九條ノ規定ニ依リ呼出ヲ受ケタル者故ナク出頭セザルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

第八十條　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス

第十章　訴願及訴訟

第八十一條　收用審査會ノ裁決ニ對シテ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

收用審査會ノ違法裁決ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル訴願訴訟ハ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

本法ノ規定ニ依リ通常裁判所ニ出訴ヲ許シタル事項ニ關シテハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第八十二條　收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ訴訟ハ收用審査會ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第五十九條ノ規定ニ依ル地方長官ノ決定ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

第八十三條　本法ノ規定ニ依ル訴願訴訟ハ事業ノ進行及土地ノ收用又ハ使用ヲ停止セス

附　則

第八十四條　本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

第八十五條　明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リ收用又ハ使用ニ關シテ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ本法ノ規定ニ依リテ爲シタルモノト看做ス

明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リ收用シタル土地ニ關シテハ第六十六條ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

明治八年太政官達第百三十二號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ現ニ國有タル土地ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本條ノ規定ヲ準用ス

第八十六條　第十五條乃至第十七條及第三十三條ノ規定ニ依リ町村長ノ爲スベキ職務ハ北海道ニ於テハ支廳長之ヲ行フ

本法ニ依リ町村長ノ爲スベキ職務ハ町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ町村長ニ準ズベキ者之ヲ行フ

第八十七條　明治二十二年勅令第五號東京市區改正土地建物處分規則其ノ他別段ノ定アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第八十八條　明治二十二年法律第十九號土地收用法明治二十三年法律第五十四號土地收用協議會規則及明治三十二年法律第七十二號ハ之ヲ廢止ス

附　則（昭和二年法律第三十九號附則）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和二年勅令第二百

七十二號ヲ以テ同年九月十五日ヨリ施行）

大正十五年法律第七十八號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前牧用審査會ノ裁決ヲ求メタル牧用又ハ使用ニ付テハ第四十三條ノ規定ヲ除クノ外仍從前ノ例ニ依ル但シ第三十五條第二項ノ規定ニ依リ却下ノ裁決アリタルモノニ付テハ其ノ裁決ニ對シ訴願訴訟ヲ爲ス場合ヲ除クノ外此ノ限ニ在ラズ

本法施行前從前ノ第七十八條又ハ第八十條ノ規定ニ該當スル行爲ヲ爲シタル者ニシテ本法施行ノ際未ダ其ノ裁判ヲ受ケザル者ハ本法ニ依リ處罰ス但シ過料ノ額ハ同條ノ罰金ノ額ヲ超ユルコトヲ得ズ

附則（昭和六年法律第五十三號附則）

本法中專用自動車道ニ關スル規定ハ自動車交通事業法施行ノ日ヨリ、國立公園ニ關スル規定ハ國立公園法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○森林法（明治四十年四月二十三日法律第四十三號）

改正　明治四四年第七五號、昭和一四年第一五號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル森林法改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

森林法

第一章　總則

第一條　森林ハ其ノ所有者ニ依リ之ヲ分チテ御料林、國有林、公有林、社寺有林及私有林トス

前項ノ種別ニ依リ難キ森林ニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ヲ適用ス

第二條　森林ノ立木竹ヲ所有スル爲地上權、賃借權其ノ他土地ニ關シ使用又ハ收益ヲ爲ス權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ權利者ヲ以テ本法ニ依ル森林所有者ト看做ス

前項ノ權利二箇以上同一ノ土地ノ上ニ存在スル場合ニ於テハ最後ニ設定セラレタル權利ヲ有スル者ヲ以テ前項ノ森林所有者トス

第三條　本法ニ於テ開墾ト稱スルハ地租法ニ規定スルモノノ外燒畑、切替畑其ノ他土地ノ形質ヲ變更スル行爲ヲ謂フ

第四條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル森林所有者、森林立木竹所有者又ハ土地ノ所有者若ハ占有者ノ權利義務ハ森林若ハ森林立木竹又ハ土地ノ所有權若ハ占有權ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス

第五條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ森林所有者、森林立木竹所有者又ハ土地ノ所有者若ハ占有者ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第六條　民法第二百五十六條ノ規定ハ共有ノ森林ニ之ヲ適用セス但シ各共有者持分ノ價格ニ從ヒ其ノ過半數ヲ以テ分割ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第七條　公園、社寺境內及命令ヲ以テ定ムル土地ニ付テハ本法ヲ適用セス但シ命令ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ書類ヲ送付スヘキ場合ニ於テ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ官報又ハ行政廳慣行ノ公布式ヲ以テ之ヲ公示シ其ノ公示ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ送付アリタルモノト看做ス

第二章　營林ノ監督

第九條　命令ヲ以テ定ムル公有林、社寺有林又ハ私有林ノ所有者ハ其ノ所有スル森林又ハ造林ノ用ニ供スル土地ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ施業案ヲ編成シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ認可ヲ受ケタル施業案ヲ變更セントスルトキ亦同シ

地方長官必要アリト認ムルトキハ前項ノ施業案ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ施業案ヲ編成スルコトヲ要スル者又ハ前項ノ規定ニ依リ施業案ノ變更ヲ命セラレタル者之ヲ編成セス又ハ變更セサルトキハ地方長官ハ其ノ者ニ代リテ之ヲ編成シ又ハ變更スルコトヲ得

第十條　地方長官森林生產ノ保續ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ公有林、社寺有林又ハ私有林ノ所有者ニ對シ其ノ森林ニ付區域又ハ箇所及期間ヲ定メ伐採方法又ハ造林其ノ他伐採ニ伴フ必要ナル事項ヲ指定スルコトヲ得

前項ノ規定ハ前條ノ規定ニ依ル施業案ノ編成アリタル森林及第六十九條ノ三ノ規定ニ依ル森林組合ノ施業案ノ編成アリタル森林ニ付テハ之ヲ適用セス

第十一條　公有林、社寺有林又ハ私有林ノ所有者第九條ノ規定ニ依ル施業案ニ定メタル伐採、造林其ノ他ノ施業要件ニ準據セス又ハ前條ノ規定ニ依ル指定ニ從ハサルトキハ行政官廳ハ伐採ノ停止ヲ命シ又ハ其ノ者ニ代リテ自ラ伐採、造林其ノ他施業上必要ナル行爲ヲ爲シ若ハ公共團體ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ伐採停止ニ關スル規定ハ森林所有者カ其ノ生活ヲ維持スル爲已ムヲ得サルニ出テタル伐採ニ付テハ之ヲ適用セス

第十一條ノ二　第九條第三項ノ規定ニ依リ施業案ヲ編成シ若ハ變更スルニ要シタル費用又ハ前條ノ規定ニ依リ伐採、造林其ノ他施業上必要ナル行爲ヲ爲シ又ハ爲サシムルニ要シタル費用ハ行政官廳ニ於テ行政執行法第六條ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十一條ノ三　地方長官國土保安其ノ他公益上特ニ必要アリト認ムルトキハ公有林、社寺有林又ハ私有林ノ所有者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ所有スル森林ニ付施業技術者ノ雇入ヲ命スルコトヲ得

第十二條　本法施行以前ヨリ荒廢ニ屬シタル森林ニ付新ニ造林シタルトキハ其ノ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ造林シタル部分ニ限リ三十年以內地租ヲ免スルコトヲ得

前項ノ規定ハ原野、山岳又ハ荒蕪地ニ新ニ造林シタル場合ニ之ヲ準用ス

府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ前二項ニ依リ地租ヲ免セラレタル土地ニ對シ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス

第十三條　公有林、社寺有林又ハ私有林ニ付地方長官ハ土地ノ狀況ニ依リ箇所及期間ヲ指定シ落葉、落枝、柴草、土石、樹根、草根、切芝ノ採取若ハ採掘ニ關スル制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第十三條ノ二　行政官廳必要アリト認ムルトキハ森林產物ノ生產者若ハ取引又ハ森林產物ヲ原料トスル物品ノ製造ヲ爲ス者ニ對シ森林產物ノ需給ノ狀況ニ關スル事項ノ報告ヲ命シ又ハ之ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ニ付必要ナル調査ヲ爲スコトヲ得

第十三條ノ三　二以上ノ府縣ニ亙ル事項ニ關シテハ本章ニ規定シタル地方長官ノ職權ニ付勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第三章　保安林

第十四條　主務大臣ハ左ニ揭クル場合ニ於テ森林ヲ保安林ニ編入スルコトヲ得

一　土砂ノ壞崩、流出ノ防備ノ爲必要ナルトキ
二　飛砂ノ防備ノ爲必要ナルトキ
三　水害、風害、潮害ノ防備ノ爲必要ナルトキ
四　頹雪又ハ墜石ニ因ル危險ノ防止ノ爲必要ナルトキ
五　水源涵養ノ爲必要ナルトキ
六　魚附ノ爲必要ナルトキ
七　航行ノ目標ノ爲必要ナルトキ
八　公衆ノ衞生ノ爲必要ナルトキ
九　社寺、名所又ハ舊跡ノ風致ノ爲必要ナルトキ

第十五條　主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキ又ハ保安林トシテ存置スルノ必要ナシト認ムルトキハ保安林ヲ解除スルコトヲ得

第十六條　保安林ノ編入解除ハ其ノ森林所在ノ府縣市町村又ハ之ニ準スヘキ者其ノ他直接利害ノ關係ヲ有スル者ヨリ地方長官ヲ經由シ主務大臣ニ申請スルコトヲ得

前項ノ申請ニ係ル森林ニ付不編入又ハ不解除ノ處分アリタルトキハ實地ノ狀況ニ著シキ變更ヲ生シタル場合ニ非サレハ同一理由ニ依リ再ヒ之ヲ申請スルコトヲ得ス

第十七條　保安林ノ編入解除ノ申請アリタル場合ニ於テ前條第一項ノ條件ヲ具備セス又ハ同條第二項ノ規定ニ違反シタルモノト認ムルトキハ地方長官ハ申請書ヲ却下スルコトヲ得

前項ノ處分ニ對シ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第十八條　保安林ノ編入解除ヲ爲サムトスルトキ又ハ地方長官其ノ申請ヲ受理シタルトキハ地方長官ニ於テ其ノ旨ヲ森林所有者、土地所有者其ノ他土地ニ付登記シタル權利ヲ有スル者ニ通知シ且慣行ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示シ森林所在ノ市町村役場（町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキ場所）ニ之ヲ揭示スヘシ

地方長官ハ前項告示ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタル後保安林ノ編入解除ヲ地方森林會ノ議ニ付スヘシ

第十九條　地方森林會ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條　第十八條ノ告示ニシテ保安林編入ニ關スルモノナルトキハ其ノ告示ノ日ヨリ第二十三條ノ告示ノ日迄其ノ森林ニ於テ木竹ノ伐採、開墾又ハ土石、切芝、樹根、草根、埋木ノ採取若ハ採掘ヲ爲スコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　保安林ノ編入解除ニ關シ直接利害ノ關係ヲ有スル者其ノ編入解除ニ異議アルトキハ第十八條ノ告示ノ日ヨリ二十五日以內ニ意見書ヲ地方長官ニ提出スルコトヲ得

第二十二條　地方長官ハ保安林ノ編入解除ニ關スル地方森林會ノ決議書其ノ他ノ關係書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ主務大臣ニ差出スヘシ但シ第三十七條ノ二ノ規定ニ依リ委任ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　主務大臣ニ於テ保安林ノ編入解除ニ關スル處分ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示シ地方長官ヲシテ其ノ森林所有者ニ其ノ旨ヲ通知シ且所在ノ市町村役場（町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキ場所）ニ揭示セシムヘシ

地方長官ニ於テ第三十七條ノ二ノ規定ニ依リ保安林ノ編入解除ニ關スル處分ヲ爲シタルトキハ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十四條　保安林ノ編入解除ニ關シ直接利害ノ關係ヲ有スル者其ノ編入解除ニ關スル處分ニ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ前條告示ノ日ヨリ六十日以內ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十五條　地方長官ニ於テ保安林ノ編入ニ關シ必要アリト認ムルトキハ其ノ森林ニ於ケル木竹ノ伐採ヲ停止スルコトヲ得但シ其ノ停止期間ハ一箇年ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ニ依リ木竹ノ伐採ヲ停止セラレタル森林ト雖保育ノ爲必要ナルトキ又ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ之ヲ伐採スルコトヲ得

第二十六條　保安林ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ木竹ノ伐採、傷害、開墾又ハ土石、切芝、樹根、草根、埋木ノ採取若ハ採掘ヲ爲シ又ハ家畜ヲ放牧スルコトヲ得ス

第二十七條　主務大臣ハ保安林ノ所有者ニ對シ前條ノ外其ノ使用收益ヲ制限若ハ禁止シ又ハ施業若ハ保護ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

第二十八條　木竹ノ伐採ヲ禁止セラレタル保安林ノ所有者又ハ立木竹ノ所有者ハ之ニ因リテ生シタル直接ノ損害ニ限リ其ノ補償ヲ求ムルコトヲ得

前項保安林ノ所有者カ前條ノ指定ニ依リ造林ヲ爲シタルトキハ其ノ造林ノ費用ハ前項ノ損害ト看做ス

前二項ノ損害ハ政府之ヲ補償ス但シ政府ハ保安林編入ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體若ハ私人ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシメ國稅徵收法ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第一項及第二項ノ損害ノ算定方法及其ノ補償請求期間ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條　前條第三項ニ依ル政府ノ補償金額ニ付不服アル者ハ其ノ補償金額ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ九十日以內ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前條第三項但書ニ依ル負擔ニ付不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第三十條　先取特權、質權又ハ抵當權ハ第二十八條第一項ニ

依リ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第三十一條　國有地ノ上ニ存在スル森林ニシテ保安林ニ編入セラレタルトキハ政府ハ其ノ借地料ヲ免ス

第三十二條　主務大臣國土保安上必要アリト認ムルトキハ保安林以外ノ森林ニ付區域又ハ箇所ヲ定メテ開墾ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得

第三十三條　第二十六條ノ規定ニ違反シ、第二十七條又ハ前條ノ制限、禁止若ハ指定ニ違反シタル者アルトキハ地方長官ハ造林其ノ他復舊ニ必要ナル行爲ヲ命スルコトヲ得

第三十四條　第十一條及第十一條ノ二ノ規定ハ前條ニ依リ造林ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テ之ヲ準用ス

第三十五條　保安林ノ編入解除ニ關スル調査及國土保安ニ關シ地方長官ノ行フ調査ニ要スル費用ハ府縣ノ負擔トス但シ北海道ニ於テハ北海道地方費、〔沖繩縣ニ於テハ國庫〕ノ負擔トス

第三十六條　主務大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ原野、山岳其ノ他ノ土地ニシテ第十四條第一號乃至第五號ノ場合ニ該當スルモノニ付本章ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第三十七條　第十八條第二項、第二十八條乃至第三十條ノ規定ハ御料林及國有林ニ之ヲ適用セス

第三十七條ノ二　主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本章ニ規定シタル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第四章　土地ノ使用及收用

第三十八條　本章ニ於テ關係人ト稱スルハ第四十條第二項ニ依ル通知前使用又ハ收用スヘキ土地ニ關シテ權利ヲ有スル者及其ノ通知後ニ於テ通知前ヨリ既存セル權利ヲ承繼シタル者ヲ謂フ

第三十九條　本章ニ於テ補償金ト稱スルハ對價、使用料其ノ他土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ニ對スル補償金ヲ總稱ス

第四十條　森林ヨリ其ノ產物ヲ運搬スル爲又ハ運搬ニ關スル設備ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得但シ帝室林野局又ハ政府ノ使用ニ係ルトキハ當該官廳ハ之ヲ地方長官ニ協議スヘシ

地方長官ハ前項ノ許可ヲ與ヘ又ハ協議調ヒタルトキハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第一項ニ依リ土地ヲ使用セムトスル者ハ前項通知ノ後其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關係人ニ協議スヘシ

第四十一條　前條第二項ノ通知後一箇年以內ニ同條第三項ノ協議ヲ爲ササルトキハ同條第一項ノ許可及協議ハ其ノ效力ヲ失フ第五十五條第一項ニ依リ地方森林會ノ裁決ヲ求メサルトキ亦同シ

第四十二條　土地ノ使用三箇年以上ニ亙ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第四十三條　土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用ヰタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第四十四條　土地ヲ使用又ハ收用スルトキハ土地所有者及關係人ニ補償金ヲ拂渡スヘシ

第四十五條　土地ノ一部ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ殘地ノ

價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第四十六條　土地ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ通路、溝渠、墻柵其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、增築又ハ修繕ヲ爲スノ必要ヲ生シタルトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第四十七條　第四十條第二項ノ通知後土地ノ形質ヲ變更シ、工作物ノ新築、改築、增築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加增置セムトスルトキハ土地所有者又ハ關係人ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ許可ヲ受ケスシテ之ヲ爲シタル者ハ之ニ關スル補償金ヲ請求スルコトヲ得ス

第四十八條　第四十條第二項ノ通知後同條第一項ノ目的ニ土地ヲ使用スルコトヲ廢止シタル者ハ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ニ對シ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第四十九條　土地所有者及關係人ハ土地ノ使用者若ハ收用者ヲシテ補償金ニ付相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得但シ土地ノ使用者若ハ收用者カ帝室林野局、政府、府縣市町村及之ニ準スヘキモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十條　第五十五條第一項ノ裁決アリタルトキハ土地ノ使用者又ハ收用者ハ其ノ裁決ニ依ル補償金ヲ供託シ又ハ擔保ヲ供シテ土地ヲ用ウルコトヲ得但シ土地ノ使用者又ハ收用者カ帝室林野局、政府、府縣市町村及之ニ準スヘキモノナルトキハ補償金ノ供託及擔保ノ提供ヲ要セス

第五十一條　前數條ニ依ル補償金ノ拂渡若ハ供託ヲ爲サス又ハ擔保ヲ供セサルトキハ土地所有者及關係人ハ土地ヲ用ウルコトヲ拒ムコトヲ得

第五十二條　土地ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ收用者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

土地ヲ使用スルトキハ使用ノ時期ニ於テ土地ノ使用者其ノ使用權ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ヲ妨ケサル範圍ニ制限セラルルモノトス

第五十三條　土地ノ使用者其ノ使用ヲ終リタルトキハ土地ヲ原形ニ復シ又ハ原形ニ復セサルニ因リテ生スル損失ニ對シ補償金ヲ拂渡シテ之ヲ返還スヘシ

第五十四條　第三十條ノ規定ハ本章ノ補償金ニ之ヲ準用ス

第五十五條　土地ノ使用若ハ收用、補償金又ハ擔保ニ付協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ第四十條第二項ノ通知後一箇年以內ニ地方森林會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ裁決中土地ノ使用又ハ收用ニ關スルモノニ付不服アル者ハ主務大臣ニ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ裁決ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ六十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ裁決中補償金又ハ擔保ニ關スルモノニ付不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ裁決ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ九十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條　土地收用法第六十四條、第六十六條及第六十七條ノ規定ハ本項ニ依リ使用又ハ收用セラレタル土地ニ之ヲ準用ス

第五十七條　土地ノ使用、收用ニ關スル規定ハ水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ使用又ハ收用ニ之ヲ準用ス

第五十八條　森林ヨリ其ノ產物ヲ運搬スル爲又ハ運搬ニ關スル設備ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ水流ニ於ケル他人ノ工作物ヲ使用シ、變更シ又ハ除却スルコトヲ得但シ帝室林野局又ハ政府カ之ヲ行フトキハ地方長官ニ協議スヘシ

前項工作物ノ使用、變更又ハ除却ニ因リテ損害ヲ生スヘキトキハ補償金ノ拂渡ヲ爲スヘシ

第四十條第二項第三項、第四十一條、第四十六條乃至第十一條、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十九條　流木竹ノ爲必要アル場合ニ於テハ沿岸ノ土地ニ立入ルコトヲ得此ノ場合ニ於テ損害アリタルトキハ賠償ヲ爲スヘシ

第六十條　前數條ノ外流木竹ニ付土地又ハ水ノ使用ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條　森林又ハ森林ノ事業ニ關シ實地調査ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入リ、目標ヲ設置シ又ハ支障木竹ヲ伐採スルコトヲ得但シ帝室林野局又ハ政府ニ於テハ地方長官ニ通知シテ之ヲ行フコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ損害アリタルトキハ賠償ヲ爲スヘシ

第一項ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ土地ノ所有者又ハ占有者ニ通知スヘシ

第五章　森林組合及森林組合聯合會

第六十二條　森林組合ハ組合員ノ所有スル森林ニ付自ラ施業ヲ爲シ又ハ組合員ノ施業ヲ調整シ以テ森林生產ノ保續ヲ圖ルヲ以テ目的トス

組合ハ前項ノ目的ヲ達スル爲定款ノ定ムル所ニ依リ左ノ各號ノ一ノ事業ヲ行フ

一　組合員ノ所有スル森林ニ付施業案ヲ編成シ之ニ基キ施業ヲ爲スコト

二　組合員ノ爲ニ施業案ヲ編成シ之ニ基キ組合員ノ爲ス施業ヲ調整シ及地區內森林ノ施業ニ必要ナル共同施設ヲ爲スコト

第六十三條　森林組合ハ營利ヲ目的トセサル社團法人トス

第六十四條　一定ノ地區內ニ於ケル森林ヲ所有スル者ハ定款ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ得テ森林組合ヲ設立スルコトヲ得

組合ノ地區ハ市町村又ハ之ニ準スヘキモノノ區域ニ依ル但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第六十五條　森林組合ハ其ノ名稱中ニ森林組合ナル文字ヲ用フヘシ

森林組合ニ非サルモノハ其ノ名稱中ニ森林組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ス

第六十六條　森林組合ヲ設立スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一　組合員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意アルコト

二　前號同意者ノ所有スル森林ノ面積カ地區內ニ於ケル森林ノ總面積ノ三分ノ二以上ナルコト

第六十六條ノ二　地方長官森林生產ノ保續ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ地區ヲ指定シ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ森林組合ノ設立ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命セラレタル者ハ前條ノ條件ニ從ヒ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第六十七條　森林組合成立シタルトキハ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ組合員トス但シ命令又ハ定款ニ於テ加入ノ義務ナシト定メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第六十八條　定款ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　目的及事業

二　地區

三　名稱

四　事務所

五　出資又ハ費用分擔ノ方法

六　存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

前項ノ外定款ニ定ムルコトヲ要スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

定款ノ變更ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第六十九條　森林組合ノ設立ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第六十九條ノ二　森林組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ經費ヲ組合員ニ分賦スルコトヲ得

第七十條第一項ノ規定ニ依リ組合員ニ出資ヲ爲サシムル森林組合ニ付テハ前項ノ規定ニ依ル經費分賦ハ第六十二條第二項ニ規定スル事業ニ關シ命令ヲ以テ定ムル經費ニ限ル

第六十九條ノ三　森林組合ハ組合員ノ所有スル森林ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ施業案ヲ編成シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ認可ヲ受ケタル施業案ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第九條第二項及第三項ノ規定ハ組合ニ之ヲ準用ス

第六十九條ノ四　第十一條及第十一條ノ二ノ規定ハ第六十二條第二項第一號ノ事業ヲ行フ森林組合及同項第二號ノ事業ヲ行フ森林組合ノ組合員ニ之ヲ準用ス

第六十九條ノ五　第十一條ノ三ノ規定ハ森林組合ニ之ヲ準用ス

第六十九條ノ六　第六十二條第二項第一號ノ事業ヲ行フ森林組合ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外組合員ノ所有スル森林ニ付組合ノ施業ノ範圍ニ於テ使用及收益ヲ爲スノ權利ヲ有ス

前項ノ規定ニ依ル組合員ノ收益ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ所有スル森林ノ評價其ノ他命令ヲ以テ定ムル標準ニ依リ之ヲ組合員ニ分配スヘシ

第七十條　森林組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ出資ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ組合員ニ出資ヲ爲サシムル組合ハ第六十二條第二項ニ規定スル事業ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

一　組合又ハ組合員ノ生產シタル森林產物ノ運搬、加工、保管及販賣ニ關スル施設ヲ爲スコト

二　組合員ノ森林ノ維持又ハ施業ニ必要ナル資金ノ貸付ヲ爲スコト

三　地區內ニ居住スル森林所有者ヲ創設スル爲地區內ノ森

林ヲ取得スルコト

四　第六十二條第二項第二號ノ事業ヲ行フ組合ニ在リテハ組合員ノ委託ニ依リ其ノ森林ノ施業ヲ爲スコト

第七十條ノ二　前條第一項ノ規定ニ依リ組合員ニ出資ヲ爲サシムル森林組合ノ組合員ハ出資一口以上ヲ有スヘシ

出資一口ノ金額ノ最高限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十條ノ三　第七十條第一項ノ規定ニ依リ組合員ニ出資ヲ爲サシムル森林組合ニ在リテハ組合財產ヲ以テ其ノ債務ヲ完濟スルコト能ハサル場合ニ於テ組合員ノ全員ハ其ノ出資額及第六十九條ノ二ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外定款ノ定ムル一定ノ金額（追補金額）ヲ限度トシテ組合ニ對シ責任ヲ負擔ス

前項ノ組合ハ拂込未濟出資額及追補金額ニ付組合員ノ所有スル地區內ノ森林ノ上ニ先取特權ヲ有ス

前項ノ先取特權ハ其ノ優先權ノ順位ニ付テハ之ヲ不動產賣買ノ先取特權ト看做シ其ノ效力ニ付テハ民法中不動產賣買ノ先取特權ニ關スル規定ヲ準用ス

第七十一條　森林組合ハ主務大臣及地方長官之ヲ監督ス

監督官廳ハ何時ニテモ組合ノ事業ニ關スル報告ヲ徵シ、事業ニ付認可ヲ受ケシメ、事業及財產ノ狀況ヲ檢査シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第七十二條　總會ノ決議又ハ役員ノ行爲ニシテ法令、監督官廳ノ命令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ監督官廳ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　決議ノ取消

二　役員ノ解職

三　組合ノ解散

第七十三條　造林ノ用ニ供スル土地ハ本章ノ適用上之ヲ森林ト看做ス

第七十四條　森林組合聯合會ハ所屬ノ森林組合及森林組合聯合會ノ共同ノ目的ヲ達スル爲之ヲ設立スルコトヲ得

聯合會ハ森林組合又ハ森林組合聯合會ヲ以テ之ヲ組織ス

聯合會ヲ設立セントスルトキハ定款ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七十四條ノ二　森林組合聯合會ハ其ノ名稱中ニ森林組合聯合會ナル文字ヲ用フヘシ

森林組合聯合會ニ非サルモノハ其ノ名稱中ニ森林組合聯合會ナル文字ヲ用フルコトヲ得ス

第七十四條ノ三　森林組合聯合會ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ所屬組合又ハ聯合會ニ出資ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ聯合會ノ所屬組合又ハ聯合會ノ責任ハ第七十四條ノ五ニ於テ準用シタル第六十九條ノ二第一項ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ限度トス

第七十四條ノ四　森林組合聯合會ハ主務大臣之ヲ監督ス

前項ノ規定ニ依ル主務大臣ノ職權ノ一部ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第七十四條ノ五　第六十三條、第六十八條、第六十九條、第六十九條ノ二第一項、第七十條ノ二、第七十一條第二項及第七十二條ノ規定ハ森林組合聯合會ニ之ヲ準用ス

第七十五條　本法ニ規定スルモノノ外森林組合及森林組合聯合會ノ設立、管理、解散、清算其ノ他組合及聯合會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十五條ノ二　森林組合又ハ森林組合聯合會ニ於テ本章ノ規定（第六十九條ノ四ニ於テ準用シタル第十一條及第六十九條ノ五ニ於テ準用シタル第十一條ノ三ノ規定ヲ除ク）又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ其ノ役員ヲ百圓以下ノ過料ニ處ス

第七十五條ノ三　第六十五條第二項及第七十四條ノ二第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ過料ニ處ス

第七十五條ノ四　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス

第六章　森林警察

第七十六條　地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ左ノ命令ヲ發シ若ハ處分ヲ爲スコトヲ得

一　森林產物ニ使用スル記號又ハ印章ヲ定メ所轄警察官署ニ屆出テシメ森林產物ノ搬出前之ヲ使用セシムルコト

二　前號ニ依リ屆出テタル記號印章ト同一又ハ類似ノ記號若ハ印章ノ使用ヲ禁止スルコト

三　前二號ノ規定ニ違反シタル者ニ對シ森林產物ノ運搬ヲ停止スルコト

四　森林產物ニ關スル營業者ヲシテ帳簿ヲ設ケ其ノ產物ノ出所、種類、數量及仕向先ヲ記載セシムルコト

五　前各號ノ外森林ノ危害防止ニ關スルコト

第七十七條　森林官吏、警察官吏又ハ犯罪搜查ニ付職權ヲ有スル官吏、公吏其ノ職務ヲ行フ爲必要アリト認ムルトキハ森林產物又ハ森林產物ニ關スル營業者ノ手板、帳簿及器具ニ付檢查ヲ行フコトヲ得

第七十八條　森林、原野、山岳又ハ荒蕪地ニ於テハ地方長官ニ於テ必要ト認メ主務大臣ノ認可ヲ得テ指定シタル場合ヲ除クノ外火入ヲ爲スコトヲ得ス

前項指定ノ場合ニ於テ火入ヲ爲サムトスルトキ又ハ前項以外ノ土地ニシテ森林ニ接近セル土地ニ火入ヲ爲サムトスルトキハ森林官吏又ハ警察官吏ノ許可ヲ受クヘシ

第七十九條　前條ノ火入ヲ爲サムトスルトキハ豫メ防火ノ設備ヲ爲シ且接近セル森林ノ所有者又ハ管理者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第八十條　森林害蟲發生シ又ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ害蟲發生シ又ハ發生ノ虞アル森林ノ所有者之ヲ驅除豫防スヘシ

前項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ森林所有者ハ警察官署ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入リ森林害蟲ノ驅除豫防ヲ爲スコトヲ得

第八十一條　森林害蟲蔓延シ又ハ蔓延ノ虞アル場合ニ於テ地方長官ハ森林害蟲ノ驅除又ハ豫防ノ爲必要ナル處置ヲ利害關係アル森林ノ所有者ニ命シ又ハ自ラ之ヲ行フコトヲ得蟲類以外ノ動物又ハ黴菌ヲ驅除豫防スルニ付主務大臣ノ認可ヲ得タル場合亦同シ

前項驅除豫防ノ費用ハ其ノ利害關係アル土地ノ面積又ハ地價ヲ準率ト爲シ森林所有者ノ負擔トス但シ地方長官自ラ驅除豫防ヲ行ヒタル場合ヲ除クノ外費用ノ負擔者ニ於テ別段ノ定ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

地方長官第一項ニ依リ自ラ驅除豫防ヲ行ヒタル場合ニ於ケル費用ノ徵收ニ付テハ行政執行法第六條ノ規定ヲ準用ス

第八十二條　害蟲驅除豫防法第七條及第八條ノ規定ハ前二條

ニ依ル驅除豫防ニ之ヲ準用ス

第七章　罰則

第八十三條　森林ニ於テ其ノ產物ヲ窃取シタル者ハ森林窃盜トシテ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ產物ニシテ人工ヲ加ヘタルモノニ係ルトキ亦同シ

第八十四條　森林窃盜ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五年以下ノ懲役若ハ五千圓以下ノ罰金ニ處シ又ハ其ノ刑ヲ併科ス

一　根株ヲ掘採、毀壞、燒燬若ハ隧蔽シ其ノ他罪跡ノ湮滅ヲ圖ルノ行爲アリタルトキ

二　贓物ヲ原料トシテ木炭、樟腦、椎茸、松根油其ノ他ノ物品ヲ製シタルトキ

三　贓物ヲ燃料トシテ鑛物ノ採取、精製若ハ石灰、煉瓦石、瓦其ノ他ノ物品ノ製造ニ使用シタルトキ

四　贓物ヲ運搬スル爲馬、牛、船舶、車輛若ハ繩ヲ使用シ又ハ運搬、造材ノ設備ヲ爲シタルトキ

五　保安林ニ於テ犯シタルトキ

六　森林產物採取ノ權利ヲ行使スルニ際シ犯シタルトキ

七　二人以上共同シ又ハ他人ヲ雇使シテ犯シタルトキ

八　森林保護ノ義務ヲ有スル者犯シタルトキ

九　差押ノ贓物ヲ隱匿、消費、滅却又ハ放棄シタルトキ

十　夜間犯シタルトキ

第八十五條　前條第二號ニ依リ製シタル物品ハ之ヲ森林窃盜ノ贓物ト看做ス

第八十六條　民法第百九十六條ノ規定ハ森林窃盜ノ贓物ノ回復ニ之ヲ適用セス但シ善意ノ取得者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十七條　森林窃盜ノ贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

森林窃盜ノ贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役若ハ五千圓以下ノ罰金ニ處シ又ハ其ノ刑ヲ併科ス

第八十八條　他人ノ森林ニ放火シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

自己ノ森林ニ放火シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森林ニ延燒シタルトキハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第八十九條　火ヲ失シテ他人ノ森林ヲ燒燬シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

火ヲ失シテ自己ノ森林ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦前項ニ同シ

第九十條　第八十三條、第八十四條及第八十八條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第九十一條　森林ノ爲設ケタル標識ヲ移轉、汚損シ又ハ毀壞シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十二條　立木竹、木材又ハ根株ニ附シタル他人ノ記號印章ヲ變更又ハ消除シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十三條　他人ノ森林內ニ工作物ヲ設ケタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス他人ノ森林ヲ開墾シタル者亦同シ

前項ノ犯罪ニシテ保安林、開墾禁止ノ森林ニ係ルトキハ六月以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十四條　他人ノ森林內ニ於テ放牧シタル者ハ百圓以下ノ

罰金ニ處ス

第九十四條ノ二　第十一條第一項（第六十九條ノ四ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ依ル伐採停止ノ命令ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第九十五條　第十三條ノ制限又ハ禁止ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十五條ノ二　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第十三條ノ二ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サス又ハ虛僞ノ報告ヲ爲シタル者

二　第十三條ノ二ノ規定ニ依ル調査ヲ拒ミタル者

第九十六條　第二十條ニ違反シ又ハ第二十五條第一項ノ停止ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十七條　第二十六條ニ違反シ又ハ第三十二條ノ制限若ハ禁止ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十八條　第二十七條ノ制限、禁止又ハ指定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條　第七十六條第二號又ハ第三號ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百條　第七十七條ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第百一條　第七十八條又ハ第七十九條ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森林ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス他人ノ森林內ニ於テ焚火ヲ爲シタル者亦同シ

第百二條　第七十六條第一號第四號若ハ第五號又ハ第八十一條第一項ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第百三條　法人又ハ人ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第九十四條ノ二又ハ第九十五條ノ二第一號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第百三條ノ二　第九十四條ノ二又ハ第九十五條ノ二第一號ノ罰則ハ其ノ者カ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百四條　第三十六條ニ依ル土地ハ本章ノ適用上之ヲ森林ト看做ス

第八章　附則

第百五條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十年勅令第三百四十六號ヲ以テ明治四十一年一月一日ヨリ施行）

第百六條　北海道ニ於テ本法ヲ適用スルニ付必要ナル事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第百七條　本法施行前森林タリシモノニシテ本法施行以前ヨリ荒廢ニ屬シタルモノハ地方長官ニ於テ造林ヲ命スルコトヲ得

前項ニ依リ造林ノ命令ヲ受ケタル者カ造林ヲ怠リタル場合ニ付テハ第十一條及第十一條ノ二ノ規定ヲ準用ス

第百八條　舊法第三十條ニ依リ保安林ト爲シタルモノニシテ

本法施行ノ際現ニ保安林タルモノハ之ヲ保安林トス

第百九條　公有林又ハ社寺有林ニ付本法施行前地方長官ノ認可ヲ受ケ又ハ地方長官ニ屆出テタル施業案又ハ施業要領ハ第九條ニ依ル認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第百十條　舊法又ハ舊法ニ基キテ發シタル命令ノ規定ニ依リテ爲シタル處分、議決、申請、請求、手續其ノ他ノ行爲ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ本法ニ基キテ發スル命令ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百十一條　舊法ニ依リ本法施行前ニ進行ヲ始メタル期間カ本法中之ニ相當スル期間ヨリ長キトキハ舊法ノ規定ニ從フ但シ其ノ殘期カ本法施行ノ日ヨリ起算シ本法中之ニ相當スル期間ヨリ長キトキハ本法施行ノ日ヨリ起算シテ本法ノ規定ヲ適用ス

第百十二條　舊法第二十六條ニ依ル補償ノ請求ハ本法施行ノ日ヨリ一箇年ヲ經過スルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

附　則（昭和十四年法律第十五號附則）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十五年勅令第五百五十八號ヲ以テ同年九月十日ヨリ施行）

公有林又ハ社寺有林ニ付本法施行前地方長官ノ認可ヲ受ケタル施業案又ハ施業要領ハ本法ニ依リ認可ヲ受ケタル施業案ト看做ス

從前ノ規定ニ依リ設立セラレタル森林組合ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ本法施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ仍從前ノ例ニ依ル

前項ノ組合ハ前項ノ期間內ニ命令ノ定ムル所ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ得テ改正規定ニ依ル組合ト爲ルコトヲ得

第三項ノ組合ニシテ同項ノ期間內ニ改正規定ニ依ル組合ト爲ラサルモノハ其ノ期間滿了ノ日ニ於テ解散ス

本法施行前從前ノ罰則ヲ適用スヘカリシ行爲ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

○牧野法（昭和六年四月一日法律第三十七號）

改正　昭和一四年第六八號、昭和一五年第九四號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル牧野法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

牧野法

第一條　本法ニ於テ牧野ト稱スルハ牛馬ノ生產飼育ノ爲放牧又ハ採草ヲ爲スヲ目的トスル土地ヲ謂フ

第一條ノ二　行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ現ニ牧野タル土地ニシテ特ニ牧野トシテ保續スル必要アルモノヲ牧野特定地ニ指定スルコトヲ得

第一條ノ三　行政官廳公益上必要アリト認ムルトキ又ハ其ノ土地ヲ牧野特定地トシテ存置スル必要ナシト認ムルトキハ牧野特定地ノ指定ヲ取消スコトヲ得

第一條ノ四　行政官廳牧野特定地ノ指定又ハ其ノ取消ヲ爲サントスルトキハ其ノ旨其ノ土地ノ所有者、其ノ土地ニ付登記シタル權利ヲ有スル者其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ通知シ且命令ノ定ムル所ニ依リ公示スベシ

行政官廳ハ前項ノ規定ニ依ル公示ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタル後牧野特定地ノ指定又ハ其ノ取消ニ付牧野委員會ニ諮問スベシ

前項ノ規定ハ國有地タル牧野ニ付テハ之ヲ適用セズ

第一條ノ五　牧野委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一條ノ六　牧野特定地ノ指定又ハ其ノ取消ニ關シ直接利害ノ關係ヲ有スル者其ノ指定又ハ取消ニ異議アルトキハ第一條ノ四第一項ノ規定ニ依ル公示ノ日ヨリ二十五日以內ニ意見書ヲ當該行政官廳ニ提出スルコトヲ得

第一條ノ七　行政官廳牧野特定地ノ指定又ハ其ノ取消ヲ爲シタルトキハ其ノ旨第一條ノ四第一項ニ揭グル者ニ通知シ且命令ノ定ムル所ニ依リ公示スベシ牧野特定地ノ指定又ハ其ノ取消ヲ爲サザルコトト決定シタルトキ亦同ジ

第一條ノ八　牧野特定地ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲サントスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　開墾
二　造林
三　工作物ノ新築、改築又ハ增築
四　其ノ他牧野ノ保續ヲ妨グル虞アル行爲ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ

前項ノ規定ハ第一條ノ四第一項ノ規定ニ依ル公示アリタル場合ニ於テ當該公示ニ係ル牧野特定地ノ豫定地ニ付之ヲ準用ス

第一條ノ九　行政官廳ハ牧野特定地ノ所有者其ノ他之ニ付使用收益ヲ爲ス權利ヲ有スル者ニ對シ其ノ牧野ノ維持又ハ改良ノ爲必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

政府ハ前項ノ規定ニ依リ牧野ノ維持又ハ改良ノ爲必要ナル事項ヲ命ゼラレタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍內ニ於テ其ノ執行ニ要スル費用ノ一部ヲ補助ス

第一條ノ十　牧野特定地ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ牧野ノ所有者其ノ他之ニ付權利ヲ有スル者ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第二條 地方公共團體ハ其ノ所有スル牧野ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ管理方法ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ認可ヲ受ケタル管理方法ヲ廢止又ハ變更セントスルトキ亦同ジ

行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ管理方法ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第二條ノ二 北海道、府縣、市町村、牧野組合、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ハ馬ノ生産飼育ノ爲放牧又ハ採草ヲ爲ス牧野ヲ經營スル爲土地ヲ取得シ又ハ使用スル必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ御料地又ハ國有地タリシ土地ニシテ現ニ公共團體又ハ私人ノ所有ニ屬スルモ其ノ利用ノ極メテ不十分ナルモノニ付行政官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ土地ノ所有者其ノ他之ニ付權利ヲ有スル者ト土地ノ讓渡又ハ使用收益ノ權利ノ設定若ハ讓渡ニ付協議ヲ爲スコトヲ得

行政官廳前項ノ認可ヲ爲サントスルトキハ牧野委員會ニ諮問スベシ

第二條ノ三 前條第一項ノ規定ニ依ル協議調ハザルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ同項ニ掲グル團體ハ其ノ土地又ハ其ノ土地ノ使用收益ノ權利ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ關シテハ土地收用法ヲ適用ス

第三條 牧野ノ荒廢防止、害蟲ノ驅除豫防其ノ他牧野ノ保護ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 牧野ニ於テ放牧又ハ採草ヲ爲ス權利ヲ有スル者ハ牧野組合ヲ設立スルコトヲ得

命令ノ定ムル所ニ依リ共同シテ放牧又ハ採草ヲ爲サントスル者ニシテ行政官廳ノ指定ヲ受ケタルモノハ牧野組合ヲ設立スルコトヲ得

第五條 牧野組合ハ法人トシ牧野ノ維持若ハ改良ヲ圖リ又ハ放牧若ハ採草ニ關スル施設ヲ爲シ以テ組合員ノ共同ノ利益ヲ增進スルコトヲ目的トス

第六條 牧野組合ハ其ノ名稱中ニ牧野組合ナル文字ヲ用フベシ

牧野組合ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ牧野組合タルコトヲ示スベキ文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第七條 牧野組合ハ一定ノ牧野ヲ以テ其ノ地區トス

命令ヲ以テ牧野ニ準ズベキモノト定ムル土地ハ牧野組合ノ地區ニ關スル規定ノ適用ニ付テハ之ヲ牧野ト看做ス

第八條 牧野組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フコトヲ得

一 牧野ノ維持又ハ改良ニ必要ナル共同設備ノ設置
二 草生ノ改良
三 荊棘、土石其ノ他障害物ノ除去
四 害蟲ノ驅除豫防
五 牧野ニ關スル利用統制
六 牛馬ノ受託放牧
七 放牧牛馬ニ關スル衞生施設
八 採草ニ必要ナル共同設備ノ設置
九 其ノ他組合ノ目的ヲ達成スルニ必要ナル事業

第八條ノ二 牧野組合ハ營利ヲ目的トシテ其ノ事業ヲ爲スコトヲ得ズ

第九條 政府ハ牧野組合ニ對シ豫算ノ範圍內ニ於テ奬勵金ヲ

交付スルコトヲ得牧野ノ改良ニ關スル施設ヲ爲ス地方公共團體、畜産組合、畜産組合聯合會又ハ主務大臣ノ指定スル團體ニ付亦同ジ

第十條 牧野組合ヲ設立セントスルトキハ組合ノ地區タルベキ牧野ニ付組合員タル資格ヲ有スル者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ定款ヲ作成シ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第十條ノ二 行政官廳特ニ必要アリト認ムルトキハ牧野特定地タル牧野ニ付地區ヲ指定シ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ牧野組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者ハ前條ノ規定ニ從ヒ其ノ設立ニ付行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第十條ノ三 牧野組合ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時成立ス

第十一條 牧野組合成立シタルトキハ其ノ地區タル牧野ニ付組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ之ヲ組合員トス但シ命令ヲ以テ定ムル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條 牧野組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 目的
二 名稱
三 地區
四 事務所ノ所在地
五 組合員タル資格ニ關スル規定
六 事業及其ノ執行ニ關スル規定
七 牧野ノ利用統制ノ定ヲ爲ス組合ニ在リテハ之ニ關スル規定
八 役員ニ關スル規定
九 經費ノ分擔方法
十 組合ガ公告ヲ爲ス方法
十一 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

前項ニ規定スルモノノ外定款ニ定ムルコトヲ要スベキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 牧野組合ハ設立ノ認可ヲ受ケタルトキハ設立ノ登記ヲ爲スベシ

登記スベキ事項左ノ如シ

一 前條第一項第一號乃至第三號、第十號及第十一號ニ掲グル事項
二 事務所
三 設立認可ノ年月日
四 理事ノ氏名、住所

第十四條 牧野組合ノ理事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ特別ノ事由アルトキハ組合員ニ非ザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

組合設立當時ノ理事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムベシ

理事ハ何時ニテモ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

第十六條第一項及第二項ノ規定ハ理事ノ選任又ハ解任ニ之ヲ準用ス

第十五條 牧野組合ハ牧野ノ改良事業ヲ行ハントスルトキハ其ノ改良計畫ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ認可ヲ受ケタル改良計畫ヲ廢止又ハ變更セントスルトキ亦同ジ

第十六條 牧野組合ノ定款ノ變更ハ總會ニ於テ總組合員半數以上出席シ出席者ノ議決權ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ決

ス

定款ノ變更ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

定款ノ變更ガ地區ノ增減ニ關スルトキハ第一項ノ規定ニ依ル決議ノ外新ニ編入セラレ又ハ削除セラルベキ地區タル牧野ニ付組合員タル資格ヲ有スル者又ハ組合員ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第十七條 牧野組合ノ組合員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ總會ニ於テ書面又ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席者ト看做ス但シ組合員ニ非ザレバ代理人タルコトヲ得ズ

第十八條 牧野組合ノ總會ノ決議ニ依ル解散ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十九條 行政官廳ハ牧野組合ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ、書類帳簿、業務ノ執行又ハ財産ノ狀況ヲ檢査シ、定款又ハ經費ノ分擔方法ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十條 牧野組合ノ總會ノ招集ノ手續又ハ決議ノ方法ガ法令又ハ定款ノ規定ニ違反スルトキハ組合員ハ決議ノ日ヨリ一月以內ニ其ノ決議ノ無效ノ宣告ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

組合員ハ總會ニ於テ決議ニ對シ異議ヲ述ベタルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ總會ニ出席スルコトヲ拒マレタルトキニ限リ又組合員ガ總會ニ出席セザル場合ニ於テハ自己ニ對スル總會ノ招集ノ手續ガ法令又ハ定款ノ規定ニ違反スルコトヲ理由トスルトキニ限リ前項ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

商法第八十八條、第百五條第三項、第百九條及第二百五十條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條 牧野組合ノ行爲又ハ總會ノ決議ガ法令又ハ定款ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スルノ虞アルトキハ行政官廳ハ其ノ決議ヲ取消シ、理事、監事若ハ清算人ヲ解任シ、組合ノ業務ヲ停止シ又ハ組合ノ解散ヲ命ズルコトヲ得

第二十一條ノ二 牧野組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ定款ヲ以テ總會ニ代ルベキ總代會ヲ設クルコトヲ得

總會ニ關スル規定ハ前項ノ總代會ニ之ヲ準用ス但シ總代會ニ於テハ地區ノ增減又ハ事業ノ變更ニ關スル定款ノ變更及組合ノ解散ノ決議ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十二條 民法第四十四條、第四十五條、第四十六條第二項、第四十七條、第四十八條、第五十條乃至第六十四條、第六十五條第一項第三項、第六十六條、第六十八條乃至第七十條、第七十二條乃至第七十五條、第七十七條乃至第八十一條及第八十三條竝ニ非訟事件手續法第三十五條第一項、第百十七條、第百十九條乃至第百二十二條、第百三十六條第一項、第百三十七條、第百三十八條、第百四十二條乃至第百五十七條、第百七十五條、第百七十六條及第百九十五條ノ二ノ規定ハ牧野組合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 牧野組合ガ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登錄稅ヲ課セズ

第二十四條 牧野組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款違反者ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第二十五條 第十五條ノ規定ハ牧野ヲ設置スル畜産組合、畜産組合聯合會及主務大臣ノ指定スル團體ニ之ヲ準用ス

第二十五條ノ二 行政官廳必要アリト認ムルトキハ牧野組合又ハ命令ヲ以テ定ムル者ニ對シ牧野技術者ノ雇入ヲ命ズルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ豫算ノ範圍內ニ於テ其ノ費用ヲ補助ス

第二十五條ノ三 行政官廳ハ牧野ノ所有者其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ對シ牧野ニ關スル事項ノ報告ヲ爲サシメ又ハ之ニ關スル書類帳簿其ノ他ノ物件ニ付必要ナル檢査ヲ爲スコトヲ得

第二十五條ノ四 行政官廳特ニ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ馬ノ所有者其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ對シ其ノ馬ニ付行政官廳ノ指定スル牧野ニ於ケル放牧又ハ放牧ノ委託ヲ爲スコトヲ命ズルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ牧野ノ所有者其ノ他之ニ付使用收益ヲ爲ス權利ヲ有スル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ依ル放牧又ハ放牧ノ委託ニ關スル條件ニ付テハ放牧又ハ放牧ノ委託ヲ命ゼラレタル者ト牧野ノ所有者其ノ他之ニ付使用收益ヲ爲ス權利ヲ有スル者トノ協議ニ依ル

前項ノ協議調ハザルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ行政官廳其ノ條件ヲ指定ス

第二十五條ノ五 政府ハ馬ノ生産確保又ハ資質ノ向上ヲ圖ル爲特ニ必要アル場合ニ於テハ受託放牧ヲ爲ス爲牧野ノ經營ヲ爲スコトヲ得

行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ馬ノ所有者其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ對シ其ノ馬ニ付前項ノ牧野ニ於ケル放牧ノ委託ヲ爲スコトヲ命ズルコトヲ得

第二十五條ノ六 第一條ノ二、第一條ノ三、第一條ノ八、第二條ノ二第一項又ハ第二十五條ノ四第三項ノ規定ニ依リ行政官廳ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得

第二十五條ノ七 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第一條ノ八ノ規定ニ違反シタル者

二 第一條ノ九第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

三 第二十五條ノ四第一項又ハ第二十五條ノ五第二項ノ規定ニ依ル放牧又ハ放牧ノ委託ノ命令ニ違反シタル者

第二十五條ノ八 法人又ハ人ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十五條ノ九 第二十五條ノ七ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十六條 左ノ場合ニ於テハ牧野組合ノ理事、監事又ハ清算人ヲ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケテ爲スベキ事項ヲ之ヲ受ケズシテ爲シタルトキ

二 本法ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

三 行政官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

四 本法ニ依リ行政官廳ノ徵スル報告ヲ差出サズ又ハ其ノ

檢査ヲ拒ミ其ノ他行政官廳ノ命令若ハ處分ニ從ハザルトキ

五　本法ニ依ル總會ノ招集ヲ怠リタルトキ

六　組合ノ目的ニ非ザル事業ヲ爲シタルトキ

七　本法ニ依リ事務所ニ備ヘ置クベキ書類ヲ備ヘズ、其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲シ又ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閲覽ヲ拒ミタルトキ

八　本法ニ違反シテ破産ノ宣告ヲ請求セザルトキ

九　本法ニ依ル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

十　清算ノ場合ニ於テ本法ニ違反シテ辨濟ヲ爲シ又ハ組合財産ノ分配ヲ爲シタルトキ

第二十七條　牧野ヲ設置スル畜産組合若ハ畜産組合聯合會ノ役員又ハ牧野ヲ設置スル主務大臣ノ指定スル團體ノ代表者第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル第十五條ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケザルトキハ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十八條　第二十五條ノ三ニ掲グル者同條ノ規定ニ依リ行政官廳ノ徴スル報告ヲ差出サズ又ハ其ノ檢査ヲ拒ミタルトキハ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十九條　本法ニ於テ町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ町村ニ準ズベキモノトス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和六年勅令第二百六十四號ヲ以テ同年十一月一日ヨリ施行）

本法施行ノ日ヨリ六月以内ニ於テ第二十五條ニ掲グル者ノ行フ改良事業ニ付テハ同條ノ規定ニ依リ準用スル第十五條ノ規定ヲ適用セズ

附　則（昭和十五年法律第九十四號附則）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十五年勅令第五百十七號ヲ以テ同年八月十日ヨリ施行）

○鑛業法（明治三十八年三月八日法律第四十五號）

改正　明治四〇年第四一號、明治四三年第一〇號、明治四四年第九號、大正一三年第二二號、昭和二年第三六號、昭和六年第六五號、昭和九年第三七號、昭和一〇年第二四號、昭和一四年第二三號、昭和一五年第三一號、昭和一五年第一〇二號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル鑛業法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

鑛業法

第一章　總則

第一條　本法ニ於テ鑛業ト稱スルハ鑛物ノ試掘、採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第二條　本法ニ於テ鑛物ト稱スルハ金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、蒼鉛鑛、錫鑛、安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、硫化鐵鑛、格魯謨鐵鑛、滿俺鑛、重石鑛、水鉛鑛、砒鑛、ニッケル鑛、コバルト鑛、燐鑛、黑鉛、石炭、亞炭、石油、土瀝青、硫黄、石膏、重晶石、明礬石、螢石及石綿ヲ謂フ但シ砂鑛ハ此ノ限ニ在ラス

炭化水素ヲ主成分トスル天然瓦斯ハ之ヲ石油ト看做ス但シ工業用其ノ他ノ營利ヲ目的トセスシテ單ニ一家ノ自用ニ供スルモノニハ本法ヲ適用セス

第三條　未タ掘採セサル鑛物（廢鑛及鑛滓ヲ含ム）ハ國ノ所有トス

第四條　本法ニ於テ鑛業權ト稱スルハ試掘權及採掘權ヲ謂フ

鑛業權者ハ鑛區ニ於テ其ノ許可ヲ受ケタル鑛物ヲ掘採シ及之ヲ取得スル權利ヲ有ス但シ鑛區ノ重複シタル場合ニ於テハ鑛業權者ハ互ニ其ノ權利ヲ制限セラル

第五條　帝國臣民又ハ帝國法律ニ從ヒ成立シタル法人ニ非サレハ鑛業權者トナルコトヲ得ス

第六條　本法ニ規定シタル鑛業權者ノ權利義務ハ鑛業權ト共ニ移轉ス

本法ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ鑛業ヲ出願セムトスル者、鑛業出願人、鑛業權者、土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第七條　二人以上共同シテ鑛業ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サムトスルトキハ内一人ヲ選定シテ代表者ト爲シ鑛山監督局長ニ屆出ヘシ代表者ヲ變更シタルトキ亦同シ

鑛山監督局長必要アリト認メタルトキハ共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ニ代表者ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第一項前段ノ規定ニ依ル屆出ヲ爲サス又ハ前項ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサルトキハ鑛山監督局長ハ代表者ヲ指定ス

代表者ハ國ニ對シ共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ヲ代表ス

共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ハ組合契約ヲ爲シタル者ト看做ス

第八條　本法ニ於テ鑛夫ト稱スルハ鑛業ニ從事スル勞働者ヲ謂フ

第九條　本法ニ於テ鑛區ト稱スルハ鑛業權ノ登錄ヲ得タル土地ノ區域ヲ謂フ

鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限トス其ノ面積ハ石炭ニ在リテハ五萬坪以上其ノ他ノ鑛物ニ在リテハ五千坪以上トシ共ニ百萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス但シ鑛利保護上又ハ鑛區分合上已ヲ得サル場合ニハ百萬坪ヲ超ユルコトヲ得

同一ノ鑛區ニ於テハ二以上ノ鑛業權ヲ設定スルコトヲ得ス但シ其ノ目的異種ノ鑛物ナルトキ及第三十六條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十條　宮城、離宮、神宮及皇陵ノ周圍三百間以内ノ場所ハ之ヲ鑛區ト爲スコトヲ得ス

陸海軍所轄ノ軍港、要港、火藥製造所、火藥庫及彈藥庫ノ周圍三百間以内、要塞地帶第一區及第二區内並陸軍輸送港域第一區内ノ場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ鑛區ト爲スコトヲ得ス

前二項ニ掲ケタル場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ鑛業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十一條　鐵道、軌道、道路、運河、河湖、沼池、隄塘、社寺境内地、墓地、公園地其ノ他ノ營造物及建物ノ地表地下トモ其ノ周圍三十間以内ノ場所ニ於テハ所轄官廳ノ許可、所有者及關係人ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ鑛業ヲ爲スコト

ヲ得ス但シ所有者及關係人ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條　鑛業出願地又ハ鑛區ノ訂正、增減及改正ノ出願ニ付テハ鑛業ノ出願ニ關スル規定ヲ準用ス

第十二條ノ二　（削除）

第十三條　本法ニ於テ鑛業稅ト稱スルハ鑛區稅及鑛產稅ヲ謂フ

第十四條　本法ハ第九章ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ適用ス

第十四條ノ二　主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ依ル職權ノ一部ヲ鑛山監督局長ニ委任スルコトヲ得

第二章　鑛業權

第十五條　鑛業權ハ物權トシ不動產ニ關スル規定ヲ準用ス但シ民法第百七十九條第一項ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　鑛業權ハ不可分トス

第十七條　鑛業權ハ相續、讓渡、滯納處分及强制執行ノ目的タルノ外權利ノ目的タルコトヲ得ス但シ採掘權ハ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得

第十八條　試掘權ノ存續期間ハ登錄ノ日ヨリ四箇年トス

前項ノ期間ハ鑛區ノ增減又ハ改正ノ爲變更セラルルコトナシ

第十九條　鑛業權及抵當權ノ設定、變更、移轉、消滅竝處分ノ制限ハ鑛業原簿ニ登錄ス共同鑛業權者ノ脫退ニ付テモ亦同シ但シ鑛業權ノ處分ヲ制限セラレタルトキハ廢業ノ登錄ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ登錄ハ登記ニ代ルモノトス

登錄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條　前條第一項ニ揭ケタル事項ハ相續、死亡ニ因ル共同鑛業權者ノ脫退、期限ノ到來ニ因ル鑛業權ノ消滅竝第四十二條及第四十三條ノ競賣ノ場合ヲ除クノ外登錄ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二十一條　鑛業ヲ爲サムトスル者ハ願書ニ鑛區圖ヲ添ヘ試掘ニ付テハ鑛山監督局長、採掘ニ付テハ主務大臣ニ出願スヘシ

第二十二條　鑛業出願人ハ名義ノ變更ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ試掘ニ付テハ鑛山監督局長、採掘ニ於テハ主務大臣ニ屆出ヲ爲スニ非サレハ其效力ヲ生セス

第二十三條　採掘出願人ハ出願地ニ其ノ採掘セムトスル鑛物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ

第二十四條　主務大臣ニ於テ試掘出願地採掘ニ適スルモノト認メタルトキハ採掘ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ三十日以內ニ採掘ノ出願ヲ爲ササルトキハ試掘ノ出願ハ之ヲ許可セス

前二項ノ規定ハ主務大臣ニ於テ採掘出願地試掘ヲ要スルモノト認メタル場合（第二十九條ノ二ノ場合ヲ除ク）ニ之ヲ準用ス

第二十五條　採掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ主務大臣ハ其ノ訂正ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ三十日以內ニ訂正ノ出願ヲ爲ササルトキハ採掘ノ出願ハ之ヲ許可セス

第二十六條　採掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ採掘出願人ハ其ノ訂正ノ出願ヲ爲スコトヲ得

第二十七條　鑛業出願人ハ出願地ノ增減ヲ出願スルコトヲ得

第二十八條　試掘出願地出願ノ當時鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス

第二十九條　採掘出願地出願ノ當時他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス但シ第三十六條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條ノ二　採掘出願地出願ノ當時其ノ出願人ノ同種ノ鑛物ノ試掘鑛區ト重複スル場合ニ於テ其ノ重複スル部分仍試掘ヲ要スルモノト認メタルトキハ其ノ部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス

第二十九條ノ三　試掘權其ノ存續期間滿了前消滅シ又ハ試掘鑛區ノ減少アリタル場合ニ於テ其ノ試掘權ノ殘存スヘカリシ期間又ハ殘存スル期間內（其ノ期間六十日ヲ超ユルトキハ試掘權ノ消滅又ハ試掘鑛區ノ減少ノ日ヨリ六十日以內）ニ同種ノ鑛物ニ付鑛業ノ出願ヲ爲シタルトキハ舊試掘鑛區又ハ減少部分ニ該當スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス

前項ノ試掘權ノ消滅又ハ試掘鑛區ノ減少ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ公示ス

第三十條　採掘出願地他人ノ試掘出願地ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ第二十四條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十一條　鑛業出願地他人ノ異種ノ鑛物ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ他人ノ鑛業ニ妨害アリト認メタルトキハ其ノ妨害アリト認メタル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス

第三十二條　公益ヲ害スルモノト認メタルトキ又ハ鑛業ノ價値ナシト認メタルトキハ鑛業ノ出願ヲ許可セス

第三十三條　試掘出願地又ハ採掘出願地重複スルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ願書發送ノ日時ノ先ナル者優先權ヲ有ス願書發送ノ日時同一ナルトキハ鑛山監督局長ハ之ヲ各出願人ニ通知スヘシ此ノ場合ニ於テハ出願人ハ其ノ通知書發送ノ日ヨリ六十日以內ニ協議ヲ調ヘ之ヲ屆出ヘシ出願人前項ノ屆出ヲ爲ササルトキハ抽籤ニ依リ優先權者ヲ定ム

前二項ノ規定ハ第二十五條、第二十六條及第三十六條ノ場合ニハ之ヲ適用セス

試掘出願地採掘出願地ト重複スル場合ニ於テ願書發送ノ日時同一ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ採掘出願人ハ優先權ヲ有ス

第三十三條ノ二　（削除）

第三十四條　試掘出願人同種ノ鑛物ニ付更ニ採掘ノ出願ヲ爲シタル場合ニ於テ出願地重複スルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ採掘ノ出願ハ試掘願書發送ノ日時ニ於テ試掘ノ出願ニ代リタルモノト看做ス但シ第三十三條第四項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項本文ノ規定ハ採掘出願人同種ノ鑛物ニ付更ニ試掘ノ出願ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス但シ試掘權者其ノ鑛區ニ付採掘ノ出願ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ試掘權消滅後更ニ試

掘ノ出願ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前二項ノ規定ハ第二十四條及第二十五條ノ場合ニ於ケル期限經過後ノ出願ニ之ヲ適用セス

第三十五條　採掘權者ハ鑛區ノ合併又ハ分割ヲ主務大臣ニ出願スルコトヲ得鑛區ノ一部ヲ分割シテ之ヲ他ノ鑛區ニ合併セムトスルトキ亦同シ

抵當權ノ設定アル場合ニ於テ前項ノ出願ヲ爲サムトスルトキハ抵當權者ノ承諾及抵當權ノ順位ニ關スル協定ヲ經ヘシ

第三十六條　鑛業權者ハ鄰接鑛區ノ鑛業權者及抵當權者ノ承諾ヲ得タルトキハ其ノ鑛區ニ掘進スル爲增區ヲ出願スルコトヲ得

鑛床ノ位置形狀ニ依リ鄰接鑛區ニ掘進スルニ非サレハ鑛利ヲ保護スル能ハサル場合ニ於テハ其ノ鑛業權者ノ承諾ヲ得テ鑛區ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ鑛業權者ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

前二項ノ出願ヲ爲サムトスル者ハ其ノ願書ニ鑛區圖ノ外鑛床圖ヲ添附スヘシ

前項ノ鑛床圖ハ之ヲ鑛區圖ノ一部ト看做ス

第三十七條　第二十四條第一項、第二十五條第一項、第二十六條、第二十七條及第三十三條第三項ノ規定ハ之ヲ鑛區ニ準用ス

第二十四條第一項又ハ第二十五條第一項ニ該當スル場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ三十日以內ニ出願ヲ爲ササルトキハ主務大臣ハ鑛業權ヲ取消スヘシ

抵當權ノ設定アル場合ニ於テ鑛區ノ減少ヲ出願セムトスルトキハ豫メ抵當權者ノ承諾ヲ經ヘシ

第三十八條　錯誤ニ因リ鑛業ノ出願ヲ許可シタルトキハ主務大臣ハ鑛區ノ改正ヲ命シ又ハ鑛業權ヲ取消スヘシ

前項ノ改正ヲ命シタル場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ三十日以內ニ出願ヲ爲ササルトキハ主務大臣ハ鑛業權ヲ取消スヘシ

第三十九條　鑛業公益ヲ害スルモノト認メタルトキハ主務大臣ハ鑛業權ヲ取消スヘシ

第四十條　鑛業權者正當ノ理由ナクシテ登錄ノ日ヨリ一箇年以內ニ事業ニ著手セス若ハ一箇年以上休業シタルトキ又ハ施業案ニ依ラスシテ採掘ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ鑛業權ヲ取消スコトヲ得

第四十一條　鑛業權者第四十三條ノ三、第七十二條若ハ第七十四條ノ四第三項ノ命令ニ從ハサルトキ又ハ鑛區稅ヲ納メサルトキハ主務大臣ハ鑛業權ヲ取消スコトヲ得

第四十二條　採掘權取消ノ登錄アリタルトキハ鑛山監督局長ハ直ニ之ヲ抵當權者ニ通知スヘシ

抵當權者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ採掘權ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得但シ第三十八條第一項及第三十九條ノ規定ニ依ル採掘權取消ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

採掘權ハ前項ノ期間內又ハ競賣ノ手續完結ノ日迄競賣ノ目的ノ範圍內ニ於テ仍存續スルモノト看做ス

競賣ニ依ル賣得金ハ競賣ノ費用及抵當權者ニ對スル債務ノ辨濟ニ充テ其ノ殘金ハ國庫ニ歸屬ス

競買人ハ採掘權取消ノ登錄アリタル時ニ於テ採掘權ヲ讓受ケタルモノト看做ス

第四十三條　前條ノ規定ハ採掘權者廢業シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條ノ二　異種ノ鑛物ノ鑛區重複スルトキハ其ノ重複スル部分ニ付鑛業權ノ設定又ハ增區ニ因ル變更ノ登錄ヲ得タル日ノ後ナル者ハ其ノ先ナル者ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ其ノ部分ニ於テ鑛業ヲ爲スコトヲ得ス但シ鑛業權ノ設定又ハ增區ニ因ル變更ノ登錄ヲ得タル日ノ先ナル者ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

異種ノ鑛物ノ鑛區重複スル場合ニ於テ其ノ重複スル部分ニ付鑛業權ノ設定又ハ增區ニ因ル變更ノ登錄ヲ得タル日同日ナルトキハ鑛業權者ハ其ノ部分ニ於ケル鑛業ニ付協議ヲ爲スヘシ

試掘權者試掘權存續期間中同種ノ鑛物ニ付採掘ノ出願ヲ爲シ其ノ許可ヲ得タルトキハ前二項ノ規定ノ適用ニ付テハ採掘鑛區ノ中舊試掘鑛區ニ該當スル部分ニ限リ試掘權ノ設定又ハ增區ニ因ル變更ノ登錄ノ日ヲ以テ夫々ノ部分ニ付採掘權ノ設定又ハ增區ニ因ル變更ノ登錄ノ日ト看做ス

鑛區ノ合併又ハ分割アリタルトキハ第一項及第二項ノ規定ノ適用ニ付テハ合併又ハ分割ニ因リ消滅シタル採掘權ノ設定又ハ增區ニ因ル變更ノ登錄ノ日ヲ以テ夫々ノ部分ニ付合併又ハ分割ニ因ル採掘權設定ノ登錄ノ日ト看做ス

第四十三條ノ三　鑛區他人ノ異種ノ鑛物ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ其ノ重複スル部分ニ於ケル鑛業他人ノ鑛業ニ妨害アリト認メタルトキハ主務大臣ハ鑛業權者ニ其ノ妨害ノ排除又ハ鑛業ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第四十四條　採掘權者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ施業案ヲ定メ鑛山監督局長ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

採掘權者ハ施業案ニ依ルニ非サレハ採掘ヲ爲スコトヲ得ス

第四十五條　鑛山監督局長ハ理由ヲ示シテ施業案ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第四十六條　採掘權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ坑內實測圖及鑛業簿ヲ鑛業事務所ニ備置キ且其ノ複本ヲ鑛山監督局長ニ差出スヘシ

第四十七條　鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛業ニ關スル明細表ヲ鑛山監督局長ニ差出スヘシ

第四十八條　試掘ニ依リテ得タル鑛產物ハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第四十九條　鄰接鑛業權者其ノ他ノ利害關係人ハ他人ノ鑛區ニ付鑛山監督局長ニ其實地調査ヲ出願スルコトヲ得

出願人ハ前項ノ調査ニ要スル人夫及物品ヲ供スヘシ

第三章　土地使用

第五十條　本章ニ於テ關係人ト稱スルハ第五十二條乃至第五十四條及第五十六條ノ通知前使用又ハ收用スヘキ土地ニ關シテ權利ヲ有スル者及其ノ通知後ニ於テ通知前ヨリ既存セル權利ヲ承繼シタル者ヲ謂フ

第五十一條　本章ニ於テ補償金ト稱スルハ對價、使用料其ノ他土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ニ對スル補償金ヲ總稱ス

第五十二條　鑛業ノ出願又ハ鑛業ノ爲必要アルトキハ鑛業ヲ出願セムトスル者、鑛業出願人又ハ鑛業權者ハ鑛山監督局長ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入リ測量又ハ檢査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ許可ヲ得タル者他人ノ土地ニ立入ラムトスルトキハ豫メ土地占有者ニ通知スヘシ

第五十三條　前條ノ規定ニ依ル測量又ハ檢査ノ爲必要アルトキハ鑛山監督局長ノ許可ヲ得テ障碍物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ許可ヲ得タル者障碍物ヲ除却セムトスルトキハ豫メ其ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ

第五十四條　鑛業上急迫ノ危險ヲ防ク爲必要アルトキハ鑛業權者ハ鑛山監督局長ノ許可ヲ得テ直ニ他人ノ土地ニ立入リ又ハ之ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ鑛業權者ハ遲滯ナク之ヲ土地占有者ニ通知スヘシ

第五十五條　前三條ニ依リ所有者及關係人ノ受ケタル損失ニ對シテハ其請求ニ因リ補償金ヲ拂渡スヘシ

第五十六條　鑛業權者ハ左ニ掲クル目的ノ爲必要アルトキハ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得

一　錐鑽孔又ハ坑口ノ開穿

二　鑛物、土石、爆發藥、用材、薪炭、鑛滓又ハ灰燼ノ置場ノ設置

三　選鑛場又ハ製錬場ノ建設

四　鐵道、軌道、道路、運河、溝渠、管樋、池井、索道又ハ電線ノ開設

五　其ノ他鑛業上必要ナル工事又ハ工作物ノ施設

前項ノ規定ニ依リ鑛業權者他人ノ土地ヲ使用セムトスルトキハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受クヘシ

鑛山監督局長前項ノ許可ヲ與ヘタルトキハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ノ後鑛業權者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關係人ニ協議ヲ爲スヘシ

第五十七條　土地ノ使用三箇年以上ニ亙ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十八條　土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用ヰタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十九條　土地ヲ使用又ハ收用スルトキハ土地所有者及關係人ニ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十條　土地ノ一部ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十一條　土地ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ通路、溝渠、堵堰其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、增築又ハ修繕ヲ爲スノ必要ヲ生スルトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十二條　第五十六條ノ通知ノ後土地ノ形質ヲ變更シ工作物ノ新築、改築、增築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加增置セムトスルトキハ土地所有者又ハ關係人ハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受クヘシ許可ヲ受ケスシテ之ヲ爲シタル者ハ之ニ關スル補償金ヲ請求スルコトヲ得ス

第六十三條　第五十六條ノ通知ノ後事業ヲ廢止又ハ變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ニ對シ鑛業權者ハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十四條　土地所有者及關係人ハ鑛業權者ヲシテ補償金ニ付相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

第六十五條　土地ノ使用又ハ收用ノ協議調ヒ裁決確定シ又ハ判決アリタルトキハ補償金又ハ擔保ノ裁決確定セサルトキト雖鑛業權者ハ其ノ裁決ニ依ル補償金ヲ供託シ又ハ擔保ヲ供シテ土地ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得

第六十六條　鑛業權者補償金ノ拂渡若ハ供託ヲ爲サス又ハ擔保ヲ供セサルトキハ土地所有者及關係人ハ土地ヲ用ウルコトヲ拒ムコトヲ得

第六十七條　土地ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ鑛業權者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

土地ヲ使用スルトキハ其ノ權利ハ使用ノ時期ニ於テ鑛業權者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セラル但シ使用ヲ妨ケサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十八條　土地ノ使用ヲ終リタルトキハ鑛業權者ハ土地ヲ原狀ニ復シ又ハ原狀ニ復セサルニ因リテ生スル損失ニ對シ補償金ヲ拂渡シテ之ヲ返還スヘシ

第六十九條　先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ使用又ハ收用ニ因リテ償務者ノ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第七十條　土地ノ使用及收用ニ關スル規定ハ水ノ使用ニ關スル權利ニ之ヲ準用ス

第四章　鑛業警察

第七十一條　鑛業ニ關スル左ノ警察事務ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣及鑛山監督局長之ヲ行フ

一　建設物及工作物ノ保安

二　生命及衛生ノ保護

三　危害ノ豫防其ノ他公益ノ保護

第七十二條　鑛業上危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキハ主務大臣ハ鑛業權者ニ其ノ豫防又ハ鑛業ノ停止ヲ命スヘシ

急迫ノ危險ヲ防ク爲必要アルトキハ鑛山監督局長ハ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第七十三條　主務大臣ハ採掘權者ニ技術ニ關スル管理者ノ選任又ハ改任ヲ命スルコトヲ得

管理者ノ資格及職務ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十四條　鑛業權消滅シタル後ト雖五箇年間ハ主務大臣及鑛山監督局長ハ第七十二條ノ規定ニ準シ其ノ鑛業權ヲ有セシ者ニ對シテ危害豫防ニ關スル設備ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ命令ヲ受ケタル者ハ危害豫防ノ目的ノ範圍內ニ於テ鑛業權者ト看做ス

第五章　鑛害ノ賠償

第七十四條ノ二　鑛物掘採ノ爲ノ土地ノ掘鑿、坑水廢水ノ放流、捨石鑛滓ノ堆積又ハ鑛煙ノ排出ニ因リテ他人ニ損害ヲ與ヘタルトキハ損害發生ノ時ニ於ケル當該鑛區ノ鑛業權者、損害發生ノ時鑛業權消滅セル場合ニ於テハ鑛業權消滅ノ時ニ於ケル當該鑛區ノ鑛業權者其ノ損害ヲ賠償スル責ニ任ス

前項ノ場合ニ於テ損害カ二以上ノ鑛區ノ鑛業權者ノ作業ニ因リテ生シタルトキハ各鑛業權者ハ連帶シテ損害ヲ賠償スル義務ヲ負フ損害カ二以上ノ鑛區ノ鑛業權者ノ作業ノ中孰レニ因リテ生シタルカヲ知ルコト能ハサルトキ亦同シ

前二項ノ場合ニ於テ損害發生ノ後鑛業權者其ノ鑛業權ヲ讓

渡シタルトキハ損害發生ノ時ノ鑛業權者及其ノ後ノ鑛業權者ハ連帶シテ損害ヲ賠償スル義務ヲ負フ

前三項ノ賠償ニ付テハ共同鑛業權者ノ義務ハ連帶トス

第七十四條ノ三　前條第二項ノ連帶債務者相互ノ間ニ於テハ其ノ各自ノ負擔部分ハ相均シキモノト推定ス

前條第三項ノ場合ニ於テ鑛業權ヲ讓受ケタル者賠償ノ義務ヲ履行シタルトキハ損害發生ノ時ノ鑛業權者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第七十四條ノ四　石炭ヲ目的トスル鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ石炭掘採ノ爲ノ土地ノ掘鑿ニ因リテ生ズヘキ損害ノ賠償ヲ擔保スル爲其ノ掘採シタル石炭ノ數量ニ應シ毎年一定額ノ金錢ヲ供託スヘシ但シ金錢ニ代ヘ其ノ金額ニ相當スル國債ヲ供託スルコトヲ妨ケス

前項ノ規定ハ國ノ鑛業ニ之ヲ適用セス

石炭ヲ目的トスル鑛業權者第一項ノ供託ヲ怠リタルトキハ主務大臣ハ鑛業ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第七十四條ノ五　石炭掘採ノ爲ノ土地ノ掘鑿ニ因リテ損害ヲ被リタル者ハ其ノ損害賠償請求權ニ關シ前條第一項ノ供託物ニ付他ノ債權者ニ先チ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

前項ノ權利ノ實行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十四條ノ六　石炭ヲ目的トスル鑛業權者其ノ鑛業權ヲ讓渡シタルトキハ第七十四條ノ四第一項ノ供託物ニ對スル權利ハ讓受人ニ移轉ス

第七十四條ノ七　石炭ヲ目的トスル鑛業權者又ハ鑛業權者タリシ者ハ左ノ場合ニ限リ命令ノ定ムル所ニ依リ第七十四條ノ四第一項ノ供託物ヲ取戻スコトヲ得

一　石炭掘採ノ爲ノ土地ノ掘鑿ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償シタルトキ

二　鑛業權消滅後十箇年ヲ經ルモ石炭掘採ノ爲ノ土地ノ掘鑿ニ因ル損害ノ生セサルトキ

第七十四條ノ八　損害ノ賠償ハ金錢ヲ以テ之ヲ爲ス但シ賠償金額ニ比シ著シク多額ノ費用ヲ要セスシテ原狀ノ回復ヲ爲スコトヲ得ルトキハ被害者ハ原狀ノ回復ヲ請求スルコトヲ得

賠償義務者ノ申立アリタル場合ニ於テ裁判所適當ト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス金錢ノ賠償ニ代ヘ原狀ノ回復ヲ命スルコトヲ得

第七十四條ノ九　損害ノ發生ニ關シ被害者ニ責ムヘキ事由アリタルトキハ裁判所ハ損害賠償ノ責任及範圍ヲ定ムルニ付之ヲ斟酌スルコトヲ得損害ノ發生ニ關シ天災其ノ他ノ不可抗力ノ競合シタルトキ亦同シ

第七十四條ノ十　損害賠償ノ額カ豫定セラレタル場合ニ於テ其ノ額カ著シク不當ナルトキハ當事者ハ之カ增減ヲ請求スルコトヲ得

第七十四條ノ十一　損害賠償請求權ハ被害者カ損害及賠償義務者ヲ知リタル時ヨリ三箇年間之ヲ行ハサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス損害發生ノ時ヨリ二十箇年ヲ經過シタルトキ亦同シ

前項ノ期間ハ進行中ノ損害ニ付テハ其ノ進行ノ止ミタル時ヨリ之ヲ起算ス

第七十四條ノ十二　鑛害ノ賠償ニ關シ爭議ノ生シタルトキハ

當事者ハ損害ノ發生地ヲ管轄スル地方裁判所又ハ當事者ノ合意ニ依リテ定ムル地方裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

小作調停法第二條、第六條、第十條、第十二條乃至第十五條、第二十一條、第二十二條、第二十四條乃至第二十八條、第三十九條第一項、第三十條乃至第三十五條、第三十七條乃至第四十條及第四十八條、借地借家調停法第四條ノ二、第十條、第十八條及第二十九條乃至第三十一條、金錢債務臨時調停法第六條第一項第四項、商事調停法第一條第二項第三項、第四條及第五條並人事調停法第六條及第十條ノ規定ハ前項ノ調停ニ之ヲ準用ス

第七十四條ノ十三　調停委員ハ特別ノ知識經驗ヲ有シ公正ナル調停ヲ爲スニ適スル者ニ就キ毎年豫メ地方裁判所長ノ選任シタル者又ハ當事者ノ合意ニ依リ選定セラレタル者ノ中ヨリ各事件ニ付調停主任之ヲ指定ス

第七十四條ノ十四　裁判所又ハ調停委員會必要アリト認ムルトキハ關係官廳其ノ他適當ト認ムル者ニ對シ意見ヲ求メ又ハ調査ヲ囑託スルコトヲ得

關係官廳ハ裁判所又ハ調停委員會ニ對シ意見ヲ述フルコトヲ得

第七十四條ノ十五　本章ノ規定ハ鑛業ニ從事スル者ノ業務上ノ負傷、疾病及死亡ニ關シテハ之ヲ適用セス

第六章　鑛夫

第七十五條　採掘權者ハ鑛夫ノ雇傭及就業ニ關スル規則ヲ定メ鑛山監督局長ノ許可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第七十六條　鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛夫名簿ヲ鑛業事務所ニ備置クヘシ

第七十七條　鑛業權者鑛夫ヲ解雇シタル場合ニ於テハ其ノ請求ニ因リ雇傭ノ期間、業務ノ種類、技能、賃金及解雇ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ與フヘシ

第七十八條　鑛業權者ハ毎月一回以上期日ヲ定メ通貨ヲ以テ鑛夫ニ其ノ賃金ヲ支拂フヘシ

第七十九條　主務大臣ハ命令ヲ以テ鑛夫ノ年齡及就業時間並婦女、幼者ノ勞働ノ種類ヲ制限スルコトヲ得

第八十條　鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ鑛夫カ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ本人又ハ其ノ遺族若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助スヘシ

第八十條ノ二　鑛業權者前條ノ規定ニ基キ扶助ヲ爲シタルトキハ鑛業權者ハ其ノ扶助ノ價額ノ限度ニ於テ民法ニ依ル損害賠償ノ責ヲ免ル

鑛業權者及鑛夫ノ出捐スル共濟組合命令ノ定ムル所ニ依リ鑛業權者ヲシテ扶助ヲ爲スヲ要セザラシムル給付ヲ爲シタルトキハ鑛業權者ハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ民法ニ依ル損害賠償ノ責ヲ免ル

第八十條ノ三　第八十條ノ規定ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ハ二年間之ヲ行ハザルトキハ時效ニ因リ消滅ス

第八十條ノ四　第八十條ノ規定ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

第七章　鑛業稅（削除）

第八十一條（削除）

第八十二條　（削除）
第八十三條　（削除）
第八十四條　（削除）
第八十五條　（削除）
第八十六條　（削除）
第八十七條　（削除）
第八十八條　（削除）

第八章　訴願、訴訟及裁決

第八十九條　鑛業ニ關スル出願ノ許可又ハ拒否ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十條　第十一條、第三十六條又ハ第四十三條ノ二第一項ノ承諾ヲ拒マレタル者及其ノ承諾ヲ得ルコト能ハサル者ハ鑛山監督局長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十一條　鑛業權ノ取消ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十二條　土地ノ使用若ハ收用、補償金又ハ擔保ニ付協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ鑛業權者ハ鑛山監督局長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決中土地ノ使用又ハ收用ニ付不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第一項ノ裁決中補償金又ハ擔保ニ付不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項及第二項ノ規定ハ第四十三條ノ二第二項ノ協議調ハス又ハ協議ヲ爲スコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

第九十三條　處分又ハ裁決ノ通告書ヲ受ケタル日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

前項ノ期間ハ處分又ハ裁決ノ通告書ヲ受ケサル者ニ付テハ其ノ公示ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第九章　罰則

第九十四條　鑛業權ヲ有セスシテ鑛物ヲ掘採シタル者又ハ詐僞ノ行爲ヲ以テ鑛業權ヲ得タル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

過失ニ因リ鑛區外ニ侵掘シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十五條　前條ノ場合ニ於テハ其ノ掘採シタル鑛物ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第九十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十條第三項、第十一條本文、第四十三條ノ二第一項本文又ハ第四十四條ノ規定ニ違反シタル者

二　第四十三條ノ三、第四十五條、第七十二條、第七十三條第一項又ハ第七十四條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

三　第七十一條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタル者

四　第七十三條第二項ノ規定ニ基キテ管理者ノ職務ニ關シ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタル者

第九十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第四十六條乃至第四十八條ノ規定ニ違反シタル者

二　第七十四條ノ四第三項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

三　第七十五條乃至第七十八條ノ規定ニ違反シタル者

四　第七十九條又ハ第八十條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者

第九十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十二條ノ二ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虚僞ノ報告ヲ爲シタル者

二　第十二條ノ二ノ規定ニ依ル檢査ヲ拒ミ、妨ケ又ハ忌避シタル者

三　第五十三條第一項ノ許可ヲ受ケスシテ障碍物ヲ除却シタル者

第九十九條　（削除）

第百條　（削除）

第百一條　（削除）

第百二條　（削除）

第百三條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ罰則ハ其ノ者カ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百四條　法人又ハ人ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

本法ニ基キテ發スル命令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ命令ニ規定セル罰則ニ付テモ亦同シ

第百五條　前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第百六條　（削除）

附則

第百七條　本法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

鑛業條例ハ之ヲ廢止ス

第百八條　鑛業條例ニ依ル試掘ノ認可ハ試掘權ノ登錄ト看做ス

第百九條　日本坑法ニ依ル借區ノ許可及鑛業條例ニ依ル採掘ノ特許ハ採掘權ノ登錄ト看做ス但シ鑛業條例第四十一條第二項ニ定メタル面積ニ滿タサル鑛區ニ對スルモノハ其ノ期限ノ到來ニ因リテ消滅ス

第百十條　本法施行前ニ於ケル官廳所屬ノ採掘區域ハ採掘鑛區トシ本法施行ノ日ニ於テ採掘權ノ登錄ヲ得タルモノト看做ス

第百十一條　鑛業條例ニ依ル採掘權ノ書入ノ登錄ハ抵當權ノ登錄ト看做ス

第百十二條　第七十四條ノ規定ハ本法施行前ニ試掘認可又ハ採掘特許ノ消滅シタル場合ニモ之ヲ適用ス但シ一箇年ノ期

間ハ其ノ消滅ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第百十三條　日本坑法ニ依リ借區ノ許可ヲ得タル者及鑛業條例ニ依リ試掘ノ認可又ハ採掘ノ特許ヲ得タル者ハ本法施行ノ日ヨリ六十日以內ニ明治三十八年分ノ鑛區稅又ハ其ノ不足額ヲ納付スヘシ其ノ鑛區稅ハ月割ヲ以テ計算ス

第百十四條　明治三十八年分ノ鑛產稅ハ本法施行前ニ得タル鑛產物ニ付テモ之ヲ課ス

第百十五條　第八十八條ノ規定ハ明治三十八年度分ノ稅ニ限リ之ヲ適用セス

第百十六條　鑛業條例ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第百十七條　本法施行前ニ爲シタル處分ニ對スル訴願、裁定請求、行政訴訟又ハ民事訴訟ニ關シテハ鑛業條例ノ規定ニ依ル

第百十八條　鑛業條例ニ依リ試掘又ハ採掘ヲ出願シタル鑛區ノ面積ニ付テハ鑛業條例第四十一條第二項ノ規定ヲ適用ス

第百十九條　明治三十七年十二月三十一日以前ヨリ引續キ重石鑛又ハ水鉛鑛ヲ掘採スル者ニシテ明治三十八年七月三十一日迄ニ其ノ鑛物採掘ノ特許ヲ出願スルトキハ其ノ掘採區域ニ限リ第三十一條、第三十三條及鑛區ノ面積ニ關スル第九條ノ規定ニ拘ラス特許ヲ與フヘシ

前項ノ掘採者ニシテ明治三十八年七月三十一日迄ニ其ノ特許ヲ出願シタル者ハ其ノ指令ノ日迄本法ノ規定ニ拘ラス其ノ掘採ヲ繼續スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ特許ヲ得タル區域ノ面積五千坪未滿ナル場合ニ於テハ其ノ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス

第百二十條　明治三十九年十二月三十一日以前ヨリ引續キ第二條第二項ノ可燃質天然瓦斯ヲ採掘スル者ハ同條同項但書ニ該當セサル場合ト雖明治四十年六月三十日迄ニ其ノ旨鑛山監督局長ニ屆出ルトキハ其ノ屆出ニ係ル坑井ヨリ噴出スル可燃質天然瓦斯ニ限リ本法ヲ適用セス

附　則（昒和九年法律第三十七號附則）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昒和九年勅令第百九十四號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

本法施行ノ際現ニニッケル鑛、コバルト鑛、石膏又ハ重晶石ヲ掘採スル者又ハ其ノ承繼人ハ本法施行ノ日ヨリ六月間從前ノ例ニ依リ其ノ掘採ヲ繼續スルコトヲ得其ノ期間內ニ當該掘採者又ハ其ノ承繼人ガニッケル鑛、コバルト鑛、石膏又ハ重晶石ヲ採掘スル爲出願ヲ爲シタル場合ニ於テ許可ノ登錄ノ日又ハ不許可ノ指令ノ日迄亦同ジ

前項ニ揭グル者本法施行ノ日ヨリ六月以內ニニッケル鑛、コバルト鑛、石膏又ハ重晶石ヲ掘採スル爲出願ヲ爲シタルトキハ其ノ掘採區域ニ限リ第九條第三項、第二十八條、第二十九條、第三十一條、第三十三條及第三十三條ノ二ノ規定竝ニ第九條第二項ノ鑛區面積ニ關スル規定ニ拘ラズ之ヲ許可ス

本法施行ノ際現ニ契約又ハ慣習ニ依リニッケル鑛、コバルト鑛、石膏又ハ重晶石ヲ掘採スル者ヨリ代償ヲ受クル土地所有者ハ前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者ニ對シ右ノ鑛物ノ掘採ニ付相當ノ補償金ヲ請求スルコトヲ得

砂鑛法第十三條及第十五條ノ規定ハ前項ノ補償金ニ之ヲ準用ス

試掘鑛區第三項ノ規定ニ依ル鑛區ト重複シ且同種ノ鑛物ナル場合ニ於テ其ノ試掘權者試掘權存續期間中同種ノ鑛物ニ付採掘ノ出願ヲ爲シ又ハ第三十三條ノ二第一項ノ規定ニ依ル出願ヲ爲シタルトキハ第九條第三項、第二十八條及第二十九條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ許可ス

砂鑛法第五條ノ規定ハ第三項ノ規定ニ依ル鑛區他人ノ鑛區ト重複シ且同種ノ鑛物ナル場合ニ之ヲ準用ス

附　則（昒和十年法律第二十四號附則）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昒和十一年勅令第四百四十六號ヲ以テ昒和十二年一月一日ヨリ施行）

鑛業法第八十條ノ規定ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ノ時效ニシテ其ノ進行ガ本法施行前ニ始リタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ本法施行ノ日ヨリ起算シテ其ノ殘期ガ二年ヨリ長キトキハ其ノ日ヨリ起算シテ第八十條ノ三ノ規定ヲ適用ス

附　則（昒和十四年法律第二十三號附則）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昒和十四年勅令第八百七十五號ヲ以テ昒和十五年一月一日ヨリ施行）

第五章ノ改正規定ハ第七十四條ノ四乃至第七十四條ノ七ノ規定ヲ除クノ外本法施行前ニ爲シタル作業ニ因リテ本法施行後ニ生ジタル損害ニモ之ヲ適用ス

本法施行前ニ生ジタル損害ニシテ補償金、手當金、見舞金其ノ他何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ被害者ガ其ノ賠償ヲ受ケズ又ハ賠償ヲ受ケタルモ其ノ額ガ著シク少額ナリシモノニ付テハ被害者ハ賠償又ハ其ノ增額ヲ請求スルコトヲ得

第七十四條ノ二第一項、第二項及第四項、第七十四條ノ三第一項、第七十四條ノ八、第七十四條ノ九竝ニ第七十四條ノ十一乃至第七十四條ノ十五ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス但シ第七十四條ノ十一第一項ノ三箇年ノ期間ハ被害者ガ本法施行前ニ損害及賠償義務者ヲ知リタルトキハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

附　則（昒和十五年法律第百二號附則）

第一條　本法施行ノ期日ハ第十條ノ改正規定中要塞地帶ニ關スル部分、同條ノ改正規定中陸軍輸送港域ニ關スル部分及其ノ他ノ規定ニ付各別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昒和十五年勅令第三百九十六號ヲ以テ昒和十五年法律第百二號中第十條ノ改正規定中陸軍輸送港域ニ關スル部分ハ同年六月十日ヨリ施行）（昒和十五年勅令第八百二十五號ヲ以テ昒和十五年法律第百二號中第十條ノ改正規定中要塞地帶ニ關スル部分ハ同年十二月一日ヨリ施行）（昒和十六年勅令第五百八十三號ヲ以テ第十條ノ改正規定ヲ除クノ外同年六月一日ヨリ施行）

第二條　本法（第十條ノ改正規定ヲ除ク以下之ニ同ジ）施行ノ際現ニ炭化水素ヲ主成分トスル天然瓦斯（含油層ト密接ノ關係アル可燃質天然瓦斯ヲ除ク以下之ニ同ジ）ヲ掘採スル者アル場合ニ於テ其ノ採掘區域他人ノ鑛區ト重複シ且其ノ鑛業權ノ目的石油ナルトキハ當該鑛業權者ハ附則第三條及同第六條ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ權利ヲ制限セラル

第三條　本法施行ノ際現ニ明礬石、螢石、石綿又ハ炭化水素ヲ主成分トスル天然瓦斯ヲ掘採スル者又ハ其ノ承繼人ハ本法施行ノ日ヨリ六月間從前ノ例ニ依リ其ノ採掘ヲ繼續スルコトヲ得其ノ期間內ニ當該掘採者又ハ其ノ承繼人明礬石、螢石、石綿又ハ炭化水素ヲ主成分トスル天然瓦斯ヲ掘採スル爲出願ヲ爲シタル場合ニ於テ許可ノ登錄ノ日又ハ不許可ノ指令ノ日迄亦同ジ

第四條　前條ニ揭グル者本法施行ノ日ヨリ六月以內ニ明礬石、螢石、石綿又ハ炭化水素ヲ主成分トスル天然瓦斯ヲ掘採スル爲出願ヲ爲シタルトキハ其ノ掘採區域ニ限リ第九條第三項、第二十八條、第二十九條及第三十三條ノ規定竝ニ第九條第二項ノ鑛區面積ニ關スル規定ニ拘ラズ之ヲ許可ス

第五條　前條ノ規定ニ依ル試掘權ヲ有スル者試掘權存續期間中同種ノ鑛物ニ付採掘ノ出願ヲ爲シタルトキハ其ノ試掘鑛區ト重複スル部分ニ付テハ第九條第三項及第二十九條ノ規定竝ニ第九條第二項ノ鑛區面積ニ關スル規定ニ拘ラズ之ヲ許可ス

第六條　前二項ノ規定ニ依ル石油ヲ目的トスル鑛業權ヲ有スル者ハ其ノ鑛區他人ノ鑛區ト重複シ且其ノ鑛業權ノ目的石油ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ於テハ炭化水素ヲ主成分トスル天然瓦斯ノミヲ掘採シ及之ヲ取得スル權利ヲ有ス

第七條　本法施行ノ際現ニ契約又ハ慣習ニ依リ明礬石、螢石、石綿又ハ炭化水素ヲ主成分トスル天然瓦斯ヲ掘採スル者ヨリ代價ヲ受クル土地所有者ハ附則第四條又ハ同第五條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者ニ對シ右ノ鑛物ノ掘採ニ付相當ノ補償金ヲ請求スルコトヲ得

砂鑛法第十三條及第十五條ノ規定ハ前項ノ補償金ニ之ヲ準用ス

第八條　試掘鑛區附則第四條又ハ同第五條ノ規定ニ依ル鑛區ト重複シ且同種ノ鑛物ナル場合ニ於テ其ノ試掘權者試掘權存續期間中同種ノ鑛物ニ付採掘ノ出願ヲ爲シタルトキハ其ノ試掘鑛區ト重複スル部分ニ付テハ第九條第三項及第二十九條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ許可ス

第九條　砂鑛法第五條ノ規定ハ附則第四條又ハ同第五條ノ規定ニ依ル鑛區他人ノ鑛區ト重複シ且同種ノ鑛物ナル場合ニ之ヲ準用ス

第十條　本法施行ノ際現ニ存スル試掘權ノ存續期間ハ本法施行ノ日ヨリ四年トス但シ主務大臣已ムコトヲ得ザル事由アリト認ムルトキハ石油ヲ目的トスル試掘權ニ付テハ四年以內、石油以外ノ鑛物ヲ目的トスル試掘權ニ付テハ二年以內之ヲ延長スルコトヲ得

第十一條　本法施行前第二十四條第一項、第二十五條第一項(第三十七條第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)又ハ第三十八條第一項ノ規定ニ依ル命令アリタル場合ニ於テハ從前ノ第二十四條第二項、第二十五條第二項、第三十七條第二項又ハ第三十八條第二項ノ規定ヲ適用ス

第十二條　本法施行前ニ爲シタル採掘出願ノ出願地出願ノ當時其ノ出願人ノ同種ノ鑛物ノ試掘鑛區ト重複スル場合ニ於テ其ノ重複スル部分仍試掘ヲ要スルモノト認ムルトキハ第二十九條ノ二ノ規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ル

本法施行前ニ爲シタル鑛業ノ出願ニシテ其ノ出願地他人ノ異種ノ鑛物ノ鑛區ト重複スルモノニ付テハ仍從前ノ第三十一條ノ規定ヲ適用ス

本法施行前從前ノ第三十三條ノ二第一項ノ規定ニ依リ爲シタル鑛業ノ出願ニ付テハ仍同條ノ規定ヲ適用ス

本法施行前十日以內ニ試掘權ノ存續期間滿了シタル場合ニ於テハ仍從前ノ第三十三條ノ二ノ規定ヲ適用ス

第十三條　本法施行前從前ノ第四十四條第一項ノ規定ニ依リ差出シタル施業案ハ同條同項ノ改正規定ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第十四條　本法施行前從前ノ罰則ヲ適用スベカリシ行爲ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

○鑛害賠償ニ關スル調停及仲裁判斷ノ手數料等ニ關スル件(昭和十四年十二月二十七日勅令第八百七十六號)

朕鑛害賠償ニ關スル調停及仲裁判斷ノ手數料等ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　鑛業法第七十四條ノ十二ノ規定ニ依ル調停ノ申立及仲裁判斷ノ申立ノ手數料ハ左ノ區別ニ從フ

調停又ハ仲裁判斷ヲ求ムル事項ノ價額二十圓迄　五十錢
同　五十圓迄　一圓二十錢
同　七十五圓迄　一圓七十錢
同　百圓迄　二圓五十錢
同　二百五十圓迄　五圓
同　五百圓迄　八圓
同　七百五十圓迄　十圓
同　千圓迄　十二圓
同　二千五百圓迄　十七圓
同　五千圓迄　二十圓
同　五千圓以上ハ千圓ニ達スル每ニ二圓ヲ加フ

第二條　大正十一年勅令第三百三十九號第二條乃至第四條ノ規定ハ記錄ノ閱覽若ハ謄寫又ハ其ノ正本、謄本、抄本若ハ事件ニ關スル證明書ノ付與ヲ求ムル手數料竝ニ調停委員ノ旅費、日當及止宿料ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和十四年法律第二十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○砂鑛法(明治四十二年三月二十五日法律第十三號)

改正　大正五年第三一號、昭和一五年第一〇三號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル砂鑛法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

砂鑛法

第一條　本法ニ於テ砂鑛ト稱スルハ砂金、砂鐵、砂錫其ノ他冲積鑛床ヲ爲シタル金屬鑛ヲ謂フ

金鑛ノ廢鑛又ハ鑛滓ニシテ主務大臣ニ於テ其ノ存在狀態砂金ト類似スト認メタルモノハ之ヲ砂金ト看做ス

第二條　本法ニ於テ砂鑛業ト稱スルハ砂鑛ノ採取及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第三條　本法ニ於テ砂鑛區ト稱スルハ砂鑛權ノ登錄ヲ得タル土地ノ區域ヲ謂フ

第四條　砂鑛權者ハ砂鑛區內ニ於ケル各種ノ砂鑛ヲ採取スル權利ヲ有ス但シ第六條ノ砂金ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條　砂鑛區鑛區ト重複スル場合ニ於テハ砂鑛權者及鑛業權者ハ其ノ採取及採掘又ハ試掘ニ付互ニ協議ヲ爲スヘシ

前項ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ砂鑛權者又ハ鑛業權者ハ鑛山監督局長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ侵害セラレタリトスル者ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六條　金鑛ヲ目的トスル鑛業權者ハ其ノ採掘鑛區內ニ存スル砂金ヲ採取スル權利ヲ有ス但シ其ノ鑛區內ニ既ニ存スル

砂鑛區ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ鑛業權者ハ砂金ノ採取ニ關シ之ヲ砂鑛權者ト看做ス

第七條 砂鑛權ハ相續、讓渡、抵當權、滯納處分又ハ强制執行ノ目的タル外權利ノ目的タルコトヲ得ス

第八條 砂鑛權ヲ得ムトスル者ハ願書ニ砂鑛區圖ヲ添ヘテ主務大臣ニ出願スヘシ

第九條 砂鑛權ノ出願アリタルトキハ鑛山監督局長ハ其ノ出願地ニ係ル土地所有者、地上權者、永小作權者及土地ニ對シ使用ノ權利ヲ有スル者ニ之ヲ通知スヘシ

第十條 砂鑛出願人ハ名義ノ變更ヲ爲スコトヲ得但シ主務大臣ニ屆出ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十一條 砂鑛權者ハ砂鑛區ノ增減ヲ出願スルコトヲ得

抵當權ノ設定アル場合ニ於テ砂鑛區ノ減少ヲ出願セムトスルトキハ抵當權者ノ承諾ヲ受クヘシ

第十二條 土地所有者、地上權者、永小作權者又ハ土地ニ對シ使用ノ權利ヲ有スル者ハ其ノ土地ニ於テ砂鑛ヲ採取セムトスル者ニ對シ相當ノ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第十三條 前條ノ請求權者ハ砂鑛權者ヲシテ補償金ニ付相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

第十四條 砂鑛權者補償金ノ拂渡ヲ爲サス又ハ擔保ヲ供セサルトキハ第十二條ノ請求權者ハ砂鑛ノ採取ヲ拒ムコトヲ得

第十五條 補償金又ハ其ノ擔保ニ付協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ砂鑛權者ハ鑛山監督局長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十六條 前條ノ裁決アリタルトキハ其ノ未タ確定セサルトキト雖砂鑛權者ハ裁決ニ依ル補償金ヲ供託シ又ハ擔保ヲ供託シテ砂鑛ヲ採取スルコトヲ得

第十六條ノ二 砂鑛ノ採取ヲ終リタルトキハ砂鑛權者ハ土地ヲ原狀ニ復シ又ハ原狀ニ復セサルニ因リテ生スル損失ニ對シ補償金ヲ拂渡スヘシ

土地所有者、地上權者、永小作權者又ハ土地ニ對シ使用ノ權利ヲ有スル者ハ砂鑛權者ヲシテ前項ノ土地ノ原狀ノ回復又ハ補償金ニ付相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

前三條ノ規定ハ前項ノ擔保ニ之ヲ準用ス

第十六條ノ三 鑛山監督局長必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ砂鑛權者ヲシテ施業案ヲ定メ認可ヲ受クヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル施業案ヲ變更セムトスルトキハ鑛山監督局長ノ認可ヲ受クヘシ

鑛山監督局長ハ理由ヲ示シテ施業案ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第一項ノ命令ヲ受ケタル砂鑛權者ハ施業案ニ依ルニ非サレハ砂鑛ノ採取ヲ爲スコトヲ得ス但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 鑛業法第三章ハ砂鑛業ニ關シ之ヲ準用ス但シ同法第五十六條ニ依ル土地ノ使用ハ左ノ場合ニ限ル

一 洗鑛

二 製錬所ノ建設

三 洗滌用水路及溜池ノ開設

四 砂鑛原料ノ置場

五 其ノ他砂鑛業上必要ナル工作物ノ施設

第十八條 主務大臣及鑛山監督局長ハ砂鑛權者ニ對シ砂鑛業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシメ又ハ當該官吏ヲシテ事業場、事務所其ノ他必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

當該官吏臨檢ノ際砂鑛業ニ關スル犯罪アリト認ムルトキハ搜索ヲ爲シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ノ差押ヲ爲スコトヲ得

臨檢、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス

第十九條 權利ヲ有セスシテ砂鑛業ヲ爲シ又ハ詐僞ノ行爲ヲ以テ砂鑛採取ノ許可ヲ受ケタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ六月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十六條ノ三第一項若ハ第三項ノ規定ニ依ル命令又ハ同條第二項若ハ第四項ノ規定ニ違反シタル者

二 第二十三條ニ於テ準用スル鑛業法第十條第三項ノ規定ニ違反シタル者

三 第二十三條ニ於テ準用スル鑛業法第七十一條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタル者

四 第二十三條ニ於テ準用スル鑛業法第七十二條、第七十三條第一項又ハ第七十四條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

五 第二十三條ニ於テ準用スル鑛業法第七十三條第二項ノ規定ニ基キテ管理者ノ職務ニ關シ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタル者

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二十三條ニ於テ準用スル鑛業法第七十五條乃至第七十八條ノ規定ニ違反シタル者

二 第二十三條ニ於テ準用スル鑛業法第七十九條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者

第二十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十八條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虛僞ノ報告ヲ爲シタル者

二 第十八條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢、搜索又ハ差押ヲ拒ミ、妨ケ又ハ忌避シタル者

三 第十七條ニ於テ準用スル鑛業法第五十三條第一項ノ許可ヲ受ケスシテ障碍物ヲ除却シタル者

第二十三條 鑛業法第五條、第六條、第七條第一項乃至第四項、第十條、第十二條、第十五條、第十六條、第十九條、第二十條、第二十七條、第三十二條、第三十三條第一項第二項、第三十五條、第三十八條乃至第四十三條、第四十九條、第七十一條乃至第七十四條ノ三、第七十四條ノ八乃至第七十四條ノ十五、第七十六條乃至第七十九條、第八十七條乃至第八十九條、第九十一條乃至第九十三條及第百三條乃至第百五條ノ規定ハ砂鑛業ニ關シテ之ヲ準用ス

鑛業法第七十五條ノ規定ハ命令ヲ以テ定ムル砂鑛業ニ關シテ之ヲ準用ス

附則

第二十四條　本法ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

砂鑛採取法ハ之ヲ廢止ス

第二十五條　砂鑛採取法ニ依ル砂鑛採取ノ許可ハ之ヲ砂鑛權ノ登錄ト看做ス

第二十六條　本法施行前ニ金鑛ヲ目的トスル鑛業ノ出願ヲ爲シタル者第一條第二項ノ砂金ノミヲ採取セムトスルトキハ命令ノ定ムル期間內ニ之ヲ〔鑛山監督署長〕ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出アリタルトキハ鑛業ノ出願ハ願書發送ノ日時ニ於テ砂鑛權ノ出願ニ代リタルモノト看做ス

第二十七條　本法施行前設定シタル鑛業權ニシテ第一條第二項ノ砂金ノミヲ目的トスルモノニ付テハ命令ノ定ムル期間內ニ其ノ鑛區ニ付砂鑛權設定ノ登錄ヲ申請スヘシ其ノ登錄アリタルトキハ鑛業權ノ上ニ現ニ存スル權利義務ハ砂鑛權ノ上ニ存續ス

前項ノ鑛業權ニ關シテハ砂鑛權ノ登錄アル迄仍鑛業法ヲ適用ス

第一項ノ鑛業權ニシテ鑛業財團ヲ組成スルモノニ付テハ砂鑛權ノ登錄アリタル後ト雖其ノ財團ノ關係ニ於テハ之ヲ鑛業權ト看做ス

第二十八條　本法施行前砂鑛採取法ニ依リ又ハ本法第一條第二項ノ砂金ニ關シ鑛業法ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第二十九條　本法施行前砂鑛採取法ニ依リ又ハ本法第一條第二項ノ砂金ニ關シ鑛業法ニ依リテ爲シタル處分ニ對スル訴願、訴訟、判定、裁定又ハ裁決ニ關シテハ各砂鑛採取法又ハ鑛業法ノ規定ニ依ル

附　則（昭和十五年法律第百三號附則）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十六年勅令第五百八十六號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行）

本法施行前ニ爲シタル砂鑛權ノ出願ニ付テハ仍從前ノ第九條ノ規定ヲ適用ス

本法施行前從前ノ罰則ヲ適用スベカリシ行爲ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

工業勞働者最低年齡法第三條中「工場法施行令又ハ鑛業法」ヲ「工場法施行令、鑛業法又ハ砂鑛法」ニ改ム

○漁業法

（明治四十三年四月二十一日法律第五十八號）

改正　昭和八年第三三號、昭和一三年第一三號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル漁業法改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

漁業法

第一條　本法ニ於テ漁業ト稱スルハ營利ノ目的ヲ以テ水產動植物ノ採捕又ハ養殖ヲ業トスルヲ謂フ

本法ニ於テ漁業者ト稱スルハ漁業ヲ爲ス者及漁業權又ハ入漁權ヲ有スル者ヲ謂フ

第二條　公共ノ用ニ供セサル水面ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ノ規定ヲ適用セス

第三條　公共ノ用ニ供スル水面ト連接シ一體ヲ成ス公共ノ用ニ供セサル水面ニハ本法ヲ適用ス

前項ノ水面ノ占有者又ハ其ノ敷地ノ所有者ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業ニ關シ之カ利用ヲ制限シ又ハ廢止スルコトヲ得

第四條　漁具ヲ定置シ又ハ水面ヲ區劃シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ其ノ免許スヘキ漁業ノ種類ハ主務大臣之ヲ指定ス

第五條　水面ヲ專用シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ

前項ノ免許ハ漁業組合カ其ノ地先水面ノ專用ヲ出願シタル場合ノ外之ヲ與ヘス

第六條　第二條ノ外主務大臣ニ於テ免許ヲ受ケシムル必要アリト認ムル漁業ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　漁業權ハ物權ト看做シ土地ニ關スル規定ヲ準用ス

民法第二編第九章ノ規定ハ漁業權ニ之ヲ適用セス

第八條　漁業權ヲ抵當ト爲シタル場合ニ於テ其ノ漁業ニ定著シタル工作物ハ民法第三百七十條ノ準用ニ關シテハ漁業權ニ附加シテ之ト一體ヲ成シタル物ト看做ス

第九條　裁判所ノ土地ノ管轄カ不動產所在地ニ依リテ定マル場合ニ於テハ漁場ニ最近キ沿岸ノ屬スル市町村又ハ之ニ相當スル行政區劃ヲ以テ不動產所在地ト看做ス

第十條　漁業權ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ分割シ其ノ他變更スルコトヲ得ス

地先水面專用ノ漁業權ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第十一條　漁業權者ノ有スル水面使用ニ關スル權利義務ハ漁業權ノ處分ニ從フ

第十二條　入漁權者ハ設定行爲又ハ舊法施行前ノ慣行ニ從ヒ他人ノ專用漁業權ニ屬スル漁場內ニ入會ヒ其ノ專用漁業權ノ全部又ハ一部ノ漁業ヲ爲スノ權利ヲ有ス

第十三條　入漁權ハ物權ト看做ス

入漁權ハ相續及讓渡ノ目的タル外權利ノ目的タルコトヲ得ス

第十四條　入漁權ハ漁業權者ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ別段ノ慣行アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　漁業權又ハ入漁權ノ各共有者ハ他ノ共有者ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非ザレバ其ノ持分ヲ處分スルコトヲ得ズ

第十五條ノ二　漁業權又ハ入漁權ノ各共有者ガ其ノ共有ニ屬スル漁業權又ハ入漁權ヲ變更セントスル場合ニ於テ他ノ共有者ノ住所又ハ居所分明ナラザルトキハ勸告ノ定ムル所ニ依リ裁判所ノ許可ヲ以テ其ノ者ノ同意ニ代フルコトヲ得

第十六條　漁業權ノ存續期間ハ二十年以內ニ於テ行政官廳ノ定ムル所ニ依ル但シ第二十四條第一項ノ規定ニ依リ又ハ第三十四條ノ規定ニ基ク命令ニ依リ漁業ヲ停止セラレタル期間ハ之ヲ算入セス

前項ノ期間ハ漁業權者ノ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

第十七條　設定行爲ニ於テ存續期間ニ付別段ノ定ナキ入漁權ハ目的タル漁業權ノ存續中存續スルモノト看做ス但シ入漁權者ハ何時ニテモ其ノ權利ヲ拋棄スルコトヲ得

第十八條　入漁權者カ入漁料ノ支拂ヲ怠リタルトキハ漁業權者ハ其ノ入漁ヲ拒ムコトヲ得

入漁權者カ引續キ二年以上入漁料ノ支拂ヲ怠リ又ハ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ漁業權者ハ入漁權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第十九條　入漁料ハ入漁ヲ爲ササルトキハ之ヲ支拂フコトヲ要セス

第二十條　入漁權ニ關シ前三條ノ規定ニ異リタル慣行アルトキハ其ノ慣行ニ從フ

第二十一條　行政官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ漁業ノ免許ヲ與フルニ當リ之ニ制限又ハ條件ヲ附スルコトヲ得

第二十二條　漁業ノ免許ヲ受ケタル日ヨリ一年間其ノ漁業ニ從事スル者ナキトキ又ハ引續キ二年間休業シタルトキハ行政官廳ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十三條　行政官廳ノ認可ヲ得テ漁業ヲ爲ササル期間及第二十四條第一項ノ規定ニ依リ又ハ第三十四條ノ規定ニ基ク命令ニ依リ漁業ヲ停止セラレタル期間ハ前條ノ期間ニ之ヲ算入セス

第二十四條　水產動植物ノ蕃殖保護、船舶ノ航行碇泊繫留、水底電線ノ敷設若ハ國防其ノ他ノ軍事上必要アルトキ又ハ公益上害アルトキハ主務大臣ハ免許シタル漁業ヲ制限シ、停止シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得

漁業權者ニシテ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ漁業ヲ制限シ又ハ停止スルコトヲ得

第二十五條　錯誤ニ依リ漁業ノ免許ヲ與ヘタルトキハ行政官廳ハ之ヲ取消スコトヲ得

第二十六條　免許漁業原簿ノ登錄ハ登記ニ代ハルモノトス登錄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條　漁業免許ノ取消アリタルトキハ行政官廳ハ直ニ之ヲ登錄シタル抵當權者及先取特權者ニ通知スヘシ

前項ノ權利者ハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ漁業權ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得但シ第二十四條第一項又ハ第二十五條ノ規定ニ依ル取消ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

漁業權ハ前項ノ期間內又ハ競賣ノ手續完結ノ日迄競賣ノ目的ノ範圍內ニ於テ仍存續スルモノト看做ス

競賣ニ依ル賣得金ハ競賣ノ費用及第一項ノ權利者ニ對スル債務ノ辨濟ニ充テ其ノ殘金ハ國庫ニ歸屬ス

競落ヲ許ス決定カ確定シタルトキハ漁業免許ノ取消ハ其ノ效力ヲ生セサリシモノト看做ス

第二十八條　漁業權ハ登錄シタル權利者ノ同意アルニ非サレハ之ヲ分割シ其ノ他變更シ又ハ拋棄スルコトヲ得ス

第十五條ノ二ノ規定ハ漁業權ヲ分割シ其ノ他變更セントスル場合ニ於テ登錄シタル入漁權者ノ住所又ハ居所分明ナラザル場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條　漁業者ハ左ニ揭クル目的ノ爲必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ヲ使用シ又ハ立木竹若ハ土石ノ除去ヲ制限スルコトヲ得

一　漁場ノ標識ノ建設

二　魚見若ハ漁業ニ關スル信號又ハ之ニ必要ナル設備

三　漁業ニ必要ナル目標ノ保存又ハ建設

第三十條　漁業者ハ必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ特別ノ用途ナキ他人ノ土地ニ立入リ漁業ヲ爲スコトヲ得

第三十一條　漁業ニ關スル測量、實地調査又ハ前二條ノ目的ノ爲必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入リ支障木竹ヲ伐採シ又ハ障碍物ヲ除去スルコトヲ得

第三十二條　前三條ノ行爲ヲ爲ス者ハ豫メ其ノ旨ヲ土地ノ所有者又ハ占有者ニ通知シ爲ニ生シタル損害ハ之ヲ賠償スヘシ

第三十三條　行政官廳ハ漁業者ニ漁場ノ標識ノ建設又ハ漁具ノ標識ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第三十四條　地方長官ハ水產動植物ノ蕃殖保護又ハ漁業取締ノ爲主務大臣ノ認可ヲ得テ左ノ命令ヲ發スルコトヲ得

一　水產動植物ノ採捕ニ關スル制限又ハ禁止

二　水產動植物若ハ其ノ製品ノ販賣又ハ所持ニ關スル制限若ハ禁止

三　漁具又ハ漁船ニ關スル制限若ハ禁止

四　漁業者ノ數又ハ資格ニ關スル制限

五　水產動植物ニ有害ナル物ノ遺棄又ハ漏泄ニ關スル制限又ハ禁止

六　水產動植物ノ蕃殖保護ニ必要ナル物ノ採取又ハ除去ニ關スル制限若ハ禁止

七　水產動植物ノ移植ニ關スル制限又ハ禁止

主務大臣ニ於テ前項ノ制限又ハ禁止ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

前二項ノ命令ニハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物、製品、漁具及第一項第七號ノ水產動植物ノ沒收竝犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ價額ノ追徵ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三十五條　汽船「トロール」漁業、母船式漁業、汽船捕鯨業又ハ機船底曳網漁業ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ズ

前項ノ漁業ニ關スル制限又ハ禁止ハ主務大臣之ヲ定ム

第三十六條　爆發物ヲ使用シテ水產動植物ヲ採捕スルコトヲ得ス但シ海獸捕獲ノ爲ニスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條　主務大臣ハ遡河魚類ノ通路ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ水面ノ一定區域內ニ於ケル工作物ノ設置ニ付制限又ハ禁止ニ關スル命令ヲ發スルコトヲ得

工作物ニシテ遡河魚類ノ通路ヲ害スルモノト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ所有者又ハ占有者ニ除害工事ヲ命スルコトヲ得

第三十八條　前條第二項ノ規定ニ依リ除害工事ヲ命シタルトキハ主務大臣ハ工作物ニ付權利ヲ有スル者ニ對シ相當ノ補

償ヲ爲スヘシ但シ利害關係人ノ申請ニ依リ除害工事ヲ命シタルトキハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ申請者之ヲ補償スヘシ

前項ノ補償金額ニ付不服アル者ハ補償金額決定ノ通告ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十九條 公共ノ用ニ供セサル水面ニシテ公共ノ用ニ供スル水面又ハ第三條ノ水面ニ通スルモノニハ命令ヲ以テ第三十四條、第三十六條乃至第三十八條、第五十五條及第五十九條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第四十條 漁業ニ從事スル者ノ雇傭並雇人及遺族ノ扶助ニ關シテハ勅令ヲ以テ規程ヲ設クルコトヲ得

第四十一條 海軍艦艇乘組將校、警察官吏、港務官吏、稅關官吏又ハ漁業監督吏員ハ漁業ヲ監督シ必要アリト認ムルトキハ船舶、店舗其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿物件ヲ檢査スルコトヲ得

前項ノ臨檢ニ際シ漁業ニ關スル犯罪アリト認ムルトキハ搜索ヲ爲シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ノ差押ヲ爲スコトヲ得

臨檢、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス但シ同法第四條ノ規定ハ漁業監督吏員以外ノ者ニ之ヲ準用セス

第四十二條 一定ノ地區內ニ住所ヲ有スル漁業者ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業組合ヲ設クルコトヲ得

漁業組合ノ地區ハ市町村ノ區域又ハ市町村內ノ漁業者ノ部落ノ區域ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ町村ニ準スヘキモノヲ以テ前項ノ町村ト看做ス

北海道ニ於テハ郡ヲ以テ漁業組合ノ地區ト爲スコトヲ得

第四十三條 漁業組合ハ法人トス

漁業組合ハ漁業權若ハ入漁權ヲ取得シ又ハ漁業權ノ貸付ヲ受ケ組合員ノ漁業又ハ其ノ經濟ノ發達ニ必要ナル共同ノ施設ヲ爲スヲ以テ目的トス

漁業組合ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外自ラ漁業ヲ營ムコトヲ得ス

組合員ハ漁業組合ノ取得シ若ハ貸付ヲ受ケタル專用漁業權又ハ入漁權ノ範圍內ニ於テ各自漁業ヲ爲スノ權利ヲ有ス但シ組合規約ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四十三條ノ二 漁業組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得但シ組合員ニ出資ヲ爲サシメザル漁業組合ハ組合員ノ貯金ノ受入ニ關スル施設ヲ爲スコトヲ得ズ

一 水產動植物ノ蕃殖保護其ノ他漁場ノ利用ニ關スル施設

二 船溜、船揚場、漁礁其ノ他組合員ノ漁業ニ必要ナル設備ノ設置

三 組合員ノ漁獲物其ノ他ノ生產物ノ加工、保藏、運搬又ハ販賣ニ關スル施設

四 組合員ノ漁業若ハ其ノ經濟ノ發達ニ必要ナル物又ハ資金ノ供給又ハ組合員ノ貯金ノ受入ニ關スル施設

五 組合員ノ遭難防止又ハ遭難救恤ニ關スル施設

六 前各號ニ揭グルモノノ外組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設

組合員ノ貯金ノ受入ニ關スル施設ヲ爲ス漁業組合ハ組合員

外ノ者ニシテ組合加入ノ豫約ヲ爲シタルモノノ出資一口ノ金額及出資一口ニ付規約ノ定ムル所ニ依リ加入ニ關シ拂込ムベキ金額ノ合計額ニ達スル迄ノ貯金又ハ組合員ト同一ノ家ニ在ル者ノ貯金ノ受入ヲ爲スコトヲ得

第一項ニ揭グル組合ノ施設ハ組合員ノ貯金ノ受入ニ關スルモノヲ除クノ外組合員ノ利用ニ支障ナキ場合ニ限リ組合員タルコトヲ得ザル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ利用セシムルコトヲ得

第四十三條ノ三 前條第一項第三號又ハ第四號ノ事業ヲ行フ漁業組合ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ出資ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ組合員ニ出資ヲ爲サシムル漁業組合（漁業協同組合）ノ組合員ハ出資一口以上ヲ有スベシ

出資一口ノ金額ハ均一ニ之ヲ定ムベシ

出資一口ノ金額ノ最高限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十三條ノ四 漁業組合ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ其ノ經費ヲ組合員ニ分賦スルコトヲ得

第四十三條ノ五 第四十三條ノ二第一項第三號又ハ第四號ノ事業ヲ行フ漁業組合ノ組織ハ無限責任、有限責任及保證責任ノ三種トス

無限責任ノ組合ニ在リテハ組合財產ヲ以テ其ノ債務ヲ完濟スルコト能ハザル場合ニ於テ組合員ノ全員ガ連帶無限ノ責任ヲ負擔シ有限責任ノ組合ニ在リテハ組合員ノ全員ガ經費負擔額ノ外其ノ出資額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔シ保證責任ノ組合ニ在リテハ組合財產ヲ以テ其ノ債務ヲ完濟スルコト能ハザル場合ニ於テ組合員ノ全員ガ其ノ出資額又ハ經費負擔額ノ外一定ノ金額（保證金額）ヲ限度トシテ責任ヲ負擔ス

第四十三條ノ六 無限責任又ハ保證責任ノ漁業組合ヨリ脫退シタル組合員ハ脫退前ノ組合債權者ニ對シ其ノ脫退ヲ登記シタル後二年間前條第二項ノ規定ニ依ル責任ヲ負擔ス

第四十三條ノ七 新ニ無限責任又ハ保證責任ノ漁業組合ニ加入シタル組合員ハ其ノ加入前ニ生ジタル組合ノ債務ニ付テモ亦第四十三條ノ五第二項ノ規定ニ依ル責任ヲ負擔ス

第四十三條ノ八 漁業協同組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ得テ自ラ漁業ヲ營ムコトヲ得

第四十三條ノ九 漁業協同組合ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ組合ノ地區內ニ住所ヲ有スル者ニシテ漁業者ニ非ザルモノヲ組合員ト爲スコトヲ得

第四十三條第四項ノ規定ハ漁業者ニ非ザル組合員ニハ之ヲ適用セズ

第四十三條ノ十 漁業組合ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ組合規約ニ違反シタル組合員ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第四十四條 漁業組合聯合會ハ所屬ノ漁業組合及漁業組合聯合會ノ共同ノ目的ヲ達スル爲行政官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ設立スルコトヲ得

漁業組合聯合會ハ法人トス

漁業組合聯合會ハ第四十三條ノ二第一項第三號若ハ第四號ノ事業ヲ行フ漁業組合又ハ漁業組合聯合會ヲ以テ之ヲ構成ス

漁業組合聯合會ノ組織ハ有限責任及保證責任ノ二種トス

第四十三條第三項、第四十三條ノ二第一項第三項、第四十三條ノ三第二項乃至第四項、第四十三條ノ四、第四十三條

ノ五第二項、第四十三條ノ六、第四十三條ノ七及前條ノ規定ハ漁業組合聯合會ニ之ヲ準用ス但シ第四十三條ノ二第一項各號及第三項中組合員トアルハ貯金ノ受入ニ關スル場合ヲ除クノ外所屬ノ組合、聯合會及組合員トス

第四十四條ノ二 漁業組合聯合會ハ日本勸業銀行、日本興業銀行、北海道拓殖銀行、農工銀行又ハ產業組合中央金庫ニ對シ所屬ノ組合又ハ聯合會ノ爲ニ債務ノ保證ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ債務ノ保證ヲ爲シタルトキハ漁業組合聯合會ハ銀行又ハ產業組合中央金庫ノ委任ヲ受ケ其ノ債權ノ取立ヲ爲スコトヲ得

第四十四條ノ三 道府縣ヲ區域トスル漁業組合聯合會ハ規約ノ定ムル所ニ依リ所屬ノ組合又ハ聯合會ニ對シ手形ノ割引ヲ爲スコトヲ得

第四十五條 漁業組合及漁業組合聯合會ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セス

第四十六條 漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ設立ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

登記シタル事項ノ變更ハ其ノ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四十七條 行政官廳ハ何時ニテモ漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ事業ニ關スル報告ヲ徵シ、事業ニ付認可ヲ受ケシメ、事業及財產ノ狀況ヲ檢査シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十八條 漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ決議若ハ役員ノ行爲ニシテ法令、行政官廳ノ命令若ハ規約ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ行政官廳ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 決議ノ取消

二 役員ノ解職

三 解散又ハ事業ノ停止

第四十九條 本法ニ規定スルモノノ外漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ設立、登記、管理、構成者ノ權利義務及加入脫退、組織變更、分合、解散、清算其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十九條ノ二 漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ役員何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ組合若ハ聯合會ノ事業ノ範圍外ニ於テ貸付ヲ爲シ又ハ投機取引ノ爲ニ組合若ハ聯合會ノ財產ヲ處分シタルトキハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ハ刑法ニ正條アル場合ニハ之ヲ適用セズ

第五十條 漁業組合又ハ漁業組合聯合會ニ於テ本法中特ニ組合又ハ聯合會ニ關スル規定ニ違反シタル場合ニ於テハ其ノ役員ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス

本法ニ基キテ發スル組合又ハ聯合會ニ關スル命令ニ於テハ組合又ハ聯合會カ之ニ違反シタル場合ニ於テ其ノ役員ヲ三百圓以下ノ過料ニ處スル規定ヲ設クルコトヲ得

前二項ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第五十一條 漁業者又ハ水產動植物ノ製造若ハ販賣ヲ業トスル者ハ水產業ノ改良發達及水產動植物ノ蕃殖保護其ノ他水

產業ニ關シ共同ノ利益ヲ圖ル爲水產組合ヲ設クルコトヲ得

第五十二條 水產組合成立シタルトキハ其ノ地區內ニ於テ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ其ノ組合ニ加入シタルモノト看做ス但シ主務大臣ニ於テ加入ノ義務ナシト認メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條 水產組合ハ相互ニ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲水產組合聯合會ヲ設クルコトヲ得

第五十四條 水產組合及水產組合聯合會ハ法人トシ重要物產同業組合法ヲ準用ス

第五十五條 漁業ノ免許若ハ許可ノ出願又ハ期間更新ノ申請ニ對スル許否ニ不服アル者及第三條第二項、第二十二條、第二十四條、第二十五條若ハ第三十七條第二項ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第五十六條 漁場ノ區域、漁業權若ハ入漁權ノ範圍又ハ漁業ノ方法ニ付漁業者ノ間ニ爭アルトキハ關係者ヨリ行政官廳ニ之ニ關スル裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第五十七條 民事又ハ刑事ノ訴訟ニ付前條ノ規定ニ依ル裁決又ハ判決ヲ待ツノ必要アル場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得

第五十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 免許ニ依ラス若ハ漁業ノ停止中第四條又ハ第六條ノ漁業ヲ爲シタル者

二 免許漁業ノ制限又ハ免許ノ條件若ハ制限ニ違反シテ漁業ヲ爲シタル者

三 專用漁業ノ停止中其ノ漁場ニ於テ停止シタル漁業ヲ爲シタル者

前項ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物、製品及漁具ハ之ヲ沒收スルコトヲ得但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵スルコトヲ得

第五十九條 汽船「トーロル」漁業又ハ母船式漁業ニ關シ第三十五條第一項ノ規定、同條第二項ノ制限若ハ禁止ニ違反シタル者ハ五千圓以下ノ罰金、汽船捕鯨業又ハ機船底曳網漁業ニ關シ同條第一項ノ規定、同條第二項ノ制限若ハ禁止又ハ第三十六條ノ規定ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス此ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物、製品及漁具ハ之ヲ沒收スルコトヲ得但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵スルコトヲ得

第六十條 漁業權又ハ漁業組合員ノ漁業ヲ爲スノ權利ヲ侵害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第六十一條 漁業又ハ漁具ノ標識ヲ移轉シ、汚損シ又ハ毀壞シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第六十二條 第四十一條ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ妨ケタル者及臨檢搜索ノ際當該吏員ノ訊問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第六十三條　營業者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條　營業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

第六十五條　明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附　則

第六十六條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十三年勅令第四百二十八號ヲ以テ明治四十四年四月一日ヨリ施行）

第六十七條　本法ハ臘虎及鼠脚獸ノ漁獵ニ之ヲ適用セス

第六十八條　本法施行前ノ漁業ニ關スル出願ニシテ未タ處分ヲ終ラサルモノニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第六十九條　舊法ニ依リ發生シタル漁業權ハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ定メタル效力ヲ有ス但シ其ノ存續期間ハ發生ノ時ヨリ起算ス

本法施行前ニ發生シタル入漁權ニ關シ亦前項ニ同シ

第七十條　本法施行前免許漁業原簿ニ登錄シタル事項ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ登錄スルコトヲ得ヘキモノニ限リ之ニ依リ登錄シタルモノト看做ス

第七十一條　舊法施行前ノ契約又ハ慣行ニ依リテ入漁スルノ權利ハ專用漁業免許後一年間ニ限リ登錄ナキモ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

附　則（昭和八年法律第三十三號附則）

第一條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和九年勅令第二百三十一號ヲ以テ同年八月一日ヨリ施行）

第二條　本法施行前ヨリ引續キ第四十三條ノ二第一項第三號又ハ第四號ノ事業ヲ行フ漁業組合ハ本法施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ其ノ組織ニ關シ第四十三條ノ五ノ規定ニ依ラズ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

第三條　本法施行前ニ設立シタル漁業組合聯合會ハ本法施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ其ノ構成者及組織ニ關シ第四十四條第三項及第四項ノ規定ニ依ラズ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

前項ノ聯合會ニシテ前項ノ期間內ニ其ノ構成者及組織ニ關シ第四十四條第三項及第四項ノ規定ニ依ル聯合會ト爲ラザルモノハ其ノ期間滿了ノ日ニ於テ解散ス

第四條　印紙稅法第四條第一項第十一號中「產業組合聯合會」ノ下ニ「漁業組合、漁業組合聯合會」ヲ加フ

附　則（昭和十三年法律第十三號附則）

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十三年勅令第三百九十八號ヲ以テ第四十三條ノ二、第四十四條及第四十四條ノ三ノ改正規定ハ同年六月六日ヨリ施行）（昭和十三年勅令第四百六十一號ヲ以テ第四十四條ノ二ノ改正規定ハ同年七月一日ヨリ施行）

附

錄

附錄

○會計法戰時特例……一
○裁判所構成法戰時特例……一
○戰時ニ於ケル領事官ノ裁判ノ特例ニ關スル法律……三
○戰時民事特別法……三
○戰時民事特別法ニ依ル調停ノ手數料ニ關スル件……五
○戰時刑事特別法……五
○言論、出版、集會、結社等臨時取締法……九
○臨時郵便取締令……一一
○國家總動員法……一三
○國家總動員法等ノ施行ノ統轄ニ關スル件……一八
○輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律……一九
○外國爲替管理法……二〇
○臨時資金調整法……二三
○物資統制令……二六
○價格等統制令……三〇
○地代家賃統制令……三六
○宅地建物等價格統制令……三八
○臨時農地價格統制令……四〇
○小作料統制令……四一
○賃金統制令……四四
○會社經理統制令……四九
○食糧管理法……五八
○暴利行爲等取締規則……六四

附錄目次

○會計法戰時特例（昭和一七年法律第一〇號）……一
○裁判所構成法戰時特例（昭和一七年法律第六二號）……一
○戰時ニ於ケル領事官ノ裁判ノ特例ニ關スル法律（昭和一七年法律第六五號）……三
○戰時民事特別法（昭和一七年法律第六三號）……三
第一章　總則……三
第二章　民事訴訟……三
第三章　破產及和議……四
第四章　調停……四
附則……五
○戰時民事特別法ニ依ル調停ノ手數料ニ關スル件（昭和一七年勅令第一七〇號）……五
○戰時刑事特別法（昭和一七年法律第六四號）……五
第一章　罪……五
第二章　刑事手續……八
附則……九
○言論、出版、集會、結社等臨時取締法（昭和一六年法律第九七號）……九
○臨時郵便取締令（昭和一六年緊急勅令第八九一號）……一二
○國家總動員法（昭和一三年法律第五五號）……一三
○國家總動員法等ノ施行ノ統轄ニ關スル件（昭和一四年勅令第六七二號）……一八
○輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律（昭和一二年法律第九二號）……一九
○外國爲替管理法（昭和一六年法律第八三號）……二〇
○臨時資金調整法（昭和一二年法律第八六號）……二三
○物資統制令（昭和一六年勅令第一一三〇號）……二六
○價格等統制令（昭和一四年勅令第七〇三號）……二〇
○地代家賃統制令（昭和一五年勅令第六七八號）……二六
○宅地建物等價格統制令（昭和一五年勅令第七八一號）……二八
○臨時農地價格統制令（昭和一六年勅令第一〇九號）……四〇
○小作料統制令（昭和一四年勅令第八二三號）……四一
○賃金統制令（昭和一五年勅令第六七五號）……四四
○會社經理統制令（昭和一五年勅令第六八〇號）……四九
第一章　總則……四九
第二章　利益配當及積立金……四九
第三章　役員及社員給與……五〇
第四章　經費及資金……五四

第五章　經理檢査……三五
第六章　雜　則……三六
附　則……三六
○食糧管理法（昭和一七年法律第四〇號）……三六
○暴利行爲等取締規則（昭和一四年商工農林省令第一號）……六四

○會計法戰時特例

（昭和十七年二月十八日法律第十號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國議會ノ協贊ヲ經タル會計法戰時特例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

會計法戰時特例

第一條　國務大臣ハ戰時（戰爭ニ準ズベキ事變ノ場合ヲ含ム以下之ニ同ジ）ニ際シ軍ノ需要充足其ノ他ノ爲必要アル場合ニ限リ勅令ノ定ムル所ニ依リ會計法第二十一條但書ノ規定ニ拘ラズ前金拂若ハ概算拂ヲ爲シ又ハ手形ノ保證ヲ爲スコトヲ得

第二條　陸軍又ハ海軍ノ出納官吏戰時ニ際シ戰地（戰爭ニ準ズベキ事變ノ場合ニ於ケル事變地ヲ含ム以下之ニ同ジ）ニ於テ又ハ戰地往返中其ノ保管ニ係ル現金又ハ物品ヲ亡失毀損シタル場合ニ於テ國務大臣當該官吏ガ其ノ保管ニ付善良ナル管理者ノ注意ヲ怠ラザリシモノト認定シタルトキハ其ノ旨會計檢査院ニ通知スベシ

前項ノ通知アリタルトキハ會計法第三十六條ノ證明アリタルモノト看做ス

第三條　國務大臣ハ戰時ニ際シ特ニ必要アル場合ニ於テハ陸軍ノ見習士官又ハ海軍ノ候補生ヲシテ現金又ハ物品ノ出納保管ヲ掌ラシムルコトヲ得

出納官吏ニ關スル規定ハ前項ノ陸軍ノ見習士官又ハ海軍ノ候補生ニ付之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十七年勅令第四百五十號ヲ以テ同年四月二十八日ヨリ施行）

昭和十三年法律第十六號ハ之ヲ廢止ス

○裁判所構成法戰時特例

（昭和十七年二月二十四日法律第六十二號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國議會ノ協贊ヲ經タル裁判所構成法戰時特例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

裁判所構成法戰時特例

第一條　戰時ニ於ケル裁判所構成法ノ特例ハ本法ノ定ムル所ニ依ル

第二條　戰時刑事特別法第五條第一項竝ニ昭和五年法律第九號第二條及第三條ノ竊盜ノ罪ニ付テハ區裁判所其ノ裁判權ヲ有ス但シ豫審ヲ經ザルモノニ限ル

第三條　左ニ揭グル訴訟ノ第一審ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ズ

一　裁判所構成法第十四條第二ノ訴訟

二　民事訴訟法第六編ニ定ムル訴訟但シ同法第五百九十一條第三項（第六百二十條第一項ノ規定ニ依リ適用スル場合ヲ含ム）、第六百二十三條第一項及第六百四十七條第三項ノ訴訟ヲ除ク

前項ノ判決ニ對シテハ直接上告ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ訴訟ノ請求ニ附帶シテ果實、損害賠償、違約金又ハ費用ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ第一項ノ訴訟ト看做ス

第四條　左ニ揭グル罪ニ付言渡シタル第一審ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ズ

一　刑法第二編第七章ノ二、第三十六章及第三十九章、昭和五年法律第九號、戰時刑事特別法第一章、陸軍刑法第

二條ニ揭グル各條（第七十九條乃至第八十五條及第九十九條ヲ除ク）、海軍刑法第二條ニ揭グル各條（第七十八條乃至第八十五條及第百條ヲ除ク）、防空法、食糧管理法竝ニ言論、出版、集會、結社等臨時取締法第十七條及第十八條ノ罪

二　刑法第七十四條及第七十六條、國家總動員法（第四十四條ヲ除ク）、昭和十二年法律第九十二號、外國爲替管理法、軍機保護法（第二條乃至第七條及此等ニ關スル第十五條乃至第十七條ヲ除ク）、軍用資源祕密保護法（第十一條乃至第十五條及第十九條ヲ除ク）、要塞地帶法、國境取締法、陸軍輸送港域軍事取締法、軍用電氣通信法、陸軍刑法第七十九條乃至第八十五條及第九十九條、海軍刑法第七十八條乃至第八十五條及第百條、大正十五年法律第六十號竝ニ不穩文書臨時取締法ノ罪但シ此等ノ罪ニシテ外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ犯シタルモノヲ除ク

前項ノ判決ニ對シテハ直接上告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ上告ハ第二審ノ判決ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得ル理由アル場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

上告裁判所ハ第二審ノ判決ニ對スル上告事件ニ關スル手續ニ依リ裁判ヲ爲スベシ

第五條　前二條ノ第一審ノ判決ニシテ區裁判所ノ爲シタルモノニ對スル上告ニ付テハ控訴院其ノ裁判權ヲ有ス

前項ノ判決ニ付區裁判所ノ爲シタル上告棄却ノ決定ニ對スル抗告ニ付亦前項ニ同ジ

控訴院ノ上告審トシテ爲シタル決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ズ

裁判所構成法第四十八條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條　控訴院ガ上告裁判所タル場合ニ於テ法律ノ同一ノ點ニ付曾テ大審院又ハ上告裁判所タル控訴院ノ爲シタル判決ト相反スル意見アルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ大審院ニ移送スルコトヲ要ス

前項ノ決定アリタルトキハ訴訟ノ上告ヲ爲シタル時ヨリ大審院ニ繫屬シタルモノト看做ス

第七條　民事ニ付抗告裁判所ノ爲シタル決定ニ對シテハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ズ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十七年勅令第百六十六號ヲ以テ同年三月二十一日ヨリ施行）

本法ハ本法施行前裁判所ノ受理シタル訴訟ニ付テハ之ヲ適用セズ

第二條ノ規定ハ本法施行前犯シタル昭和十六年法律第九十八號第二條第一項ノ竊盜ノ罪ニ關スル事件ニシテ本法施行後公訴ヲ提起スルモノニ付、第四條乃至第六條ノ規定ハ本法施行前犯シタル昭和十六年法律第九十八號ノ罪ニ關スル事件ニシテ本法施行後公訴ヲ提起スルモノニ付亦之ヲ適用ス

戰時終了ノ際ニ於テ必要ナル經過規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○戰時ニ於ケル領事官ノ裁判ノ特例ニ關スル法律（昭和十七年二月二十四日 法律第六十五號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル戰時ニ於ケル領事官ノ裁判ノ特例ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　戰時ニ於ケル領事官ノ裁判ニ關スル特例ハ本法ノ定ムル所ニ依ル

第二條　領事官ハ明治三十二年法律第七十號第八條ノ規定ニ拘ラズ死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル罪ニ付公判ヲ爲スコトヲ得但シ豫審ヲ經ザルモノニ限ル

第三條　裁判所構成法戰時特例第五條ノ控訴院ハ領事官ノ爲シタル判決ニ對スル上告及上告棄却ノ決定ニ對スル抗告ニ付テハ之ヲ長崎控訴院トス但シ中華民國福建省、廣東省、廣西省及雲南省ニ駐在スル領事官ノ爲シタル判決ニ對スル上告及上告棄却ノ決定ニ對スル抗告ニ付テハ之ヲ臺灣總督府高等法院覆審部トス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十七年勅令第百七十三號ヲ以テ同年三月二十一日ヨリ施行）

本法ハ本法施行前領事官ノ受理シタル訴訟ニ付テハ之ヲ適用セズ

戰時終了ノ際ニ於テ必要ナル經過規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○戰時民事特別法（昭和十七年二月二十四日 法律第六十三號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル戰時民事特別法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

戰時民事特別法

第一章　通　則

第一條　戰時ニ於ケル民事ニ關スル特例ハ本法ノ定ムル所ニ依ル

第二條　戰爭ニ起因スル避クベカラザル障碍ニ因リ期間ヲ遵守スルコト能ハザル場合ニ於テハ其ノ期間ヲ伸長ス但シ他ノ法令ニ定アルモノニ付テハ其ノ定ニ從フ

前項ノ規定ニ依リテ伸長セラレタル期間ハ障碍ノ止ミタル時ヨリ一週間ノ經過ニ依リテ滿了ス

第三條　裁判所ガ官報及新聞紙ヲ以テ爲スベキ公告ハ官報ノミヲ以テ之ヲ爲ス

第二章　民事訴訟

第四條　裁判所適當ト認ムルトキハ土地ノ管轄ニ關スル規定ニ拘ラズ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ訴訟ノ全部若ハ一部ヲ他ノ裁判所ニ移送シ又ハ自ラ裁判ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ訴ニ付專屬管轄ノ定アル場合ニハ之ヲ適用セズ

第五條　裁判所構成法戰時特例第三條第一項ノ訴訟ノ請求ガ他ノ請求ト併セ一ノ訴ヲ以テ提起セラレタル場合ニ於テハ裁判所ハ口頭辯論ヲ分離スルコトヲ要ス

第六條　裁判所特ニ必要アリト認ムルトキハ攻擊又ハ防禦ノ方法ヲ提出スベキ期間ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ期間經過後ニ於テハ攻擊又ハ防禦ノ方法ハ裁判所ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得ズ

第一審ニ於テ前項ノ規定ニ依リテ主張スルコトヲ得ザリシ攻擊又ハ防禦ノ方法ハ裁判所ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ控訴審ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得ズ

第七條　裁判所ハ機密ノ保持其ノ他公益上ノ理由ニ依リ訴訟記錄ノ謄寫又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ相當ナラズト認ムルトキハ之ヲ禁止スルコトヲ得

第八條　期日ニ於ケル呼出ハ民事訴訟法第百五十四條ニ定ムル方法以外ノ相當ト認ムル方法ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ期日ニ出頭セザル當事者、證人又ハ鑑定人ニ對シ法律上ノ制裁其ノ他期日ノ懈怠ニ依ル不利益ヲ歸スルコトヲ得ズ

第九條　裁判所相當ト認ムルトキハ證人又ハ鑑定人ノ訊問ニ代ヘ書面ノ提出ヲ爲サシムルコトヲ得

第十條　民事訴訟法第三百五十九條ノ規定ハ裁判所構成法戰時特例第三條第一項ノ判決ニハ之ヲ適用セズ

第十一條　債務者ガ戰爭ノ影響ニ因リ債務ヲ履行スルコト困難ナル場合ニ於テ債務者ガ誠實ニシテ債務履行ノ意思アリ且債權者ノ經濟ニ甚シキ影響ヲ及ボサザルモノト認ムベキ顯著ナル事由アルトキハ裁判所ハ債務者ノ申立ニ依リ擔保ヲ供セシメ又ハ供セシメズシテ强制執行ノ一時ノ停止又ハ既ニ爲シタル執行處分ノ取消ヲ命ズルコトヲ得

民事訴訟法第五百七十條ノ二第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三章　破產及和議

第十二條　破產ノ原因タル事實ガ戰爭ノ影響ニ因リテ生ジタル場合ニ於テ債務者ガ誠實ニシテ債務履行ノ意思アリ且債權者一般ノ利益ヲ甚シク害セズト認ムベキ顯著ナル事由アルトキハ裁判所ハ破產ノ宣告前ニ限リ債務者ノ申立ニ依リ破產手續ヲ中止スルコトヲ得

民事訴訟法第五百七十條ノ二第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條　强制和議ノ條件ガ各破產債權者ニ付平等ナラザルトキト雖モ裁判所ハ債權ノ額其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シ債權者間ニ差等ヲ設クルモ衡平ヲ害セザルモノト認ムルトキハ强制和議認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ和議法ニ依ル和議開始ノ決定及和議認可ノ決定ニ之ヲ準用ス

第四章　調停

第十四條　民事ニ關シ紛爭ヲ生ジタルトキハ當事者ハ相手方ノ住所、居所、營業所若ハ事務所ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ當事者ノ合意ニ依リテ定ムル地方裁判所若ハ區裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ他ノ法律ニ定アルモノニ付テハ其ノ定ニ從フ

第十五條　裁判所其ノ管轄ニ屬セザル事件ニ付申立ヲ受ケタルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ管轄裁判所ニ移送スルコトヲ要ス但シ事件ノ處理上適當ト認ムルトキハ之ヲ他ノ地方裁判所若ハ區裁判所ニ移送シ又ハ自ラ處理スルコトヲ妨ゲズ

裁判所其ノ管轄ニ屬スル事件ニ付申立ヲ受ケタルトキト雖モ事件ノ處理上適當ト認ムルトキハ決定ヲ以テ之ヲ他ノ地方裁判所又ハ區裁判所ニ移送スルコトヲ得

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ズ

第十六條　受訴裁判所適當ト認ムルトキハ事件ヲ調停ニ付シ自ラ調停ニ依リテ之ヲ處理スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ調停主任タル判事ハ受訴裁判所之ヲ指定ス

第十七條　調停ハ特ニ必要アリト認ムルトキハ適當ノ場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第十八條　借地借家調停法第二條、第四條ノ二、第六條、第八條乃至第二十三條、第二十六條乃至第三十一條及第三十二條第一項、金錢債務臨時調停法第五條乃至第十條並ニ人事調停法第六條及第十條ノ規定ハ第十四條ノ調停ニ之ヲ準用ス

第十九條　第十六條及第十七條ノ規定ハ他ノ法律ニ依ル調停ニ之ヲ準用ス

金錢債務臨時調停法第七條乃至第十條ノ規定ハ借地借家調停法及商事調停法ニ依ル調停ニ之ヲ準用ス

人事調停法第六條及第十條ノ規定ハ借地借家調停法、小作調停法（農地調整法第十三條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）、商事調停法及金錢債務臨時調停法ニ依ル調停ニ之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十七年勅令第百六十八號ヲ以テ同年三月二十一日ヨリ施行）

第五條及第十條ノ規定ハ本法施行前裁判所ノ受理シタル訴訟ニ付テハ之ヲ適用セズ

戰時終了ノ際ニ於テ必要ナル經過規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○戰時民事特別法ニ依ル調停ノ手數料ニ關スル件

（昭和十七年三月十四日　勅令第百七十號）

朕戰時民事特別法ニ依ル調停ノ手數料ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

大正十一年勅令第三百三十九號ハ戰時民事特別法ニ依ル調停ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ戰時民事特別法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十七年三月二十一日ヨリ施行）

○戰時刑事特別法

（昭和十七年二月二十四日　法律第六十四號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル戰時刑事特別法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

戰時刑事特別法

第一章　罪

第一條　戰時ニ際シ燈火管制中又ハ敵襲ノ危險其ノ他人心ニ動搖ヲ生ゼシムベキ狀態アル場合ニ於テ火ヲ放チテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、自動車、艦船、航空機若ハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ懲役ニ處ス

戰時ニ際シ燈火管制中又ハ敵襲ノ危險其ノ他人心ニ動搖ヲ生ゼシムベキ狀態アル場合ニ於テ火ヲ放チテ現ニ人ノ住居

ニ使用セズ又ハ人ノ現在セザル建造物、汽車、電車、自動車、艦船、航空機若ハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス但シ公共ノ危險ヲ生ゼザルトキハ之ヲ罰セズ

第一項及第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一項又ハ第二項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ通謀ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二條　戰時ニ際シ燈火管制中又ハ敵襲ノ危險其ノ他人心ニ動搖ヲ生ゼシムベキ狀態アル場合ニ於テ火ヲ放チテ前條第一項及第二項ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生ゼシメタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第三條　第一條第二項及前條第一項ニ記載シタル物自己ノ所有ニ係ルトキト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若ハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同ジ

第四條　戰時ニ際シ燈火管制中又ハ敵襲ノ危險其ノ他人心ニ動搖ヲ生ゼシムベキ狀態アル場合ニ於テ刑法第百七十六條若ハ同條ノ例ニ依ル同法第百七十八條ノ罪又ハ此等ニ關スル同法第百七十九條ノ罪ヲ犯シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處シ同法第百七十七條若ハ同條ノ例ニ依ル同法第百七十八條ノ罪又ハ此等ニ關スル同法第百七十九條ノ罪ヲ犯シタル者ハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ傷害ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

刑法第八十條ノ規定ハ第一項ノ罪ニ付テハ之ヲ適用セズ

第五條　戰時ニ際シ燈下管制中又ハ敵襲ノ危險其ノ他人心ニ動搖ヲ生ゼシムベキ狀態アル場合ニ於テ刑法第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條若ハ第二百三十九條ノ罪又ハ此等ニ關スル同法第二百四十三條ノ罪ヲ犯シタル者竊盜ヲ以テ論ズベキトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役、强盜ヲ以テ論ズベキトキハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ懲役ニ處ス

戰時ニ際シ燈火管制中又ハ敵襲ノ危險其ノ他人心ニ動搖ヲ生ゼシムベキ狀態アル場合ニ於テ刑法第二百四十條前段若ハ第二百四十一條前段ノ罪又ハ此等ニ關スル同法第二百四十三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處シ同法第二百四十一條後段若ハ第二百四十一條後段ノ罪又ハ此等ニ關スル同法第二百四十三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ死刑ニ處ス

第一項ノ强盜ヲ爲ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ通謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第六條　戰時ニ際シ燈火管制中又ハ敵襲ノ危險其ノ他人心ニ動搖ヲ生ゼシムベキ狀態アル場合ニ於テ刑法第二百四十九條ノ罪又ハ之ニ關スル同法第二百五十條ノ罪ヲ犯シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第七條　戰時ニ際シ國政ヲ變亂スルコトヲ目的トシテ人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第一項ノ罪ヲ犯スコトヲ敎唆シ又ハ幫助シタル者ハ被敎唆

者又ハ被幫助者其ノ實行ヲ爲スニ至ラザルトキハ二年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第一項ノ罪ヲ犯サシムル爲他人ヲ煽動シタル者ノ罰亦前項ニ同ジ

第三項乃至前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除ス

第八條　戰時ニ際シ防空ノ實施ニ從事スル公務員ノ當該職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第九條　戰時ニ際シ刑法第百六條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　首魁ハ死刑又ハ無期若ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

二　他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

三　附和隨行シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

戰時ニ際シ暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルモ仍解散セザルトキハ首魁ハ十年以下ノ懲役ニ處シ其ノ他ノ者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條　戰時ニ際シ公共ノ防空ノ爲ノ建造物、工作物其ノ他ノ設備ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公共ノ防空ノ妨害ヲ生ゼシメタル者ハ死刑又ハ無期若ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

戰時ニ際シ氣象ノ觀測ノ爲ノ建造物、工作物其ノ他ノ設備ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ氣象ノ觀測ノ妨害ヲ生ゼシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第十一條　戰時ニ際シ郵便又ハ電氣通信ノ用ニ供スル建造物、工作物其ノ他ノ設備ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公共ノ通信ノ妨害ヲ生ゼシメタル者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

第十二條　戰時ニ際シ瓦斯又ハ電氣ノ用ニ供スル建造物、工作物其ノ他ノ設備ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ瓦斯又ハ電氣ノ公共ノ利用ノ妨害ヲ生ゼシメタル者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

第十三條　戰時ニ際シ國防上重要ナル生產事業ノ設備其ノ他當該生產ノ用ニ供スル物ヲ損壞若ハ隱匿シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ其ノ物ノ效用ヲ害シ當該事業ノ遂行ノ妨害ヲ生ゼシメタル者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

第十四條　前四條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十五條　戰時ニ際シ業務上不正ノ利益ヲ得ル目的ヲ以テ生活必需品ノ買占又ハ賣惜ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第十六條　戰時ニ際シ刑法第百二十四條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

戰時ニ際シ刑法第百二十五條ノ罪ヲ犯シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

戰時ニ際シ刑法第百二十六條第一項又ハ第二項ノ罪ヲ犯シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ七年以上ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ

死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

第二項ノ罪ヲ犯シ因テ刑法第百二十七條ニ定ムル結果ヲ生ゼシメタル者亦前項ノ例ニ同ジ

第一項前段、第二項及第三項前段ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十七條　戰時ニ際シ刑法第百三十條ノ罪ヲ犯シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十八條　戰時ニ際シ刑法第百四十三條又ハ第百四十四條ノ罪ヲ犯シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

戰時ニ際シ刑法第百四十六條前段ノ罪ヲ犯シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ七年以上ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

戰時ニ際シ刑法第百四十七條ノ罪ヲ犯シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第一項前段、第二項前段及前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二項前段ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ通謀ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二章　刑事手續

第十九條　戰時ニ於ケル刑事手續ニ關スル特例ハ本章ノ定ムル所ニ依ル但シ第二十條ノ規定ハ裁判所構成法戰時特例第四條第一項ニ掲グル罪竝ニ刑法第七十三條、第七十五條及第二編第二章ノ罪ニ關スル事件ニ限リ之ヲ適用ス

第二十條　辯護人ノ數ハ被告人一人ニ付二人ヲ超ユルコトヲ得ズ

辯護人ノ選任ハ最初ニ定メタル公判期日ニ係ル召喚狀ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テ裁判所ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十一條　辯護人ハ訴訟ニ關スル書類ノ謄寫ヲ爲サントスルトキハ裁判長又ハ豫審判事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

辯護人ノ訴訟ニ關スル書類ノ閲覽ハ裁判長又ハ豫審判事ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ爲スベシ

第二十二條　裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ハ機密ノ保持其ノ他公益上ノ理由ニ依リ裁判所ニ於テ之ヲ被告人其ノ他訴訟關係人ニ交付セザルコトヲ得

認ムルトキハ之ヲ交付セザルコトヲ相當ナラズト

第二十三條　豫審判事ハ商工會議所其ノ他ノ團體ニ對シ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

裁判所ハ公判期日前前項ノ團體ニ對シ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

刑事訴訟法第三百四十二條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ集取シタルモノニ付之ヲ準用ス

第二十四條　刑事訴訟法第三百三十四條ノ規定ハ第五條第一項竝ニ昭和五年法律第九號第二條及第三條ノ竊盜ノ罪ニ關スル事件ニ付テハ之ヲ適用セズ

第二十五條　地方裁判所ノ事件ト雖モ刑事訴訟法第三百四十三條第一項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セズ

第二十六條　有罪ノ言渡ヲ爲スニ當リ證據ニ依リテ罪ト爲ルベキ事實ヲ認メタル理由ヲ說明シ法令ノ適用ヲ示スニハ證據ノ標目及法令ヲ揭グルヲ以テ足ル

第二十七條　國防保安法第三十四條第二項ノ規定ニ依リ上告裁判所原判決ヲ破毀スル場合ニ於テ其ノ事件裁判所構成法戰時特例第四條第一項第二號ニ揭グル罪ニ關スルモノナルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ事實ノ審理ヲ爲スベキ旨ヲ言渡スベシ

裁判所構成法戰時特例第四條第一項第二號ニ揭グル罪ヲ犯シタルモノト認メタル第一審判決ニ對シ控訴院ニ上告アリタル場合ニ於テ其ノ罪ガ外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ犯サレタルモノナルコトヲ疑フニ足ルベキ顯著ナル事由アルモノト認ムルトキハ控訴院ハ決定ヲ以テ事件ヲ大審院ニ移送スベシ此ノ場合ニ於テハ事件ハ上告ヲ爲シタル時ヨリ大審院ニ繫屬シタルモノト看做ス

第二十八條　上告裁判所訴訟記錄ノ送付ヲ受ケタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ上告申立人及對手人ニ通知スベシ

上告申立人ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ上告趣意書ヲ上告裁判所ニ差出スベシ

上告ノ對手人ハ第一項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ附帶上告ヲ爲スコトヲ得

刑事訴訟法第四百二十二條、第四百二十三條及第四百二十四條第一項ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第二十九條　上告裁判所上告趣意書其ノ他ノ書類ニ依リ上告ノ理由ナキコト明白ナリト認ムルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ辯論ヲ經ズシテ判決ヲ以テ上告ヲ棄却スルコトヲ得

第三十條　刑事手續ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外一般ノ規定ノ適用アルモノトス

第三十一條　第二十一條乃至第二十四條、第二十六條及前條ノ規定ハ軍法會議ノ刑事手續ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ刑事訴訟法第三百四十二條トアルハ陸軍軍法會議法第三百八十八條又ハ海軍軍法會議法第三百九十條トシ刑事訴訟法第三百三十四條トアルハ陸軍軍法會議法第三百六十七條又ハ海軍軍法會議法第三百六十九條トス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十七年勅令第百七十一號ヲ以テ同年三月二十一日ヨリ施行）

昭和十六年法律第九十八號ハ之ヲ廢止ス

第二十條及第二十四條乃至第二十九條（第二十四條及第二十六條ニ付テハ第三十一條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ハ本法施行前公訴ヲ提起シタル事件ニ付テハ之ヲ適用セズ

戰時終了ノ際ニ於テ必要ナル經過規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

昭和十六年法律第九十八號ニ違反シタル者ノ處罰ニ付テハ仍舊法ニ依ル

○言論、出版、集會、結社等臨時取締法

（昭和十六年十二月十九日　法律第九十七號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル言論、出版、集會、結社等臨時取締法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

言論、出版、集會、結社等臨時取締法

第一條　本法ハ戰時ニ際シ言論、出版、集會、結社等ノ取締ヲ適正ナラシメ以テ安寧秩序ヲ保持スルコトヲ目的トス

第二條 政事ニ關スル結社ヲ組織セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ發起人ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ

第三條 政事ニ關シ集會ヲ開カントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ發起人ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ但シ法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員候補者タルベキ者ヲ銓衡スル爲ノ集會及選擧運動ノ爲ニスル集會竝ニ公衆ヲ會同セザル集會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ發起人ニ於テ行政官廳ニ屆出ヅルヲ以テ足ル

第四條 公事ニ關スル結社又ハ集會ニシテ政事ニ關セザルモノト雖モ必要アル場合ニ於テハ命令ヲ以テ前二條ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得

第五條 屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ又ハ多衆運動セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ發起人ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ヲ以テ定メタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員議事準備ノ爲相團結スルモノニ付テハ第二條ノ規定ヲ、議事準備ノ爲相會同スルモノニ付テハ第三條ノ規定ヲ適用セズ

第七條 新聞紙法ニ依ル出版物ヲ發行セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ

第八條 行政官廳必要アリト認ムルトキハ第二條乃至第五條若ハ前條ノ規定ニ依ル許可ヲ取消シ又ハ第三條若ハ第四條ノ規定ニ依リ屆出デタル集會ノ禁止ヲ命ズルコトヲ得

第九條 出版物ノ發賣及頒布ノ禁止アリタル場合ニ於テ行政官廳必要アリト認ムルトキハ當該題號ノ出版物ノ以後ノ發行ヲ停止シ又ハ同一人若ハ同一社ノ發行ニ係ル他ノ出版物ノ發行ヲ停止スルコトヲ得

第十條 第七條ノ規定又ハ前條ノ規定ニ依リ停止ノ命令ニ違反シテ發賣又ハ頒布スルノ目的ヲ以テ印刷シタル出版物ハ行政官廳ニ於テ之ヲ差押フルコトヲ得

第十一條 第二條ノ規定（第四條ノ規定ニ基キ依ラシメタル場合ヲ含ム）ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 第三條ノ規定（第四條ノ規定ニ基キ依ラシメタル場合ヲ含ム）又ハ第五條ノ規定ニ違反シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 第九條ノ規定ニ依ル停止ノ命令アリタル出版物ヲ發行シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第十條ノ規定ニ依ル差押處分ノ執行ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 前三條ノ罪ニハ刑法併合罪ノ規定ヲ適用セズ

第十七條 時局ニ關シ造言飛語ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 時局ニ關シ人心ヲ惑亂スベキ事項ヲ流布シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十六年勅令第千百七十七號ヲ以テ同年十二月二十一日ヨリ施行）

本法施行ノ際現ニ存スル政事ニ關スル結社（第六條前段ノ規定ニ該當スルモノヲ除ク）又ハ第四條ノ命令施行ノ際現ニ存スル當該命令ニ係ル公事ニ關スル結社ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ存續ニ付主幹者ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ

第八條ノ規定ハ前項ノ許可ニ、第十一條ノ規定ハ同項ノ規定ニ違反シタル者ニ之ヲ準用ス

集會又ハ多衆運動ニシテ第三條又ハ第五條ノ規定ニ依リ許可又ハ屆出ヲ要スルモノニ付テハ本法施行後三日以內ニ行フモノニ限リ仍從前ノ例ニ依ル

本法施行ノ際現ニ成規ノ手續ヲ經テ新聞紙法ニ依ル出版物ヲ發行スル者ハ第七條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケタル者ト看做ス

○臨時郵便取締令（昭和十六年十月四日 緊急勅令第八百九十一號）

朕玆ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條第一項ニ依リ臨時郵便取締令ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

臨時郵便取締令

第一條 遞信大臣ハ戰時（戰爭ニ準ズベキ事變ノ場合ヲ含ム以下同ジ）ニ際シ國防上ノ利益ヲ保護スル爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ郵便物ノ差出ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第二條 遞信大臣ハ戰時ニ際シ國防上ノ利益ヲ保護スル爲必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ左ニ掲グル郵便物以外ノ郵便物ヲ檢閱セシムルコトヲ得

一 帝國ノ官衙（陸海軍ノ部隊及學校ヲ含ム以下同ジ）ヨリ發スル郵便物ニシテ所定ノ表示ヲ爲シタルモノ及帝國ノ官衙ニ宛テ發スル郵便物

二 內國通常郵便物ノ中封緘シタル書狀及封緘葉書（本令施行地外ニ在ル者ニ傳達シ又ハ本令施行地外ニ在ル者ヨリ傳達セラレタル通信又ハ物ヲ內容トスル疑アリト認メラルルモノヲ除ク）

第三條 遞信大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ郵便物ノ差出人又ハ受取人ヲシテ本令ニ依ル郵便取締上必要ナル證明、記載其ノ他ノ行爲ヲ爲サシムルコトヲ得

第四條 遞信大臣ハ檢閱ニ付シタル郵便物ニシテ國防上ノ利益ヲ害シ若ハ害スル虞アリト認メラルルモノ又ハ記載事項ノ內容明ナラザルモノノ送達ヲ停止スルコトヲ得

第五條 第一條ノ規定ニ依ル郵便物差出ノ禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス第三條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シ虛僞ノ申立ヲ爲シタル者亦同ジ

第六條 本令ニ依ル郵便取締ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ職務執行ニ關シ知得シタル信書ノ祕密ヲ漏泄シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第七條 本令中遞信大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ滿洲國駐劄特命全權大使、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○國家總動員法（昭和十三年四月一日 法律第五十五號）

改正　昭和一四年第六八號、昭和一六年第一九號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル國家總動員法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

國家總動員法

第一條　本法ニ於テ國家總動員トハ戰時（戰爭ニ準ズベキ事變ノ場合ヲ含ム以下之ニ同ジ）ニ際シ國防目的達成ノ爲國ノ全力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル樣人的及物的資源ヲ統制運用スルヲ謂フ

第二條　本法ニ於テ總動員物資トハ左ニ揭グルモノヲ謂フ

一　兵器、艦艇、彈藥其ノ他ノ軍用物資
二　國家總動員上必要ナル被服、食糧、飲料及飼料
三　國家總動員上必要ナル醫藥品、醫療機械器具其ノ他ノ衞生用物資及家畜衞生用物資
四　國家總動員上必要ナル船舶、航空機、車輛、馬其ノ他ノ輸送用物資
五　國家總動員上必要ナル通信用物資
六　國家總動員上必要ナル土木建築用物資及照明用物資
七　國家總動員上必要ナル燃料及電力
八　前各號ニ揭グルモノノ生產、修理、配給又ハ保存ニ要スル原料、材料、機械器具、裝置其ノ他ノ物資
九　前各號ニ揭グルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定スル國家總動員上必要ナル物資

第三條　本法ニ於テ總動員業務トハ左ニ揭グルモノヲ謂フ

一　總動員物資ノ生產、修理、配給、輸出、輸入又ハ保管ニ關スル業務
二　國家總動員上必要ナル運輸又ハ通信ニ關スル業務
三　國家總動員上必要ナル金融ニ關スル業務
四　國家總動員上必要ナル衞生、家畜衞生又ハ救護ニ關スル業務
五　國家總動員上必要ナル教育訓練ニ關スル業務
六　國家總動員上必要ナル試驗研究ニ關スル業務
七　國家總動員上必要ナル情報又ハ啓發宣傳ニ關スル業務
八　國家總動員上必要ナル警備ニ關スル業務
九　前各號ニ揭グルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定スル國家總動員上必要ナル業務

第四條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民ヲ徵用シテ總動員業務ニ從事セシムルコトヲ得但シ兵役法ノ適用ヲ妨ゲズ

第五條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民及帝國法人其ノ他ノ團體ヲシテ國、地方公共團體又ハ政府ノ指定スル者ノ行フ總動員業務ニ付協力セシムルコトヲ得

第六條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ從業者ノ使用、雇入若ハ解雇、就職、從業若ハ退職又ハ賃金、給料其ノ他ノ從業條件ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第七條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ勞働爭議ノ豫防若ハ解決ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ作業所ノ閉鎖、作業若ハ勞務ノ中止其ノ他ノ勞働爭議ニ關スル行爲ノ制限若ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第八條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ物資ノ生產、修理、配給、讓渡其ノ他ノ處分、使用、消費、所持及移動ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第九條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ輸出若ハ輸入ノ制限若ハ禁止ヲ爲シ、輸出若ハ輸入ヲ命ジ、輸出稅若ハ輸入稅ヲ課シ又ハ輸出稅若ハ輸入稅ヲ增課若ハ減免スルコトヲ得

第十條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ヲ使用若ハ收用シ又ハ總動員業務ヲ行フ者ヲシテ之ヲ使用若ハ收用セシムルコトヲ得

第十一條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會社ノ設立、資本ノ增加、合併、目的變更、社債ノ募集若ハ第二回以後ノ株金ノ拂込ニ付制限若ハ禁止ヲ爲シ、會社ノ利益金ノ處分、償却其ノ他經理ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ銀行、信託會社、保險會社其ノ他勅令ヲ以テ指定スル者ニ對シ資金ノ運用、債務ノ引受若ハ債務ノ保證ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十二條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ總動員業務タル事業ヲ營ム會社ノ當該事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲ノ社債ノ募集ニ付商法第二百九十七條ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十三條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル事業ニ屬ズル工場、事業場、船舶其ノ他ノ施設又ハ之ニ轉用スルコトヲ得ル施設ノ全部又ハ一部ヲ管理、使用又ハ收用スルコトヲ得

政府ハ前項ニ揭グルモノヲ使用又ハ收用スル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ從業者ヲ供用セシメ又ハ當該施設ニ於テ現ニ實施スル特許發明若ハ登錄實用新案ヲ實施スルコトヲ得

政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務ニ必要ナル土地若ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ管理、使用若ハ收用シ又ハ總動員業務ヲ行フ者ヲシテ之ヲ使用若ハ收用セシムルコトヲ得

第十四條　政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ鑛業權、砂鑛權及水ノ使用ニ關スル權利ヲ使用若ハ收用シ又ハ總動員業務ヲ行フ者ヲシテ特許發明及登錄實用新案ヲ實施セシメ若ハ鑛業權、砂鑛權及水ノ使用ニ關スル權利ヲ使用セシムルコトヲ得

第十五條　前二條ノ規定ニ依リ政府ノ收用シタルモノ不用ニ歸シタル場合ニ於テ收用シタル時ヨリ十年內ニ拂下グルト

キ又ハ第十三條第三項ノ規定ニ依リ總動員業務ヲ行フ者ノ收用シタルモノ收用シタル時ヨリ十年內ニ不用ニ歸シタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ舊所有者若ハ舊權利者又ハ其ノ一般承繼人ハ優先ニ之ヲ買受クルコトヲ得

第十六條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良ヲ制限若ハ禁止シ又ハ總動員業務タル事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良ヲ命ズルコトヲ得

第十六條ノ二 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業ニ屬スル設備又ハ權利ノ讓渡其ノ他ノ處分、出資、使用又ハ移動ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十六條ノ三 政府ノ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業ノ開始、委託、共同經營、讓渡、廢止若ハ休止又ハ法人ノ目的變更、合併若ハ解散ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十七條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ同種若ハ異種ノ事業ノ事業主間ニ於ケル當該事業ニ關スル統制協定ノ設定、變更若ハ取消ヲ命ジ又ハ統制協定ノ加盟者若ハ其ノ統制協定ニ加盟セザル事業主ニ對シ其ノ統制協定ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十八條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ同種若ハ異種ノ事業主又ハ其ノ團體ニ對シ當該事業ノ統制又ハ統制ノ爲ニスル經營ヲ目的トスル團體又ハ會社ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ命令ニ依リ設立セラルル團體ハ法人トス

第一項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者其ノ設立ヲ爲サザルトキハ政府ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ團體成立シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ當該團體ノ構成員タル資格ヲ有スル者ヲシテ其ノ團體ノ構成員タラシムルコトヲ得

政府ハ第一項ノ團體ニ對シ其ノ構成員（其ノ構成員ノ構成員ヲ含ム以下之ニ同ジ）ノ事業ニ關スル統制規程ノ設定、變更若ハ廢止ニ付認可ヲ受ケシメ、統制規程ノ設定若ハ變更ヲ命ジ又ハ其ノ構成員若ハ構成員タル資格ヲ有スル者ニ對シ團體ノ統制規程ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

第一項ノ團體又ハ會社ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條ノ二 第十六條ノ二ノ規定ニ依リ設備若ハ權利ノ讓渡若ハ出資ヲ命ジ又ハ第十六條ノ三ノ規定ニ依リ事業ノ讓渡ヲ命ジタル場合ニ於テ讓渡者又ハ出資者ノ負擔スル債務ノ承繼及其ノ擔保ノ處理ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條ノ三 第十六條ノ二ノ規定ニ依ル設備若ハ權利ノ讓渡若ハ出資、第十六條ノ三ノ規定ニ依ル事業ノ讓渡若ハ法人ノ合併又ハ第十八條第一項若ハ第三項ノ規定ニ依リ設立セラルル團體若ハ會社ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ課稅標準ノ計算ニ關スル特例ヲ設ケ又ハ租稅ノ減免ヲ爲スコトヲ得

第十九條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ價格、運送賃、保管料、保險料、賃貸料、加工賃、修繕料其ノ他ノ財產的給付ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ新聞紙其ノ他ノ出版物ノ揭載ニ付制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

政府ハ前項ノ制限又ハ禁止ニ違反シタル新聞紙其ノ他ノ出版物ニシテ國家總動員上支障アルモノノ發賣及頒布ヲ禁止シ之ヲ差押フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ併セテ其ノ原版ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民及帝國臣民ヲ雇傭若ハ使用スル者ヲシテ帝國臣民ノ職業能力ニ關スル事項ヲ申告セシメ又ハ帝國臣民ノ職業能力ニ關シ檢査スルコトヲ得

第二十二條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ學校、養成所、工場、事業場其ノ他技能者ノ養成ニ適スル施設ノ管理者又ハ養成セラルベキ者ノ雇傭主ニ對シ國家總動員上必要ナル技能者ノ養成ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生產、販賣又ハ輸入ヲ業トスル者ヲシテ當該物資又ハ其ノ原料若ハ材料ノ一定數量ヲ保有セシムルコトヲ得

第二十四條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル事業ノ事業主又ハ戰時ニ際シ總動員業務ヲ實施セシムベキ者ヲシテ戰時ニ際シ實施セシムベキ總動員業務ニ關スル計畫ヲ設定セシメ又ハ當該計畫ニ基キ必要ナル演練ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十五條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ總動員物資ノ生產若ハ修理ヲ業トスル者又ハ試驗研究機關ノ管理者ニ對シ試驗研究ヲ命ズルコトヲ得

第二十六條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生產又ハ修理ヲ業トスル者ニ對シ豫算ノ範圍內ニ於テ一定ノ利益ヲ保證シ又ハ補助金ヲ交付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ政府ハ其ノ者ニ對シ總動員物資ノ生產若ハ修理ヲ爲サシメ又ハ國家總動員上必要ナル設備ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十七條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第八條、第十條、第十三條、第十四條若ハ第十六條ノ二ノ規定ニ依ル處分、第九條ノ規定ニ依ル輸出若ハ輸入ノ命令、第十一條ノ規定ニ依ル資金ノ融通、有價證券ノ應募、引受若ハ買入、債務ノ引受若ハ債務ノ保證ノ命令、第十六條ノ規定ニ依ル設備ノ新設、擴張若ハ改良ノ命令又ハ第十六條ノ三ノ規定ニ依ル事業ノ委託、讓渡、廢止若ハ休止若ハ法人ノ目的變更若ハ解散ノ命令ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス但シ第二項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

總動員業務ヲ行フ者ハ第十條、第十三條第三項又ハ第十四條ノ規定ニ依リ使用、收用又ハ實施ヲ爲ス場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償スベシ

第二十八條 政府ハ第二十二條、第二十三條又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ命令ヲ爲ス場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償シ又ハ補助金ヲ交付ス

第二十九條 前二條ノ規定ニ依ル補償ノ金額及第十五條ノ規定ニ依ル買受ノ價額ハ總動員補償委員會ノ議ヲ經テ政府之ヲ定ム

總動員補償委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條 政府ハ第二十六條又ハ第二十八條ノ規定ニ依リ利益ノ保證又ハ補助金ノ交付ヲ受クル事業ヲ監督シ之ガ爲必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

第三十一條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五萬圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第八條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

二 第十九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十二條 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル物ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵スルコトヲ得

第三十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第七條ノ規定ニ依ル命令又ハ制限若ハ禁止ニ違反シタル者

二 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ輸出又ハ輸入ヲ爲サザル者

三 第十條ノ規定ニ依ル總動員物資ノ使用又ハ收用ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

四 第十三條ノ規定ニ依ル施設、土地若ハ工作物ノ管理、使用若ハ收用又ハ從業者ノ供用ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

第三十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十一條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止又ハ命令ニ違反シタル者

二 第十六條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止又ハ命令ニ違反シタル者

三 第十六條ノ二ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

四 第十六條ノ三ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

五 第十七條若ハ第十八條第五項ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケズシテ統制協定若ハ統制規程ヲ設定、變更若ハ廢止シ又ハ第十七條若ハ第十八條第五項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

六 第二十三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ保有ヲ爲サザル者

七 第二十六條ノ規定ニ違反シ生產、修理又ハ設備ヲ爲サザル者

第三十五條 前四條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第三十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又

ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條ノ規定ニ依ル徵用ニ應ゼズ又ハ同條ノ規定ニ依ル業務ニ從事セザル者

二 第六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

二 第二十四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ計畫ノ設定又ハ演練ヲ爲サザル者

三 第二十五條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ試驗研究ヲ爲サザル者

第三十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十八條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ團體又ハ會社ノ設立ヲ爲サザル者

二 第十八條第六項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

三 第三十條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

四 第三十一條ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虛僞ノ報告ヲ爲シタル者

第三十九條 第二十條第一項ノ規定ニ依ル制限又ハ禁止ニ違反シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ發行人及編輯人、其ノ他ノ出版物ニ在リテハ發行者及著作者ヲ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

新聞紙ニ在リテハ編輯人以外ニ於テ實際編輯ヲ擔當シタル者及揭載ノ記事ニ署名シタル者亦前項ニ同ジ

第四十條 第二十條第二項ノ規定ニ依ル差押處分ノ執行ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 前二條ノ罪ニハ刑法併合罪ノ規定ヲ適用セズ

第四十二條 第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 第二十一條ノ規定ニ違反シテ申告ヲ怠リ又ハ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第四十四條 總動員業務ニ從事シタル者其ノ業務遂行ニ關シ知得シタル當該官廳指定ノ總動員業務ニ關スル官廳ノ機密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員又ハ其ノ職ニ在リタル者職務上知得シタル當該官廳指定ノ總動員業務ニ關スル官廳ノ機密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第四十五條 公務員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ノ規定ニ依ル職務執行ニ關シ知得シタル法人又ハ人ノ業務上ノ祕密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ事業ノ統制ヲ目的トシテ設立セラレタル團體又ハ會社其ノ他本法ニ依ル命令ニ依リ統制ヲ爲ス法人其ノ他ノ團體ノ役員若ハ使用人又ハ其ノ職ニ在リタル者其ノ業務執行ニ關シ知得シタル法人又ハ人ノ業務上ノ祕密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキ亦前項ニ同ジ

第四十六條 第十八條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ事業ノ統制ヲ目的トシテ設立セラレタル團體又ハ會社其ノ他本法

ニ依ル命令ニ依リ統制ヲ爲ス法人其ノ他ノ團體ノ役員又ハ使用人其ノ擔當スル統制事務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第四十七條 前條第一項ニ揭グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第四十八條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第三十一條ノ二乃至第三十四條、第三十六條第二號、第三十七條、第三十八條又ハ第四十三條前段ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ各本條ノ罰金刑又ハ科料刑ヲ科ス

第四十九條 前條ノ規定ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同ジ

本法ノ罰則ハ本法施行地外ニ於テ罪ヲ犯シタル帝國臣民ニモ之ヲ適用ス

第五十條 本法施行ニ關スル重要事項（軍機ニ關スルモノヲ除ク）ニ付政府ノ諮問ニ應ズル爲國家總動員審議會ヲ置ク

國家總動員審議會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十三年勅令第三百十五號ヲ以テ同年五月五日ヨリ施行）

軍需工業動員法及昭和十二年法律第八十八號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前軍需工業動員法ニ基キテ爲シタル命令又ハ處分ハ之ヲ本法中ノ相當規定ニ基キテ爲シタルモノト看做ス

軍需工業動員法ニ違反シタル者ノ處罰ニ付テハ仍舊法ニ依ル

附　則（昭和十六年法律第十九號附則）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十六年勅令第二百五號ヲ以テ同年三月二十日ヨリ施行）

○國家總動員法等ノ施行ノ統轄ニ關スル件

（昭和十四年九月三十日　勅令第六百七十二號）

朕國家總動員法等ノ施行ノ統轄ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 各省大臣又ハ朝鮮總督、臺灣總督、滿洲國駐劄特命全權大使、樺太廳長官若ハ南洋廳長官國家總動員法（關東州國家總動員令及昭和十三年勅令第三百十七號ヲ含ム以下之ニ同ジ）ノ施行ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ之ヲ廢止變更セントスルトキハ內閣總理大臣ニ協議スベシ

第二條 內閣總理大臣ハ關係各廳ニ對シ國家總動員法ノ施行ニ關スル事項ニ付統轄上必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律

（昭和十二年九月十日　法律第九十二號）

改正　昭和一三年第八五號、昭和一六年第二〇號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 政府ハ支那事變ニ關聯シ國民經濟ノ運行ヲ確保スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ物品ヲ指定シ輸出又ハ輸入ノ制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第二條 政府ハ支那事變ニ關聯シ國民經濟ノ運行ヲ確保スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ輸入ノ制限其ノ他ノ事由ニ因リ需給關係ノ調整ヲ必要トスル物品ニ付左ノ措置ヲ爲スコトヲ得

一　命令ノ定ムル所ニ依リ當該物品ヲ原料トスル製品ノ製造ニ關シ必要ナル事項ヲ命ジ又ハ制限ヲ爲スコト

二　當該物品又ハ之ヲ原料トスル製品ノ配給、讓渡、使用又ハ消費ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコト

第二條ノ二 前條ノ物品ノ需給ニ關係アル產業ヲ營ム者又ハ其ノ組織スル團體ハ當該物品ノ需給關係ヲ調整スル爲政府ノ認可ヲ受ケ需給調整協議會ヲ組織スルコトヲ得

前項ノ者需給調整協議會ヲ組織セザル場合ニ於テ政府支那事變ニ關聯シ國民經濟ノ運行ヲ確保スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ前項ノ者ニ對シ需給調整協議會ノ組織ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ組織ヲ命ゼラレタル者其ノ認可ヲ申請セザルトキハ政府ハ規約ノ作成其ノ他組織ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

需給調整協議會ノ成立アリタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員タル資格ヲ有スル者ハ其ノ會員トス

第二條ノ三 政府ハ支那事變ニ關聯シ國民經濟ノ運行ヲ確保スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ需給調整協議會ニ對シ當該物品ノ需給關係ノ調整ニ關シ必要ナル決定ヲ爲スベキコトヲ命ジ又ハ需給調整協議會ノ會員ニ對シ需給調整協議會ノ決定ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第二條ノ四 本法ニ定ムルモノノ外需給調整協議會及需給調整協議會ニ依ル需給關係ノ調整ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 政府ハ第一條ノ制限若ハ禁止又ハ第二條ノ命令若ハ處分ニ關係アル事項ニ付報告ヲ徵シ又ハ帳簿其ノ他ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

第四條 第一條ノ規定ニ依リテ爲ス制限又ハ禁止ニ違反シテ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テハ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル物品ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵スルコトヲ得

第五條 第二條ノ規定ニ依ル命令若ハ處分又ハ其ノ命令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ五萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條ノ二 前二條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第六條 第三條ノ規定ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虚僞ノ報告ヲ爲シ又ハ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ政府ニ提出スル許可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虚僞ノ記載ヲ爲シタル者亦同ジ

第七條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ第四條、第五條又ハ第六條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦第四條、第五條又ハ第六條ノ罰金刑ヲ科ス

第八條 前五條ノ罰則ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人又ハ其ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同ジ

第九條 本法ニ依ル命令ニ依リ統制ヲ爲ス法人其ノ他ノ團體ノ役員又ハ使用人其ノ擔當スル統制事務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

本條ノ罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

第十條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ支那事變終了後一年內ニ之ヲ廢止スルモノトス

附　則（昭和十六年法律第二十號附則）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十六年勅令第二百二十五號ヲ以テ同年三月二十日ヨリ施行）

○外國爲替管理法（昭和十六年四月十二日法律第八十三號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル外國爲替管理法改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

外國爲替管理法

第一條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

一　外國通貨又ハ外國爲替ノ取得又ハ處分

二　通貨若ハ外國通貨ノ輸出若ハ輸入、金地金、金ノ合金若ハ金ヲ主タル材料トスル物ノ輸出又ハ金貨幣ノ鑄潰若ハ毀傷

三　外國ヘノ送金ニシテ前二號ニ包含スル方法ニ依ラザルモノ

四　外國ニ於テ爲シタル委託ニ基キ又ハ外國居住者（法人ノ外國ニ在ル支店其ノ他ノ營業所ヲ含ム以下同ジ）ノ爲ニスル本邦內ニ於テ爲ス支拂又ハ其ノ受領

五　外國ニ於テ爲ス支拂ノ本邦內ニ於ケル委託

六　本邦居住者（法人ノ本邦內ニ在ル支店其ノ他ノ營業所ヲ含ム）ノ爲ニスル外國ニ於テ爲ス支拂又ハ其ノ受領

七　外國居住者ニ對スル債權ノ取立又ハ取立ノ依賴若ハ引受

八　外國居住者ノ爲ニスル債權ノ取立又ハ取立ノ依賴若ハ引受

九　外國居住者、本邦內ニ居住スル外國人（外國法人ノ本邦內ニ在ル支店其ノ他ノ營業所ヲ含ム）又ハ命令ノ定ムル本邦法人ノ本邦內ニ於テ爲ス財產（事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ム以下同ジ）ノ取得若ハ處分、預ケ金ノ引出又ハ貸出金ノ回收

十　前號ニ掲グル者ノ爲又ハ之ヲ相手方トスル本邦內ニ於テ爲ス前號ニ掲グル取引又ハ行爲

十一　外國爲替相場ノ取極

十二　外國通貨ヲ以テ表示スル證券（財產權ヲ證スル證書及帳簿ヲ含ム以下同ジ）、債權又ハ債務ノ取得又ハ處分

十三　本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ニ對スル債權又ハ債務ノ取得又ハ處分

十四　信用狀ノ發行又ハ取得

十五　外國居住者ニ信用ヲ與フル行爲

十六　證券ノ輸出又ハ輸入

十七　價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替ヲ取組マザル貨物ノ輸出又ハ輸入

十八　外國ニ在ル財產ニシテ第一號、第十二號又ハ第十三號ニ掲ゲザルモノノ取得又ハ處分

第二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ外國爲替ニ關スル取引ヲ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ヲ相手方トスル場合ニ限定スルコトヲ得

第三條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ニ掲グル財產ニ關シ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ニ對スル賣却其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

一　外國通貨又ハ外國爲替

二　外國通貨ヲ以テ表示スル證券若ハ債權又ハ本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ニ對スル債權

三　外國ニ在ル財產ニシテ前二號ニ掲ゲザルモノ

前項ノ規定ニ依リ政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ジタル場合ノ賣却價額ハ政府之ヲ定ム

第四條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ外國ヘノ送金、外國ヨリノ送金ノ受領其ノ他外國トノ間ニ於ケル債權債務ノ決濟又ハ外國ヨリ外國ヘノ送金其ノ他外國間ニ於ケル債權債務ノ決濟ニ關シ其ノ方法、條件其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第五條 政府ハ必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ、帳簿書類ノ備付ヲ命ジ、帳簿書類ノ記載方ヲ指定シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

關稅法第八十四條乃至第九十三條ノ規定ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ違反事件ニ付之ヲ準用ス但シ同法ニ定ムル職務ヲ行フ官吏ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ施行ニ關スル事務ノ一部ヲ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ事務ノ一部ヲ日本銀行ヲシテ取扱ハシメタル場合ニ於テ當該事務ノ取扱ニ要スル經費ハ日本銀行ノ負擔トス

第一項ノ場合ニ於テ當該事務ニ從事スル日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ノ職員ハ之ヲ法令ニ依リ公務ニ從事スル職員ト看做ス

第七條 第一條又ハ第二條ノ規定ニ基キテ發スル命令ヲ以テ規定スル取引又ハ行爲ノ禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス但シ當該取引又ハ行爲ノ目的物ノ價額ノ三倍ガ一萬圓ヲ超ユルトキハ罰金ハ當該價額ノ三倍以下トス

第一條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シ金貨幣、金地金、金ノ合金若ハ金ヲ主タル材料トスル物ヲ輸出スル目的ヲ以テ收得シ若ハ輸出セントシタル者又ハ通貨、外國通貨若ハ證券ヲ輸出若ハ輸入セントシタル者亦前項ニ同ジ

第八條 第三條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル外國通貨其ノ他ニ關シ必要ナル事項ヲ爲スベキ旨ノ政府ノ命ニ從ハザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ當該外國通貨其ノ他ノ價額ノ二倍以下ノ罰金ニ處ス

第九條 第四條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ從ハザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虛僞ノ報告ヲ爲シ、帳簿書類ノ備付ヲ爲サズ、之ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ、之ニ虛僞ノ記載ヲ爲シ、之ノ記載方ノ指定ニ從ハズ、業務狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ノ檢査ヲ拒ミ又ハ帳簿書類ノ隱蔽不實ノ申立其ノ他ノ方法ニ依リ檢査ヲ妨ゲタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ提出スル許可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者亦同ジ

第十一條 本法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ爲ス處分ニ附シタル條件ニ違反シタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ第七條乃至前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦第七條乃至前條ノ罰金刑ヲ科ス

第十三條 本法ノ罰則ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人又ハ其ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同ジ

第十四條 當該官吏、外國爲替管理委員會ノ會長委員幹事若ハ第六條ニ規定スル日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ノ職員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得タル法人又ハ人ノ業務上ノ祕密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第三條ノ財產ノ寶却價額其ノ他本法ノ施行ニ關スル重要事項ニ付主務大臣ノ諮問ニ應ズル爲外國爲替管理委員會ヲ置ク

外國爲替管理委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○臨時資金調整法（昭和十二年九月十日 法律第八十六號）

改正　昭和一四年第六八號、同年第八六號、昭和一五年第七〇號、昭和一六年第一八號、同年第三九號、昭和一七年第八四號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル臨時資金調整法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

臨時資金調整法

第一條 本法ハ支那事變ニ關聯シ物資及資金ノ需給ノ適合ニ資スル爲國內資金ノ使用ヲ調整スルヲ目的トス

第二條 銀行、信託會社、保險會社、產業組合中央金庫、商工組合中央金庫、戰時金融金庫及北海道府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會（以下金融機關ト總稱ス）ハ事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良ニ關スル資金ノ貸付ヲ爲シ又ハ有價證券ノ應募、引受若ハ募集ノ取扱ヲ爲サントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ金融機關ニ非ズシテ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ヲ業トスル者（以下之ヲ證券引受業者ト稱ス）有價證券ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サントスルトキ亦同ジ

第三條 金融機關又ハ證券引受業者前條ノ貸付又ハ有價證券ノ應募、引受若ハ募集ノ取扱ニ關シ本法ノ目的ニ從ヒ政府ノ適當ト認ムル方法ニ依リ自治的ニ調整ヲ爲スモノナルトキハ之ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ヲ適用セザルコトヲ得

第四條 命令ノ定ムル會社ノ設立ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ會社ノ資本增加、合併又ハ目的變更ニシテ命令ノ定ムルモノニ付亦同ジ

命令ノ定ムル會社左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ政府ノ許可ヲ受クベシ

一　第二回以後ノ株金ノ拂込ヲ爲サシメントスルトキ

二　他人ヲシテ引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サシメズシテ社債ヲ募集セントスルトキ

第四條ノ二 命令ノ定ムル限度ヲ超ユル事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲サントスル者ハ之ニ付政府ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ノ定ムル者及左ノ各號ノ一ニ該當スル資金ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　金融機關ヨリノ借入金

二　他人ヲシテ引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サシメタル社債ノ收入金

三　本法ニ依リ設立又ハ資本增加ニ付認可ヲ受ケタル場合
　ノ會社ノ第一回拂込株金又ハ出資金
四　本法ニ依リ拂込又ハ募集ニ付許可又ハ認可ヲ受ケタル
　場合ノ會社ノ拂込株金又ハ社債收入金

第五條　政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ第二條、第四條又ハ前條ノ許可又ハ認可ニ關スル事務ヲ日本銀行ヲシテ取扱ハシムル

前項ノ事務ノ取扱ニ要スル經費ハ日本銀行ノ負擔トス

第一項ノ場合ニ於テ當該事務ニ從事スル日本銀行職員ハ之ヲ法令ニ依リ公務ニ從事スル職員ト看做ス

第六條　日本興業銀行ハ五十億圓ヲ限リ日本興業銀行法第十二條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ債券ヲ發行スルコトヲ得

日本興業銀行ハ其ノ債券借換ノ爲債券ヲ發行スル場合ニ於テハ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

日本興業銀行法第十六條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

政府ハ日本興業銀行ノ發行スル債券ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ヲ保證スルコトヲ得

第七條　金資金ハ金資金特別會計法第四條ノ規定ニ依ルノ外之ヲ興業債券ニ運用スルコトヲ得

第七條ノ二　商工組合中央金庫ハ五千萬圓ヲ限リ商工組合中央金庫法第三十一條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ債券ヲ發行スルコトヲ得

商工組合中央金庫ハ其ノ債券借換ノ爲債券ヲ發行スル場合ニ於テハ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

商工組合中央金庫法第三十三條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第八條　命令ノ定ムル時局ニ緊要ナル事業ヲ營ム會社ハ事業擴張ノ場合ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ增加スルコトヲ得

第九條　命令ノ定ムル時局ニ緊要ナル事業ヲ營ム會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲商法ニ規定スル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財產ガ拂込ミタル株金額ニ滿タザルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付テハ擔保附社債信託法ニ依ル物上擔保ヲ附スルコトヲ要ス

第十條　政府ハ第八條ノ規定ニ依リ資本ヲ增加シタル會社又ハ前條ノ規定ニ依リ社債ヲ募集シタル會社ニ對シ其ノ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十條ノ二　政府ハ土地其ノ他ノモノニシテ命令ノ定ムルモノヲ收用セラレ若ハ賣却シタル者又ハ其ノ利害關係人ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ代償トシテ受クル金錢ノ處分ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十一條　資金使用ノ調整ニ關シ重要ナル事項ヲ調査審議スル爲臨時資金調整委員會ヲ置ク

臨時資金調整委員會ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條　第二條、第四條、第四條ノ二、第八條又ハ第九條第一項ノ規定ニ依ル許可又ハ認可ニ關スル處分ニシテ事案ノ重要ナルモノニ付テハ臨時資金審査委員會ノ議ヲ經ベシ

臨時資金審査委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條　政府ハ日本勸業銀行ヲシテ收入金二十億圓ニ達スル迄貯蓄債券ヲ發行セシムルコトヲ得

貯蓄債券ハ無記名トシ券面金額ヲ三十圓以下トス

第十四條　貯蓄債券ハ發行ノ翌年ヨリ三十五年內ニ每年二回以上抽籤ヲ以テ之ヲ償還スベシ

貯蓄債券ヲ償還スル場合ニハ賣出價格ノ三百倍以內ノ割增金ヲ附與スルコトヲ得其ノ方法及金額ハ主務大臣之ヲ定ム

前項ノ割增金ハ主務大臣ノ定ムル價格ニ依リ國債證券ヲ以テ交付スルコトヲ得

第十四條ノ二　政府ハ日本勸業銀行ヲシテ收入金十五億圓ニ達スル迄報國債券ヲ發行セシムルコトヲ得

報國債券ハ無記名トシ券面金額ヲ十圓以下トス

第十四條ノ三　報國債券ハ無利子トシ券面金額ヲ以テ之ヲ賣出スモノトス

第十四條ノ四　報國債券ハ發行ノ翌年ヨリ十年內ニ之ヲ償還スベシ

報國債券ニハ抽籤ヲ以テ割增金ヲ附スルコトヲ得其ノ方法及金額ハ主務大臣之ヲ定ム

第十四條第三項ノ規定ハ報國債券ニ之ヲ準用ス

第十四條ノ五　報國債券ノ所有者ガ長期ニ亘リ郵便官署又ハ日本勸業銀行ニ其ノ債券ノ保管ヲ委託シタル場合ニ於テハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ當該債券ニ割增金ヲ附スルコトヲ得

第十五條　復興貯蓄債券法第三條ノ規定ハ貯蓄債券ニ、同法第六條、第七條第一項及第八條竝ニ日本勸業銀行法第三十五條ノ二乃至第三十五條ノ四、第四十條及第四十二條ノ規定ハ貯蓄債券及報國債券ニ之ヲ準用ス但シ日本勸業銀行法第三十五條ノ二第一項中二十圓トアルハ三十圓トス

商法第二百九十六條乃至第二百九十八條ノ規定ハ貯蓄債券及報國債券ニハ之ヲ適用セズ

第十六條　政府ハ資金ノ狀況ヲ調査スル爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ノ各號ニ揭グル事項ニ關シ關係者ヨリ報告ヲ徵シ又ハ帳簿其ノ他ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

一　資金ノ需給及移動ニ關スル事項
二　有價證券ニ關スル事項
三　國際收支ニ關スル事項
四　事業ノ資金計畫ニ關スル事項
五　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル事項

第十六條ノ二　政府ハ第四條ノ二ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ又ハ第四條、第四條ノ二、第八條若ハ第九條ノ規定ニ依ル認可若ハ許可ニ附シタル條件ニ違反シテ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ中止ヲ命ズルコトヲ得

第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第二條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ資金ノ貸付ヲ爲シ又ハ有價證券ノ應募、引受若ハ募集ノ取扱ヲ爲シタル者
二　第四條第二項ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ株金拂

込ノ催告又ハ社債ノ募集ヲ爲シタル者

三　第四條ノ二ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ又ハ第四條、第四條ノ二、第八條若ハ第九條ノ規定ニ依ル認可若ハ許可ニ附シタル條件ニ違反シテ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲シタル者

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

二　第十條ノ二ノ規定ニ基キ金錢ノ處分ニ關シ發スル命令ニ違反シタル者

三　第十六條ノ規定ニ違反シ報告ヲ爲サズ又ハ虚僞ノ報告ヲ爲シタル者

四　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ政府ニ提出スベキ許可又ハ認可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虚僞ノ記載ヲ爲シタル者

第十八條ノ二　第十六條ノ規定ニ依ル檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前三條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前三條ノ罰金刑ヲ科ス

第二十條　當該官吏、委員若ハ第五條第三項ニ規定スル日本銀行職員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得タル法人又ハ人ノ業務上ノ祕密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條　本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十二年勅令第四百九十二號ヲ以テ第十一條ノ規定ハ同年九月十五日ヨリ施行、昭和十二年勅令第五百二十六號ヲ以テ爾餘ノ規定ハ同年九月二十七日ヨリ施行）

本法ハ第十四條及第十四條ノ三乃至第十五條ヲ除キ支那事變終了後一年以内ニ之ヲ廢止スルモノトス

附　則（昭和十七年法律第八十四號附則）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

有價證券移轉稅法第九條第二號中「二十圓」ヲ「三十圓」ニ改ム

○物資統制令（昭和十六年十二月十六日勅令第千百三十號）

朕物資統制令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

物資統制令

第一條　國家總動員法（昭和十三年勅令第三百十七號ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ）第八條ノ規定ニ基ク國民經濟ノ運行又ハ國民生活ノ安定ヲ確保スル爲統制ヲ必要トスル物資（以下統制物資ト稱ス）ニ關スル統制及其ノ統制事務ニ付テノ國家總動員法第五條ノ規定ニ基ク協力命令ニ付テハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　主務大臣ハ統制物資ノ生産（加工ヲ含ム以下同ジ）若ハ修理ヲ業トスル者又ハ此等ノ者ノ團體ニ對シ統制物資ノ生産若ハ修理ニ關シ必要ナル事項ヲ命ジ又ハ制限若ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第三條　主務大臣ハ統制物資ノ生産ヲ業トスル者、販賣其ノ他賣渡ヲ業トスル者、輸出業者、輸入業者若ハ此等ノ者ノ團體又ハ業務ニ關シ若ハ轉賣ノ目的ヲ以テ統制物資ヲ所有スル者ニ對シ讓渡ノ時期、價格、相手方其ノ他必要ナル事項ヲ指定シテ統制物資ノ讓渡ヲ命ズルコトヲ得

主務大臣特ニ必要アリト認ムル場合ニ於テハ前項ニ掲グル者以外ノ者ニシテ統制物資ヲ所有スルモノニ對シ亦前項ニ同ジ

第四條　主務大臣前條ノ規定ニ依ル命令ヲ爲シタル場合又ハ統制物資ノ所有者知レザル等ノ爲同條ノ規定ニ依ル命令ヲ爲スコト能ハザル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ權原ニ基キ當該統制物資ヲ占有スル者ニ對シ引渡ノ時期、相手方其ノ他必要ナル事項ヲ指定シテ之ガ引渡ヲ命ズルコトヲ得

第五條　主務大臣統制物資ノ所有者知レザル等ノ爲第三條ノ規定ニ依ル命令ヲ爲スコト能ハザル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依ル命令ヲ爲シタルトキハ當該統制物資ノ引渡ノ相手方ヲシテ其ノ對價ヲ供託セシムベシ此ノ場合ニ於テハ當該統制物資ノ引渡ノ相手方其ノ供託ヲ爲シタル時當該統制物資ノ讓渡ヲ受ケタルモノト看做ス

第六條　統制物資ノ生産ヲ業トスル者、販賣其ノ他賣渡ヲ業トスル者、輸出業者、輸入業者若ハ此等ノ者ノ團體又ハ業務ニ關シ若ハ轉賣ノ目的ヲ以テ統制物資ヲ所有スル者ハ主務大臣ノ指定スル者ガ讓渡ヲ受クベキ統制物資ノ種類、數量及價格、讓渡ノ時期其ノ他必要ナル事項ニ付主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ガ讓渡ヲ求メタル場合ニ於テハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

主務大臣前項ノ認可ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ告示スベシ

第七條　權原ニ基キ統制物資ヲ占有スル者ハ前條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ指定スル者ガ同條ノ規定ニ依リ統制物資ノ讓渡ヲ受ケタル場合又ハ統制物資ノ所有者知レザル等ノ爲同條ノ規定ニ依ル讓渡ヲ求ムルコト能ハザル場合ニ於テ引渡ヲ受クル統制物資ノ種類及數量、引渡ノ時期其ノ他必要ナル事項ニ付主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ガ引渡ヲ求メタル場合ニ於テハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八條　第六條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ指定スル者ハ統制物資ノ所有者知レザル等ノ爲同條ノ規定ニ依ル讓渡ヲ求ムルコト能ハザル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依リ統制物資ノ引渡ヲ受クルトキハ其ノ對價ヲ供託スベシ

第五條後段ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條　主務大臣ハ統制物資ノ生産ヲ業トスル者、販賣其ノ他賣渡ヲ業トスル者、輸出業者、輸入業者若ハ此等ノ者ノ團體又ハ業務ニ關シ若ハ轉賣ノ目的ヲ以テ統制物資ヲ所有

スル者ニ對シ統制物資ノ讓渡ニ關シ數量、時期、方法、相手方、配給區域其ノ他ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十條 主務大臣ハ統制物資ノ讓受ニ關シ數量、時期、方法、相手方其ノ他ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十一條 主務大臣ハ統制物資ノ寄託、保管、保有、質入其ノ他ノ處分又ハ移動ニ關シ必要ナル事項ヲ命ジ又ハ制限若ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第十二條 統制物資ニ關シ强制競賣手續、國稅徵收法ニ依ル强制徵收手續又ハ國家總動員法第十條若ハ第十三條ノ規定ニ基ク使用若ハ收用ノ手續其ノ他此等ノ手續ニ準ズベキモノノ進行中ナルトキハ其ノ進行中ニ限リ當該統制物資ニ關シテハ第二條乃至第四條、第六條、第七條又ハ第九條乃至前條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第十三條 第三條、第五條、第六條又ハ第八條ノ規定ニ依ル統制物資ノ讓渡ハ他ノ法令ニ拘ラズ其ノ效力ヲ有ス

第三條ノ規定ニ依リ讓渡ヲ命ゼラレ又ハ第六條ノ規定ニ依リ讓渡ヲ求メラレタル統制物資ガ知レタル擔保權ノ目的タル場合ニ於テハ當該統制物資ノ讓渡ヲ受クル者ハ其ノ對價ヲ供託スベシ

第三條若ハ第六條又ハ第四條若ハ第七條ノ規定ニ依ル統制物資ノ讓渡又ハ引渡アリタル場合ニ於テハ當該統制物資ニ付存シタル擔保權ハ他ノ法令ニ拘ラズ其ノ所有權移轉ノ時ヨリ之ヲ行フコトヲ得ズ

第三條若ハ第四條ノ規定ニ依リ讓渡若ハ引渡ヲ命ゼラレ又ハ第六條若ハ第七條ノ規定ニ依リ讓渡若ハ引渡ヲ求メラレタル統制物資ニ付擔保權ヲ有シタル者ハ第五條、第八條又ハ第二項ノ規定ニ依ル供託金ニ對シ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第十四條 主務大臣ハ統制物資ノ生產若ハ修理ヲ業トスル者、販賣其ノ他配給ヲ業トスル者、保管ヲ業トスル者若ハ業務上統制物資ノ使用若ハ消費ヲ爲ス者又ハ此等ノ者ノ團體ニ對シ統制物資ノ生產若ハ修理、販賣其ノ他配給、保管、保有、移動又ハ使用若ハ消費ニ關シ計畫ノ設定又ハ其ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十五條 主務大臣ハ統制物資ノ使用又ハ消費ヲ爲ス者ニ對シ統制物資ノ使用又ハ消費ニ關シ必要ナル事項ヲ命ジ又ハ制限若ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第十六條 主務大臣ハ統制物資ノ生產若ハ修理ヲ業トスル者、販賣其ノ他配給ヲ業トスル者、輸出業者、輸入業者、保管ヲ業トスル者若ハ業務上統制物資ノ使用若ハ消費ヲ爲ス者又ハ此等ノ者ノ團體ニ對シ帳簿ヲ備ヘ業務ニ關シ必要ナル事項ノ眞實ナル記載ヲ爲サシムルコトヲ得

第十七條 第六條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ指定スル者同條又ハ第七條ノ認可ヲ受ケ統制物資ノ讓渡又ハ引渡ヲ求メントスル場合ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受ケ當該統制物資ノ生產若ハ修理ヲ業トスル者、販賣其ノ他配給ヲ業トスル者、輸出業者輸入業者、保管ヲ業トスル者若ハ業務上統制物資ノ使用若ハ消費ヲ爲ス者又ハ此等ノ者ノ團體ニ對シ必要ナル報告ヲ求メタル場合ニ於テハ此等ノ者又ハ其ノ團體ハ之ヲ拒ミ又ハ虛僞ノ報告ヲ爲スコトヲ得ズ

第十八條 國家總動員法第二十七條ノ規定ニ依リ補償スベキ損失ハ第二條乃至第四條、第六條、第七條、第九條乃至第

十一條又ハ第十五條ノ規定ニ基ク處分ニ因ル通常生ズベキ損失トス

前項ノ損失ノ補償ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 主務大臣ハ個人又ハ法人其ノ他ノ團體ヲシテ本令ニ依ル統制物資ノ統制上必要ナル事務ニ協力セシムルコトヲ得

第二十條 主務大臣ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ關係者ヨリ統制物資ニ關スル統制又ハ其ノ統制事務ニ付テノ協力ニ關シ必要ナル報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ工場、事業場、店舗、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ統制物資、書類、帳簿等ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシヽル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第二十一條 主務大臣ハ本令ニ定ムル職權ノ一部ヲ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ム）又ハ當該主務大臣ノ所轄スル官衙ノ長ニ委任スルコトヲ得

第二十二條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ必要アリト認ムルトキハ市町村長又ハ之ニ準ズベキモノヲシテ本令ニ依ル統制物資ニ關スル統制ノ實施上必要ナル事務ヲ行ハシムルコトヲ得

前項ノ事務ニ關スル費用ハ命令ノ定ムル所ニ依リ市町村又ハ之ニ準ズベキモノヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

第二十三條 內地ニ於テ本令中第十一條及第十四條ノ規定ニ依ル保管ニ關スル命令又ハ處分及之ニ必要アル他ノ規定ノ施行ニ關スル主務大臣ハ物品ノ保管ヲ業トスル者ヲ其ノ業ニ關スル法令ニ依リ監督スル所管大臣アルトキハ當該所管大臣トス

第二十四條 第二十一條中地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ム）ニ關スル規定ハ樺太及南洋群島ニハ之ヲ適用セズ

第二十五條 本令中主務大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ第二十一條中地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ム）トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

生活必需物資統制令ハ之ヲ廢止ス但シ本令施行前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ本令施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

本令施行前生活必需物資統制令ニ基キテ發シ若ハ爲シタル命令若ハ處分又ハ當該命令ニ基キテ爲シタル命令若ハ處分ハ之ヲ本令中ノ相當規定ニ基キテ發シ若ハ爲シタル命令若ハ處分又ハ當該命令ニ基キテ爲シタル命令若ハ處分ト看做ス

○價格等統制令（昭和十四年十月十八日勅令第七百三號）

改正　昭和一五年第六三五號、昭和一五年第六七七號、昭和一六年第八四一號、昭和一七年第五六〇號

朕價格等統制令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

價格等統制令

第一條　國家總動員法（昭和十三年勅令第三百十七號ニ於テ南洋群島ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ）第十九條ノ規定ニ基キ價格、運送賃、保管料、損害保險料、賃貸料、加工賃、修繕料其ノ他ノ財產的給付（以下價格等ト稱ス）ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　價格、運送賃、保管料、損害保險料、賃貸料又ハ加工賃（以下價格運送賃等ト稱ス）ハ昭和十四年九月十八日（以下指定期日ト稱ス）ニ於ケル額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ但シ閣令ノ定ムル所ニ依リ價格運送賃等ノ支拂者又ハ受領者ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合及本令施行ノ際現ニ存スル契約ニシテ其ノ際左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニシテ其ノ際前條第一項注文生產品ノ價格ニ付生產者ガ生產ニ著手シタルモノ

二　其ノ他ノ價格ニ付買主其ノ他ノ支拂者ガ目的物ノ引渡ヲ受ケタルモノ

三　運送賃又ハ加工賃ニ付運送人又ハ加工者ガ目的物ノ引渡ヲ受ケタルモノ

四　保管料、損害保險料又ハ賃貸料ニ付支拂者ガ履行遲滯ニ在ルモノ

前項ノ指定期日ニ於ケル額ハ價格運送賃等ノ受領者ニ付テノ額ニ依リ受領者別ニ定マルモノトシ指定期日ニ爲シタル契約アル場合ハ其ノ契約額（同ジ事情ノ下ニ於テ數種ノ契約額アリタルトキハ其ノ最高額）、偶々指定期日ニ爲シタル契約ナカリシ場合ハ契約ヲ爲シタルベキ額トス

價格運送賃等ニ付前項ノ規定ニ依ル額ナキ場合ニ於テハ閣令ノ定ムルモノヲ以テ指定期日ニ於ケル額トス但シ閣令ノ定ムルモノガ判定困難ナル場合ニ於テ價格運送賃等ノ受領者ノ申請アルトキハ行政官廳ニ於テ其ノ額ヲ指示シ其ノ指示額ヲ以テ指定期日ニ於ケル額トス

第三條　商工農業者等ノ組合其ノ他之ニ準ズルモノ閣令ノ定ムル所ニ依リ前條第二項又ハ第三項ノ額ニ代ルベキ額ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ組合其ノ他之ニ準ズルモノ及其ノ構成員（構成員ガ組合其ノ他之ニ準ズルモノナル場合ハ其ノ構成員ヲモ含ム以下同ジ）ニ付テハ其ノ額ヲ以テ指定期日ニ於ケル額ト看做ス

行政官廳必要アリト認ムルトキハ閣令ノ定ムル所ニ依リ商工農業者等ノ組合其ノ他之ニ準ズルモノノ地區內ニ於テ其ノ構成員タル資格ヲ有スル者ニシテ其ノ構成員ニ非ザルモノニ付テモ前項ノ規定ニ依ル額ヲ以テ指定期日ニ於ケル額ト看做スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル處分アリタル場合ニ於テ第一項ノ規定ニ依ル額ノ變更アリタルトキハ前項ノ額ハ當該變更額ニ變更セラレタルモノトス

第一項ノ規定ニ依ル認可又ハ第二項ノ規定ニ依ル處分ハ此

等ノ處分實施ノ際現ニ存スル契約ニシテ其ノ際前條第一項但書各號ノ一ニ該當スルモノニ對シテハ影響ヲ及ボスコトナシ

第四條　行政官廳ハ指定期日ニ於ケル額（前條第一項若ハ第二項又ハ第二十條ノ規定ニ依リ看做サルルモノヲ除ク）ガ著シク不當ト認メラルルトキハ閣令ノ定ムル所ニ依リ其ノ額ヲ引下グルコトヲ得但シ其ノ引下實施ノ際現ニ存スル契約ニシテ其ノ際第二條第一項但書各號ノ一ニ該當スルモノニ對シテハ影響ヲ及ボスコトナシ

第四條ノ二　修繕料其ノ他價格運送賃等以外ノ價格等（以下修繕料等ト稱ス）ニシテ主務大臣ノ指定スルモノハ主務大臣ノ指定スル年月日ニ於ケル額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ但シ閣令ノ定ムル所ニ依リ修繕料等ノ支拂者又ハ受領者ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合及指定實施ノ際現ニ存スル契約ニシテ其ノ際左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一　修繕料等ニ對スル給付ヲ爲スタル場合

二　修繕料等ニ對スル給付ヲ爲ス者ガ修繕料等ニ對スル給付ニ著手シタル場合

第四條ノ三　第二條第二項及第三項竝ニ第四條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依リ指定シタル修繕料等ニ付之ヲ準用ス

第四條ノ四　修繕料等ノ受領者ノ組合其ノ他之ニ準ズルモノ閣令ノ定ムル所ニ依リ修繕料等ノ額ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ組合其ノ他之ニ準ズルモノ及其ノ構成員ノ給付ニ對スル修繕料等ハ其ノ額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ但シ閣令ノ定ムル所ニ依リ修繕料等ノ支拂者又ハ受領者ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

行政官廳必要アリト認ムルトキハ修繕料等ノ額ヲ變更シテ前項ノ認可ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ規定ニ依ル認可アリタル場合ニ於テ行政官廳必要アリト認ムルトキハ同項ノ規定ノ適用ニ付テハ閣令ノ定ムル所ニ依リ同項ニ規定スル組合其ノ他之ニ準ズルモノノ地區內ニ於テ其ノ構成員タル資格ヲ有スル者ニシテ其ノ構成員ニ非ザルモノヲ其ノ構成員ト看做スコトヲ得

第一項ノ規定ニ依ル認可又ハ前項ノ規定ニ依ル處分ハ此等ノ處分實施ノ際現ニ存スル契約ニシテ其ノ際第四條ノ二但書各號ノ一ニ該當スルモノニ對シテハ影響ヲ及ボスコトナシ

第四條ノ二及前條ノ規定ハ第一項ノ修繕料等ニ付テハ之ヲ適用セズ

第五條　第二條乃至第四條及前條ノ規定ハ有價證券ノ價格及賃貸料、土地及建物ノ價格其ノ他閣令ヲ以テ定ムル價格等ニ付テハ之ヲ適用セズ

第六條　價格等ハ第二條乃至第四條ノ四ノ規定ニ拘ラズ他ノ法令ニ定ムル額又ハ他ノ法令ニ基ク行政官廳ノ決定、命令、許可、認可其ノ他ノ處分アリタル額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ但シ價格運送賃等ニ付テハ本令施行後ノ、修繕料等ニ付テハ第四條ノ二ノ規定ニ依ル指定又ハ第四條ノ四第一項ノ規定ニ依ル認可若ハ同條第三項ノ規定ニ依ル處分アリタル後ノ處分ハ處分實施ノ際現ニ

存スル契約ニシテ其ノ際第二條第一項但書各號ノ一又ハ第四條ノ二但書各號ノ一ニ該當スルモノニ對シテハ影響ヲ及ボスコトナシ

前項ノ他ノ法令ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條ノ二 前條ニ規定スル場合ヲ除クノ外主務大臣ノ指定スル特殊ノ物ノ價格等ニ付テハ其ノ受領者ニ於テ閣令ノ定ムル所ニ依リ其ノ額ニ付行政官廳ノ認可ヲ受クベシ此ノ場合ニ於テハ其ノ物ノ價格等ハ第二條乃至第四條ノ四ノ規定ニ拘ラズ其ノ認可額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ前項ノ指定實施ノ際現ニ存スル契約ニシテ其ノ際第二條第一項但書各號ノ一又ハ第四條ノ二但書各號ノ一ニ該當スルモノニハ之ヲ適用セズ

第一項ノ主務大臣ノ指定ニ關シテハ閣令ノ定ムル所ニ依ル

第七條 前二條ニ規定スル場合ヲ除クノ外行政官廳閣令ノ定ムル所ニ依リ價格等（有價證券ノ價格及賃貸料ヲ除ク以下同ジ）ノ額ヲ指定シタルトキハ第二條乃至第四條ノ四ノ規定ニ拘ラズ其ノ額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ但シ閣令ノ定ムル所ニ依リ價格等ノ支拂者又ハ受領者ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ指定ハ指定實施ノ際現ニ存スル契約ニシテ其ノ際第二條第一項但書各號ノ一又ハ第四條ノ二但書各號ノ一ニ該當スルモノニ對シテハ影響ヲ及ボスコトナシ

第八條 支拂條件、引渡條件其ノ他ノ契約條件ノ變更（第六條ニ規定スル他ノ法令ニ依ルモノ及他ノ法令ニ基ク行政官廳ノ決定、命令、許可、認可其ノ他ノ處分アリタルモノヲ除ク）ニシテ支拂者ニ不利益ト爲ルモノハ其ノ限度ニ於テ之ヲ價格等ノ額ノ引上ト看做ス

第九條 何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ第二條、第四條ノ二、第四條ノ四又ハ第六條乃至第七條ノ規定ニ依ル禁止ヲ免ルル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第十條 主務大臣必要アリト認ムルトキハ閣令ノ定ムル所ニ依リ價格等ノ原價ニ關シ計算ヲ爲サシムルコトヲ得

第十一條 行政官廳必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ生產、販賣、運送、保管、賃貸、損害保險、加工若ハ修繕料等ニ對スル給付ニ關シ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ工場、事業場、販賣所、倉庫、事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第十二條 本令ハ左ニ掲グル價格等ニハ之ヲ適用セズ

一 繭、生絲、棉花又ハ綿布ノ取引所ニ於ケル賣買取引ノ價格

二 關東州、滿洲及支那以外ノ地ト本令施行地トノ間ニ於ケル輸出入取引ノ價格及兩地域間ニ於ケル運送ノ運送賃（主務大臣ノ告示スルモノヲ除ク）

三 其ノ他閣令ヲ以テ定ムルモノ

第十三條 本令ハ契約ノ當事者ニシテ營利ヲ目的トシテ當該契約ヲ爲スニ非ザルモノニハ之ヲ適用セズ但シ當該契約ヲ爲スコトガ自己ノ業務ニ屬スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第十五條 本令ノ施行ニ關スル主務大臣ハ左ノ各號ニ定ムル所ニ依ル

一 農林水產物及農林水產業專用物品ノ價格ニ關スル事項ニ付テハ農林大臣

二 酒造稅法ノ酒類竝ニ酒精及酒精含有飲料稅法ノ酒精及酒精含有飲料ノ價格ニ關スル事項ニ付テハ商工大臣及大藏大臣

三 醫藥品ノ價格ニ關スル事項ニ付テハ商工大臣及厚生大臣

四 運送賃竝ニ運送ニ直接關聯スル保管料、賃貸料、荷役請負料、作業料、手數料、使用料、運送業者又ハ運送取扱業者ノ荷造料其ノ他閣令ヲ以テ定ムル修繕料等ニ關スル事項ニ付テハ陸上運送ニ在リテハ鐵道大臣、水上運送及航空運送ニ在リテハ遞信大臣

五 田、畑、山林及原野ノ價格及賃貸料、田、畑、山林及原野ノ賣買又ハ賃貸ノ斡旋手數料、家畜ノ賃貸料、家畜ノ賣買又ハ賃貸ノ斡旋手數料、專ラ農林畜水產物及飲食料品ノ保管ヲ目的トスル倉庫（倉庫營業者ノ倉庫ヲ除ク）ノ保管料及倉入倉出料、閣令ヲ以テ定ムル農林畜水產物、飲食料品及農林畜水產業專用物品ノ加工賃竝ニ閣令ヲ以テ定ムル農林畜水產業、飲食料品工業及農林畜水產業專用物品ニ關スル修繕料等ニ關スル事項ニ付テハ農林大臣

六 船舶ノ價格、賃貸料（期間傭船料ヲ含ム）、運航手數料及修繕料竝ニ船舶ノ賣買、賃貸（期間傭船ヲ含ム）又ハ運航委託ノ斡旋手數料ニ關スル事項ニ付テハ遞信大臣但シ總噸數二十噸未滿ノ漁船ノ賣買價格及賃貸料（期間傭船料ヲ含ム）竝ニ總噸數二十噸未滿ノ漁船ノ賣買又ハ賃貸（期間傭船ヲ含ム）ノ斡旋手數料ニ關スル事項ニ付テハ農林大臣及遞信大臣

七 兵器、彈藥、艦船等ノ價格運送賃等ニ關スル第二條ニ規定スル事項及兵器、彈藥、艦船等ノ修繕料ニ關スル第四條ノ二但書ニ規定スル事項ニシテ軍機保護上必要アルモノニ付テハ陸軍大臣又ハ海軍大臣

八 請負料（手間賃、派出料ノ類ヲ含ム）ニシテ主トシテ勞務ノ供給及提供ニ對スルモノニ關スル事項ニ付テハ厚生大臣

九 前各號ノ場合ヲ除クノ外商工大臣

十 第六條ニ規定スル法令ニ於テ規定スル價格等ニ關スル事項ニ付テハ前各號ニ拘ラズ當該法令ニ於ケル主務大臣

第十六條 前條第七號ニ掲グル場合ヲ除クノ外本令中主務大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ閣令トアルハ朝鮮又ハ臺灣ニ在リテハ總督府令、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ廳令トス

附則

第十七條 本令ハ昭和十四年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十四年十月二十七日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條 第二條乃至第四條ノ三ノ規定ハ當分ノ內其ノ效力ヲ有ス

第十九條　左ニ掲グル命令ハ之ヲ廢止ス

昭和十四年農林省令第四十二號農林水産物及農林水産業用品販賣價格取締規則

昭和十三年商工省令第二十四號綿絲販賣價格取締規則

昭和十三年商工省令第三十一號ステープルファイバー及ステープルファイバー絲販賣價格取締規則

昭和十三年商工省令第五十六號物品販賣價格取締規則

昭和十三年商工省令第六十三號人造絹絲販賣價格取締規則

昭和十三年商工省令第七十五號毛絲販賣價格取締規則

昭和十四年商工省令第六十三號絹紡絲販賣價格取締規則

昭和十三年朝鮮總督府令第二百十八號朝鮮物品販賣價格取締規則

昭和十三年臺灣總督府令第百十四號物品販賣價格取締規則

昭和十三年樺太廳令第六十三號物品販賣價格取締規則

昭和十三年南洋廳令第三十八號南洋群島物品販賣價格取締規則

左ニ掲グル規定ハ之ヲ削除ス

昭和十三年商工省令第四十五號皮革配給統制規則第九條及第十條

昭和十四年朝鮮總督府令第三十一號（昭和十二年法律第九十二號第二條ノ規定ニ依ル皮革ノ配給統制ニ關スル件）第八條及第九條

昭和十三年臺灣總督府令第八十四號皮革配給統制規則第五條及第六條

昭和十四年樺太廳令第三十六號皮革配給統制規則第六條及第七條

前二項ニ掲グル命令及規定ハ本令施行前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ本令施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

第二十條　左ニ掲グル規定ニ依ル農林大臣、商工大臣、朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ南洋廳長官ノ指定シタル日ニ於ケル販賣價格ハ之ヲ第二條ノ指定期日ニ於ケル額ト看做ス

昭和十四年農林省令第四十二號農林水産物及農林水産業用品販賣價格取締規則第一條

昭和十三年商工省令第五十六號物品販賣價格取締規則第一條

昭和十三年朝鮮總督府令第二百十八號朝鮮物品販賣價格取締規則第一條

昭和十三年臺灣總督府令第百十四號物品販賣價格取締規則第一條

昭和十三年樺太廳令第六十三號物品販賣價格取締規則第一條

昭和十三年南洋廳令第三十八號南洋群島物品販賣價格取締規則第一條

第二十一條　左ニ掲グル規定ニ依リ農林大臣、商工大臣、朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官、南洋廳長官、地方長官、朝鮮總督府道知事、臺灣總督府州知事若ハ廳長又ハ南洋廳支廳長ノ爲シタル販賣價格指定又ハ許可ハ第二條第一項但書又ハ第七條第一項ノ規定ニ依リ各相當ノ行政官廳ノ爲シ

タル價格ノ額ノ指定又ハ許可ト看做ス但シ閣令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

昭和十四年農林省令第四十二號農林水産物及農林水産業用品販賣價格取締規則第一條

昭和十三年商工省令第二十四號綿絲販賣價格取締規則第一條第二項

昭和十三年商工省令第三十一號ステープルファイバー及ステープルファイバー絲販賣價格取締規則第一條第二項

昭和十三年商工省令第四十五號皮革配給統制規則第九條及第十條

昭和十三年商工省令第五十六號物品販賣價格取締規則第一條

昭和十三年商工省令第六十三號人造絹絲販賣價格取締規則第一條

昭和十三年商工省令第七十五號毛絲販賣價格取締規則第一條第二項

昭和十三年商工省令第七十五號毛絲販賣價格取締規則第一條第二項

昭和十四年商工省令第六十三號絹紡絲販賣價格取締規則第一條第二項

昭和十三年朝鮮總督府令第二百十八號朝鮮物品販賣價格取締規則第一條

昭和十四年朝鮮總督府令第三十一號（昭和十二年法律第九十二號第二條ノ規定ニ依ル皮革ノ配給統制ニ關スル件）第八條

昭和十三年臺灣總督府令第八十四號皮革配給統制規則第五條

昭和十三年臺灣總督府令第百十四號物品販賣價格取締規則第一條

昭和十三年樺太廳令第六十三號物品販賣價格取締規則第一條

昭和十四年樺太廳令第三十六號皮革配給統制規則第六條

昭和十四年樺太廳令第三十六號皮革配給統制規則第六條

昭和十三年南洋廳令第三十八號南洋群島物品販賣價格取締規則第一條

附　則（昭和十五年勅令第六百七十七號附則）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十八條ノ改正規定及附則第二項ノ規定ヲ除クノ外朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十五年十月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

價格等統制令第二條第一項但書又ハ第七條第一項但書ノ規定ニ依ル行政官廳ノ許可ニシテ昭和十五年十月十九日ヲ以テ其ノ有效期間ノ滿了スルモノハ昭和十六年四月十八日迄仍其ノ效力ヲ有ス但シ當該行政官廳ガ別段ノ處分ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

附　則（昭和十六年勅令第八百四十一號附則）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十八條ノ改正規定及附則第二項及第三項ノ規定ヲ除クノ外朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十六年九月十日ヨリ之ヲ施行ス

價格等統制令第二條第一項但書又ハ第七條第一項但書ノ規定ニ依ル行政官廳ノ許可ニシテ昭和十六年十月十九日ヲ以テ其ノ有效期間ノ滿了スルモノハ昭和十七年四月十八日迄仍其ノ效力ヲ有ス但シ當該行政官廳ガ別段ノ處分ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

○地代家賃統制令（昭和十五年十月十九日勅令第六百七十八號）

改正　昭和一七年第九八號

朕地代家賃統制令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

地代家賃統制令

第一條　國家總動員法（昭和十三年勅令第三百十七號ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ）第十九條ノ規定ニ基ク地代及家賃ニ關スル統制ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　本令ニ於テ借地トハ建物所有ノ目的ヲ以テ賃借セラレ又ハ地上權ヲ設定セラレタル土地ヲ謂ヒ借家トハ賃借セラレタル建物（建物ノ一部タル室ヲ含ム）ヲ謂フ

第三條　借地又ハ借家ノ貸主（以下單ニ貸主ト稱ス）ハ借地又ハ借家ニ付左ノ各號ニ規定スル地代又ハ家賃ヲ超エテ地代又ハ家賃ヲ定ムルコトヲ得ズ

一　昭和十三年八月四日以後本令施行前ニ地代又ハ家賃アリタルモノニ付テハ本令施行前ニ於ケル最後ノ地代又ハ家賃

二　前號ニ該當セザル場合ニ於テ本令施行後ニ地代又ハ家賃アルニ至リタルモノニ付テハ本令施行後ニ於ケル最初ノ地代又ハ家賃

前項第二號ニ規定スル地代又ハ家賃アルニ至リタルトキハ貸主ハ之ヲ地方長官ニ屆出ヅベシ

第四條　厚生大臣ノ定ムル事由アル場合ニ於テ地方長官ノ許可アリタルトキハ貸主ハ前條第一項各號ニ規定スル地代又ハ家賃ヲ超エテ地代又ハ家賃ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ定メタル地代又ハ家賃ハ前條第一項及前項ノ規定ニ依リ定メタル地代又ハ家賃ヲ以テ第三條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ前條第一項各號ニ規定スル地代又ハ家賃ト看做ス

第五條　第三條第一項第二號ニ規定スル地代又ハ家賃ニ付テハ厚生大臣其ノ適正標準ヲ定ム

第六條　地方長官第三條第一項第一號ニ規定スル地代若ハ家賃ガ著シク不當ナリト認ムルトキ又ハ同項第二號ニ規定スル地代若ハ家賃ガ前條ノ適正標準ニ照シ不當ナリト認ムルトキハ貸主ニ對シ地代又ハ家賃ノ減額ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ命令ニ依リ減額シタル地代又ハ家賃ハ第三條第一項及第四條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ第三條第一項各號ニ規定スル地代又ハ家賃ト看做ス

第七條　貸主地代又ハ家賃ノ定ニ付左ノ各號ノ一ニ該當スル變更ヲ爲サントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

一　金納ヲ物納ニ改メ其ノ他確定金額ヲ以テ定ムルモノヲ確定金額以外ノ方法ヲ以テ定メントスルトキ

二　物納ヲ金納ニ改メ其ノ他確定金額以外ノ方法ヲ以テ定ムルモノヲ確定金額其ノ他別途ノ方法ヲ以テ定メントスルトキ

前項ノ許可ヲ受ケテ變更シタル地代又ハ家賃ハ第三條第一項及第四條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ第三條第一項各號ニ規定スル地代又ハ家賃ト看做ス

第八條　下宿屋、共同住宅其ノ他之ニ類スル借家ニ付貸主ノ組合其ノ他之ニ準ズルモノ家賃ノ基準及其ノ借家ノ條件ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ第三條第一項及第四條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ其ノ基準及條件ニ依リ定ムル家賃ヲ以テ第三條第一項各號ニ規定スル家賃ト看做ス

第九條　地方長官必要アリト認ムルトキハ第四條第一項若ハ第七條第一項ノ許可又ハ前條ノ認可ニ制限又ハ條件ヲ附スルコトヲ得

第十條　第四條第一項、第七條第一項若ハ第八條ノ規定ニ依ル許可若ハ認可ニ關スル處分又ハ第六條第一項ノ規定ニ依ル命令ニシテ事案ノ重要ナルモノハ地代家賃審査會ノ意見ヲ聽キ之ヲ爲スコトヲ要ス

地代家賃審査會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十一條　地方長官必要アリト認ムルトキハ貸主ニ對シ地代若ハ家賃ニ關スル帳簿ノ作成ヲ命ジ又ハ下宿屋、共同住宅其ノ他之ニ類スル借家ニ付家賃其ノ他ノ條件ヲ借家ノ見易キ箇所ニ掲示スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十二條　地方長官必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ借地又ハ借家ニ關シ貸主、貸主ノ組合其ノ他之ニ準ズルモノ若ハ借主ヨリ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ日出ヨリ日沒迄ノ間借地、借家其ノ他ノ場所ニ臨檢シ其ノ狀況若ハ借地、借家ノ契約書、帳簿其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第十三條　第三條、第四條、第六條、第九條及第十條ノ規定ハ敷金、修繕費ノ負擔其ノ他地代又ハ家賃以外ノ借地又ハ借家ノ條件ニシテ厚生大臣ノ指定スルモノニ付之ヲ準用ス

第十四條　貸主ハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ第三條第一項（前條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ依ル禁止ヲ免ルル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第十五條　本令ハ國又ハ道府縣ガ貸主タル借地又ハ借家ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十六條　本令中厚生大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ道府縣トアルハ朝鮮ニ在リテハ道、臺灣ニ在リテハ州又ハ廳、南洋群島ニ在リテハ南洋群島地方費トシ昭和十三年八月四日トアルハ朝鮮ニ在リテハ昭和十三年十二月三十一日、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十四年九月十八日トス

朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ地代家賃審査會ニ關スル規定ハ之ヲ適用セズ

附　則

第十七條　本令ハ昭和十五年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條　朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十四年勅令第七百四號地代家賃統制令（以下舊令ト稱ス）ハ昭和十六年六月三十日迄其ノ效力ヲ有ス但シ同日以前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ同日後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

第十九條　舊令ニ基キテ爲シタル許可、命令又ハ許可申請ハ之ヲ本令ニ基キテ爲シタル許可、命令又ハ許可申請ト看做ス

第二十條　舊令第十三條、第十四條第一項及第十五條ノ規定ハ昭和十五年十月十九日（朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十六年六月三十日）後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

第二十一條　舊令第十三條ニ規定スル借地又ハ借家ニ付本令施行後地代又ハ家賃ノ回復セラレタル場合ニ於テハ其ノ回復セラレタル地代又ハ家賃ヲ以テ第三條第一項第一號ニ規定スル地代又ハ家賃ト看做ス

第二十二條　本令施行後舊令第十四條第一項ノ裁判、和解又ハ調停ニ依リ增額セラレタル地代又ハ家賃ハ之ヲ第三條第一項第一號ニ規定スル地代又ハ家賃ト看做ス

第二十三條　第六條ノ規定ハ舊令第十四條第一項ノ裁判、和解又ハ調停ニ依リ增額セラレタル地代又ハ家賃ニ付テハ之ヲ適用セズ

第二十四條　前三條ノ規定ハ舊令第十五條ニ規定スル場合ニ付之ヲ準用ス

○宅地建物等價格統制令

（昭和十五年十一月二十一日　勅令第七百八十一號）

朕宅地建物等價格統制令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

宅地建物等價格統制令

第一條　國家總動員法（昭和十三年勅令第三百十七號ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ）第十九條ノ規定ニ基ク宅地、宅地ニ供セラルル爲讓渡セラルル宅地以外ノ土地及建物ノ價格竝ニ建物ノ所有ヲ目的トスル地上權及土地賃借權ノ價格ニ關スル統制ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　宅地又ハ建物ノ價格ハ左ノ各號ニ掲グル額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ讓渡人又ハ讓受人ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　昭和十四年九月十八日以後有償行爲ニ依リ取得シタル宅地又ハ建物ニ付テハ其ノ對價ニ命令ヲ以テ定ムル額ヲ加算シタル額

二　前號ノ場合ヲ除クノ外昭和十四年九月十八日以後建築竣成シタル建物ニシテ建築竣成後使用又ハ收益ヲ爲シタルモノニ付テハ其ノ建築費ニ命令ヲ以テ定ムル額ヲ加算シタル額、建築竣成後使用及收益ヲ爲サザルモノニ付テハ前段ノ額ニ命令ヲ以テ定ムル利潤ヲ加算シタル額

第三條　前條ノ有償行爲、對價及建築費ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　第二條第一號ノ宅地若ハ建物又ハ同條第二號ノ建物ヲ讓渡スル場合ニ於テ其ノ宅地若ハ建物ノ價格ニ付取得若ハ建築ノ後減額スベキ事由生ジタルトキ又ハ其ノ價格ノ判定ヲ困難ナラシムル事由アルトキハ第五條ノ場合ヲ除クノ外命令ノ定ムル所ニ依リ讓渡人ニ於テ其ノ價格ニ付行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ場合ニ於テハ宅地又ハ建物ノ價格ハ第二條ノ規定ニ拘ラズ前項ノ規定ニ依ル認可アリタル額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ

第一項ノ事由ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　宅地ノ分讓ヲ爲ス者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ分讓ヲ爲ス宅地ノ價格ニ付行政官廳ノ認可ヲ受クベシ宅地以外ノ土地ヲ宅地ト爲ス目的ヲ以テ分讓ヲ爲ス場合亦同ジ

前項ノ場合ニ於テハ土地ノ價格ハ第二條ノ規定ニ拘ラズ前項ノ規定ニ依ル認可アリタル額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ

第一項ノ認可ヲ受ケタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ認可ヲ受ケタル價格其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項ヲ公示スベシ

第六條　宅地以外ノ土地ガ宅地ニ供セラルル爲讓渡セラルル場合ニ於テハ前條第一項ノ場合ヲ除クノ外命令ノ定ムル所ニ依リ讓渡人又ハ讓受人ニ於テ其ノ土地ノ價格ニ付行政官廳ノ認可ヲ受クベシ讓渡ノ目的ヲ以テ宅地以外ノ土地ヲ宅地ニ變更シテ之ヲ讓渡スル場合亦同ジ

前項ノ場合ニ於テハ土地ノ價格ハ前項ノ規定ニ依ル認可アリタル額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ

第七條　行政官廳ハ第二條但書ノ規定ニ依ル許可又ハ前三條ノ規定ニ依ル認可ニ關スル處分ニシテ事案ノ重要ナルモノハ宅地建物評價委員會ノ意見ヲ聽キ之ヲ爲スコトヲ要ス

宅地建物評價委員會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第八條　何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ第二條又ハ第四條乃至第六條ノ規定ニ依ル禁止ヲ免ルル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第九條　行政官廳必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ宅地、建物等ノ價格ニ關シ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ宅地、建物其ノ他ノ場所ニ臨檢シ其ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第十條　前八條ノ規定ハ建物ノ所有ヲ目的トスル地上權又ハ土地賃借權ノ價格及土地又ハ建物ノ讓渡契約ニ附隨シテ定メラルル營業權、造作、附屬設備、附屬築造物其ノ他財產上ノ利益ノ價格ニ之ヲ準用ス

第十一條　本令ニ於テ宅地トハ建物所有ノ目的ニ供セラルル土地ヲ謂フ

本令ニ於テ分讓トハ讓渡セントスル自己又ハ他人ノ土地ヲ分割シテ讓渡スベキ旨ヲ廣告シ之ヲ讓渡スルコトヲ謂フ

第十二條　宅地建物評價委員會ニ關スル規定ハ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ之ヲ適用セズ

附　則

第十三條　本令ハ昭和十五年十一月二十五日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十五年十二月二十六日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條　第十五條ノ場合ヲ除クノ外本令施行ノ際現ニ土地又ハ建物ニ付存スル讓渡契約ニシテ其ノ目的物ニ付讓受人ノ權利ニ關スル登記アリタルモノ又ハ其ノ目的物ノ引渡ヲ完了シタルモノニ付テハ第二條、第四條及第六條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

前項ノ規定中土地ノ登記ニ關スル部分ハ南洋群島ニ在リテハ之ヲ適用セズ

第十五條　本令施行ノ際現ニ行ハルル土地ノ分讓ニ關シテハ昭和十五年十二月三十一日（朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十六年一月三十一日）迄ハ第二條及第四條乃至第六條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

前項ノ場合ニ於テ昭和十五年十二月三十一日（朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十六年一月三十一日）迄ニ爲シタル土地分讓ノ契約ニシテ同日迄ニ其ノ目的物ニ付讓受人ノ權利ニ關スル登記アリタルモノ又ハ其ノ目的物ノ引渡ヲ完了シタルモノニ付テハ同日後ト雖モ第二條及第四條乃至第六條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條　前二條ノ規定ハ建物ノ所有ヲ目的トスル地上權又ハ土地賃借權ノ價格及土地又ハ建物ノ讓渡契約ニ附隨シテ定メラルル營業權、造作、附屬設備、附屬築造物其ノ他財產上ノ利益ノ價格ニ之ヲ準用ス

○臨時農地價格統制令（昭和十六年一月三十日 勅令第百九號）

朕臨時農地價格統制令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

臨時農地價格統制令

第一條　國家總動員法（昭和十三年勅令第三百十七號ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ）第十九條ノ規定ニ基ク農地ノ價格ニ關スル統制ハ宅地建物等價格統制令第五條第一項後段及第六條ノ場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　本令ニ於テ農地トハ耕作ノ目的ニ供セラルル土地ヲ謂フ

第三條　農地ノ價格ハ當該農地ノ地租法ニ依ル賃貸價格ニ農林大臣ノ定ムル率ヲ乘ジテ得タル額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ農地ノ讓渡人又ハ讓受人ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

農林大臣前項ノ率ヲ定メタルトキハ之ヲ告示ス

第一項ノ規定ニ依ル處分ハ前項ノ規定ニ依ル告示アリタル際現ニ農地ニ付存スル讓渡契約ニシテ當該農地ニ付既ニ讓受人ノ權利ニ關スル登記アリタルモノ又ハ當該農地ノ引渡ヲ完了シタルモノニ對シテハ影響ヲ及ボスコトナシ

第四條　地方長官ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農林大臣ノ認可ヲ受ケ區域ヲ指定シ前條ノ率ニ代ルベキ率ヲ定ムルコトヲ得

地方長官前項ノ規定ニ依リ前條ノ率ニ代ルベキ率ヲ定メタルトキハ之ヲ告示ス

前項ノ規定ニ依リ告示アリタルトキハ告示セラレタル率ヲ以テ前條ノ率ト看做ス

第一項ノ規定ニ依ル處分ハ第二項ノ規定ニ依ル告示アリタル際現ニ農地ニ付存スル讓渡契約ニシテ當該農地ニ付既ニ讓受人ノ權利ニ關スル登記アリタルモノ又ハ當該農地ノ引渡ヲ完了シタルモノニ對シテハ影響ヲ及ボスコトナシ

第五條　地租法ニ依ル賃貸價格ナキ農地ヲ讓渡ス場合ニハ其ノ價格ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ讓渡人又ハ讓受人ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ場合ニ於テハ農地ノ價格ハ同項ノ規定ニ依ル認可アリタル額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ

第六條　地方長官ハ第三條第一項但書ノ規定ニ依ル許可又ハ前條第一項ノ規定ニ依ル認可ニ關スル處分ニシテ事案ノ重要ナルモノニ付テハ道府縣農地委員會ノ意見ヲ聽キ之ヲ爲スコトヲ要ス地方長官第四條第一項ノ規定ニ依リ第三條ノ率ニ代ルベキ率ヲ定メントスルトキ亦同ジ

第七條　何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ第三條又ハ第五條ノ規定ニ依ル禁止ヲ免ルル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第八條　行政官廳必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ農地ノ價格ニ關シ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ農地其ノ他必要ナル場所ニ臨檢シ其ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第九條　第三條及第四條ノ規定ハ樺太及南洋群島ニハ之ヲ適用セズ

第六條ノ規定ハ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニハ之ヲ適用セズ

本令中地租法ニ依ル賃貸價格トアルハ朝鮮ニ在リテハ地稅令ニ依ル地價、臺灣ニ在リテハ臺灣地租規則ニ依ル租率トス

本令中農林大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トス

附　則

本令ハ昭和十六年二月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十六年二月十五日ヨリ之ヲ施行ス

第五條ノ規定ハ本令施行ノ際現ニ農地ニ付存スル讓渡契約ニシテ當該農地ニ付既ニ讓受人ノ權利ニ關スル登記アリタルモノ又ハ當該農地ノ引渡ヲ完了シタルモノニ付テハ之ヲ適用セズ

○小作料統制令（昭和十四年十二月六日 勅令第八百二十三號）

朕小作料統制令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

小作料統制令

第一條　國家總動員法（昭和十三年勅令第三百十七號ニ於テ南洋群島ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ）第十九條ノ規定ニ基キ小作料ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　本令ニ於テ小作料トハ耕作ノ目的ヲ以テ農地（農地

以外ノ土地ガ農地ニ附隨シテ賃借セラルル場合又ハ建物其ノ他ノ工作物ガ農地ニ附隨シテ賃借セラレ其ノ借賃ガ農地ノ借賃ト分別シ得ザル場合ニ於テハ其ノ土地又ハ建物其ノ他ノ工作物ヲ含ム以下同ジ）ガ賃借セラルル場合ニ於ケル借賃又ハ耕作ノ目的ヲ以テ永小作權若ハ賭地權ガ設定セラルル場合ニ於ケル小作料ヲ謂フ

第三條 農地ノ賃貸人又ハ永小作權若ハ賭地權ノ目的タル農地ノ所有者（以下貸主ト稱ス）ハ左ノ各號ノ小作料ノ額若ハ率ヲ超エテ小作料ノ額若ハ率ヲ定メ又ハ左ノ各號ノ小作料ノ種別若ハ減免條件ニ付農地ノ賃借人又ハ永小作權者若ハ賭地權者（以下借主ト稱ス）ノ負擔ノ增加ト爲ルベキ變更ヲ爲スコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ地方長官ノ許可アリタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 昭和十四年九月十八日ニ於テ小作料ノ定アリタル農地ニ付テハ同日ニ於ケル小作料ノ種別、額又ハ率及減免條件（其ノ不明ナルトキハ同日以後ノ判明セル最初ノ小作料ノ種別、額又ハ率及減免條件）

二 前號ニ該當セザル農地ニシテ昭和十四年九月十九日以後本令施行前ニ小作料ノ定アルニ至リタルモノニ付テハ同日以後ニ於ケル最初ノ小作料ノ種別、額又ハ率及減免條件（其ノ不明ナルトキハ判明セル最初ノ小作料ノ種別、額又ハ率及減免條件）

三 前二號ニ該當セザル農地ニシテ本令施行後ニ小作料ノ定アルニ至リタルモノニ付テハ本令施行後ニ於ケル最初ノ小作料ノ種別、額又ハ率及減免條件

第四條 市町村農地委員會必要アリト認ムルトキハ當該市町村ニ在ル農地ニ付小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ヲ定ムルコトヲ得

市町村農地委員會ハ前項ノ規定ニ依リ定ムル小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ニ付地方長官ノ認可ヲ受クベシ

地方長官前項ノ規定ニ依リ認可ヲ爲シタルトキハ農林大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨公示スベシ

前三項ノ規定ハ公示シタル小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ヲ變更スル場合ニ之ヲ準用ス

第五條 地方長官ガ前條第三項又ハ第四項ノ規定ニ依リ公示シタル小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ハ貸主及借主ニ於テ農林大臣ノ定ムル所ニ依リ之ニ依ルベキ旨ノ合意ヲ爲シタルトキハ其ノ農地ニ關シテハ之ヲ第三條ノ規定ノ適用ニ付テハ同條各號ニ揭グル小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ト看做ス

第六條 地方長官小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件著シク不當ナリト認ムルトキハ貸主ニ對シ小作料ノ種別ノ變更、額若ハ率ノ減少若ハ減免條件ノ變更ヲ命ジ又ハ減免條件ヲ定ムベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ地方長官ノ命令ニ依リ變更シタル種別、減少シタル額若ハ率又ハ變更シ若ハ定メタル減免條件ハ第三條ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ同條各號ニ揭グル小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ト看做ス

第一項ノ規定ハ裁判、裁判上ノ和解、小作調停法、朝鮮小作調停令若ハ明治三十七年律令第三號ニ依ル調停又ハ朝鮮小作調停令ニ依ル認可ノ決定アリタル勸解ニ依リ定マリタル小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ニ付テハ之ヲ適用セズ

第七條 價格等統制令施行後裁判、裁判上ノ和解、小作調停法、朝鮮小作調停令若ハ明治三十七年律令第三號ニ依ル調停又ハ朝鮮小作調停令ニ依ル認可ノ決定アリタル勸解ニ依リ借主ニ有利ニ變更セラレタル小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ハ第三條ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ同條各號ニ揭グル小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ト看做ス

第八條 地方長官第三條但書ノ規定ニ依ル許可、第四條第二項若ハ第四項ノ規定ニ依ル認可又ハ第六條第一項ノ規定ニ依ル命令ヲ爲サントスルトキハ道府縣農地委員會ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第九條 貸主ハ本令ノ適用ヲ免ルル爲農地ノ耕作ヲ目的トスル請負其ノ他ノ契約ヲ爲シ又ハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ借主ニ對シ農地ノ賃貸借契約又ハ永小作權若ハ賭地權ノ設定契約ニ定メザル財產上ノ利益ヲ求ムルコトヲ得ズ

第十條 地方長官必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ農地ノ賃貸借、永小作又ハ賭地權ニ依ル小作ニ關シ其ノ當事者ヨリ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ日出ヨリ日沒迄ノ間農地其ノ他ノ場所ニ臨檢シ收穫ノ狀況若ハ契約書其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第十一條 第三條乃至第八條ノ規定ハ敷金、補償金穀、修繕費及用排水費ノ負擔竝ニ小作料ノ種別、額又ハ率及減免條件以外ノ農地ノ賃貸借、永小作若ハ賭地權ニ依ル小作又ハ之ニ附隨スル契約ノ條件ニシテ農林大臣ノ指定スルモノニ付之ヲ準用ス

第十二條 本令ハ國又ハ道府縣ガ貸主タル農地ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十三條 第四條及第五條ノ規定ハ南洋群島ニハ之ヲ適用セズ

第八條ノ規定ハ朝鮮、臺灣及南洋群島ニハ之ヲ適用セズ

本令中農林大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事（第六條ノ場合ニ在リテハ道知事又ハ府郡島小作委員會）、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ道府縣トアルハ朝鮮ニ在リテハ道、臺灣ニ在リテハ州又ハ廳、南洋群島ニ在リテハ南洋群島地方費トシ市町村トアルハ朝鮮ニ在リテハ府郡島、臺灣ニ在リテハ市街庄トシ市町村農地委員會トアルハ朝鮮ニ在リテハ府郡島小作委員會、臺灣ニ在リテハ市尹又ハ街庄長トス

附 則

第十四條 本令ハ內地ニ在リテハ昭和十四年十二月十一日ヨリ、朝鮮、臺灣及南洋群島ニ在リテハ同月十八日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ樺太ニハ之ヲ施行セズ

第十五條 價格等統制令施行前ニ第三條第一號又ハ第二號ノ小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ヲ借主ノ不利益ニ變更シタル農地ニ付テハ貸主ハ農林大臣ノ定ムル所ニ依リ本令施行後最初ニ小作料ノ納期ノ到來スル分ヨリ之ヲ同條第

一號又ハ第二號ノ小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ニ回復スベシ

第十六條 前條ノ規定ハ價格等統制令施行前ニ於テ裁判、裁判上ノ和解、小作調停法、朝鮮小作調停令若ハ明治三十七年律令第三號ニ依ル調停又ハ朝鮮小作調停令ニ依ル認可ノ決定アリタル勸解ニ依リ借主ノ不利益ニ變更セラレタル小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ニ付テハ之ヲ適用セズ價格等統制令施行ノ際現ニ繫屬シタル訴訟、裁判上ノ和解事件又ハ調停事件ニ於テ借主ノ不利益ニ變更セラレタル小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ニ付亦同ジ

前項ノ裁判、和解、調停又ハ勸解ニ依リ借主ノ不利益ニ變更セラレタル小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ハ第三條ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ同條第一號又ハ第二號ノ小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ト看做ス

第十七條 前二條ノ規定ハ敷金、補償金穀、修繕費及用排水費ノ負擔竝ニ小作料ノ種別、額又ハ率及減免條件以外ノ農地ノ賃貸借、永小作若ハ賭地權ニ依ル小作又ハ之ニ附隨スル契約ノ條件ニシテ農林大臣ノ指定スルモノニ付之ヲ準用ス

○賃金統制令

（昭和十五年十月十九日勅令第六百七十五號）

改正 昭和一六年第八四一號

朕賃金統制令改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條 賃金統制令 國家總動員法（昭和十三年勅令第三百十七號ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ）第六條ノ規定ニ基ク賃金ノ統制ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 本令ニ於テ勞務者ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ニ雇傭セラレ勞働ニ從事スル者又ハ他人ニ雇傭セラレ厚生大臣ノ指定スル勞働ニ從事スル者ヲ謂フ但シ命令ヲ以テ定ムル者ヲ除ク

一 鑛業、砂鑛業、石切業其ノ他鑛物採取ノ事業

二 物ノ製造、加工、淨洗、選別、包裝、修理又ハ解體ノ事業（電氣、瓦斯又ハ各種動力ノ發生、變更又ハ傳導ヲ爲ス事業及水道ノ事業ヲ含ム）

三 土木、建築其ノ他工作物ノ建設、改造、保存、修理、變更、破壞又ハ其ノ準備ノ事業

四 道路、鐵道、軌道、索道、船舶又ハ航空機ニ依ル旅客又ハ貨物ノ運送ノ事業

五 船渠、船舶、岸壁、波止場、停車場又ハ倉庫ニ於ケル貨物ノ取扱ノ事業

六 土地ノ耕作若ハ開墾又ハ植物ノ栽植、栽培、採取若ハ伐採ノ事業其ノ他ノ農業又ハ林業

七 動物ノ飼育又ハ水產動植物ノ採捕若ハ養殖ノ事業其ノ他ノ畜產業、養蠶業又ハ水產業

八 物品ノ販賣又ハ保管ノ事業

第三條 本令ニ於テ賃金ト稱スルハ賃金、給料、手當、賞與其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハズ勞務者ヲ雇傭スル者（以下雇傭主ト稱ス）ガ勞働ノ對價トシテ支給スル金錢、物其ノ他ノ

利益ヲ謂フ

賃金ノ全部又ハ一部ガ金錢以外ノ給與其ノ他ノ利益ナルトキハ其ノ評價ニ關シ必要ナル事項ハ厚生大臣之ヲ定ム

第四條 命令ヲ以テ定ムル雇傭主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ賃金規則ヲ作成シ勞務者ニ周知セシムベシ之ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第五條 前條ノ雇傭主ハ賃金規則ニ依リ賃金ノ支拂ヲ爲スコトヲ要ス但シ命令ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 第四條ノ雇傭主ハ同條ノ規定ニ依リ賃金規則ヲ作成シタルトキハ十四日以內ニ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ之ヲ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下同ジ）ニ報告スベシ之ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第七條 地方長官ハ賃金規則ニ記載シタル事項ガ本令若ハ本令ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ著シク不適當ト認ムルトキハ雇傭主ニ對シ之ガ變更ヲ命ズルコトヲ得

第八條 厚生大臣ハ賃金委員會ノ意見ヲ聽キ賃金算定方法又ハ賃金支拂方法ニ關シ賃金統制上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第九條 厚生大臣又ハ地方長官ハ賃金委員會ノ意見ヲ聽キ一定ノ勞務者ニ付最低賃金ヲ定ムルコトヲ得

雇傭主ハ前項ノ最低賃金ノ定アル勞務者ニ付其ノ最低賃金ノ額ヲ下ル賃金ヲ以テ之ヲ雇傭スルコトヲ得ズ

前項ノ賃金ノ範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 厚生大臣又ハ地方長官ハ賃金委員會ノ意見ヲ聽キ一定ノ勞務者ニ付最高初給賃金ヲ定ムルコトヲ得

雇傭主ハ前項ノ最高初給賃金ノ定アル勞務者ニ付其ノ者ノ雇入ノ日ヨリ命令ヲ以テ定ムル期間其ノ最高初給賃金ノ額ヲ超ユル賃金ヲ以テ之ヲ雇傭スルコトヲ得ズ

前項ノ賃金ノ範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 厚生大臣又ハ地方長官ハ賃金委員會ノ意見ヲ聽キ一定ノ勞務者ニ付最高賃金ヲ定ムルコトヲ得

雇傭主ハ前項ノ最高賃金ノ定アル勞務者ニ付其ノ最高賃金ノ額ヲ超ユル賃金ヲ以テ之ヲ雇傭スルコトヲ得ズ

前項ノ賃金ノ範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 第九條第二項、第十條第二項及前條第二項ノ規定ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十三條 厚生大臣又ハ地方長官賃金ニシテ高額ニ失スト認メラルルモノアルトキハ其ノ額ノ引下ニ付雇傭主ニ對シ命令ヲ爲スコトヲ得但シ最高初給賃金又ハ最高賃金ノ定アル勞務者ノ賃金ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條 雇傭主ハ左ニ揭グル勞務者以外ノ勞務者ニ對シ命令ヲ以テ定ムル期間ニ支拂フ賃金ノ總額ガ厚生大臣又ハ地方長官ノ定ムル平均時間割賃金ニ其ノ就業時間ノ總數ヲ乘ジテ得タル額ノ合計額ヲ超ユルトキハ命令ヲ以テ定ムル所ニ依リ豫メ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

一 其ノ者ニ支拂フ賃金ニ付第十五條ノ認可アリタルモノ

二 請負單價又ハ請負步合及賃金算定方法ニ付第十六條ノ規定ニ依リ認可アリタル請負賃金制ニ依ル賃金ヲ以テ雇傭スルモノ

三 第十七條ノ規定ニ依リ認可アリタル初給賃金及昇給ノ定ノ勞務者ニ付最高初給賃金ヲ定ムルコトヲ得

雇傭主ハ前項ノ最高初給賃金ノ定アル勞務者ニ付其ノ者ノ雇入ノ日ヨリ命令ヲ以テ定ムル期間其ノ最高初給賃金ノ額ヲ超ユル賃金ヲ以テ之ヲ雇傭スルコトヲ得ズ

前項ノ賃金ノ範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

規程ニ依リ雇入レ又ハ其ノ賃金ヲ增スベキモノ

四　前各號ニ掲グルモノノ外命令ヲ以テ定ムルモノ

前項ノ賃金ノ範圍、平均時間割賃金及就業時間ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條　雇傭主ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ一定ノ勞務者ニ支拂フ賃金ニ付單位生產量ニ對スル額ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ一定ノ勞務者ニ對シ支拂フ賃金ノ總額ハ其ノ單位生產量ニ對スル額ニ生產量ヲ乘ジテ得タル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十六條　雇傭主ハ請負單價又ハ請負步合及賃金算定方法ニ付地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ請負賃金制ニ依ル賃金ヲ以テ勞務者ヲ雇傭スルコトヲ得但シ第九條第二項、第十條第二項又ハ第十一條第二項ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

第十七條　雇傭主ハ一定ノ勞務者ノ初給賃金及昇給ノ規程ニ付地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ規程ノ適用アル勞務者ニ付其ノ規程ニ依リ之ヲ雇入レ又ハ其ノ賃金ヲ增スコトヲ得

第十八條　地方長官ハ左ノ場合ニ於テハ前四條ノ規定ニ依ル認可ヲ取消スコトヲ得

一　詐僞又ハ不正ノ手段ニ依リ認可ヲ受ケタルモノナルトキ

二　認可ノ條件ニ違反シタルトキ

三　認可後ノ事情ニ著シキ變更アリタルトキ

第十九條　厚生大臣ハ賃金委員會ノ意見ヲ聽キ手當、實物給與、賞與又ハ臨時ノ給與ノ種類又ハ額ニ關シ賃金統制上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第二十條　厚生大臣ハ勞務者ニ對スル物品ノ販賣又ハ其ノ委託ノ方法ニ依リ事實上賃金ノ額ガ增減セラルル虞アル場合ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ雇傭主ニ對シ勞務者ニ對スル物品ノ販賣又ハ其ノ委託ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十一條　雇傭主相互間ニ於テ又ハ厚生大臣若ハ地方長官ノ指定スル組合若ハ團體ニ於テ賃金ノ協定ヲ爲シ地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ雇傭主又ハ其ノ組合若ハ團體ノ組合員若ハ團體員（組合又ハ團體ヲ組織スル組合又ハ團體ノ組合員又ハ團體員ヲ含ム以下同ジ）タル雇傭主ノ爲ス雇傭ニ於テハ其ノ協定ニ依ルベシ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條　賃金ノ協定ハ左ノ事項ニ付之ヲ爲スコトヲ得

一　最低賃金

二　最高初給賃金

三　最高賃金

四　定額賃金制ニ於ケル定額給

五　請負賃金制ニ於ケル保證給又ハ單位時間給

六　請負賃金制ニ於ケル請負單價、請負時間又ハ請負步合及賃金算定方法

七　手當

八　實物給與

九　昇給規程

十　其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項

第二十三條　賃金ノ協定ニシテ最低賃金ノ額ヲ下リ又ハ最高初給賃金若ハ最高賃金ノ額ヲ超ユルモノニ付認可アリタルトキハ其ノ協定シタル事項ニ付テハ各第九條第二項、第十條第二項又ハ第十一條第二項ノ規定ハ之ヲ適用セズ

賃金ノ協定ニシテ第十五條、第十六條又ハ第十七條ノ事項ニ關スルモノニ付認可アリタルトキハ其ノ協定シタル事項ニ付テハ各第十五條、第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十四條　賃金ノ協定ヲ爲シタル雇傭主又ハ組合若ハ團體ニ於テ其ノ協定ヲ廢止シ又ハ其ノ內容ヲ變更セントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第二十五條　地方長官賃金ノ協定存スル場合ニ於テ賃金統制上必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ協定ニ加ハラザル雇傭主又ハ協定ヲ爲シタル組合若ハ團體ノ組合員若ハ團體員ニ非ザル雇傭主ニ對シ協定ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第二十六條　地方長官ハ賃金統制上必要アリト認ムルトキハ賃金委員會ノ意見ヲ聽キ賃金ノ協定ニ付第二十一條ノ規定ニ依リ爲シタル認可ヲ取消スコトヲ得

地方長官前項ノ規定ニ依リ賃金ノ協定ニ付爲シタル認可ヲ取消シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ賃金ノ協定ニ代ルベキ定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ爲シタル定ハ第二十一條ノ規定ニ依リ地方長官ノ認可シタル賃金ノ協定ト看做ス

第二十七條　地方長官ハ雇傭主又ハ第二十一條ノ規定ニ依リ指定セラレタル組合若ハ團體ニ對シ制限ヲ指定シテ第二十二條各號ニ掲グル事項ニ關シ賃金ノ協定ヲ爲スコトヲ促スコトヲ得

雇傭主又ハ組合若ハ團體ニ於テ前項ノ期限內ニ賃金ノ協定ヲ爲サズ又ハ期限內ニ協定ヲ爲スモ協定ニ付認可ヲ得ザリシトキハ地方長官ハ賃金委員會ノ意見ヲ聽キ協定ニ代ルベキ定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ爲シタル定ハ第二十一條ノ規定ニ依リ地方長官ノ認可シタル賃金ノ協定ト看做ス

第二十八條　（削除）

第二十九條　同一ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ於テ常時十人以上ノ勞務者ヲ雇傭スル雇傭主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ賃金臺帳ヲ作成シ其ノ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ備置クベシ

第三十條　賃金ノ統制ニ關スル重要事項ヲ調査審議セシムル爲賃金委員會ヲ置ク

賃金委員會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第三十一條　厚生大臣又ハ地方長官ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ賃金ノ狀況ニ關シ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ工場、事業場、事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿書類ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第三十二條　本令ハ國又ハ道府縣ニハ之ヲ適用セズ

本令ハ國際條約又ハ之ニ基ク協定中賃金ニ關スル定アルトキ其ノ制限ニ抵觸スル場合ニ於テハ之ヲ適用セズ

第三十三條　本令中地方長官トアルハ內地ニ於テ鑛夫（砂鑛業ニ於ケル鑛夫ニ準ズベキ者ヲ含ム以下同ジ）ニ關スルモノニ付テハ鑛山監督局長トス

第二十一條及第二十四條乃至第二十七條中地方長官トアルハ賃金ノ協定ノ效力ガ二以上ノ道府縣（內地ニ於テ鑛夫ニ關スルモノニ付テハ二以上ノ鑛山監督局ノ管轄區域）ニ及ブ場合ハ厚生大臣トス

第三十四條 本令中厚生大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ道府縣トアルハ朝鮮ニ在リテハ道、臺灣ニ在リテハ州又ハ廳、南洋群島ニ在リテハ南洋群島地方費トス

第三十五條 本令中賃金委員會ニ關スル規定ハ南洋群島ニハ之ヲ適用セズ

附　則

第三十六條 本令ハ昭和十五年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十七條 本令施行前從前ノ罰則ヲ適用スベカリシ行爲ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第三十八條 本令施行ノ際現ニ存スル從前ノ規定ニ依リ定ムル未經驗勞働者ノ初給賃金ノ最低額ハ第九條ノ規定ニ依リ定ムル最低賃金ト看做シ其ノ最高額ハ第十條ノ規定ニ依リ定ムル最高初給賃金ト看做ス

第三十九條 本令施行ノ際現ニ存スル賃金臨時措置令第十五條ノ規定ニ依ル組合又ハ團體ノ指定ハ第二十一條ノ規定ニ依ル組合又ハ團體ノ指定ト看做ス

第四十條 本令施行ノ際現ニ存スル賃金臨時措置令第十五條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル勞務者ノ基本給、賃金基準又ハ昇給內規ノ定ハ第二十一條ノ規定ニ依リ認可シタル賃金ノ協定ト看做ス

第四十一條 本令施行ノ際現ニ存スル賃金臨時措置令第十六條第一項ノ規定ニ依ル定ニシテ勞務者ノ基本給又ハ賃金基準ノ最高額ニ關スルモノハ第十一條ノ規定ニ依リ定ムル最高賃金ト看做ス

第四十二條 賃金臨時措置令第一條乃至第十四條、第十九條、第二十三條、第二十五條第一項及第二十七條第一項ノ規定ハ船員ニ關スルモノヲ除クノ外當分ノ內仍其ノ效力ヲ有ス但シ賃金ノ總額ニ付第十四條ノ規定ニ依ル制限ヲ受クベキ勞務者ノ賃金ニ付テハ同條ノ平均時間割賃金定マリタルトキハ其ノ效力ヲ失フ

前項ノ規定ハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

第十條ノ最高初給賃金若ハ第十一條ノ最高賃金定マリタルトキ又ハ賃金ノ協定ニ付認可アリタルトキハ各其ノ限度ニ於テ第一項本文ノ規定ニ拘ラズ賃金臨時措置令第一條乃至第十四條、第十九條、第二十三條、第二十五條第一項及第二十七條第一項ノ規定ハ其ノ效力ヲ失フ

第一項但書及前項ノ規定ニ拘ラズ賃金臨時措置令第一條乃至第十四條、第十九條、第二十三條、第二十五條第一項及第二十七條第一項ノ規定ハ第十四條ノ平均時間割賃金、第十條ノ最高初給賃金若ハ第十一條ノ最高賃金定マリタル時又ハ賃金ノ協定ニ認可アリタル時迄ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

第四十三條 賃金臨時措置令ハ船員ニ關スルモノヲ除クノ外朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十六年六月三十日迄其ノ效力ヲ有ス但シ同日以前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ同日後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

第四十四條 本令施行ノ際第十九條ノ規定ニ依リ發スル命令ニ關シテハ同條中賃金委員會ニ關スル規定ハ之ヲ適用セズ

○會社經理統制令（昭和十五年十月十九日勅令第六百八十號）

改正　昭和一六年第八五九號、同年第一二三四號

朕會社經理統制令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

會社經理統制令

第一章　總　則

第一條 國家總動員法（昭和十三年勅令第三百十七號ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ）第十一條ノ規定ニ依ル會社ノ利益金ノ處分、償却其ノ他ノ經理ニ關スル命令ニ付テハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 會社ハ國家目的達成ノ爲國民經濟ニ課セラレタル責任ヲ分擔スルコトヲ以テ經營ノ本義トシ其ノ經理ニ關シ左ノ各號ニ揭グル事項ノ遵守ヲ旨トスベシ

一　資金ハ之ヲ最モ有益ニ活用シ苟モ人的及物的資源ノ濫費ニ陷ルガ如キコトハ嚴ニ之ヲ避クルコト

二　經費ノ支出及資產ノ償却ヲ適正ナラシムルコト

三　役員、社員其ノ他從業者ノ給與及其ノ支給方法ヲ適正ナラシムルコト

四　利益ノ分配ヲ適正ナラシメ自己資金ノ蓄積ニ努ムルコト

第二章　利益配當及積立金

第三條 資本金（出資總額、株金總額、出資總額及株金總額ノ合計額又ハ基金總額ヲ謂フ以下同ジ）二十萬圓以上ノ會社ハ每事業年度ニ付左ノ各號ノ率ノ中低キ率ヲ超ユル率ニ依リ利益配當（基金利息又ハ基金配當ヲ含ム以下同ジ）ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

一　配當金總額ガ自己資本ニ對シ年百分ノ八ニ相當スル金額ト爲ル配當率

二　直前ノ事業年度ノ配當率

左ノ各號ニ揭グル場合ニ於テハ各其ノ定ムル率ヲ前項第二號ノ率ト看做シテ前項ノ規定ヲ適用ス

一　直前ノ事業年度ノ配當率ガ年百分ノ十ニ達セザルトキハ其ノ配當率ニ年百分ノ一（六月ニ非ザル期間ヲ事業年度トスルモノニ在リテハ當該事業年度ノ月數ノ六ニ對スル割合ヲ年百分ノ一ニ乘ジテ得タル率）ヲ加ヘタル率但シ其ノ率ガ年百分ノ六ニ達セザルトキハ年百分ノ六トシ年百分ノ十ヲ超ユルトキハ年百分ノ十トス

二　直前ノ事業年度ニ付利益配當ヲ爲サザリシトキ又ハ設立後最初ノ事業年度ノ利益配當ナルトキハ年百分ノ六

三　資本金二十萬圓未滿タリシ會社資本增加ニ因リ資本金

二十萬圓以上ト爲リタル後最初ノ事業年度ニ付爲ス利益配當ナルトキハ第一號ノ規定ニ拘ラズ年百分ノ六

四　配當金總額ガ自己資本ニ對シ年百分ノ五ノ割合ニ相當スル金額ト爲ル配當率ガ前三號ノ率ヨリ高キトキハ其ノ率但シ其ノ率ガ年百分ノ十ヲ超ユルトキハ年百分ノ十トス

前二項ノ自己資本ハ閣令ノ定ムル所ニ依リ計算シタル金額ニ依ル

第四條　主務大臣ハ左ノ各號ニ掲グル場合ニ於テハ會社ニ對シ期間ヲ定メ將來ノ配當率ニ付適當ト認ムル率ヲ指定スルコトヲ得

一　當該會社ノ利益ノ實情ニ照シ配當金ガ過大ナリト認メラルルトキ

二　當該會社ノ資金計畫ニ照シ自己資金ノ蓄積ガ必要ナリト認メラルルトキ

會社ハ前項ノ規定ニ依リ配當率ニ付主務大臣ノ指定ヲ受ケタルトキハ前條ノ規定ニ拘ラズ當該配當率ヲ超ユル率ニ依リ利益配當ヲ爲スコトヲ得ズ

第五條　合併ニ因リテ設立シタル資本金二十萬圓以上ノ會社又ハ合併後存續スル資本金二十萬圓以上ノ會社ハ合併後最初ノ事業年度ニ付利益配當ヲ爲サントスルトキハ利益配當ノ率ガ年百分ノ六ヲ超エザル場合ヲ除キ前二條ノ規定ニ拘ラズ閣令ノ定ムル所ニ依リ會社ノ申請ニ基キ主務大臣ガ從前ノ利益配當其ノ他各會社ノ經理ノ實情ヲ參酌シテ指定シタル率ヲ超エザル利益配當ノ率ニ依ルベシ

第六條　主務大臣ハ會社收益ノ狀況其ノ他經理ノ實情ニ照シ必要アリト認ムルトキハ當該會社ニ對シ法定準備金ノ外特別ノ積立金ノ積立ヲ命ジ又ハ當該積立金ノ運用方法ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

前項ノ積立金ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第三章　役員及社員給與

第七條　本章ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル會社ニ之ヲ適用ス

一　資本金二十萬圓以上ノ會社

二　前號ニ規定スルモノヲ除クノ外役員及社員ノ合計數常時三十人以上ノ會社

第八條　本章ニ於テ役員ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

一　機關トシテ會社ノ業務ニ從事スル者

二　顧問、相談役其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハズ賞與ニ關シ會社ガ前號ニ該當スル者ニ準ジテ取扱フ者

第九條　本章ニ於テ社員ト稱スルハ船員及賃金統制令第二條ノ勞務者ヲ除クノ外左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

一　會社ニ雇傭セラルル者

二　顧問、囑託其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハズ繼續シテ會社ノ業務ニ從事スル者但シ役員タル者ヲ除ク

第十條　本章ニ於テ給與ト稱スルハ報酬、給料、手當、賞與、交際費、機密費其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハズ會社ガ役員又ハ社員ノ職務ノ對價トシテ支給スル金錢、物其ノ他ノ利益ヲ謂フ

第十一條　役員ノ給與ヲ分チテ左ノ各號ニ掲グル給與トス

一　報酬（會社ガ役員ニ對シ一定ノ金額ニ依リ定期ニ支給スル給與ニシテ經費トシテ經理スルモノヲ謂フ但シ在勤手當其ノ他第二十條各號ニ掲グル社員手當ニ準ズル手當ヲ除ク）

二　賞與（會社ガ役員ニ對シ定期ニ利益金處分ニ依リ支給スル給與ヲ謂フ）

三　退職金（會社ガ退職シタル役員ニ對シ支給スル給與ヲ謂フ）

四　臨時ノ給與（會社ガ役員ニ對シ臨時ニ支給スル給與ヲ謂フ）

五　雜給與（前各號ニ掲グル給與ヲ除クノ外會社ガ役員ニ對シ支給スル給與ヲ謂フ）

第十二條　會社ハ每事業年度ノ役員報酬ヲ支給セントスル場合ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

一　支給セントスル役員報酬ノ合計金額ガ昭和十五年十月二十日（朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ同年十一月五日）以後終了シタル各事業年度ニ付支給シタル役員報酬又ハ本條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル役員報酬ノ事業年度每ノ合計金額（當該事業年度ノ月數ト異ル月數ノ事業年度ニ付テハ閣令ノ定ムル所ニ依リ計算シタル金額）ノ中最モ多キ金額（以下最高報酬額ト稱ス）ヲ超ユルトキ

二　昭和十五年十月二十日（朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ同年十一月五日）以後終了シタル各事業年度ニ付役員報酬ヲ支給セザリシトキ

三　設立後最初ノ事業年度ノ役員報酬ナルトキ

四　合併後最初ノ事業年度ノ役員報酬ナルトキ但シ其ノ役員報酬ノ合計金額ガ合併後存續スル會社ノ最高報酬額ヲ超エザルトキヲ除ク

五　第七條各號ノ一ニ掲グル會社ニ該當セザリシ會社第七條各號ノ一ニ掲グル會社ト爲リタル後最初ノ事業年度ノ役員報酬ナルトキ

第十三條　會社ハ每事業年度ニ付役員賞與ヲ支給セントスル場合ニ於テ其ノ合計金額ガ左ノ各號ノ金額（百圓未滿ノ端數ハ之ヲ百圓ニ切上グ）ノ中少キ金額ヲ超ユルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

一　法定賞與額（閣令ノ定ムル所ニ依リ計算シタル當該事業年度ノ純益金ニ閣令ノ定ムル割合ヲ乘ジテ得タル金額ヲ謂フ以下同ジ）

二　前期賞與額（直前ノ事業年度ニ付支給シタル役員賞與ノ合計金額ヲ謂フ但シ當該事業年度ノ月數ガ直前ノ事業年度ノ月數ト異ル場合ニ於テハ閣令ノ定ムル所ニ依リ計算シタル金額ヲ謂フ以下同ジ）

左ノ各號ニ掲グル場合ニ於テハ各其ノ定ムル金額ヲ前項第二號ノ金額ト看做シテ前項ノ規定ヲ適用ス

一　前期賞與額ガ法定賞與額ニ達セザルトキハ前期賞與額ノ百分ノ百二十ニ相當スル金額但シ前期賞與額ノ百分ノ百二十ニ相當スル金額ガ法定賞與額ニ對シ百分ノ七十ノ割合ニ達セザルトキハ法定賞與額ノ百分ノ七十ニ相當スル金額

二　直前ノ事業年度ニ付役員賞與ヲ支給セザリシトキ又ハ

設立後最初ノ事業年度ニ付支給スル役員賞與ナルトキハ法定賞與額ノ百分ノ七十ニ相當スル金額

三　合併後最初ノ事業年度ニ付支給スル役員賞與ナルトキハ又ハ第七條各號ノ一ニ掲グル會社ニ該當セザリシ會社第七條各號ノ一ニ掲グル會社ト爲リタル後最初ノ事業年度ニ付支給スル役員賞與ナルトキハ第一號ノ規定ニ拘ラズ法定賞與額ノ百分ノ七十ニ相當スル金額

第十四條　會社ハ退職シタル役員ニ對シ退職金ヲ支給セントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　閣令ノ定ムル限度ヲ超エザル退職金ヲ支給セントスルトキ

二　閣令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル準則ニ依リ退職金ヲ支給セントスルトキ

第十五條　會社ハ役員ニ對シ臨時ノ給與ヲ支給セントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

第十六條　會社ハ第二十四條ノ規定ニ依リ主務大臣ニ報告スベキ準則若ハ主務大臣ノ承認ヲ受ケタル準則又ハ第二十五條若ハ第二十六條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケ若ハ主務大臣ノ命令ニ依リ制定若ハ變更シタル準則ニ依ルノ外役員ニ對シ雜給與ヲ支給スルコトヲ得ズ

第十七條　社員ノ給與ヲ分チテ左ノ各號ニ掲グル給與トス

一　基本給料（會社ガ社員ニ對シ一定ノ金額ニ依リ定期ニ支給スル給與ノ中基本ト爲ルベキ固定給ヲ謂フ）

二　手當（基本給料ヲ除クノ外會社ガ社員ニ對シ定期ニ若ハ職務ニ關シ一定ノ事實アル場合ニ一定ノ金額、數量若ハ劃合ニ依リ支給スル給與又ハ繼續シテ利用セシムル住居其ノ他ノ施設ヲ謂フ）

三　賞與（前二號ニ掲グル給與ヲ除クノ外會社ガ社員ニ對シ定期ニ支給スル給與ヲ謂フ）

四　退職金（會社ガ退職シタル社員ニ對シ支給スル給與又ハ之ニ相當スル金額ニシテ在職中ノ社員ニ對シ前拂スルモノヲ謂フ）

五　臨時ノ給與（前四號ニ掲グル給與ヲ除クノ外會社ガ社員ニ對シ臨時ニ支給スル給與ヲ謂フ）

第十八條　會社ハ閣令ノ定ムル限度ヲ超エテ社員ノ初任基本給料ヲ支給スルコトヲ得ズ但シ轉職者（前職ニ於テ役員報酬、社員基本給料又ハ之ト同樣ノ性質ヲ有スル給與ヲ受ケ居リタル者ヲ謂フ）又ハ特別ノ經歷若ハ技能ヲ有スル者ニ付主務大臣ノ許可ヲ受ケテ爲ス初任基本給料ノ支給ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條　會社ハ閣令ノ定ムル限度ヲ超エテ社員ノ基本給料ノ增加支給（以下昇給ト稱ス）ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル昇給ニハ之ヲ適用セズ

一　入營シタル社員（陸軍衞生部將校ノ補充及現役期間ノ臨時特例第四條第一項若ハ陸軍技術部將校ノ補充及現役期間ノ臨時特例第七條第一項ノ規定ニ依リ短期現役ニ服スル將校又ハ海軍軍醫科、藥劑科、主計科、造船科、造機科及造兵科士官現役期間特例第一條ノ規定ニ依リ短期現役ニ服スル士官ト爲リタル者ヲ含ム）、召集セラレタル社員又ハ徵用セラレタル社員退營シ又ハ召集若ハ徵用ヲ解除セラレ會社ハ之ヲ經費トシテ經理スルコトヲ得ズ但シ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ニ於テ勤務ニ復シタル後一年以內ニ當該社員ニ付爲ス昇給

二　基本給料ガ閣令ノ定ムル金額ニ達セザル社員ニ付爲ス昇給ニシテ其ノ昇給後ノ基本給料ガ閣令ノ定ムル金額ヲ超エザルモノ

第二十條　會社ハ第二十四條ノ規定ニ依リ主務大臣ニ報告スベキ準則若ハ主務大臣ノ承認ヲ受ケタル準則又ハ第二十五條若ハ第二十六條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケ若ハ主務大臣ノ命令ニ依リ制定若ハ變更シタル準則ニ依ルノ外社員ニ對シ左ノ各號ニ掲グル手當ヲ支給スルコトヲ得ズ

一　在勤手當、僻地手當其ノ他特殊地域ニ在勤スルニ因リ支給スル手當

二　危險手當其ノ他生命、健康等ニ關シ危險又ハ有害ナル特定ノ勤務ニ從事スルニ因リ支給スル手當

三　居殘手當、宿直手當其ノ他特定ノ追加勤務ニ對シ支給スル手當

四　閣令ヲ以テ定ムル家族手當

五　食事手當又ハ被服手當

六　歩合ニ依リ支給スル手當

七　現物ヲ以テ支給スル手當

八　其ノ他閣令ヲ以テ定ムル手當

第二十一條　會社ガ毎賞與期間ニ付社員ニ對シ支給スル賞與ノ總額ト前條各號ニ掲グル手當以外ノ手當ノ當該賞與期間中ニ於ケル支給總額トノ合計金額ハ閣令ノ定ムル限度ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ閣令ノ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ規定ニ依リ前項ノ限度ヲ超エテ支給スル金額ニ付テハ會社ハ之ヲ經費トシテ經理スルコトヲ得ズ但シ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第一項ノ賞與期間ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條　會社ハ第二十四條ノ規定ニ依リ主務大臣ニ報告スベキ準則若ハ主務大臣ノ承認ヲ受ケタル準則又ハ第二十五條若ハ第二十六條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケ若ハ主務大臣ノ命令ニ依リ制定若ハ變更シタル準則ニ依ルノ外社員ニ對シ退職金ヲ支給スルコトヲ得ズ

第二十三條　會社ハ社員ノ全部若ハ大部分又ハ社員數常時三十人以上ヲ有スル事務所、工場若ハ事業場ニ付其ノ所屬社員ノ全部若ハ大部分ニ對シ時期ヲ同ジクシテ臨時ノ給與ヲ支給セントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

第二十四條　本令施行ノ際本章ノ規定ノ適用ヲ受クル會社ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ閣令ノ定ムル所ニ從ヒ本令施行ノ際ニ於ケル役員雜給與、第二十條各號ニ掲グル社員手當及社員退職金ノ準則ヲ主務大臣ニ報告スベシ

第七條各號ノ一ニ掲グル會社ニ該當セザリシ會社ニシテ本令施行後第七條各號ノ一ニ掲グル會社ト爲リタルモノハ役員雜給與、第二十條各號ニ掲グル社員手當及社員退職金ノ準則ニ付主務大臣ノ承認ヲ受クベシ

第二十五條　會社ハ役員雜給與、第二十條各號ニ掲グル社員手當又ハ社員退職金ノ準則ヲ制定シ又ハ變更セントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

第二十六條　主務大臣ハ役員又ハ社員ノ給與及其ノ支給方法ノ適正ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ會社ニ對シ役員若

ハ社員ノ給與ノ金額若ハ支給方法ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ役員雜給與、役員退職金、第二十條各號ニ揭グル社員手當若ハ社員退職金ノ準則ノ制定、變更若ハ廢止ヲ命ズルコトヲ得

第二十七條　（削除）

第二十八條　本章ノ規定ハ裁判所ガ決定ヲ以テ定メタル報酬ニハ之ヲ適用セズ

第四章　經費及資金

第二十九條　昭和十六年九月十六日（朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ同年九月三十日）現在ニ於テ資本金百萬圓以上ノ會社（第二項後段ノ會社ヲ除ク）ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ閣令ノ定ムル所ニ從ヒ機密費、交際費、接待費又ハ廣告宣傳費其ノ他之ト同樣ノ性質ヲ有スル支出（利益金處分ニ依ルモノヲ含ム以下機密費ト稱ス）ノ基準月額ヲ主務大臣ニ報告スベシ

昭和十六年九月十七日（朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ同年十月一日）以後設立（合併ニ因ル設立ヲ含ム以下本項ニ於テ同ジ）セラレタル資本金百萬圓以上ノ會社若ハ資本增加（合併ニ因ル資本增加ヲ含ム以下本項ニ於テ同ジ）ニ因リ資本金百萬圓以上ト爲リタル會社又ハ同年九月十六日（朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ同年九月三十日）以前設立セラレタル資本金百萬圓以上ノ會社若ハ資本增加ニ因リ資本金百萬圓以上ト爲リタル會社ニシテ同日以前其ノ設立後若ハ資本增加後決算確定シタル事業年度ナキ會社ハ閣令ノ定ムル所ニ依リ機密費等ノ基準月額ヲ定メ主務大臣ノ承認ヲ受クベシ

資本金百萬圓以上ノ會社ハ機密費等ノ基準月額ヲ增額セントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ資本金百萬圓以上ノ會社ニ對シ機密費等ノ基準月額ヲ減額スベキコトヲ命ズルコトヲ得

資本金百萬圓以上ノ會社ハ每事業年度ニ於テ支出セントスル機密費等ノ合計金額ガ前四項ノ規定ニ依リ報告シ、承認ヲ受ケ、增額シ又ハ減額シタル基準月額ニ當該事業年度ノ月額（曆ニ從ヒ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ一月ニ切上グ）ヲ乘ジテ得ベキ金額ヲ超ユルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

前五項ノ規定ハ特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社ニハ之ヲ適用セズ

第二十九條ノ二　資本金百萬圓以上ノ會社ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ閣令ノ定ムル所ニ從ヒ每事業年度ニ於ケル寄附金其ノ他之ト同樣ノ性質ヲ有スル支出（利益金處分ニ依ルモノヲ含ム以下寄附金等ト稱ス）ノ豫定額ヲ主務大臣ニ報告スベシ

前項ノ規定ニ依リ報告ヲ爲シタル會社ハ其ノ報告シタル金額ヲ超エテ當該事業年度ニ於テ寄附金等ヲ支出セントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

前二項ノ規定ハ特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社ニハ之ヲ適用セズ

第二十九條ノ三　主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ會社ニ對シ機密費等、寄附金等、福利施設費其ノ他之ト同樣ノ性質ヲ有スル支出（利益金處分ニ依ルモノヲ含ム）又ハ研究

費其ノ他之ト同樣ノ性質ヲ有スル支出（利益金處分ニ依ルモノヲ含ム）ノ金額又ハ其ノ經理ノ方法ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三十條　主務大臣ハ會社ノ經費ノ支出ヲ適正ナラシムル爲必要アリト認ムルトキハ會社ニ對シ之ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三十一條　會社ハ閣令ノ定ムル所ニ依リ固定資產ノ償却ヲ爲スベシ但シ主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十二條　主務大臣ハ會社ノ經理上必要アリト認ムルトキハ會社ニ對シ資產ノ償却ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三十三條　會社ハ閣令ノ定ムル所ニ依リ左ノ各號ニ揭グル事項ニ付主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

一　有價證券ノ取得又ハ處分

二　特許權、鑛業權又ハ漁業權ノ取得又ハ處分

三　資金ノ貸付又ハ借入

主務大臣ハ會社ニ對シ借入金ノ限度ヲ指定スルコトヲ得

前項ノ指定ヲ受ケタル會社ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ指定ヲ受ケタル限度ヲ超エテ資金ノ借入ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十四條　主務大臣ハ會社ノ經理ヲ適正ナラシムル爲必要アリト認ムルトキハ會社ニ對シ餘裕資金ノ運用ニ關シ必要ナル制限ヲ爲スコトヲ得

第五章　經理檢査

第三十五條　主務大臣ハ會社ノ資產負債及損益ノ內容、利益金ノ處分其ノ他經理ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第三十六條　會社ハ閣令ノ定ムル所ニ依リ財產目錄、貸借對照表、損益計算書及原價計算ニ關スル書類ヲ作成スベシ

前項ノ財產目錄ニ記載スベキ財產ハ閣令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ評價スベシ

會社ハ第一項ノ規定ニ依リ作成スベキ書類ノ調整ニ必要ナル帳簿ヲ備ヘ整然且明瞭ニ之ガ記帳ヲ爲スベシ

第三十七條　主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ會社ニ對シ勘定科目及帳簿組織ヲ指定シ之ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

第三十八條　主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ會社ヲ指定シテ決算ニ關シ當該官吏ノ監査ヲ受クベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ決算ニ關シ監査ヲ受クベキ命令ヲ受ケタル會社ハ當該官吏ノ監査ヲ受ケタルコトノ證明ヲ受ケタル後ニ非ザレバ利益金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ズ

第六章　雜則

第三十八條ノ二　會社ハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ本令ニ基ク制限ヲ免ルル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十八條ノ三　主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ會社、事項及期間ヲ定メテ本令ニ基ク制限ヲ解除シ又ハ本令ニ基

ク義務ヲ免除スルコトヲ得

第三十九條　第三條乃至第六條、第十二條乃至第十五條、第十八條、第十九條、第二十一條、第二十三條乃至第二十六條、第二十九條乃至第三十二條、第三十四條、第三十七條若ハ第三十八條ノ規定ニ依ル許可若ハ承認ニ關スル處分若ハ指定、命令若ハ制限ニシテ事案ノ重要ナルモノ又ハ前條ノ規定ニ依ル制限ノ解除若ハ義務ノ免除（第三十三條ノ規定ニ依ル制限ニ關スルモノヲ除ク）ハ會社經理審査委員會ノ議ヲ經ベシ

會社經理審査委員會ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第四十條　第三十三條ノ規定ニ依ル許可ニ關スル處分若ハ指定ニシテ事案ノ重要ナルモノ又ハ第三十八條ノ三ノ規定ニ依ル制限ノ解除ニシテ第三十三條ノ規定ニ依ル制限ニ關スルモノハ臨時資金調整法第十二條ノ臨時資金審査委員會ノ議ヲ經ベシ

第四十一條　本令ニ於テ主務大臣トアルハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テ各其ノ定ムル所ニ依ルノ外總テ大藏大臣トス

一　特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社ニ在リテハ當該會社ヲ監督スル所管大臣

二　取引所法、瓦斯事業法、保險業法、自動車製造事業法、工作機械製造事業法、製鐵事業法、輕金屬製造事業法、石油業法、人造石油製造事業法、大正十五年勅令第九號又ハ產金法第三條ノ適用ヲ受クル事業ノミヲ營ム會社ニ在リテハ商工大臣

三　電氣事業法、航空機製造事業法又ハ造船事業法ノ適用ヲ受クル事業ノミヲ營ム會社ニ在リテハ遞信大臣但シ造船事業法施行令第二十九條ノ規定ノ適用ヲ受クル事業ノミヲ營ム會社ニ在リテハ當該會社ニ在リテハ當該所管大臣

四　地方鐵道法、軌道法又ハ自動車交通事業法ノ適用ヲ受クル事業ノミヲ營ム會社ニ在リテハ鐵道大臣

五　會社ノ營ム事業ノ一部ニ付第二號、第三號又ハ第四號ニ掲グル法令ノ適用ヲ受クル會社ニ在リテハ當該所管大臣及大藏大臣

六　第三十三條ノ規定ニ依ル許可ニ關スル處分又ハ指定ニ付テハ前各號ノ規定ニ拘ラズ大藏大臣及商工大臣

大藏大臣ハ第三條乃至第六條、第十二條乃至第十五條、第十八條、第十九條、第二十一條、第二十三條乃至第二十六條、第二十九條乃至第三十二條、第三十四條、第三十七條、第三十八條又ハ第三十八條ノ三ノ規定ノ施行ニ關スル重要事項ニ付關係各大臣ニ協議スベシ

大藏大臣以外ノ主務大臣ハ前項ニ掲グル規定ノ施行ニ關スル重要事項ニ付大藏大臣及關係各大臣ニ協議スベシ

第四十二條　大藏大臣ハ前條第一項第一號乃至第四號ニ掲グル會社以外ノ會社ニ關スル本令ノ施行ニ關スル事務ノ一部ヲ財務局長又ハ財務局出張所長ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

大藏大臣ハ財務局長若ハ財務局出張所長ヲシテ第三十五條ノ規定ニ依ル報告ヲ徵セシメ又ハ財務局長、財務局出張所長若ハ其ノ代理官ヲシテ同條ノ規定ニ依ル臨檢檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十三條　本令ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十四條　本令中主務大臣トアルハ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ南洋廳長官トス但シ日本勸業銀行、北海道拓殖銀行、朝鮮銀行、臺灣銀行及朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ營業所ヲ有シ銀行法又ハ貯蓄銀行法ノ適用ヲ受クル銀行竝ニ南洋拓殖株式會社ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

本令中閣令トアルハ朝鮮又ハ臺灣ニ在リテハ總督府令、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ廳令トス

第三十九條及第四十條ノ規定ハ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ之ヲ適用セズ

第四十五條　朝鮮總督ハ本令ノ施行ニ關スル事務ノ一部ヲ朝鮮總督府稅務監督局長又ハ朝鮮總督府稅務署長ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

朝鮮總督ハ朝鮮總督府稅務監督局長若ハ朝鮮總督府稅務署長ヲシテ第三十五條ノ規定ニ依ル報告ヲ徵セシメ又ハ朝鮮總督府稅務監督局長、朝鮮總督府稅務署長若ハ其ノ代理官ヲシテ同條ノ規定ニ依ル臨檢檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

臺灣總督ハ本令ノ施行ニ關スル事務ノ一部ヲ臺灣總督府州知事又ハ臺灣總督廳長ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

臺灣總督ハ臺灣總督府廳長ヲシテ臺灣總督府州知事若ハ臺灣總督府廳長ヲシテ第三十五條ノ規定ニ依ル報告ヲ徵セシメ又ハ臺灣總督府州知事、臺灣總督府廳長若ハ其ノ代理官ヲシテ同條ノ規定ニ依ル臨檢檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

臺灣總督府州知事ハ前項ノ規定ニ依リ委任セラレタル事務ヲ稅務出張所ヲシテ分掌セシムルコトヲ得

附　則

第四十六條　本令ハ昭和十五年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十五年十一月五日ヨリ之ヲ施行ス

第四十七條　會社利益配當及資金融通令及昭和十四年勅令第百九十四號ハ之ヲ廢止ス但シ本令施行前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ會社利益配當及資金融通令ハ前項ノ規定ニ拘ラズ昭和十五年十一月四日迄、會社職員給與臨時措置令ハ同令附則第二項ノ規定ニ拘ラズ昭和十五年十一月四日迄仍其ノ效力ヲ有ス但シ同日以前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ同日後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

第四十八條　會社ノ直前ノ事業年度ノ利益配當ガ會社利益配當及資金融通令第二條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケテ基準配當率ヲ超ユル率ニ依リ爲シタルモノニシテ當該利益配當ノ率ノ中主務大臣ガ其ノ許可ヲ爲スニ際シ基準配當率ニ算入セザル旨ヲ定メタル部分アルトキハ其ノ部分ヲ除キタル率ヲ以テ第三條第一項第二號ノ直前ノ事業年度ノ配當率ト看做ス

第四十九條　本令施行前合併ヲ爲シタルニ因リ會社利益配當及資金融通令第三條第一項第三號ノ規定ニ依リ基準配當率ニ付主務大臣ノ認定ヲ受ケタル會社ガ當該合併後最初ノ事業年度ノ利益配當ヲ本令施行後爲サントスルトキハ當該基準配當率ヲ以テ第三條第一項第二號ノ直前ノ事業年度ノ配當率ト看做ス

第五十條　資本金二十萬圓未滿タリシ會社ニシテ本令施行前

ノ資本増加ニ因リ資本金二十萬圓以上ト爲リタルニ因リ會社利益配當及資金融通令第三條第一項第四號ノ規定ニ依リ其ノ基準配當率ニ付主務大臣ノ認定ヲ受ケタル會社ガ當該資本増加後最初ノ事業年度ノ利益配當ヲ本令施行後爲サントスルトキハ當該基準配當率ヲ以テ第三條第一項第二號ノ直前ノ事業年度ノ配當率ト看做ス

第五十一條 會社利益配當及資金融通令第四條ノ規定ニ依リ其ノ基準配當率ニ付主務大臣ノ指定ヲ受ケタル會社ガ指定後最初ノ事業年度ノ利益配當ヲ本令施行後爲サントスルトキハ其ノ指定ヲ受ケタル基準配當率ヲ以テ第三條第一項第二號ノ直前ノ事業年度ノ配當率ト看做ス

第五十二條 第三條第二項第一號ノ規定ハ第四十九條乃至前條ノ場合ニ於テ主務大臣ガ基準配當率ノ認定又ハ指定ヲ爲スニ際シ當該認定又ハ指定後ノ最初ノ利益配當ニ關シ會社利益配當及資金融通令第二條第一號ノ規定ヲ適用セザル旨ヲ定メタルトキハ當該利益配當ニ關シテハ之ヲ適用セズ

前項ニ規定スル場合ヲ除クノ外第三條第二項第一號及第四號ノ規定ハ第四十八條乃至前條ノ規定ニ依リ直前ノ事業年度ノ配當率ト看做サレタル率ニ付テモ亦之ヲ適用ス

附　則（昭和十六年勅令第八百五十九號附則）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十六年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前從前ノ第二十九條第一項ノ規定ニ依リ本令施行後最初ニ終了スル事業年度ニ付同項第一號ニ掲グル支出ノ豫定額ヲ報告シタル會社ガ當該事業年度ニ於テ其ノ豫定額ノ範圍內ニ於テ爲ス機密費等ノ支出ニハ第二十九條第五項ノ改正規定ハ之ヲ適用セズ

本令施行前會社ガ從前ノ第二十九條第一項ノ規定ニ依リ本令施行後最初ニ終了スル事業年度ニ付爲シタル同項第二號ニ掲グル支出ノ豫定額ノ報告ハ之ヲ第二十九條ノ二第一項ノ改正規定ニ依リ爲シタル報告ト看做ス

本令施行前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附　則（昭和十六年勅令第千二百三十四號附則）

本令ハ昭和十七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○食糧管理法（昭和十七年二月二十一日 法律第四十號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル食糧管理法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

食糧管理法

第一條 本法ハ國民食糧ノ確保及國民經濟ノ安定ヲ圖ル爲食糧ヲ管理シ其ノ需給及價格ノ調整竝ニ配給ノ統制ヲ行フコトヲ目的トス

第二條 本法ニ於テ主要食糧トハ米穀、大麥、稞麥、小麥其ノ他勅令ヲ以テ定ムル食糧ヲ謂フ

第三條 米穀、大麥、稞麥又ハ小麥（以下米麥ト稱ス）ノ生産者又ハ土地ニ付權利ヲ有シ小作料トシテ之ヲ受クル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ生産シ又ハ小作料トシテ受ケタル米麥ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノヲ政府ニ賣渡スベシ

前項ノ場合ニ於テ政府ノ買入又ハ賣渡ノ價格ハ政府之ヲ定ム

依リ生産費及物價其ノ他ノ經濟事情ヲ參酌シテ之ヲ定ム

第四條 政府ハ其ノ買入レタル米麥ヲ食糧營團又ハ政府ノ指定スル者ニ賣渡スモノトス

前項ノ場合ニ於テ政府ノ賣渡ノ價格ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ家計費及物價其ノ他ノ經濟事情ヲ參酌シテ之ヲ定ム

第五條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ米麥以外ノ主要食糧ノ買入又ハ賣渡ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ政府ノ買入又ハ賣渡ノ價格ハ時價ニ準據シテ之ヲ定ム

第六條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ主要食糧ノ輸入若ハ移入ヲ目的トスル買入又ハ輸出若ハ移出ヲ目的トスル賣渡ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ政府ノ買入又ハ賣渡ノ價格ハ政府之ヲ定ム

第七條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主要食糧ノ貸付又ハ交付ヲ爲スコトヲ得

政府ハ必要アリト認ムルトキハ主要食糧ノ貯藏、交換、加工又ハ製造ヲ爲スコトヲ得

第八條 第三條第一項ノ者ハ同項ノ規定ニ依リ其ノ者ガ政府ニ賣渡スベキ米麥ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ檢査ヲ受クベシ但シ勅令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

政府ハ必要アリト認ムルトキハ前項ノ檢査ノ外勅令ノ定ムル所ニ依リ主要食糧ニ付檢査ヲ受クベキコトヲ命ズルコトヲ得

第九條 政府ハ特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主要食糧ノ配給、加工、製造、讓渡其ノ他ノ處分、使用、消費、保管及移動ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十條 政府ハ特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主要食糧ノ價格、加工賃又ハ製造ノ料金ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十一條 米麥ノ輸出若ハ移出又ハ輸入若ハ移入ハ勅令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外政府ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケ米麥ヲ輸入又ハ移入シタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ輸入又ハ移入シタル米麥ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノヲ政府ニ賣渡スベシ

前項ノ場合ニ於テ政府ノ買入ノ價格ハ政府之ヲ定ム

政府ハ特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ指定シ米麥以外ノ主要食糧ノ輸出若ハ移出又ハ輸入若ハ移入ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第十二條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ指定シ主要食糧ノ輸入稅ヲ增減又ハ免除スルコトヲ得

第十三條 主要食糧ノ生産費、生産高、現在高及移動ノ調査、家計費ノ調査其ノ他主要食糧ノ管理ヲ行フ爲必要ナル調査ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ調査ヲ行フ爲必要ナル報告ヲ徵シ又ハ當該官吏若ハ吏員ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

第十四條 食糧營團ハ法人トシ政府之ヲ監督ス

食糧營團ハ中央食糧營團及地方食糧營團トス
食糧營團ニ非ザル者ハ食糧營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フルコトヲ得ズ

第十五條 中央食糧營團ハ政府ノ定ムル食糧配給計畫ニ基キ主要食糧ヲ配給スルト共ニ政府ノ指定スル食糧ヲ貯藏スル爲必要ナル事業ヲ行フコトヲ目的トス
中央食糧營團ハ主タル事務所ヲ東京市ニ置ク
中央食糧營團ハ政府ノ認可ヲ受ケ必要ノ地ニ從タル事務所ヲ設置スルコトヲ得

第十六條 中央食糧營團ノ資本金ハ一億圓トシ之ヲ二百萬口ニ分チ一口ノ出資金額ヲ五十圓トス但シ資本金ハ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ增加スルコトヲ得
政府ハ五千萬圓ヲ限リ中央食糧營團ニ出資スベシ
政府ノ引受ケタル出資ノ出資金拂込ハ其ノ他ノ出資ノ出資金拂込ト之ヲ異ニスルコトヲ得

第十七條 中央食糧營團ハ定款ヲ以テ出資者ノ資格ヲ制限スルコトヲ得

第十八條 中央食糧營團ニ總裁副總裁各一人、理事五人以上、監事三人以上及評議員若干人ヲ置キ政府之ヲ命ズ

第十九條 中央食糧營團ハ左ノ事業ヲ行フモノトス
一 主要食糧ノ買入
二 地方食糧營團又ハ政府ノ指定スル者ニ對スル主要食糧ノ賣渡
三 政府ノ指定スル食糧ノ貯藏
四 政府ノ指定スル主要食糧ノ加工、製造及保管
五 前各號ノ事業ニ附帶スル事業
六 前各號ノ外中央食糧營團ノ目的達成上必要ナル事業
中央食糧營團前項第五號又ハ第六號ノ事業ヲ行ハントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ
中央食糧營團ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ廢止シ又ハ休止スルコトヲ得ズ

第二十條 政府ハ中央食糧營團ニ對シ主要食糧ノ配給上必要ナル事業ヲ行フベキコトヲ命ジ其ノ他業務ニ關シ公益上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 中央食糧營團ハ政府ノ許可ヲ受ケ其ノ寄託ヲ受ケタル物ニ付倉荷證券ヲ發行スルコトヲ得
商業組合法第三條ノ六第二項第三項、第三條ノ七、第三條ノ八第一項第二項本文及第三條ノ九ノ規定ハ前項ノ倉荷證券ニ付之ヲ準用ス但シ同法第三條ノ七、第三條ノ八第一項及第三條ノ九中商業組合倉庫證券トアルハ食糧營團倉庫證券トス

第二十二條 中央食糧營團ハ拂込資本金額ノ五倍ヲ限リ食糧營團債券ヲ發行スルコトヲ得
政府ハ食糧營團債券ノ元利支拂ヲ保證スルコトヲ得

第二十三條 中央食糧營團ハ販賣ノ目的ヲ以テ買入ルル者ニ主要食糧ヲ賣渡ストキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ主要食糧ノ販賣ニ關シ必要ナル事項ヲ指示スルコトヲ得
政府ハ主要食糧ノ配給上特ニ必要アリト認ムルトキハ前項ノ者ニ對シ同項ノ指示ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第二十四條 中央食糧營團ノ解散及清算ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 地方食糧營團ハ地方長官（樺太廳長官ヲ含ム以下同ジ）ノ定ムル食糧配給計畫ニ基キ地方的ニ主要食糧ヲ配給スルト共ニ地方長官ノ指定スル食糧ヲ貯藏スル爲必要ナル事業ヲ行フコトヲ目的トス
地方食糧營團ノ名稱、資本金及主タル事務所ノ所在地ハ政府之ヲ定ム
地方食糧營團ノ名稱ニハ其ノ主タル事務所ノ所在スル道府縣ノ名（樺太ニ在リテハ樺太）ヲ冠ス
政府ハ樺太ニ地方食糧營團ヲ設立セシムル場合ニ於テハ八百萬圓ヲ限リ之ニ出資スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依ル出資ハ樺太廳特別會計ノ歲出トシ之ニ因リ取得シタル出資證券ハ同會計ノ所屬物件トス
第十六條第三項ノ規定ハ第四項ノ規定ニ依ル出資ノ出資金拂込ニ之ヲ準用ス

第二十六條 中央食糧營團ハ政府ノ認可ヲ受ケ地方食糧營團ニ出資スルコトヲ得
第十六條第三項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル出資ノ出資金拂込ニ之ヲ準用ス

第二十七條 地方食糧營團ニ理事長一人、理事三人以上、監事二人以上及評議員若干人ヲ置キ地方長官之ヲ命ズ

第二十八條 地方食糧營團ハ左ノ事業ヲ行フモノトス
一 主要食糧ノ買入及賣渡
二 地方長官ノ指定スル食糧ノ貯藏
三 地方長官ノ指定スル主要食糧ノ加工及製造
四 前各號ノ事業ニ附帶スル事業
五 前各號ノ外地方長官ノ指定スル主要食糧ノ保管其ノ他地方食糧營團ノ目的達成上必要ナル事業
地方食糧營團前項第四號又ハ第五號ノ事業ヲ行ハントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第二十九條 第十五條第三項、第十七條、第十九條第三項、第二十條、第二十一條、第二十三條及第二十四條ノ規定ハ地方食糧營團ニ付之ヲ準用ス

第三十條 農地開發法第八條、第十條乃至第十四條、第十七條、第十九條、第二十條後段、第二十一條、第二十二條第二項第三項、第二十五條乃至第二十七條、第二十九條乃至第三十七條及第三十九條乃至第四十一條ノ規定ハ食糧營團ニ付之ヲ準用ス但シ同法第十二條第一項、第十三條第二項、第二十一條、第二十七條、第三十五條、第三十七條第二項、第三十九條、第四十條第一項及第四十一條中主務大臣トアルハ政府トシ同法第十九條第二項中副理事長ハトアルハ地方食糧營團ニ付テハ理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リトシ同法第四十條中農地開發營團監理官トアルハ食糧營團監理官トス

第三十一條 第九條又ハ第十條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス
一 第三條第一項又ハ第十一條第二項ノ規定ニ違反シタル者
二 第十一條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ同條第四項ノ規定ニ依ル禁止若ハ制限ニ違反シタル者
前項第二號ノ場合ニ於テ輸出若ハ移出又ハ輸入若ハ移入シ

タル主要食糧ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵スルコトヲ得

第三十三條 前二條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第三十四條 第二十三條第二項（第二十九條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 不正ノ手段ニ依リ第八條ノ規定ニ依ル檢査ヲ受ケ又ハ受ケントシタル者

二 第八條第二項ノ規定ニ依ル檢査ヲ受ケザル者

三 第十三條第二項ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虚僞ノ報告ヲ爲シタル者

第三十六條 第十三條第二項ノ規定ニ依ル當該官吏又ハ吏員ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第三十一條、第三十二條、第三十四條又ハ第三十五條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ各本條ノ罰金刑ヲ科ス

第三十八條 食糧營團ノ總裁、副總裁、理事長、理事、監事又ハ使用人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第三十九條 前條第一項ニ揭グル者ニ對シ賄賂ヲ交付シ又ハ之ヲ提供シ若ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第四十條 食糧營團本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ總裁、理事長、總裁ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副總裁又ハ理事長ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル理事ヲ五千圓以下ノ過料ニ處ス副總裁又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副總裁又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ

第四十一條 食糧營團ノ總裁、副總裁、理事長又ハ業務ヲ分掌スル理事第三十條ニ於テ準用スル農地開發法第二十一條ノ規定ニ違反シ他ノ職務ニ從事シタルトキハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第四十二條 第十四條第三項ノ規定ニ違反シ食糧營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用ヒタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第四十三條 本法ノ一部ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ樺太ニ適用セザルコトヲ得

樺太ニ於テ本法ヲ適用スルニ付必要ナル事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

附則

第四十四條 本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十七年勅令第五百九十一號ヲ以テ第一條乃至第七條、第九條乃至第二十三條、第二十五條乃至第三十四條、第三十五條第三號、第三十六條、第三十八條乃至第四十三條、第四十五條第一項第一號乃至第三號、第五號乃至第八號及同條第二項第三項竝ニ第四十六條乃至第五十七條ノ規定ハ昭和十七年七月一日ヨリ、同法第三十七條ノ規定ハ同法第三十一條、第三十二條、第三十四條乃至第三十五條第三號ノ規定ニ關係アル範圍內ニ於テ同日ヨリ之ヲ施行、昭和十七年勅令六百五十號ヲ以テ第四十五條第一項第四號ノ規定ハ同年九月十五日ヨリ之ヲ施行）

第四十五條 左ニ揭グル法律ハ之ヲ廢止ス

一 農產物檢查法

二 米穀統制法

三 米穀自治管理法

四 米穀配給統制法

五 籾共同貯藏助成法

六 政府所有米穀特別處理法

七 昭和九年法律第五十二號

八 昭和十二年法律第九十號

前項ニ揭グル法律廢止前當該法律ノ罰則ヲ適用スベカリシ行爲ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第一項ニ揭グル法律ノ廢止ニ關シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 政府ハ設立委員ヲ命ジ中央食糧營團ノ設立ニ關スル事務ヲ處理セシム

第四十七條 設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受クベシ

政府ハ前項ノ認可ヲ爲シタルトキハ第十九條第一項ニ揭グル事業ト同種ノ事業ヲ行フ株式會社、商業組合、商業組合聯合會、工業組合又ハ工業組合聯合會ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノニ對シ其ノ解散ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ命令ヲ受ケタル法人ハ中央食糧營團成立ノ時解散スルモノトシ其ノ權利義務ハ中央食糧營團之ヲ承繼ス此ノ場合ニ於テハ他ノ法令中解散及清算ニ關スル規定ハ之ヲ其ノ法人ニ適用セズ

第四十八條 前條第一項ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ政府ノ引受ケタル出資及勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ同條第二項ノ命令ニ係ル法人ノ株式又ハ出資ニ引當テタル出資ヲ控除シタル殘餘ノ出資ニ付出資者ヲ募集スベシ

政府ハ前項ノ認可ヲ爲サントスルトキハ食糧配給事業評價委員會ノ議ヲ經ベシ

食糧配給事業評價委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十九條 設立委員ハ出資者ノ募集ヲ終リタルトキハ出資申込書ヲ政府ニ提出シ其ノ檢查ヲ受クベシ

設立委員ハ前項ノ檢查ヲ受ケタル後遲滯ナク出資第一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ

出資第一回ノ拂込完了シタルトキハ出資者ノ總會ヲ招集スベシ

前項ノ總會終結シタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク其ノ事務ヲ中央食糧營團總裁ニ引渡スベシ

總裁前項ノ事務ノ引渡ヲ受ケタルトキハ總裁、副總裁、理事及監事ノ全員ハ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ

中央食糧營團ハ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス

第五十條 本法ニ規定スルモノノ外中央食糧營團ノ設立及第四十七條第二項ノ命令ニ係ル法人ノ解散ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條 前五條ノ規定ハ地方食糧營團ニ付之ヲ準用ス但シ第四十七條第二項中第十九條第一項トアルハ第二十八條第一項トス

第五十二條 第四十七條第三項ノ規定ニ依リ解散シタル商業組合又ハ商業組合聯合會ノ發行シタル倉荷證券アルトキハ之ヲ當該商業組合又ハ商業組合聯合會ノ權利義務ヲ承繼シタル食糧營團ノ發行シタル倉荷證券ト看做ス

第五十三條 登錄稅法中左ノ通改正ス

第五條ノ二 中央食糧營團カ食糧營團債券ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 食糧營團債券又ハ其ノ第二回以後ノ拂込

毎回拂込金額 千分ノ二

二 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 金十圓

毎一件

從タル事務所ノ所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ毎一件金二圓ノ登錄稅ヲ納ムヘシ

第十九條第七號中「農地開發營團、」ノ下ニ「食糧營團、」ヲ、「農地開發法」、ノ下ニ「食糧管理法、」ヲ加フ

第五十四條 印紙稅法第五條中第五號ノ二ヲ第五號ノ三、第五號ノ三ヲ第五號ノ四トシ第五號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

五ノ二 食糧營團ノ發スル出資證券及食糧營團債券

第五十五條 產業組合中央金庫法第十五條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

五 食糧營團其ノ他農林水產業ニ關スル事業ヲ營ム法人ニ對シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ短期貸付ヲ爲スコト

第五十六條 商工組合中央金庫法第二十九條第一項第三號中「又ハ自動車運送事業組合聯合會」ヲ「、自動車運送事業組合聯合會又ハ食糧營團」ニ改ム

第五十七條 第十四條第三項ノ規定施行ノ際現ニ食糧營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ使用スル者ハ同項ノ規定施行後六月以內ニ其ノ名稱ヲ變更スルコトヲ要ス

第四十二條ノ規定ハ前項ノ期間內之ヲ同項ノ者ニ適用セズ

○暴利行爲等取締規則

（昭和十四年十二月二十六日 商工農林省令第一號）

改正 昭和一五年第一號、昭和一六年第一一號

昭和十二年商工省令第十號左ノ通改正ス

暴利行爲等取締規則

第一條 何人ト雖モ暴利ヲ得テ物品ノ販賣ヲ爲スコトヲ得ズ

何人ト雖モ主務大臣又ハ地方長官ノ指示アリタル場合其ノ他正當ノ事由アル場合ヲ除クノ外營利ノ目的ヲ以テ又ハ自己ノ業務ニ關シ物品ノ買占又ハ賣惜ヲ爲スコトヲ得ズ

何人ト雖モ主務大臣又ハ地方長官ノ指示アリタル場合其ノ他正當ノ事由アル場合ヲ除クノ外他ノモノヲ併セ又ハ負擔ヲ附シテ物品ノ販賣ヲ爲スコトヲ得ズ

何人ト雖モ不當ノ報酬ヲ得テ物ノ賣買ノ媒介ヲ爲スコトヲ得ズ

第二條 物品ノ販賣ヲ爲ス者ハ其ノ價格及左ノ各號ニ掲グル物品ニ付テハ其ノ旨ヲ物品ノ見易キ部分ニ記載シ、店頭ニ掲示シ其ノ他容易ニ之ヲ了知シ得ル方法ヲ以テ表示スベシ但シ主務大臣又ハ地方長官ニ於テ特別ノ事情アリト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 價格ニ付價格等統制令第二條ノ適用ヲ受クル物品但シ第二號、第三號及第五號ニ掲グル物品ヲ除ク

二 價格ニ付價格等統制令第二條ノ適用ヲ受クル物品ニシテ同令施行規則第三條第一項第二號ニ掲グルモノ

三 價格ニ付價格等統制令第三條第一項ノ規定ニ依ル認可又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル處分アリタル物品

四 價格ニ付價格等統制令第六條第二項ノ規定ニ依リ定メタル法令ニ於テ又ハ之ニ基キ額ヲ定メ又ハ額ノ處分アリタル物品及同令第七條ノ規定ニ依リ額ノ指定アリタル物品但シ第五號ニ掲グル物品ヲ除ク

五 價格ニ付價格等統制令第二條ノ適用ヲ受クル物品ニシテ同令第七條ノ規定ニ依リ額ノ指定アリタル物品ヲ販賣スルトキ

二 價格ニ付價格等統制令第六條第二項ノ規定ニ依リ定メタル法令ニ於テ又ハ之ニ基キ額ヲ定メ又ハ額ノ處分アリタル物品ヲ販賣スルトキ

第五條ノ二 本則ニ於テ地方長官トアルハ東京府ニ在リテハ東京府知事及警視總監トス

第六條 第一條ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

條第一項但書ノ許可アリタル物品

前項各號ニ掲グル物品ナル旨ノ表示ハ主務大臣ノ定ムル樣式ニ依リ之ヲ爲スベシ

主務大臣又ハ地方長官ハ物品ノ販賣ヲ爲ス者ニ對シ第一項ノ表示ニ關シ必要ナル事項ヲ命ジ又ハ價格ノ屆出ヲ命ズルコトアルベシ

第三條 主務大臣又ハ地方長官ハ物品ノ販賣ヲ爲ス者ニ對シ物品ノ名稱、銘柄、規格、品質、等級、寸法、容量、重量若ハ數量ノ表示又ハ之ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトアルベシ

第四條 主務大臣又ハ地方長官取締上必要アリト認ムルトキハ物品ノ販賣ヲ爲ス者ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシムルコトアルベシ

第五條 第一條第一項ノ規定ハ左ニ掲グル場合ニハ之ヲ適用セズ

一 價格ニ付價格等統制令第二條ノ適用ヲ受クル物品又ハ同令第七條ノ規定ニ依リ額ノ指定アリタル物品ヲ販賣スルトキ

二 價格ニ付價格等統制令第六條第二項ノ規定ニ依リ定メタル法令ニ於テ又ハ之ニ基キ額ヲ定メ又ハ額ノ處分アリタル物品ヲ販賣スルトキ

一　第二條第一項若ハ第二項ノ規定ニ依ル表示ヲ爲サズ又ハ虚僞ノ表示ヲ爲シタル者

二　第二條第三項又ハ第三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

三　第四條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虚僞ノ報告ヲ爲シタル者

第八條　法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前二條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦第六條ノ罰金刑又ハ前條ノ科料刑ヲ科ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ハ本令施行前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ本令施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

附　則（昭和十五年商工農林省令條第一號附則）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二條、第三條及第七條ノ改正規定ハ昭和十五年七月八日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十六年商工農林省令第十一號）

本令ハ昭和十六年七月十五日ヨリ之ヲ施行ス

追

錄

追錄

○裁判所構成法中改正法律……三
○共通法中改正法律……三
○明治四十年法律第二十五號廢止法律……三
○樺太施行法律特例中改正ノ件……四
○樺太施行法律特例中改正ノ件……四
○兵役法中改正法律……四
○在滿日本人ノ身分ニ關スル滿洲國裁判ノ效力ニ關スル法律……五
○自動車交通事業法中改正法律……五
○小切手法ノ適用ニ付銀行ト同視スベキ人又ハ施設ヲ定ムルノ件中改正ノ件……一一
○間接國稅犯則者處分法施行規則中改正ノ件……一一
○陪審法ノ停止ニ關スル法律……一三
○日本證券取引所法……一三
○占領地軍政官憲ノ爲シタル行爲ノ法律上ノ效力等ニ關スル法律……一三
○戰時刑事特別法中改正法律……一三

○裁判所構成法中改正法律（昭和十六年三月十三日　法律第五十七號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國議會ノ協賛ヲ經タル裁判所構成法中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

裁判所構成法中左ノ通改正ス

第八十八條第一項ヲ左ノ如ク改ム

書記ハ判任トス但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ奏任ト爲スコトヲ得

書記ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

司法大臣ハ大審院長控訴院長檢事總長檢事長ニ各〻其ノ裁判所又ハ檢事局ノ判任書記ヲ地方裁判所長檢事正ニ各〻其ノ裁判所及其ノ管轄區域內ノ區裁判所又ハ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル地方裁判所管轄區域內ノ檢事局ノ判任書記ヲ任シ及補スルノ權ヲ委任スルコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十八年勅令第百三十六號ヲ以テ同年三月二十日ヨリ施行）

○共通法中改正法律（昭和十八年三月二日　法律第五號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル共通法中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

共通法中左ノ通改正ス

第三條第三項中「戶籍法」ノ下ニ「又ハ朝鮮民事令中戶籍ニ關スル規定」ヲ加ヘ「他ノ地域」ヲ「內地及朝鮮以外ノ地域」ニ改ム

附　則

本法ハ昭和十八年法律第四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十八年八月一日ヨリ施行）

本法施行ノ際徵兵適齡ヲ過ギ居ル者及徵兵適齡ノ者ニシテ其ノ際現ニ戶籍法ノ適用ヲ受クルモノ又ハ本法施行後其ノ適用ヲ受クルニ至リタルモノニ付テハ第三條第三項ノ改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ル

○明治四十年法律第二十五號廢止法律（昭和十八年三月二十七日　法律第八十五號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル明治四十年法律第二十五號廢止法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

明治四十年法律第二十五號ハ之ヲ廢止ス

附　則

本法ハ昭和十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前公布セラレタル法律ノ樺太施行ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル其ノ全部又ハ一部ノ改正法律ニシテ本法施行後公布セラルルモノニ付亦同ジ

○樺太施行法律特例中改正ノ件

（昭和十八年三月二十七日　勅令第百八十八號）

朕樺太施行法律特例中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

樺太施行法律特例中左ノ通改正ス

第七條ノ二第一項中「營業收益稅額、」ノ下ニ「同法第一條ノ三第一項中營業稅法第十二條ノ規定ニ依リ指定シタル物產トアルハ樺太廳長官ノ指定シタル物產、」ヲ加フ

附　則

本令ハ昭和十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○樺太施行法律特例中改正ノ件

（昭和十八年三月三十一日　勅令第二百四十號）

朕樺太施行法律特例中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

樺太施行法律特例中左ノ通改正ス

第二條第二項ヲ削ル

第六條第二項中「及地方長官」ヲ削ル

第十二條中「及地方長官」及「及地方廳」ヲ削ル

第十四條中「地方長官ノ職務ハ樺太廳長官、」ヲ削ル

第十七條中「地方長官及」ヲ削ル

第十八條　鐵道抵當法第八條第一項但書中一箇月トアルハ二箇月トス

第二十條中「及地方長官」ヲ削ル

第二十一條中「及地方長官」ヲ削リ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

森林法第七十八條第一項及第八十一條第一項ノ規定ニ依ル認可ハ之ヲ要セズ

第二十六條　削除

第二十七條中「日本內地」ノ下ニ「（樺太ヲ除ク）」ヲ加フ

第二十九條中「及地方長官」ヲ削ル

第三十條ヲ削リ第三十一條ヲ第三十條トス

第三十二條及第三十三條ヲ削ル

第三十四條中「又ハ地方長官」ヲ削リ同條ヲ第三十一條トス

第三十五條及第三十六條ヲ削リ第三十七條ヲ第三十二條トス

附　則

本令ハ昭和十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○兵役法中改正法律

（昭和十八年三月二日　法律第四號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル兵役法中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

兵役法中左ノ通改正ス

第九條第二項及第二十三條第一項中「戶籍法」ノ下ニ「又ハ朝鮮民事令中戶籍ニ關スル規定」ヲ加フ

第三十九條第一項第六號中「矯正院法」ノ下ニ「又ハ朝鮮矯正院令」ヲ加ヘ同項第五號ヲ左ノ如ク改ム

五　少年法ノ定ムル所ニ依リ少年教護院、矯正院若ハ病院ニ收容中ナルトキ又ハ朝鮮少年令ノ定ムル所ニ依リ朝鮮總督府感化院、朝鮮總督府矯正院若ハ病院ニ收容中ナルトキ

第五十二條第一項ヲ左ノ如ク改ム

戶籍法及朝鮮民事令中戶籍ニ關スル規定ノ適用ヲ受ケザル者ニシテ徵兵適齡ヲ過ギ戶籍法又ハ朝鮮民事令中戶籍ニ關スル規定ノ適用ヲ受クル者ノ家ニ入リタルモノニ對シテハ徵集ヲ免除ス

第五十三條ノ二　左ニ揭グル者ノ徵集ニ關シテハ第二十六條第二十七條又ハ第二十九條ノ規定ニ對シ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

一　戶籍法ノ適用ヲ受クル者ニシテ朝鮮、臺灣又ハ帝國外ノ地ニ在留スルモノ

二　朝鮮民事令中戶籍ニ關スル規定ノ適用ヲ受クル者

第六十九條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ニ規定スル事務ノ監督ニ付テハ戶籍事務ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第七十二條　本法中市町村長ニ關スル規定ハ市町村長ニ準ズベキ者ニ之ヲ適用ス但シ市長ニ關スル規定（第六十一條ノ規定ヲ除ク）ハ區長（之ニ準ズベキ者ヲ含ム以下同ジ）ヲ以テ戶籍ニ關スル事務ヲ管掌スル者ト爲シタル市（之ニ準ズベキモノヲ含ム）ニ在リテハ區長ニ之ヲ適用ス

附　則

本法ハ昭和十八年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

第九條第二項及第二十三條第一項ノ改正規定ハ本法施行ノ際徵兵適齡ヲ過ギ居ル者及徵兵適齡ノ者ニシテ其ノ際現ニ朝鮮民事令中戶籍ニ關スル規定ノ適用ヲ受クルモノ又ハ本法施行後其ノ適用ヲ受クルニ至リタルモノ（第三條ノ規定ニ該當スル者ヲ除ク）ニ之ヲ適用セズ

前項ノ規定ニ該當スル者ニ付テハ第五十二條第一項ノ改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ル

○在滿日本人ノ身分ニ關スル滿洲國裁判ノ效力ニ關スル法律

（昭和十八年三月十三日　法律第五十六號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル在滿日本人ノ身分ニ關スル滿洲國裁判ノ效力ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

滿洲國ノ法院ガ同國ニ住所ヲ有スル日本人ノ身分ニ關スル事件ノ爲ノ特別手續ニ依リ隱居、廢家、親族會、相續又ハ遺言ニ付爲シタル裁判又ハ處分ハ非訟事件手續法ニ之ニ相當スル規定アル場合ニ限リ裁判所ガ同法ニ依リテ爲シタルモノト同一ノ效力ヲ有ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十八年勅令第二百十號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行）

○自動車交通事業法中改正法律

（昭和十八年三月十二日　法律第五十五號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル自動車交通事業法中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

自動車交通事業法中左ノ通改正ス

第十條第一項第三號中「運輸ニ關スル協定」ノ下ニ「又ハ共同經營」ヲ加ヘ同項中第四號ヲ削リ第五號ヲ第四號トシ第六

號ヲ第五號トス

同條第二項中「及第四號」ヲ削ル

第十六條第一項中「第十條（第一項第二號、第三號及第五號ヲ除ク）及第十一條乃至第十三條」ヲ「第十條（第一項第二號及第四號ヲ除ク）及第十一條乃至第十三條ノ二」ニ、「第十二條及第十三條中主務大臣トアルハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監トス）トシ第十條第一項第四號中路線トアルハ主タル事業區域トス」ヲ「及第十二條乃至第十三條ノ二中主務大臣トアルハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監トス）」ニ改ム

第十六條ノ二中「一般」ヲ「他人」ニ改ム

第十六條ノ三中「又ハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監トス以下本章中之ニ同ジ）」ヲ削ル

第十六條ノ四中「又ハ地方長官」ヲ削ル

第十六條ノ六第一項中「地方長官」ノ下ニ「（東京府ニ在リテハ警視總監トス以下本章及第三章中之ニ同ジ）」ヲ、同項第二號中「運輸ニ關スル協定」ノ下ニ「又ハ共同經營」ヲ加ヘ同項中第三號ヲ削リ第四號ヲ第三號トシ第五號ヲ第四號トス

同條第二項中「及第三號」ヲ削リ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

主務大臣又ハ地方長官ハ物資輸送ノ確保ヲ期スル爲必要アリト認ムルトキハ貨物自動車運送事業者ニ對シ物品ノ種類數量、運賃其ノ他ノ運送條件ヲ定メ物品ノ運送ヲ命ズルコトヲ得

第十六條ノ七中「貨物自動車ノ整備ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ」ヲ「貨物自動車運送事業ノ施設ノ整備ヲ圖ル爲其ノ他特別ノ事情ニ依リ必要アリト認ムルトキハ」ニ改ム

第十六條ノ八中但書ヲ削ル

第十六條ノ十　自動車運送事業組合ハ旅客自動車運輸事業、旅客自動車運送事業又ハ貨物自動車運送事業（以下自動車運送事業ト總稱ス）ノ總力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル爲自動車運送事業ノ統制指導ヲ圖リ又ハ之ガ爲ニスル經營ヲ行ヒ且自動車運送事業ニ關スル國策ノ遂行ニ協力スルコトヲ目的トス

組合ハ法人トス

第十六條ノ十一　自動車運送事業組合ハ一定地區ニ於テ前條第一項ニ掲グル事業ノ種類別ニ其ノ事業者ヲ以テ之ヲ設立ス但シ特別ノ事情アルトキハ二種以上ノ事業者ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

第十六條ノ十二　自動車運送事業組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ニ掲グル事業ヲ行フ

一　運賃、運輸其ノ他組合員ノ事業ニ關スル統制

二　組合員ノ事業ノ整備確立

三　組合員ノ事業ニ關スル指導、調査及研究

四　組合員ノ事業ニ關スル檢査

組合ハ前項ノ事業ノ外自動車運送事業ノ統制指導ノ爲必要アルトキハ左ニ掲グル事業ヲ併セ行フコトヲ得

一　組合員ノ事業ニ必要ナル物ノ購入、共同設備ノ設置其ノ他組合員ノ事業ニ關スル共同施設

二　組合員ノ事業ニ必要ナル資金ノ貸付

三　前各號ニ掲グルモノノ外必要ナル事業

前項ノ組合ノ共同施設ハ組合員ノ利用ニ支障ナキ場合ニ限リ組合員ニ非ザル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ利用

セシムルコトヲ得

第二項第三號ノ事業ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ行フコトヲ得ズ

第十六條ノ十三　主務大臣ハ自動車運送事業組合ヲ設立セシメントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ地區ヲ定メ其ノ地區內ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ組合ノ設立ヲ命ズベシ

前項ノ規定ニ依ル組合ノ設立ノ命令アリタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ創立總會ヲ開キ之ニ諮リテ定款其ノ他組合ノ設立ニ必要ナル事項ヲ定メ監事ヲ選任シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第一項ノ規定ニ依リ組合ノ設立ヲ命ゼラレタル者主務大臣ノ指定スル期限迄ニ其ノ設立ノ認可ヲ申請セザルトキハ主務大臣ハ定款ノ作成、監事ノ任命其ノ他組合ノ設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十六條ノ十四　自動車運送事業組合ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス

第十六條ノ十五中「第十六條ノ十三ノ規定ニ依ル」ヲ削ル

第十六條ノ十六　自動車運送事業組合ノ定款ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一　目的

二　名稱

三　地區

四　事務所ノ所在地

五　組合員ニ關スル規定

六　事業及其ノ執行ニ關スル規定

七　役員ニ關スル規定

八　會議ニ關スル規定

九　會計ニ關スル規定

第十六ノ條十七　自動車運送事業組合ニハ左ノ役員ヲ置クベシ

理事長　一人

理事　若干人

監事　若干人

理事長ハ組合ヲ代表シ組合事務ヲ總理ス

理事ハ理事長ヲ輔佐シ組合事務ヲ分掌シ豫メ理事長ノ定ムル順位ニ依リ理事長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ理事長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

監事ハ組合ノ業務及財產ノ狀況ヲ監査ス

理事長及理事ノ任期ハ三年、監事ノ任期ハ二年トス

理事長又ハ理事ト監事トハ相兼ヌルコトヲ得ズ

第十六條ノ十八　自動車運送事業組合ノ理事長ハ自動車運送事業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ主務大臣ノ認可ヲ受ケ地方長官之ヲ命ズ

組合ノ理事ハ自動車運送事業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ理事長之ヲ命ズ

組合ノ監事ハ創立總會又ハ總會ニ於テ之ヲ選任ス

前項ノ規定ニ依ル選任ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十六條ノ十九　自動車運送事業組合ノ理事長ハ他ノ職業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條ノ二十　自動車運送事業組合ハ組合員ノ事業ニ關スル統制規程ヲ定ムベシ

組合員ハ當該組合ノ統制規程ニ依ルベシ

第十六條ノ二十一　左ニ掲グル事項ハ總會ニ諮リ自動車運送事業組合ノ理事長之ヲ決ス

一　定款ノ變更

二　統制規程ノ制定及變更

三　收支豫算竝ニ賦課金ノ額及徴收方法

前項ノ規定ニ依ル組合ノ理事長ノ處分ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十六條ノ二十二　自動車運送事業組合ノ理事長ハ毎年總會ニ組合ノ事業ノ狀況ヲ報告シ組合ノ監事ヲシテ財産ノ狀況ヲ報告セシムベシ

第十六條ノ二十三　自動車運送事業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ニ對シ經費ヲ賦課シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

組合ハ其ノ事業ヲ行フ爲特ニ必要アルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ組合員ノ全部又ハ一部ニ對シ前項ノ規定ニ依ル賦課金ノ外特別ノ賦課金ヲ課スルコトヲ得

第十六條ノ二十四　前條ノ規定ニ依ル賦課金又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ自動車運送事業組合ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村税ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ組合ハ其ノ徴收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スベシ

前項中町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス

第一項ノ規定ニ依ル徴收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徴收金ニ次ギ其ノ時效ニ付テハ市町村税ノ例ニ依ル

第十六條ノ二十五　自動車運送事業組合ハ使用料及手數料ヲ徴收スルコトヲ得

前項ノ使用料及手數料ノ徴收ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十六條ノ二十六　自動車運送事業組合ハ必要アリト認ムルトキハ組合ノ役員又ハ使用人ヲシテ組合員ノ業務若ハ財産ノ狀況又ハ帳簿、書類、設備其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

組合前項ノ規定ニ依リ役員又ハ使用人ヲシテ檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第十六條ノ二十七　政府ハ自動車運送事業ノ總力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ自動車運送事業組合ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ自動車運送事業ノ統制指導ニ要スル費用ノ一部ヲ補助スルコトヲ得

第十六條ノ二十八　主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ自動車運送事業組合ニ對シ定款、統制規程、收支豫算、賦課金ノ額若ハ徴收方法ノ變更又ハ必要ナル事業ノ施行ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十六條ノ二十九　地方長官ハ自動車運送事業組合ノ役員ノ行爲ガ法令又ハ法令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ、公益ヲ害シタルトキ其ノ他事業ノ執行上當該役員ヲ不適當ナリト認ムルトキハ之ヲ解任スルコトヲ得

第十六條ノ三十　自動車運送事業組合ハ主務大臣ノ命令ニ因リテ解散ス

第十六條ノ三十一　自動車運送事業組合聯合會ハ自動車運送事業ノ總力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル爲其ノ會員ノ事業ノ統制指導ヲ圖リ又ハ之ガ爲ニスル經營ヲ行ヒ且自動車運送事業ニ關スル國策ノ立案及遂行ニ協力スルコトヲ目的トス

聯合會ハ法人トス

第十六條ノ三十二　自動車運送事業組合聯合會ハ第十六條ノ十第一項ニ掲グル事業ノ種類別ニ之ヲ設立シ全國ヲ通ジテ一個トス但シ特別ノ事情アルトキハ二種以上ノ事業ニ付之ヲ設立スルコトヲ得

聯合會ノ會員タル資格ヲ有スル者ハ左ニ掲グル者トス

一　當該自動車運送事業ノ事業者ヲ以テ組織スル自動車運送事業組合

二　當該自動車運送事業ノ事業者ニシテ自動車運送事業組合ノ組合員タラザルモノ

第十六條ノ三十三　自動車運送事業組合聯合會ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ニ掲グル事業ヲ行フ

一　自動車運送事業ニ關スル政府ノ計畫ニ對スル參畫

二　自動車運送事業ニ關スル調査及研究

三　會員ノ事業ニ關スル統制指導

四　會員ノ事業ニ關スル檢査

聯合會ハ前項ノ事業ノ外其ノ會員ノ事業ノ統制指導ノ爲必要アルトキハ左ニ掲グル事業ヲ併セ行フコトヲ得

一　會員ノ事業ニ必要ナル物ノ購入、共同設備ノ設置其ノ他會員ノ事業ニ關スル共同施設

二　前號ニ掲グルモノノ外必要ナル一切ノ事業

前項ノ聯合會ノ共同施設ハ會員ノ利用ニ支障ナキ場合ニ限リ會員ニ非ザル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ利用セシムルコトヲ得

第二項第二號ノ事業ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ行フコトヲ得ズ

第十六條ノ三十四　自動車運送事業組合聯合會ニハ左ノ役員ヲ置クベシ

會長　一人

理事　若干人

監事　若干人

評議員　若干人

聯合會ニハ前項ノ役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ理事長一人ヲ置クコトヲ得

會長ハ聯合會ヲ代表シ會務ヲ總理ス

理事長ハ會長ヲ輔佐シ會務ヲ掌理シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ會長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

理事ハ會長及理事長ヲ輔佐シ會務ヲ分掌シ豫メ會長ノ定ムル順位ニ依リ會長及理事長共ニ事故アルトキハ會長ノ職務ヲ代理シ會長及理事長共ニ缺員ノトキハ會長ノ職務ヲ行フ

監事ハ聯合會ノ業務及財産ノ狀況ヲ監査ス

評議員ハ會長ノ諮問ニ答申シ又ハ會長ニ對シ意見ヲ具申ス

會長、理事長及理事ノ任期ハ三年、監事及評議員ノ任期ハ二年トス

會長、理事長又ハ理事ト監事トハ相兼ヌルコトヲ得ズ

第十六條ノ三十五ヲ第十六條ノ三十八トシ以下第十六條ノ三十八迄順次三條宛繰下グ

第十六條ノ三十五　自動車運送事業組合聯合會ノ會長ハ銓衡委員ノ推薦シタル者ノ中ヨリ主務大臣之ヲ命ズ

前項ノ銓衡委員ハ自動車運送事業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ主務大臣之ヲ命ズ

聯合會ノ理事長及理事ハ自動車運送事業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ會長之ヲ命ズ

聯合會ノ監事ハ創立總會又ハ總會ニ於テ之ヲ選任ス

聯合會ノ評議員ハ自動車運送事業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ主務大臣之ヲ命ズ

第三項ノ規定ニ依ル任命及第四項ノ規定ニ依ル選任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十六條ノ三十六　自動車運送事業組合聯合會ノ會長、理事長及理事ハ他ノ職業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條ノ三十七　自動車運送事業組合ニ關スル規定ハ第十六條ノ十乃至第十六條ノ十二及第十六條ノ十七乃至第十六條ノ十九ノ規定ヲ除クノ外自動車運送事業組合聯合會ニ之ヲ準用ス但シ第十六條ノ二十一及第十六條ノ二十二中自動車運送事業組合ノ理事長又ハ組合ノ理事長トアルハ聯合會ノ會長トシ第十六條ノ二十九中地方長官トアルハ主務大臣トス

第五十二條第三號中「第十六條ノ十三第一項」ノ下ニ「及第十六條ノ三十七ニ於テ準用スル同條同項」ヲ加フ

第五十八條第一項中「理事、監事、假理事」ヲ「役員、使用人」ニ改ム

第五十九條ノ二　自動車運送事業組合ノ組合員又ハ自動車運送事業組合聯合會ノ會員統制規程ニ基キテ爲シタル組合又ハ聯合會ノ處分ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十九條ノ三　自動車運送事業組合ノ組合員又ハ自動車運送事業組合聯合會ノ會員第十六條ノ二十六第一項又ハ第十六條ノ三十七ニ於テ準用スル同條同項ノ檢査ヲ妨ゲタルトキハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第五十九條ノ四　自動車運送事業組合聯合會ノ會員ガ自動車運送事業組合ナルトキハ第五十九條ノ二ノ規定ハ其ノ行爲ヲ爲シタル組合ノ役員又ハ使用人ニ、前條ノ規定ハ其ノ行爲ヲ爲シタル組合ノ役員ニ之ヲ適用ス

第六十條　左ノ場合ニ於テハ自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會ノ役員又ハ清算人ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ認可又ハ許可ヲ受ケテ爲スベキ事項ヲ之ヲ受ケズシテ爲シタルトキ

二　本法ニ基キテ爲シタル處分（第十六條ノ三十七ニ於テ準用スル第十六條ノ十三第一項ノ規定ニ基キテ爲シタル處分ヲ除ク）ニ違反シタルトキ

三　行政官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

四　本法ニ依リ行政官廳ノ徵スル報告ヲ差出サズ又ハ監査員ノ監査ヲ妨ゲ其ノ他行政官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハザルトキ

五　第十六條ノ三十九ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

六　第十六條ノ四十ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ違反シタルトキ

附　則

第一條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　從前ノ第十六條ノ三、第十六條ノ四又ハ第十六條ノ八ノ規定ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ同條ノ改正規定ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三條　本法施行ノ際現ニ本法ニ依リ新ニ免許ヲ受クベキモノト爲リタル事業ヲ營ム者ハ本法施行後三月內ニ限リ其ノ事業ヲ營ムコトヲ得此ノ期間內ニ事業經營ノ免許申請ヲ爲ストキハ免許又ハ免許ノ拒否ノ日迄亦同ジ

第四條　本法施行ノ際現ニ存スル自動車運送事業組合ハ本法ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル組合ニシテ地區ヲ同ジクスルモノノ成立シタル時解散ス

本法施行ノ際現ニ存スル自動車運送事業組合及自動車運送事業組合聯合會ニ付テハ仍從前ノ規定ヲ適用ス

第五條　本法施行前從前ノ規定ニ依リテ處罰スベカリシ行爲ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第六條　印紙稅法中左ノ通改正ス

第四條第一項第十二號中「自動車運送事業組合、自動車運送事業組合聯合會」ヲ削ル

○小切手法ノ適用ニ付銀行ト同視スベキ人又ハ施設ヲ定ムルノ件中改正ノ件

（昭和十八年三月三十一日　勅令第三百四十五號）

朕昭和八年勅令第三百二十九號小切手法ノ適用ニ付銀行ト同視スベキ人又ハ施設ヲ定ムルノ件中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム　昭和八年勅令第三百二十九號中左ノ通改正ス

「信用組合」ノ次ニ「市街地信用組合」ヲ加フ

附　則

本令ハ昭和十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○間接國稅犯則者處分法施行規則中改正ノ件

（昭和十八年三月三十一日　勅令第三百三十二條）

朕間接國稅犯則者處分法施行規則中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

間接國稅犯則者處分法施行規則中左ノ通改正ス

第一條中「砂糖消費稅」ヲ「砂糖消費稅及砂糖特別消費稅」ニ改メ同條ニ左ノ一號ヲ加フ

十八　特別行爲稅

附　則

本令ハ昭和十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○陪審法ノ停止ニ關スル法律

（昭和十八年四月一日法律第八十八號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國議會ノ協賛ヲ經タル陪審法ノ停止ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陪審法ハ其ノ施行ヲ停止ス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ本法施行前陪審手續ニ依ル公判期日ノ定リタル事件ニ關シテハ之ヲ適用セズ本法施行前其ノ裁判ノ確定シタル事件ニ關スル陪審法第四章又ハ第五章ノ規定ノ適用ニ付亦同ジ

陪審法ハ大東亜戰爭終了後再施行スルモノトシ其ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ニ規定スルモノノ外陪審法ノ再施行ニ付必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○日本證券取引所法

（昭和十八年三月十一日法律第四十四號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル日本證券取引所法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

日本證券取引所法

第一章　總則

第一條　日本證券取引所ハ國家經濟ノ適切ナル運營ニ資スル爲有價證券ノ公正ナル價格ノ形成及價格ノ安定ニ任ジ且有價證券ノ流通ヲ圓滑ナラシムルコトヲ以テ目的トス

日本證券取引所ハ法人トス

第二條　日本證券取引所ハ主タル事務所ヲ東京市ニ置ク

日本證券取引所ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ必要ノ地ニ從タル事務所ヲ設置スルコトヲ得

第三條　日本證券取引所ノ資本金ハ二億圓トシ之ヲ四百萬口ニ分チ一口ノ出資金額ヲ五十圓トス但シ資本金ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ增加スルコトヲ得

第四條　日本證券取引所ハ出資ニ對シ出資證券ヲ發行ス

出資證券ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　政府ハ五千萬圓ヲ限リ日本證券取引所ニ出資スルコトヲ得

前項ノ出資ハ國債證券ヲ交付シテ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

第六條　日本證券取引所ノ出資者ノ責任ハ其ノ出資額ヲ限度トス

出資者ハ日本證券取引所ニ拂込ムベキ出資額ニ付相殺ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得ズ

第七條　出資者ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得

第八條　拂込ヲ怠リタル出資者ニ對シ日本證券取引所ガ一月以上ノ相當ノ期間ヲ定メ拂込ノ請求ヲ爲シタルニ拘ラズ出資者ガ拂込ヲ爲サザルトキハ日本證券取引所ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ出資者ノ持分ヲ處分スルコトヲ得

日本證券取引所ハ持分ノ處分ニ依リテ得タル金額ヨリ滯納金額及定款ヲ以テ定ムル違約金ノ額ヲ控除シタル金額ヲ從前ノ出資者ニ拂戻スベシ

持分ノ處分ニ依リテ得タル金額ガ滯納金額ニ滿タザル場合ニ於テハ日本證券取引所ハ從前ノ出資者ニ對シ不足額ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

前三項ノ規定ハ日本證券取引所ガ損害賠償及定款ヲ以テ定ムル違約金ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

出資者ガ第一項ノ期間內ニ拂込ヲ爲サザルトキハ日本證券取引所ハ其ノ出資者ニ對シ二週間以內ニ出資證券ヲ日本證券取引所ニ提出スベキ旨ヲ通知スベシ此ノ場合ニ於テ提出ナキ出資證券ハ其ノ效力ヲ失フ

前項ノ場合ニ於テハ日本證券取引所ハ遲滯ナク失效シタル出資證券ノ番號竝ニ其ノ出資者ノ氏名及住所ヲ公告スベシ

第九條　日本證券取引所ハ定款ヲ以テ左ノ事項ヲ規定スベシ

一　目的

二　名稱

三　事務所ノ所在地

四　資本金額、出資及資產ニ關スル事項

五　役員ニ關スル事項

六　業務及其ノ執行ニ關スル事項

七　會計ニ關スル事項

八　公告ノ方法

定款ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十條　日本證券取引所ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スベシ

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第十一條　日本證券取引所ニ付解散ヲ必要トスル事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條　日本證券取引所ニ非ザル者ハ日本證券取引所又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フルコトヲ得ズ

第十三條　民法第四十四條、第五十條、第五十四條及第五十七條竝ニ非訟事件手續法第三十五條第一項ノ規定ハ日本證券取引所ニ之ヲ準用ス

第二章　職員

第十四條　日本證券取引所ニ役員トシテ總裁一人、副總裁二人、理事五人以上、監事二人以上及評議員若干人ヲ置ク

第十五條　總裁ハ日本證券取引所ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

副總裁ハ定款ノ定ムル所ニ依リ日本證券取引所ヲ代表シ總裁ヲ輔佐シテ日本證券取引所ノ業務ヲ掌理シ總裁事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ日本證券取引所ヲ代表シ總裁及副總裁ヲ輔佐シテ日本證券取引所ノ業務ヲ掌理シ總裁及副總裁共ニ事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ總裁及副總裁共ニ缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

監事ハ日本證券取引所ノ業務ヲ監査ス

評議員ハ日本證券取引所ノ業務ニ關スル重要事項ニ付總裁ノ諮問ニ應ジ又ハ總裁ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得

總裁ハ主務大臣ノ定ムル事項ニ付テハ評議員ニ諮問スベシ

第十六條　總裁、副總裁、理事、監事及評議員ハ政府之ヲ命

ズ

總裁、副總裁及理事ノ任期ハ四年、監事及評議員ノ任期ハ二年トス

第十七條 總裁ハ從タル事務所ノ業務ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スル代理人ヲ選任スルコトヲ得

第十八條 總裁、副總裁及理事ハ他ノ職業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條 日本證券取引所ノ總裁、副總裁、理事、監事及使用人竝ニ命令ヲ以テ定ムル者ハ何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ有價證券ヲ賣買取引スル市場（以下有價證券市場ト稱ス）ニ於ケル賣買取引ノ委託ヲ爲シ又ハ取引員トノ間ニ資金ノ供與、損益ノ分配其ノ他取引員ノ營業ニ付特別ノ利害關係ヲ有スルコトヲ得ズ但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ取引員ノ株式ヲ所有スルハ此ノ限ニ在ラズ

第二十條 日本證券取引所ノ職員ハ之ヲ法令ニ依リ公務ニ從事スル職員ト看做ス

前項ノ職員ノ範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三章 業務

第二十一條 日本證券取引所ハ左ノ業務ヲ行フ

一 有價證券市場ノ開設

二 賣出ノ爲ニスル有價證券ノ引受又ハ買入、引受ケ又ハ買入レタル有價證券ノ賣出及有價證券ノ募集又ハ賣出ノ取扱

三 前二號ノ業務ニ附帯スル業務

日本證券取引所ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ前項ノ業務ノ外日本證券取引所ノ目的達成上必要ナル業務ヲ行フコトヲ得

第二十二條 主務大臣ハ有價證券ノ價格ノ安定ノ爲必要アリト認ムルトキハ日本證券取引所ヲシテ第二十七條第一項ノ規定ニ拘ラズ有價證券市場ニ於ケル賣買取引ヲ爲サシメ又ハ賣買取引ノ委託ヲ爲サシムルコトヲ得

日本證券取引所ヲシテ前項ノ規定ニ依リ有價證券市場ニ於ケル賣買取引又ハ其ノ委託ヲ爲サシムルニ付必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四章 有價證券市場

第二十三條 有價證券市場ハ日本證券取引所ニ限リ之ヲ開設スルコトヲ得

何人ト雖モ有價證券市場ニ類似ノ施設ヲ爲シ又ハ其ノ施設ニ依リ取引ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十四條 日本證券取引所ハ有價證券市場ヲ開設シ又ハ之ヲ閉鎖セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ市場毎ニ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ日本證券取引所ニ對シ有價證券市場ヲ開設シ又ハ之ヲ閉鎖スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第二十五條 日本證券取引所ハ命令ノ定ムル所ニ依リ有價證券市場ニ於ケル立會ノ全部又ハ一部ノ停止ヲ爲スコトヲ得

主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ日本證券取引所ニ對シ有價證券市場ニ於ケル立會ノ全部又ハ一部ヲ停止スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第二十六條 日本證券取引所ハ有價證券市場ニ於ケル取引物件トシテ上場セントスル有價證券ノ銘柄ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ上場ヲ廢止セントスル有價證券ノ銘柄ニ付亦同ジ

主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ日本證券取引所ニ對シ有價證券ノ銘柄ヲ指定シ有價證券市場ニ於ケル取引物件トシテ之ヲ上場シ又ハ之ガ上場ヲ廢止スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第五章 取引員

第二十七條 有價證券市場ニ於ケル賣買取引ハ取引員ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

取引員タラントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ免許ヲ受クベシ

第二十八條 取引員タル資格ヲ有スル者ハ資本金額ガ勅令ヲ以テ定ムル額以上ノ株式會社ニシテ其ノ資本ノ半額以上及議決權ノ過半數ガ帝國臣民又ハ帝國法人ニ屬スルモノニ限ル

本法ニ依リ取引員ノ免許ヲ取消サレ取消ノ後五年ヲ經過セザル株式會社又ハ株式會社ニシテ其ノ取締役若ハ監査役中左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルモノハ取引員タル資格ヲ有セズ

一 帝國臣民ニ非ザル者

二 破產者ニシテ復權ヲ得ザルモノ

三 本法ニ依リ罰金以上ノ刑ニ處セラレ又ハ他ノ法令ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後五年ヲ經過セザル者

第二十九條 取引員ノ資本ノ半額以上又ハ議決權ノ過半數ガ帝國臣民又ハ帝國法人ニ屬セザルニ至リタルトキハ主務大臣ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

取引員ノ取締役又ハ監査役中前條第二項各號ノ一ニ該當スル者アルニ至リタルトキハ取引員ハ其ノ取締役又ハ監査役ヲ解任スベシ

前項ノ場合ニ於テ取引員ガ一月以內ニ其ノ取締役又ハ監査役ヲ解任セザルトキハ主務大臣ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第三十條 取引員ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ日本證券取引所ニ營業保證金ヲ納付スベシ

第三十一條 取引員ハ左ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

一 商號ヲ變更セントスルトキ

二 資本金額ヲ變更セントスルトキ

三 支店其ノ他ノ本店以外ノ營業所ニ於テ有價證券市場ニ於ケル賣買取引ノ取扱ヲ爲シ又ハ有價證券市場ニ於ケル賣買取引ノ取扱ヲ爲ス代理店ヲ設置セントスルトキ

四 本店其ノ他有價證券市場ニ於ケル賣買取引ノ取扱ヲ爲ス營業所ノ位置ヲ變更セントスルトキ

第三十二條 取引員ハ有價證券引受業法ニ依リ有價證券引受業ヲ營ミ又ハ有價證券業取締法ニ依リ有價證券業ヲ營ム場合ヲ除クノ外他ノ業務ヲ營マントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第三十三條 取引員ハ其ノ資本ノ總額ニ達スル迄ハ毎決算期ノ利益ノ十分ノ一以上ヲ準備金トシテ積立ツベシ

第三十四條 取引員ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ毎營業年度

ニ業務報告書ヲ作成シ毎營業年度經過後二月以内ニ之ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第三十五條 取引員ハ毎營業年度ニ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ貸借對照表ヲ公告スベシ

第三十六條 主務大臣ハ有價證券ノ公正ナル價格ノ形成若ハ價格ノ安定ノ爲又ハ有價證券ノ流通ヲ圓滑ナラシムル爲必要アリト認ムルトキハ取引員ニ對シ有價證券市場ニ於ケル賣買取引ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第三十七條 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ取引員ヨリ其ノ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ其ノ營業所其ノ他必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第三十八條 取引員ガ法令若ハ法令ニ基キテ爲ス主務大臣ノ命令若ハ處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害スベキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ其ノ營業ノ停止若ハ取締役監査役ノ解任ヲ命ジ又ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第三十九條 主務大臣ハ取引員ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ其ノ營業ノ停止其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

主務大臣ハ前項ノ規定ニ依リ營業ノ停止ヲ命ゼラレタル取引員ニ對シ必要アリト認ムルトキハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第四十條 日本證券取引所ハ有價證券ノ公正ナル價格ノ形成若ハ價格ノ安定ノ爲又ハ有價證券ノ流通ヲ圓滑ナラシムル爲必要アリト認ムルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ取引員ニ對シ有價證券市場ニ於ケル賣買取引ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

第四十一條 日本證券取引所ハ有價證券市場ノ秩序ヲ保持スル爲必要アリト認ムルトキハ業務規程ノ定ムル所ニ依リ取引員ニ對シ有價證券市場ニ於ケル賣買取引ノ差止ヲ爲シ、其ノ營業ノ停止ヲ命ジ又ハ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第四十二條 日本證券取引所ハ必要アリト認ムルトキハ取引員ヨリ其ノ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ徵スルコトヲ得

第四十三條 取引員營業ヲ廢止シタル後ト雖モ有價證券市場ニ於ケル賣買取引ノ結了ノ目的ノ範圍內ニ於テハ其ノ結了ニ至ル迄、監督ノ目的ノ範圍內ニ於テハ有價證券市場ニ於ケル賣買取引ノ結了後一月ヲ經過スル迄仍其ノ營業ヲ廢止セザルモノト看做ス取引員解散シ又ハ其ノ免許ガ取消サレタル後亦同ジ

前項ノ場合ニ於テ取引員ノ業務ヲ行フ者ナキトキハ日本證券取引所ハ業務規程ノ定ムル所ニ依リ他ノ取引員ヲシテ有價證券市場ニ於ケル賣買取引ノ結了ノ爲必要ナル業務ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十四條 取引員ハ第二十八條第二項各號ノ一ニ該當スル者ヲ其ノ支配人其ノ他命令ヲ以テ定ムル使用人ト爲スコトヲ得ズ

第四十五條 何人ト雖モ有價證券市場ニ於ケル賣買取引ノ委託ノ代理、媒介又ハ取次ヲ營業ト爲スコトヲ得ズ但シ取引員ガ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ爲シ又ハ取引員ノ代理店主ガ當該取引員ニ對スル有價證券市場ニ於ケル賣買取引ノ委

託ノ媒介ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラズ

第六章 賣買取引

第四十六條 有價證券市場ニ於ケル賣買取引ハ實物取引及清算取引ノ二種トス

實物取引ニ在リテハ差金ノ授受ニ依リ其ノ決濟ヲ爲スコトヲ得ズ

有價證券市場ニ於ケル賣買取引ノ期限ハ勅令ヲ以テ定ムル期間ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四十七條 日本證券取引所ハ命令ノ定ムル所ニ依リ有價證券市場ニ於テ行フ賣買取引ノ種類ニ付主務大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ日本證券取引所ニ對シ有價證券市場ニ於テ行フ賣買取引ノ種類ニ付必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第四十八條 日本證券取引所ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケ有價證券市場ニ於ケル賣買取引ニ付取引員ヲシテ賣買證據金及賣買手數料ヲ納付セシムルコトヲ得

主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ日本證券取引所ニ對シ賣買證據金又ハ賣買手數料ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第四十九條 取引員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケ有價證券市場ニ於ケル賣買取引ノ受託ニ付委託證據金及委託手數料ヲ徵スルコトヲ得

取引員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ有價證券市場ニ於ケル賣買取引ノ受託ニ關シ受託契約準則ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ取引員ニ對シ委託證據金、委託手數料又ハ受託契約準則ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第五十條 有價證券市場ニ於ケル賣買取引ニ關スル受渡其ノ他ノ決濟ハ日本證券取引所之ヲ管理ス

前項ノ受渡其ノ他ノ決濟ハ業務規程ノ定ムル所ニ依リ日本證券取引所ヲ經テ之ヲ爲スベシ

第五十一條 日本證券取引所ハ取引員ニシテ有價證券市場ニ於ケル賣買取引ニ關シ其ノ責任ヲ履行セザルモノアルトキハ業務規程ノ定ムル所ニ依リ其ノ取引員ノ有價證券市場ニ於ケル一切ノ賣買取引ヲ處理スベシ

第五十二條 前條ノ場合ニ於テ同條ノ取引員以外ノ取引員ニ付生ズル損害ハ命令ノ定ムル所ニ依リ日本證券取引所之ガ賠償ノ責ニ任ズ

日本證券取引所ハ前項ノ規定ニ依リ損害ヲ賠償シタルトキハ前條ノ取引員ニ對シ其ノ賠償シタル金額及之ニ要シタル費用ニ付求償權ヲ有ス

第五十三條 日本證券取引所ハ前條第二項ノ求償權其ノ他有價證券市場ハ於ケル賣買取引ニ關シ取引員ニ對シ有スル債權ニ關シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ取引員ノ賣買證據金及營業保證金ニ付他ノ債權者ニ先チ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

取引員ニ對シ有價證券市場ニ於ケル賣買取引ノ委託ヲ爲シタル者ハ當該委託契約ニ基キテ生ズル債權ニ關シ其ノ取引員ノ賣買證據金及營業保證金ニ付他ノ債權者ニ先チ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第一項ノ規定ニ依ル優先權ハ前項ノ規定ニ依ル優先權ニ對シ優先ノ效力ヲ有ス

第五十四條 取引員ハ委託ヲ受ケタル有價證券市場ニ於ケル賣買取引ニ付有價證券市場ニ於テ其ノ賣付、買付又ハ受渡ヲ爲サズシテ之ヲ爲シタルト同一又ハ類似ノ計算ヲ以テ委託者ニ對シ其ノ決濟ヲ爲スコトヲ得ズ

第五十五條 日本證券取引所ハ命令ノ定ムル所ニ依リ有價證券市場ニ於ケル公定相場ヲ決定シ之ヲ公示スベシ

日本證券取引所ハ命令ノ定ムル所ニ依リ有價證券市場ニ於ケル各取引員ノ賣買高ヲ公示スベシ

第七章 會計及補助

第五十六條 日本證券取引所ノ事業年度ハ四月ヨリ翌年三月迄トス

第五十七條 日本證券取引所ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ設立ノ時及毎事業年度ニ財產目錄、貸借對照表及損益計算書ヲ作成シ設立後及毎事業年度經過後二月以內ニ之ヲ主務大臣ニ提出シ承認ヲ受クベシ

第五十八條 日本證券取引所ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ズ

一 國債、地方債其ノ他主務大臣ノ認可ヲ受ケタル有價證券ノ取得

二 大藏省預金部若ハ銀行ヘノ預金又ハ郵便貯金

第五十九條 日本證券取引所借入金ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第六十條 日本證券取引所剩餘金ノ處分ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第六十一條 日本證券取引所ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ毎事業年度ニ剩餘金ノ十分ノ一以內ヲ準備金トシテ積立ツベシ

第六十二條 日本證券取引所ノ毎事業年度ニ於ケル配當シ得ベキ剩餘金額ガ政府以外ノ出資者ノ拂込出資金額ニ對シ年百分ノ五ノ割合ニ達セザルトキ（剩餘金額ナキトキ及損失ヲ生ジタルトキヲ含ム）ハ政府ハ之ニ達セシムベキ金額ヲ補給スベシ

毎事業年度ニ於ケル配當シ得ベキ剩餘金額ガ政府以外ノ出資者ノ拂込出資金額ニ對シ年百分ノ五ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ先ヅ之ヲ前項ノ規定ニ依ル補給金ノ償還ニ充ツベシ

前條ノ準備金中損失ノ塡補又ハ配當準備ノ爲積立テタル金額及第六十六條ノ規定ニ依リ積立テタル金額ハ後事業年度ニ於ケル第一項ノ規定ニ依ル補給金ノ計算ニ付テハ之ヲ配當シ得ベキ剩餘金ト看做ス

第六十三條 日本證券取引所ハ毎事業年度ニ於ケル配當シ得ベキ剩餘金額（前條第二項ノ規定ニ依リ償還ニ充ツベキ金額アルトキハ之ヲ控除シタル殘額トス以下同ジ）ガ政府以外ノ出資者ノ拂込出資金額ニ對シ年百分ノ五ノ割合ヲ超過セザルトキハ政府ノ出資ニ對シ剩餘金ノ配當ヲ爲スコトヲ要セズ

日本證券取引所ハ毎事業年度ニ於ケル配當シ得ベキ剩餘金額ガ拂込出資金額ニ對シ年百分ノ五ノ割合ニ達セザル場合ニ於テ政府以外ノ出資者ノ拂込出資金額ニ對シ年百分ノ五ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ政府ニ配當スベシ

第六十四條 日本證券取引所ノ毎事業年度ニ於ケル剩餘金ノ配當ハ拂込出資金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルコトヲ得ズ

第六十五條 日本證券取引所ハ毎事業年度ニ於ケル配當シ得ベキ剩餘金額ガ拂込出資金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ノ四分ノ三ヲ毎事業年度經過後二月以內ニ政府ニ納付スベシ

第六十六條 日本證券取引所ハ毎事業年度ニ於テ前五條ノ規定ニ依リ剩餘金ノ處分ヲ爲シタル後仍殘餘アルトキハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ準備金トシテ積立ツベシ

第六十七條 日本證券取引所ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ毎事業年度ノ事業ノ概況ヲ公告スベシ

第六十八條 日本證券取引所ガ第二十一條第一項第二號ノ規定ニ依リ有價證券ヲ買入ルル場合ニ於ケル有價證券ノ移轉ニ付テハ有價證券移轉稅ヲ課セズ

第六十九條 日本證券取引所ガ第六十二條第一項ノ規定ニ依リ受クル補給金ハ命令ノ定ムル所ニ依リ法人稅法ニ依ル所得、營業稅法ニ依ル純益及臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算上之ヲ益金ニ算入セズ

第八章 監督

第七十條 日本證券取引所ハ主務大臣之ヲ監督ス

第七十一條 主務大臣ハ日本證券取引所ノ目的達成上特ニ必要アリト認ムルトキハ日本證券取引所ニ對シ必要ナル業務ノ施行ヲ命ジ又ハ定款ノ變更其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第七十二條 日本證券取引所ハ業務開始ノ際業務規程ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第七十三條 主務大臣ハ日本證券取引所ニ對シ業務及財產ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ、檢査ヲ爲シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第七十四條 主務大臣ハ日本證券取引所監理官ヲ置キ日本證券取引所ノ業務ヲ監視セシム

第七十五條 日本證券取引所監理官ハ何時ニテモ日本證券取引所ノ業務及財產ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

日本證券取引所監理官ハ何時ニテモ日本證券取引所ニ命ジ業務及財產ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

日本證券取引所監理官ハ日本證券取引所ノ諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ述ブルコトヲ得

第七十六條 日本證券取引所ノ役員ガ法令、定款若ハ法令ニ基キテ爲ス主務大臣ノ命令若ハ處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害スベキ行爲ヲ爲シタルトキハ政府ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第九章 雜則

第七十七條 本法ニ依リ主務大臣ノ行フベキ職權ノ一部ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ日本證券取引所ヲシテ行ハシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ナル經費ハ日本證券取引所ノ負擔トス

第七十八條 日本證券取引所ハ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ有價證券市場ニ於ケル取引物件トシテ上場セラルル有價證券ヲ發行シタル會社ヨリ業務及財產ノ狀況ニ關シ報告ヲ徵スルコトヲ得

第七十九條 有價證券市場ニ於ケル賣買取引ノ方法其ノ他本

法ヲ施行ニ關スル重要事項ニ付主務大臣ノ諮問ニ應ズル爲有價證券取引委員會ヲ置ク

有價證券取引委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十條 本法ニ規定スルモノノ外有價證券市場、取引員、取引員ノ代理店及使用人並ニ有價證券市場ニ於ケル賣買取引ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十章 罰則

第八十一條 有價證券市場ニ於ケル相場ノ變動ヲ圖ル目的ヲ以テ虛僞ノ風說ヲ流布シ、僞計ヲ用ヒ又ハ暴行若ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十二條 有價證券市場ニ類似ノ施設ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

有價證券市場ニ類似ノ施設ニ依リ取引ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 有價證券市場ニ於ケル相場ヲ僞リテ公示シタル者

二 公示若ハ頒布ノ目的ヲ以テ虛僞ノ相場ヲ記載シタル文書ヲ作成シ又ハ之ヲ頒布シタル者

第八十四條 有價證券市場ニ依ラズシテ有價證券市場ニ於ケル相場ニ依リ差金ノ授受ヲ目的トスル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第百八十六條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

第八十五條 第十九條ノ規定ニ違反シ有價證券市場ニ於ケル賣買取引ノ委託ヲ爲シ又ハ取引員トノ間ニ其ノ營業ニ付特別ノ利害關係ヲ生ズルコトヲ目的トスル行爲ヲ爲シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十六條 第三十一條第三號ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケズシテ支店其ノ他ノ本店以外ノ營業所ニ於テ有價證券市場ニ於ケル賣買取引ノ取扱ヲ爲シ若ハ有價證券市場ニ於ケル賣買取引ノ取扱ヲ爲ス代理店ヲ設置シタル者又ハ第四十五條ノ規定ニ違反シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十七條 當該官吏、有價證券取引委員會ノ會長委員幹事若ハ第二十條ニ規定スル日本證券取引所ノ職員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得タル法人又ハ人ノ業務上ノ祕密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三十一條第一號、第二號又ハ第四號ノ規定ニ依リ認可ヲ受クベキ事項ヲ認可ヲ受ケズシテ爲シタル者

二 第三十二條ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケズシテ他ノ業務ヲ營ミタル者

三 第三十三條ノ規定ニ違反シ準備金ヲ積立テザル者

四 第三十四條ノ規定ニ依ル業務報告書ノ提出ヲ爲サズ又ハ之ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタル者

五 第三十五條ノ規定ニ違反シ公告ヲ爲サズ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタル者

六 第三十六條又ハ第三十九條第一項ノ規定ニ依ル主務大臣ノ命令ニ違反シタル者

七 第三十七條第一項又ハ第四十二條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虛僞ノ報告ヲ爲シタル者

八 第三十七條第一項ノ規定ニ依ル臨檢檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

第八十九條 法人又ハ人ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第八十二條乃至第八十四條、第八十六條又ハ前條第一號乃至第七號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第九十條 第八十二條乃至第八十四條、第八十六條及第八十八條第一號乃至第七號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第九十一條 前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得ズ

第九十二條 左ノ場合ニ於テハ日本證券取引所ノ總裁、副總裁、理事、監事又ハ第十七條ノ規定ニ依ル代理人ヲ千圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ

二 本法ニ規定セザル業務ヲ行ヒタルトキ

三 第五十八條ノ規定ニ違反シ業務上ノ餘裕金ヲ運用シタルトキ

四 主務大臣ノ命令又ハ處分ニ違反シタルトキ

五 第七十五條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル日本證券取引所監理官ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ命ズル報告ヲ爲サザルトキ

第九十三條 左ノ場合ニ於テハ前條ニ掲グル者ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ基キテ發スル勅令ニ違反シ登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

二 第五十七條ノ規定ニ依ル書類ヲ作成セザルトキ、其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ又ハ其ノ書類ニ付主務大臣ノ承認ヲ受ケザルトキ

第九十四條 第十二條ノ規定ニ違反シ日本證券取引所又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用ヒタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

附則

第九十五條 本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（昭和十八年勅令第百七十九號ヲ以テ第一條乃至第十一條、第十三條乃至第二十二條、第五十六條乃至第七十九條、第八十五條、第八十七條、第九十二條、第九十三條及第九十六條乃至第百七條ノ規定ハ昭和十八年三月二十五日ヨリ施行）

第九十六條 取引所法ニ依ル取引所ニシテ本條ノ規定施行ノ際現ニ存スルモノ（以下舊取引所ト稱ス）ハ第九十七條乃至第百六條ノ規定ニ依リ日本證券取引所ト爲ルモノトス

第九十七條 主務大臣ハ設立委員ヲ命ジ日本證券取引所ノ設立ニ關スル事務ヲ處理セシム

第九十八條 前條ノ規定ニ依ル設立委員ノ任命アリタル後ハ舊取引所ノ業務ヲ執行スル役員ハ主務大臣ノ認可ヲ受クル

ニ非ザレバ舊取引所ノ常務ニ屬セザル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

舊取引所ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ株券ノ名義書換ヲ停止スベシ

主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ舊取引所ニ對シ賣買取引ノ制限其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第九十九條 設立委員ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ舊取引所ノ株式ニ對シ日本證券取引所ノ出資ノ引當ヲ爲シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

主務大臣前項ノ認可ヲ爲サントスルトキハ取引所資產評價委員會ノ議ヲ經ベシ

取引所資產評價委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百條 前條第一項ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ定款ヲ作成シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第百一條 前條ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ總出資ヨリ政府ノ引受ケタル出資及舊取引所ノ株式ニ引當テタル出資ヲ控除シタル殘餘ノ出資ニ付出資者ヲ募集スベシ

第百二條 設立委員ハ前條ノ募集ヲ終リタルトキハ出資申込書ヲ主務大臣ニ提出シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク舊取引所ノ株式ニ引當テタル出資以外ノ出資ニ付拂込ヲ爲サシムベシ

第百三條 前條第二項ノ拂込完了シタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク其ノ事務ヲ日本證券取引所總裁ニ引渡スベシ

日本證券取引所總裁ハ前項ノ事務ノ引渡ヲ受ケタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ

日本證券取引所ハ前項ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス

第百四條 日本證券取引所ノ成立ニ因リ舊取引所ハ之ニ吸收セラルルモノトシ舊取引所ノ權利義務ハ日本證券取引所ニ於テ之ヲ承繼ス

第百五條 舊取引所ノ株式ヲ目的トスル質權ハ第九十九條第一項ノ規定ニ依リ其ノ株式ニ對シ引當テラレタル出資ノ持分又ハ同項ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ依リ交付セラレタル金錢アルトキハ其ノ金錢ノ上ニ存在ス

第百六條 本法ニ規定スルモノノ外日本證券取引所ノ設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百七條 日本證券取引所ガ第百四條ノ規定ニ依リ承繼シタル不動產ニ關スル權利ノ取得ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登錄稅ノ額ハ不動產ノ價格ノ千分ノ三トス但シ登錄稅法ニ依リ算出シタル登錄稅ノ額ガ本條ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ヨリ少キトキハ其ノ額ニ依ル

第百四條ノ規定ニ依ル舊取引所ヨリ日本證券取引所ヘノ有價證券ノ移轉ニ付テハ有價證券移轉稅ヲ課セズ

第百八條 取引所法ハ有價證券ニ關シテハ之ヲ適用セズ

前項ノ規定施行前ニ爲シタル舊取引所ニ於ケル有價證券ノ賣買取引ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ規定施行前有價證券ニ關スル行爲ニシテ取引所法ノ罰則ヲ適用スベカリシモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第百九條 日本證券取引所成立ノ際現ニ舊取引所ノ有價證券ヲ賣買取引スル取引員タル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ日本證券取引所成立ノ日ヨリ三年ヲ限リ第二十七條第二項ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル取引員ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ同項ノ取引員ガ取引所法第十四條ノ規定ニ依リ舊取引所ニ納付シタル身元保證金ノ處置ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ取引員ニシテ會社ニ非ザルモノガ第二十八條第二項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ主務大臣ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第一項ノ取引員ガ第三十二條ノ規定施行ノ際現ニ有價證券引受業法ニ依リ有價證券引受業ヲ營ミ又ハ有價證券業取締法ニ依リ有價證券業ヲ營ム場合ヲ除クノ外他ノ業務ヲ營ム者ナルトキハ其ノ業務ニ關シテハ同條ノ規定施行ノ日ヨリ六月ヲ限リ同條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第四十三條ノ規定ハ第一項ノ取引員ガ死亡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第百十條 取引所法ニ依リ取引員ノ免許ヲ取消サレ又ハ除名セラレタル會社ハ第二十八條第二項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ本法ニ依リ免許ヲ取消サレタル者ト看做ス

取引所法ニ依リ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ第二十八條第二項、第二十九條第二項及前條第三項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ本法ニ依リ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

第二十八號第二項及第二十九條第二項ノ規定ハ株式會社ニシテ其ノ取締役又ハ監査役中本法ニ依リ取引員ノ免許ヲ取消サレ又ハ取引所法ニ依リ取引員ノ免許ヲ取消サレ若ハ除名セラレ取消又ハ除名ノ後五年ヲ經過セザル者アルモノニ之ヲ準用ス

取引員ハ取引所法ニ依リ罰金以上ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後五年ヲ經過セザル者及本法ニ依リ取引員ノ免許ヲ取消サレ又ハ取引所法ニ依リ取引員ノ免許ヲ取消サレ若ハ除名セラレ取消又ハ除名ノ後五年ヲ經過セザル者ヲ其ノ支配人其ノ他命令ヲ以テ定ムル使用人ト爲スコトヲ得ズ

第百十一條 第十二條ノ規定施行ノ際現ニ日本證券取引所又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フル者ハ同條ノ規定施行ノ日ヨリ六月以內ニ其ノ名稱ヲ變更スベシ

第九十四條ノ規定ハ前項ノ期間內之ヲ同項ニ揭グル者ニ適用セズ

第百十二條 登錄稅法中左ノ通改正ス

第十九條第七號中「日本銀行、」ノ下ニ「日本證券取引所、」ヲ、「日本銀行法、」ノ下ニ「日本證券取引所法、」ヲ加フ

第百十三條 印紙稅法中左ノ通改正ス

第五條第四號ノ三ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

四ノ四　日本證券取引所ノ發スル出資證券

第百十四條 有價證券業取締法中左ノ通改正ス

第一條第一項中「及戰時金融金庫」ヲ「、戰時金融金庫及日本證券取引所」ニ改ム

○占領地軍政官憲ノ爲シタル行爲ノ法律上ノ效力等ニ關スル法律

（昭和十八年三月十五日 法律第六十一號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル占領地軍政官憲ノ爲シタル行爲ノ法律上ノ效力等ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

占領地軍政官憲ノ爲シタル屆出ノ受理其ノ他ノ行爲ニシテ戸籍法其ノ他ノ法律ニ依リ領事官ノ爲ス行爲ニ相當スルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ當該法律ニ依リ領事官ガ爲シタルモノト看做スコトヲ得

前項ノ規定ハ在留臣民其ノ他ノ者ガ占領地軍政官憲ニ對シ爲シタル屆出其ノ他ノ行爲ニシテ戸籍法其ノ他ノ法律ニ依リ領事官ニ對シテ爲ス行爲ニ相當スルモノニ之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○戰時刑事特別法中改正法律

（昭和十八年三月十三日　法律第五十八號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル戰時刑事特別法中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

戰時刑事特別法中左ノ通改正ス

第七條第六項ヲ削ル

第七條ノ二　戰時ニ際シ國政ヲ變亂スルコトヲ目的トシテ人ヲ傷害シ、逮捕シ又ハ監禁シタル者ハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス

戰時ニ際シ國政ヲ變亂スルコトヲ目的トシテ人ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

刑法第二百八條第二項ノ規定ハ前項ノ暴行ノ罪ニ付テハ之ヲ適用セズ

第七條ノ三　戰時ニ際シ國政ヲ變亂スルコトヲ目的トシテ騷擾ノ罪其ノ他治安ヲ害スベキ罪ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シ又ハ其ノ實行ヲ煽動シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七條ノ四　戰時ニ際シ國政ヲ變亂シ其ノ他安寧秩序ヲ紊亂スルコトヲ目的トシテ著シク治安ヲ害スベキ事項ヲ宣傳シタル者ノ罰亦前條ニ同ジ

第七條ノ五　第七條第三項乃至第五項又ハ前二條ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十八年勅令第二百十二號ヲ以テ同年三月二十八日ヨリ施行）

昭和八年二月五日　初版印刷
昭和八年二月十日　初版發行
昭和十八年十月十一日　改版十九版印刷
昭和十八年十月十五日　改版十九版發行

新六法全書

⑱定價　金四圓八拾錢
特別行爲稅相當額　金參拾錢
合計金五圓拾錢

著作者　巖松堂書店編輯部

東京都神田區神保町二丁目二番地
發行者　株式會社巖松堂書店
代表者　波多野一

東京都神田區錦町三丁目十一番地
印刷者　白井赫太郎（東京第一）

東京都神田區神保町二丁目
發兌元　巖松堂書店

電話九段(33)〔四一三五番四一三六番四一三七番四一三八番〕
振替口座東京六五五六番
會員番號第一〇六五一三

出文協承認 あ260116
2500部

著作者所有

配給元　日本圖書配給株式會社　東京・神田